大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書(8)

県営農村振興総合整備事業（大崎地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

# 高久田（たかくだ）Ａ（えー）遺跡

２０１５年３月

鹿児島県大崎町教育委員会

高久田Ａ遺跡出土土器

①高久田Ａ遺跡上空から高隈山地を臨む　②高久田Ａ遺跡上空から鰐塚山地を臨む

# 序　　文

この報告書は，大崎町教育委員会が，県営農村振興総合整備事業（大崎地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものです。

本町の埋蔵文化財専門職員を中心に，発掘調査にあたっておりましたが，当教育委員会としては，調査体制が十分でないため，調査にあたっては，行政的な部分や現場での技術指導において，各関係機関・団体の皆様に，多大なご支援・ご指導を賜りました。

おかげさまで，この報告書が仕上がり，郷土の歴史を知る貴重な資料となりました。今後，この報告書が，本町の郷土史を究明していく資料として，お役にたてば幸いです。

ここに，調査担当者・指導者・作業協力者をはじめ，ご協力いただきました地域住民・各関係機関の皆様に，心からの感謝と御礼を申し上げます。

平成２７年３月

大崎町教育委員会

教育長　　藤　井　光　興

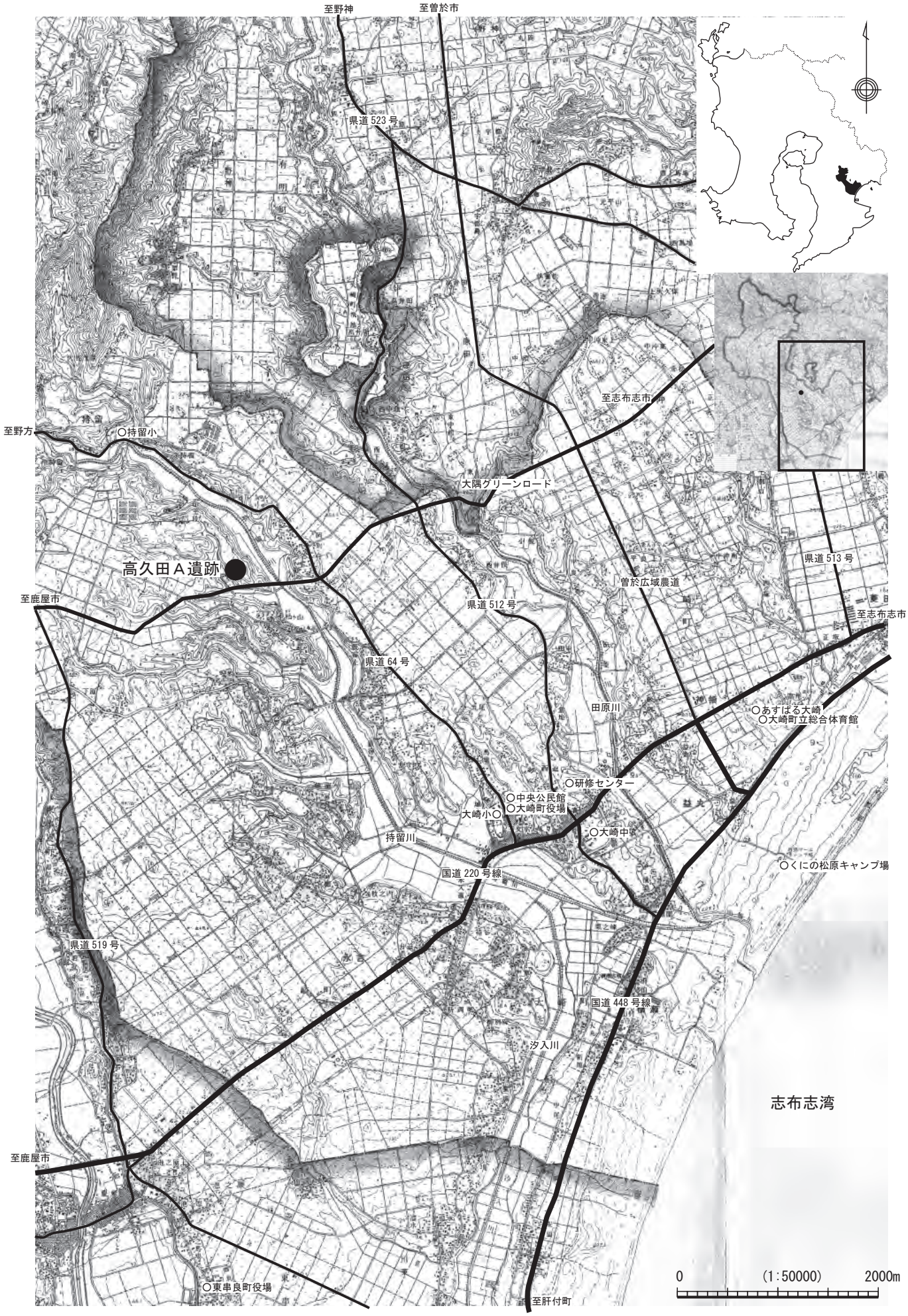
# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふりがな | たかくだえーいせき |
| 書名 | 高久田Ａ遺跡 |
| 副書名 | 県営農村振興総合整備事業（大崎地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| シリーズ名 | 大崎町教育委員会発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | ８ |
| 編著者名 | 内村憲和 |
| 編集機関 | 大崎町教育委員会 |
| 所在地 | 〒899－7305　鹿児島県曽於郡大崎町假宿1029番地　TEL/FAX　099－476－0548 |
| 刊行年月日 | ２０１５年３月 |

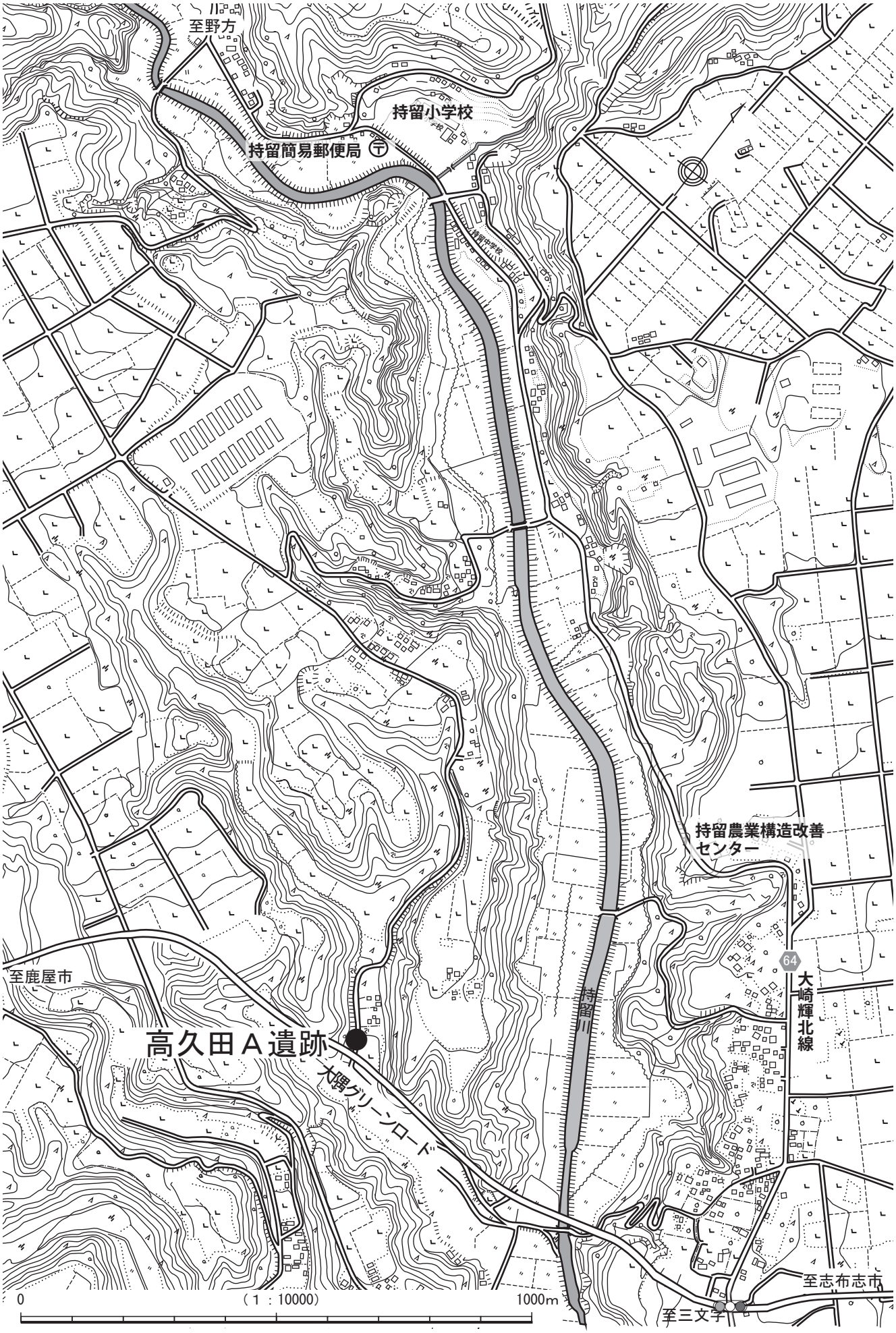
| 所収遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 面積㎡ | 発掘原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 高久田Ａ遺跡（たかくだえーいせき） | 鹿児島県（かごしまけん）曽於郡（そおぐん）大崎町（おおさきちょう）永吉字（ながよしあざ）高久田（たかくだ）・尾ノ迫（おのさこ） | 464686 | 468-130 | 31°45′02″ | 130°97′75″ | 20090608～20091208 | 約1,300 | 農道永吉立山線整備 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 高久田Ａ遺跡（たかくだえーいせき） | 散布地 | 縄文時代晩期 | | 黒川式土器<br>入佐式土器<br>磨製石鏃・打製石鏃・石錐・打製石斧 | |
| | | 弥生時代<br>前期<br>中～後期<br>終末期 | 竪穴住居跡５基<br>掘立柱建物跡１棟<br>柱穴群・土坑・溝状遺構 | 刻目突帯文土器<br>山ノ口式土器<br>高付式土器<br>中津野式土器<br>敲石・軽石製品・ガラス玉 | |
| | | 古墳時代 | 住居跡１基 | 東原・笹貫式土器 | |
| | | 古代・中世 | 土坑・溝状遺構 | 土師器・青磁・瓦器 | |
| | | 近世～近代 | 竪穴状遺構・土坑 | 薩摩焼・羽口・鉄滓・古銭 | |


要約：高久田Ａ遺跡では，主に弥生時代終末～古墳時代の遺構・遺物が多く確認された。調査区の中では竪穴住居跡が多く発見されており，この時期の集落跡が存在していることが判明した。


至野神
至曽於市
県道 523 号
至志布志市
至野方
持留小
大隅グリーンロード
高久田Ａ遺跡
至鹿屋市
県道 512 号
曽於広域農道
県道 513 号
至志布志市
県道 64 号
田原川
あすぱる大崎
大崎町立総合体育館
研修センター
中央公民館
大崎町役場
大崎小
大崎中
持留川
国道 220 号線
くにの松原キャンプ場
県道 519 号
国道 448 号線
汐入川
志布志湾
至鹿屋市
東串良町役場
至肝付町
0
(1:50000)
2000m

高久田Ａ遺跡の位置図




高久田Ａ遺跡の位置図と周辺地形

# 例　　言

１．本書は，県営農村振興整備事業（大崎地区）に伴う高久田Ａ遺跡の発掘調査報告書である。
２．本遺跡は，鹿児島県曽於郡大崎町永吉に所在する。
３．発掘調査及び報告書作成は，大隅地域振興局から大崎町が委託を受け，大崎町教育委員会が担当した。
４．発掘調査は平成 20 年（確認調査），平成 21 年（本調査）に実施し，整理作業，報告書作成は平成 20 ～ 25 年度に実施した。
５．遺物番号は通し番号とし，本文・挿図・表・図版の番号は一致する。
６．挿図の縮尺は，各図面に示した。
７．本書で用いたレベル数値及び座標は，工事計画図面に基づく海抜絶対高，世界座標を用いている。
８．遺構実測における基準点の座標及び KBM の測量は鹿児島土木設計株式会社で行った。
９．発掘調査における空中撮影は九州航空株式会社が行った。
10．発掘調査における平面図面の作成，写真の撮影は内村が行った。
11．出土遺物のレベル測量から取り上げは内村と整理作業員で行った。なお，調査中は鹿屋市教育委員会の稲村博文氏と河野賢太郎氏の支援を得た。
12．遺構のトレースは内村と整理作業員が行い，遺物の実測・トレースは整理作業員で行った。実測図面の添削は鹿児島県立埋蔵文化財センター　堂込秀人・川口雅之・岩永勇亮・今村結記の支援を得た。
13．科学分析については，放射性炭素年代測定及び成果のまとめを株式会社地球科学研究所が行った。種実同定については分析・成果のまとめを株式会社古環境研究所が行った。なお，科学分析試料の選定方法については，鹿児島大学埋蔵文化財調査センターの中村直子氏の指導と助言を得た。
14．出土遺物について，弥生時代終末から古墳時代にかけての遺物については鹿児島大学埋蔵文化財調査センターの中村直子氏の指導を得た。また，須恵器については，鹿児島大学総合研究博物館の橋本達也氏に指導と助言を得た。
15．遺物の写真撮影は，鹿児島県立埋蔵文化財センターの吉岡康弘，辻明啓が行った。
16．本書の編集は内村が担当した。なお，執筆にあたって，参考文献等資料収集においては，鹿児島県立埋蔵文化財センター　岩永勇亮・今村結記の協力を得た。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 第１～５章 | | （内村） | | |
| 第６章 | 第１節　１・２・３ | （内村） | ４ | （株式会社地球科学研究所） |
| | 第２節　１・２ | （内村） | ３ | （株式会社古環境研究所） |
| 第７章 | | （内村） | | |

17．遺物は大崎町教育委員会で保管し，展示・活用する。なお，遺物注記の略号は「ＴＫＤＡ」である。

# 本　文　目　次

巻頭図版
序文
報告書抄録
高久田Ａ遺跡の位置図
高久田Ａ遺跡の位置図と周辺地形
例言
目次
第１章　発掘調査の経過……１
　第１節　調査に至るまでの経緯……１
　第２節　発掘調査の経過と組織……１
　第３節　整理作業等の経過と組織……２
第２章　遺跡の位置と環境……５
　第１節　地理的環境……５
　第２節　歴史的環境……５
第３章　発掘調査の方法……10
　第１節　発掘調査の記録方法……10
　第２節　整理作業の方法……10
第４章　層序と確認調査の成果……11
　第１節　層序……11
　第２節　確認調査の成果……11
　第３節　本調査の範囲……15
　第４節　Ａ～Ｄ区の工事立会の結果……16
第５章　調査の成果……17
　第１節　縄文時代晩期の調査成果……17
　第２節　弥生時代前期の調査成果……17
　第３節　弥生時代中期～後期の調査成果……20
　第４節　弥生時代終末期～古墳時代の調査成果……23
　第５節　包含層出土石器・石製品……80
　第６節　古代～中世の調査成果……94
　第７節　近世・近代の調査成果……99
第６章　科学分析……105
　第１節　放射性炭素年代測定……105
　第２節　５号竪穴住居跡床面採集の炭化種実同定 116
第７章　総括……120
　第１節　縄文時代晩期～弥生時代前期……120
　第２節　弥生時代終末～古墳時代……122
　第３節　古代～中世……126
　第４節　近世……126
図版……127

# 挿　図　目　次

第１図　周辺遺跡分布図……８
第２図　トレンチの配置図……13
第３図　５トレンチ東壁面土層断面図及び硬化面実測図……14
第４図　本調査の範囲図……15
第５図　Ａ～Ｄ区の工事立会試掘トレンチの位置図…16
第６図　縄文時代晩期の土器……17
第７図　弥生時代前期土器①　甕形土器……18
第８図　弥生時代前期土器②　甕形土器……19
第９図　弥生時代前期土器③　壺形土器……20
第10図　弥生時代中期～後期土器①　甕形土器……20
第11図　弥生時代中期～後期土器②　壺形土器……21
第12図　弥生時代終末期～古墳時代の遺構配置図……23
第13図　１号竪穴住居跡実測図……24
第14図　１号竪穴住居跡遺物分布図……25
第15図　１号竪穴住居跡出土土器①　甕形土器……26
第16図　１号竪穴住居跡出土土器②　壺形土器……27
第17図　１号竪穴住居跡出土土器③　鉢形土器……28
第18図　１号竪穴住居跡出土石器 磨製石鏃 ……28
第19図　２号竪穴住居跡実測図……29
第20図　２号竪穴住居跡遺物分布図……30
第21図　２号竪穴住居跡出土土器　甕形土器・壺形土器・その他……31
第22図　３号竪穴住居跡実測図……32
第23図　３号竪穴住居跡遺物分布図……33
第24図　３号竪穴住居跡出土土器①　甕形土器……34
第25図　３号竪穴住居跡出土土器②　壺形土器・鉢形土器・ミニチュア土器・土製品……35
第26図　Ｉ・Ｊ区遺構群の検出状況図……36
第27図　４号竪穴住居跡実測図……37
第28図　４号竪穴住居跡遺物分布図……38
第29図　４号竪穴住居跡出土土器　甕形土器・壺形土器・高坏・鉢形土器・ミニチュア土器……39
第30図　４号竪穴住居跡出土石器　石錐・敲石・磨石・扁平片刃石斧……40
第31図　５号竪穴住居跡実測図……42
第32図　５号竪穴住居跡・４～６号土坑遺物分布図…43

第33図　５号竪穴住居跡出土土器……44
第34図　５号竪穴住居跡出土石器……44
第35図　５号竪穴住居跡出土ガラス玉……45
第36図　６号竪穴住居跡実測図……45
第37図　６号竪穴住居跡遺物分布図……46
第38図　６号竪穴住居跡出土土器①　甕形土器……47
第39図　６号竪穴住居跡出土土器②　甕形土器……48
第40図　６号竪穴住居跡出土土器③　壺形土器……49
第41図　６号竪穴住居跡出土壺形土器162の底部穿孔 50
第42図　６号竪穴住居跡出土土器④　壺形土器……50
第43図　１～３号土坑実測図及び１号土坑出土甕形土器……51
第44図　４～６号土坑実測図……52
第45図　掘立柱建物跡の配置図……53
第46図　掘立柱建物跡実測図及びＰ９出土土器……54
第47図　掘立柱建物跡周辺柱穴実測図……55
第48図　J・Ｌ区Ⅳ層上面検出柱穴内出土土器 ……56
第49図　１号溝状遺構実測図……56
第50図　Ｇ・Ｈ区Ｖ層上面検出柱穴・土坑配置図……56
第51図　Ｇ・Ｈ区Ｖ層上面検出柱穴・土坑実測図……57
第52図　弥生時代終末期～古墳時代包含層出土土器分布図（Ｆ・Ｇ区）……62
第53図　弥生時代終末期～古墳時代包含層出土土器分布図（Ｈ・Ｉ区）……63
第54図　弥生時代終末期～古墳時代包含層出土土器分布図（Ｊ・Ｋ・Ｌ・Ｍ区）……64
第55図　包含層出土土器①　甕形土器……66
第56図　包含層出土土器②　甕形土器……67
第57図　包含層出土土器③　甕形土器……68
第58図　包含層出土土器④　甕形土器……71
第59図　包含層出土土器⑤　甕形土器……72
第60図　包含層出土土器⑥　壺形土器……73
第61図　包含層出土土器⑦　壺形土器……74
第62図　包含層出土土器⑧　坩……74
第63図　包含層出土土器⑨　蓋……75
第64図　包含層出土土器⑩　高坏……77
第65図　包含層出土土器⑪　鉢形土器･ミニチュア土器･メンコ……78
第66図　包含層出土土器⑫　須恵器・櫛描文土器・刻線文土器……79
第67図　包含層出土石器①　打製石鏃・剥片……80
第68図　包含層出土石器②　打製石斧・砥石……81
第69図　包含層出土石器③　敲石……82
第70図　包含層出土軽石製品①……83
第71図　包含層出土軽石製品②……84
第72図　古代～近世の遺構配置図……94
第73図　10 ～ 12 号土坑実測図 ……95
第74図　２号溝状遺構実測図……96
第75図　２号溝状遺構出土土器……96
第76図　３・４号溝状遺構実測図……96
第77図　Ｇ～Ｈ区Ⅲ層上面検出柱穴・土坑配置図……97
第78図　Ｇ区Ⅲ層上面検出柱穴実測図……97
第79図　Ｈ区Ⅲ層上面検出柱穴・土坑実測図……98
第80図　Ｊ・Ｋ区Ⅲ層上面検出柱穴実測図……98
第81図　包含層出土遺物　土師器・陶磁器・刀子……99
第82図　竪穴状遺構実測図……99
第83図　竪穴状遺構出土遺物…… 100
第84図　竪穴状遺構周辺採集遺物…… 101
第85図　16 号土坑実測図 …… 102
第86図　包含層出土遺物…… 102
第87図　実測番号№.43（レイアウト番号 66）の較正年代結果…… 107
第88図　実測番号№.44（レイアウト番号 68）の較正年代結果…… 108
第89図　実測番号№.６（レイアウト番号 89）の較正年代結果…… 109
第90図　実測番号№.422（レイアウト番号 90）の較正年代結果…… 110
第91図　実測番号№.１（レイアウト番号 97）の較正年代結果…… 111
第92図　実測番号№.10（レイアウト番号 149）の較正年代結果…… 112
第93図　種実試料№.16 の較正年代結果 …… 113
第94図　実測番号№.７（レイアウト番号 211）の較正年代結果…… 114
第95図　５号竪穴住居跡埋土採集グリッド図…… 116

# 表　目　次

第１表　周辺遺跡地名表……９
第２表　トレンチ一覧表……12
第３表　縄文時代晩期～弥生時代後期　包含層出土土器観察表……21
第４表　弥生時代終末～古墳時代遺構出土土器観察表 58
第５表　３号竪穴住居跡出土土製品計測表……61
第６表　竪穴住居跡出土石器計測表……61
第７表　５号竪穴住居跡出土ガラス玉計測表……61
第８表　弥生時代終末～古墳時代　包含層出土土器観察表……85
第９表　包含層出土石器・軽石製品計測表……93
第10表　２号溝状遺構出土土器観察表…… 102
第11表　古代・中世　包含層出土土師器・陶器観察表…… 102
第12表　中世　包含層出土青磁観察表…… 103
第13表　包含層出土刀子計測表…… 103
第14表　竪穴状遺構出土陶器観察表…… 103
第15表　竪穴状遺構周辺採集　羽口観察表…… 103
第16表　竪穴状遺構周辺採集　鉄滓計測表…… 104
第17表　近世　包含層出土陶磁器観察表…… 104
第18表　包含層出土古銭計測表…… 104
第19表　放射性炭素年代測定結果表…… 106
第20表　試料の燃焼量と $CO_2$ 生成量 …… 106
第21表　炭化種実同定結果…… 118

# 図　　版

図版１…… 127
①１トレンチ
②３トレンチ
③５トレンチ
④５トレンチ出土硬化面
図版２…… 128
①６トレンチ遺構出土状況
②７トレンチ
③８トレンチ遺物出土状況
④８トレンチ遺構出土状況
図版３…… 129
①９トレンチ遺物出土状況
②10 トレンチ遺物出土状況
③11 トレンチ遺構出土状況
④調査前遠景
図版４…… 130
①Ⅲ層遺物出土状況
②Ⅳ層遺物出土状況
図版５…… 131
①～④Ⅲ層遺物出土状況
⑤１号竪穴住居跡検出状況
⑥・⑦１号竪穴住居跡遺物出土状況
図版６…… 132
①１号竪穴住居跡完掘状況
②２号竪穴住居跡完掘状況
③３号竪穴住居跡検出状況
④３号竪穴住居跡埋土状況
⑤３号竪穴住居跡完掘状況
図版７…… 133
・４号竪穴住居跡検出状況
・４号竪穴住居跡床面検出状況
・４号竪穴住居跡完掘状況
図版８…… 134
①４号竪穴住居跡・４～６号土坑検出状況
②４～６号土坑完掘状況
③掘立柱建物跡完掘状況
④Ｊ区柱穴完掘状況
⑤P25 遺物出土状況
図版９…… 135
・５号竪穴住居跡検出状況
・５号竪穴住居跡床面検出状況
・５号竪穴住居跡完掘状況
図版10…… 136
①６号竪穴住居跡遺物出土状況
②６号竪穴住居跡完掘状況
③１号土坑完掘状況
④２号土坑検出状況
⑤２号土坑完掘状況
⑥３号土坑完掘状況

図版11…… 137
①Ⅳ層上面遺構出土状況上空写真
② 16 号土坑床面検出状況
③３号溝状遺構完掘状況
④Ｇ・Ｈ区Ⅲ層上面柱穴・土坑完掘状況
⑤竪穴状遺構完掘状況
図版12…… 138
・縄文時代晩期出土土器
・弥生時代前期出土土器
図版13…… 139
・弥生時代前期出土土器
・弥生時代前期～後期出土土器
図版14　１号竪穴住居跡出土土器①　甕形土器…… 140
図版15　１号竪穴住居跡出土土器②　甕形土器・壺形土器…… 141
図版16　１号竪穴住居跡出土土器③　壺形土器・鉢形土器…… 142
図版17…… 143
・１号竪穴住居跡出土土器④　鉢形土器
・１号竪穴住居跡出土石器　磨製石鏃
・２号竪穴住居跡出土土器①　甕形土器
図版18…… 144
・２号竪穴住居跡出土土器②　甕形土器・壺形土器
・鉢形土器・蓋
・３号竪穴住居跡出土土器①　甕形土器
図版19…… 145
・３号竪穴住居跡出土土器②　壺形土器・鉢形土器
・ミニチュア土器・土製品
・４号竪穴住居跡出土土器　甕形土器・壺形土器・鉢形土器・高坏
図版20…… 146
・４号竪穴住居跡出土石器　石錐・敲石・磨敲石・磨製石斧
・５号竪穴住居跡出土土器　甕形土器・壺形土器・鉢形土器
図版21…… 147
・５号竪穴住居跡出土石器　凹石
・５号竪穴住居跡出土ガラス玉
・６号竪穴住居跡出土土器①　甕形土器
図版22…… 148
・６号竪穴住居跡出土土器②　甕形土器・壺形土器
図版23…… 149
・６号竪穴住居跡出土土器③　壺形土器
・６号竪穴住居跡出土土器④　壺形土器
・６号竪穴住居跡出土土器⑤　鉢形土器
図版24…… 150
・Ⅳ層検出土坑・柱穴出土土器①
・Ⅳ層検出土坑・柱穴出土土器②
・弥生時代終末～古墳時代包含層出土土器①　甕形土器・大甕
図版25…… 151
・弥生時代終末～古墳時代包含層出土土器②　甕形土器
・弥生時代終末～古墳時代包含層出土土器③　甕形土器
図版26　弥生時代終末～古墳時代包含層出土土器④　甕形土器…… 152
図版27　弥生時代終末～古墳時代包含層出土土器⑤　壺形土器…… 153
図版28　弥生時代終末～古墳時代包含層出土土器⑥　壺形土器・坩・蓋…… 154
図版29　弥生時代終末～古墳時代包含層出土土器⑦　高坏…… 155
図版30　弥生時代終末～古墳時代包含層出土土器⑧　鉢形土器…… 156
図版31…… 157
・古墳時代包含層出土土器　須恵器
・包含層出土土器　刻線文土器
・包含層出土土器　櫛描文土器
・包含層出土石器　打製石鏃・剥片・打製石斧・砥石・敲石
図版32…… 158
・包含層出土軽石製品
・古代・中世・近世包含層出土遺物　土師器・瓦質土器・青磁・陶器
・近世包含層出土遺物　磁器
・刀子
図版33…… 159
・竪穴状遺構出土遺物
・竪穴状遺構周辺出土遺物①　羽口
・竪穴状遺構周辺出土遺物②　鉄滓
・包含層出土遺物　古銭
・発掘作業風景 / 遺構実測作業風景 / 遺物実測作業風景 / 水洗フルイ選別作業風景

# 第１章　発掘調査の経過

## 第１節　調査に至るまでの経緯

平成 17 年に大隅耕地事務所（平成 18 年～大隅地域振興局農林水産部曽於支所農村整備課，平成 20 年～大隅地域振興局農林水産部農村整備課。）から，県営農村振興総合整備事業区における埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育委員会文化財課（以下　県文化財課）に照会があった。

これを受けて県文化財課と鹿児島県立埋蔵文化財センター，大崎町教育委員会（以下　町教育委員会）で開発予定地内の分布調査を実施した。すでに天園農道が諏訪上遺跡，中沖東上農道が久木野堀遺跡，飯隈農道が飯隈遺跡群，高尾農道が高尾Ａ遺跡，松尾農道が松尾Ａ遺跡の範囲に含まれていたが，分布調査を行った結果，新たに永吉立山農道整備計画地で遺物の散布が認められ，高久田Ａ遺跡の存在が明らかとなった。

高久田Ａ遺跡の確認調査は大隅地域振局の委託を受け，平成 20 年１月７日から２月 13 日まで確認調査を実施した。確認調査の結果，事業区内に遺物・遺構が確認された。農村整備課，県文化財課，町教育委員会，町耕地課はこの結果を踏まえ，協議を行った。工事計画における№.20 ～№.30+11.0 の範囲を調査対象区として本調査を実施することとなった。

なおこの時の協議では，工事前の農道は民家の唯一の生活道路であり，かつ農道は民家の入口までしか無いため，民家の入口にある№.24 ～№.30+11.0 までの発掘調査を実施し，調査後に№.24 から大隅グリーンロードまでの農道を整備して，南側への道路が確保された段階で，№.20 ～ 24 間の発掘調査を行うことにしていた。

## 第２節　発掘調査の経過と組織

平成 21 年６月５日から 12 月３日にかけて本調査を実施した。平成 22 年度から平成 26 年度にかけて整理作業及び報告書作成を実施した。

本調査及び整理作業，報告書作成は町教育委員会が主体となって行い，整理作業，報告書作成では県立埋蔵文化財センターの協力を得た。

高久田Ａ遺跡の発掘調査の経過と組織については以下のとおりである。

### １．確認調査

事業区内 11 箇所にトレンチを設定し，掘り下げを行った。発掘作業における調査体制は以下のとおりである。

| | | |
|---|---|---|
| 調査責任者 | 町教育委員会教育長 | 諸木　逸郎 |
| 調査事務 | 町教育委員会社会教育課長 | 秋元　幹夫 |
| | 〃　課長補佐 | 東　正隆 |
| | 〃　〃 | 入江田吉文 |
| 調査担当 | 町教育委員会社会教育課主任 | 内村　憲和 |
| 調査補助 | 町教育委員会社会教育課　臨時職員 | 出原ふじ子・清水　優子 |
| 発掘作業 | 公益社団法人大崎町シルバー人材センター | |

### ２．本調査

平成 21 年６月５日から 12 月３日にかけて№.24 から№.30+11.0 の区間の本調査を実施した。調査において，基準杭の設定を鹿児島土木設計株式会社に委託し，また空中撮影を九州航空株式会社に委託した。

| | | |
|---|---|---|
| 調査責任者 | 町教育委員会教育長 | 諸木　逸郎 |
| 調査事務 | 町教育委員会社会教育課課長 | 大野　達夫 |
| | 〃　課長補佐 | 東　正隆 |
| | 〃　〃 | 入江田吉文 |
| 調査担当 | 町教育委員会社会教育課主任 | 内村　憲和 |
| 調査補助 | 町教育委員会社会教育課　臨時職員 | 出原ふじ子・清水　優子・上档さつき |
| 発掘作業 | 公益社団法人大崎町シルバー人材センター | |

その他，調査に関する事前準備，道具運搬，撤収等，事務，調査補助では，町教育委員会社会教育課職員として，西ゆかり，福岡徹，仮水公司，稲森洋平，古田由香の支援・協力を得た。

遺物のドット取上げにおいては，鹿屋市教育委員会の稲村博文氏と河野賢太郎氏に支援を得た。

### ３．工事立会・試掘調査

№.20 ～№.24 について，農村整備課から確認調査の依頼があった。本来ならば本調査の対象区域であったが，確認調査の結果から工事対象範囲の大部分は元農道によって包含層が削平されている可能性があることは予想されていたが，コンクリート舗装直下に検出される遺構が残存する可能性があったため，本調査対象としていたものである。しかし，平成 23 年度の№.24 ～大隅グリーンロードまでの工事と併せて，№.20 ～ 24 間も工事に着手する旨の申し出があった。これを受けて県文化財課に照会したところ，№.20 ～ 24 間は再度現農道面の試掘調査を実施し，包含層の有無と遺構・遺物の確認を行い，その結果で再度協議を行うことにした。

工事立会に伴う試掘調査は平成 24 年１月 12 日に行った。コンクリート舗装及び攪乱層の除去は，工事施工業者である川越産業の協力を得た。また，調査の補助は大崎町教育委員会社会教育課の古田由香の協力を得た。

## 第３節　整理作業等の経過と組織

整理作業及び報告書作成は平成 22 ～ 26 年度にかけて実施した。平成 22 ～ 25 年度の整理作業は麦田下遺跡の整理作業も同時進行で実施した。

平成 22 年度は５～８月，11 ～３月に実施した。なお，９・10 月は他事業の発掘調査のため中断した。作業は遺物の洗浄，注記作業，接合作業を行った。

（平成 22 年度調査体制）

調査責任者　町教育委員会教育長　諸木　逸郎
調査事務　町教育委員会社会教育課長　大野　達夫
〃　課長補佐　入江田吉文
調査担当者　町教育委員会社会教育課主任　内村　憲和
整理作業　町教育委員会社会教育課臨時職員
出原ふじ子・清水　優子・上档さつき
調査支援　県立埋蔵文化財センター文化財主事
川口　雅之

平成 23 年度は，大隅地域振興局農村整備課から当事業における事業費の獲得が難航しているため，調査費用の確保ができないということで，年度当初からの整理作業は進めることはできなかった。その後農村整備課との協議を行い，下半期 10 月から本事業に関する遺跡の整理作業を再開することになった。

作業内容は主に麦田下遺跡の整理作業に主を置いていたため，本遺跡の整理作業が進捗しなかったが，遺物の分類作業と報告書掲載遺物の選定を行い，選定された遺物については実測作業を開始した。

（平成 23 年度調査体制）

調査責任者　町教育委員会教育長
諸木　逸郎（９月まで）・藤井　光興（10 月から）
調査事務　町教育委員会社会教育課長　大野　達夫
〃　課長補佐　東條　昭憲
調査担当者　町教育委員会社会教育課主任　内村　憲和
整理作業　町教育委員会社会教育課臨時職員
出原ふじ子・清水　優子・上档さつき
調査支援　県立埋蔵文化財センター文化財主事
川口　雅之
〃　文化財研究員　岩永　勇亮

平成 24 年度は，７月から整理作業を行った。23 年度に引き続き報告書掲載遺物の実測を行った。掲載遺物の実測図面については，県立埋蔵文化財センターの支援のもと添削作業を行い，図面の修正等を行った。また１月からは５号竪穴住居跡床面の採集した土を水洗選別法により微細遺物の採集を行った。

（平成 24 年度調査体制）

調査責任者　町教育委員会教育長　藤井　光興
調査事務　町教育委員会社会教育課長　入江田吉文
〃　課長補佐　東條　昭憲
〃　文化公民館係長　楠原　薫
調査担当者　町教育委員会社会教育課主任　内村　憲和
整理作業　町教育委員会社会教育課臨時職員
出原ふじ子・清水　優子・上档さつき
調査支援　県立埋蔵文化財センター課長　堂込　秀人
〃　文化財研究員　岩永　勇亮

平成 25 年度は，県立埋蔵文化財センターの支援のもとで掲載遺物実測図面の添削と，修正を行い，修正された図面はトレースを行った。

（平成 25 年度調査体制）

調査責任者　町教育委員会教育長　藤井　光興
調査事務　町教育委員会社会教育課長　入江田吉文
〃　文化公民館係長　楠原　薫
調査担当者　町教育委員会社会教育課
文化財係長　内村　憲和
整理作業　町教育委員会社会教育課臨時職員
出原ふじ子・清水　優子・上档さつき
調査支援　県立埋蔵文化財センター
文化財研究員　今村　結記

平成 26 年度は，県立埋蔵文化財センターの支援のもとで掲載遺物実測図面の添削と，修正を行い，修正された図面はトレースを行った。また，遺構実測図面のデジタルトレース，遺物台帳にける取上げ遺物の分類を行った。

鹿児島大学埋蔵文化財調査センターの中村直子氏に炭素年代及び種実分析試料の選定，掲載遺物の分類について指導を得た。

下半期は原稿執筆及び掲載写真遺物写真撮影を中心に行い，原稿の仕上げを行った。

（平成 26 年度調査体制）

調査責任者　町教育委員会教育長　藤井　光興
調査事務　町教育委員会社会教育課長　入江田吉文
〃　文化公民館係長　楠原　薫
調査担当者　町教育委員会社会教育課
文化財係長　内村　憲和
整理作業　町教育委員会社会教育課臨時職員
出原ふじ子・清水　優子・上档さつき
調査支援　県立埋蔵文化財センター
文化財研究員　今村　結記

調査指導　鹿児島大学埋蔵文化財調査センター
准教授　中村　直子
鹿児島大学総合研究博物館
准教授　橋本　達也

なお，平成22年度から平成26年度にかけて，事務，調査補助では，町教育委員会社会教育課職員として，本松健一郎，鎌田洋一，山野正昭，救仁郷義達，中崎みずえ，仮水公司，米永康平，長谷川勝哉，稲森洋平，古田由香，山下理香，平松典子，清山麻香の支援・協力を得た。

（日誌抄）

| 月日（曜日） | 作業内容 |
|---|---|
| 6／8（月）<br>～6/12（金） | J・K・L・M区の竹林伐採作業。 |
| 6/15（月）<br>～6/19（金） | 排土置き場の整地。L区から表土はぎ。調査区壁切り及びⅡ層上面精査。Ⅰ層残土除去。F・G区のⅡ層掘り下げ。<br>6/18日雨天のため現場休み。 |
| 6/22（月）<br>～6/26（金） | F～G区のⅡ層掘り下げ。6/23日雨天のため現場休み。 |
| 6/29（月）<br>～7／3（金） | F～H区のⅡ層遺物出土状況写真。清掃作業。Ⅰ・J区のⅡ層掘り下げ。<br>7／1・2雨天のため現場休み。 |
| 7／6（月）<br>～7/10（金） | E区：Ⅵ層精査。土坑1（近世竪穴状遺構）検出。<br>F区：Ⅰ・Ⅱ層出土遺物ドット取り上げ。Ⅲ層上面での精査・住居1（1号竪穴住居跡）検出。<br>G区：Ⅱ層出土遺物ドット取り上げ。Ⅱ層残土掘り下げ。　7／7・10現場休み。 |
| 7/13（月）<br>～7/17（金） | F・G・H区：Ⅱ層遺物ドット取り上げ。Ⅱ層残土掘り下げ。<br>Ⅰ・J区：Ⅱ層掘り下げ。7/17現場休み。 |
| 7/20（月）<br>～7/24（金） | G・H区：Ⅱ層出土遺物ドット取り上げ。<br>Ⅰ・J・L区Ⅱ層掘り下げ。<br>7/20祝日・7/22現場休み。 |
| 7/27（月）<br>～7/31（金） | Ⅰ・J・L区Ⅱ層掘り下げ。<br>7/28雨のため現場休み。7/27・29は雨のため午後休み。 |
| 8／3（月）<br>～8／7（金） | J・K・L・M区Ⅱ層掘り下げ。<br>8／3現場休み。8／4は午後休み。 |
| 8/10（月）<br>～8/14（金） | G・H・Ⅰ区Ⅱ層出土遺物ドット取り上げ。<br>J・K・L・M区Ⅱ層掘り下げ。<br>8/10現場休み。8/13・14はお盆休み。 |
| 8/17（月）<br>～8/21（金） | Ⅰ区Ⅱ層出土遺物ドット取り上げ。Ⅱ層残土掘り下げ。Ⅲ層上面精査。<br>L・K・M区Ⅱ層掘り下げ。 |
| 8/24（月）<br>～8/28（金） | Ⅰ区Ⅱ層残土掘り下げ。Ⅲ層上面精査。<br>L・K・M区Ⅱ層掘り下げ。<br>8/24・25・27はお盆休み。 |
| 8/31（月）<br>～9／4（金） | L・K・M区Ⅱ層掘り下げ。 |
| 9／7（月）<br>～9/11（金） | G区：Ⅲ層上面遺構検出・検出写真撮影。Ⅲ層上面柱穴・土坑掘り下げ。<br>H～L区：Ⅱ層遺物出土状況写真撮影・清掃。<br>H・Ⅰ区：Ⅱ層出土遺物ドット取り上げ。<br>J区：Ⅱ層出土遺物ドット取り上げ。Ⅱ層残土掘り下げ。Ⅲ層上面検出。 |
| 9/14（月）<br>～9/18（金） | E区：土坑1（近世竪穴状遺構）掘り下げ。<br>G～H区：Ⅲ層上面検出柱穴・土坑群完掘写真撮影・実測図作成。G区はⅢ層掘り下げ。<br>H区：Ⅲ層上面検出。溝状遺構1（2号溝状遺構）検出・写真撮影。溝状遺構1掘り下げ。<br>Ⅰ区:Ⅱ層･Ⅲ層上面出土遺物ドット取り上げ。Ⅱ層残土掘り下げ。Ⅲ層上面検出。土坑2・3・4（12･7・8号土坑）<br>J区：Ⅱ層出土遺物ドット取り上げ。Ⅱ層残土掘り下げ。J区土坑5（9号土坑）検出。<br>K区：Ⅱ層出土遺物ドット取り上げ。<br>L・M区：Ⅱ層掘り下げ。 |

| | |
|---|---|
| 9/19（土）<br>・20（日） | 現場周辺草払い |
| 9/21（月）<br>～9/25（金） | Ｅ区：土坑１（近世竪穴状遺構）埋土堆積状況写真撮影。<br>Ｇ～Ｈ区：Ⅲ層掘り下げ。<br>Ｊ区：溝状遺構２・３（３・４号溝状遺構）検出。検出写真撮影。<br>Ｋ区：Ⅱ層出土遺物ドット取り上げ。<br>Ｌ・Ｍ区Ⅱ層掘り下げ。　　9/21～23は発掘作業休み |
| 9/28（月）<br>～10/ 2（金） | Ｇ～Ｈ区：Ⅲ層掘り下げ。溝状遺構１（２号溝状遺構）完掘写真撮影。出土遺物ドット取り上げ。<br>Ｋ・Ｌ区Ⅱ層出土遺物ドット取り上げ。Ⅲ層上面の精査。Ｌ区はⅢ層掘り下げ。<br>9/29・10/ １・２発掘作業休み。 |
| 10/ 5（月）<br>～10/ 9（金） | Ｉ区：土坑２・３・４（12・７・８号土坑）掘り下げ。土坑３・４は完掘。写真撮影・実測。土坑２は埋土堆積状況写真撮影・断面実測。<br>Ｊ区：Ｊ区土坑５（９号土坑）掘り下げ。溝状遺構２・３（３・４号溝状遺構）完掘。写真撮影・実測図作成。Ⅲ層掘り下げ。<br>Ｋ区：Ⅲ層上面遺構検出。柱穴検出状況写真撮影後掘り下げ。<br>Ｌ区：Ⅲ層掘り下げ。　10/ ５～７は天候不良のため作業ができず。 |
| 10/12（月）<br>～10/17（土） | Ｅ区：土坑１（近世竪穴状遺構）完掘・写真撮影。17日に実測。<br>Ｆ区：住居１（１号竪穴住居跡）の掘り下げと埋土出土遺物写真・実測図作成。<br>Ｇ～Ｌ区：Ⅲ層遺物出土状況写真撮影。<br>Ｇ・Ｈ区：Ⅲ層出土遺物ドット取り上げ。（鹿屋市教育委員会支援）Ⅳ層上面精査。土坑６～８（１～３号土坑）, 住居２（２号竪穴住居跡）を検出。検出写真撮影・掘り下げ。<br>Ｉ区：住居４（４号竪穴住居跡）検出。掘り下げ。<br>Ｊ区：土坑９～10（４～６号土坑）検出。掘り下げ。Ｊ区土坑５（９号土坑）完掘。<br>Ｋ区：柱穴群完掘。写真撮影・実測。Ｌ・Ｍ区：Ⅲ層掘り下げ。Ⅲ層出土遺物ドット取り上げ。 |
| 10/18（日）<br>～10/24（土） | Ｆ区：住居１（１号竪穴住居跡）床面精査。精査写真撮影。掘り込み面まで掘り下げ。住居中央土器溜り写真・実測。<br>Ｇ・Ｈ区：土坑６～８（１～３号土坑），住居２（２号竪穴住居跡）の完掘。写真・実測。<br>Ｉ区：土坑２（12号土坑）の完掘。写真・実測。住居３（３号竪穴住居跡）の検出写真・掘り下げ。<br>Ｊ区:住居４（４号竪穴住居跡）床面精査後, 掘り込み面まで掘り下げ。土坑９～10（４～６号土坑）完掘。写真・実測。溝状遺構４（１号溝状遺構）及び柱穴群検出・掘り下げ後，完掘写真・実測。<br>Ｊ～Ｌ区：掘立柱建物跡検出。掘り下げ。<br>10/23日空中撮影実施。 |
| 10/26（日）<br>～10/30（金） | Ｆ区：住居１（１号竪穴住居跡）中央土器溜り写真・実測。柱状穴確認・実測。<br>Ｇ・Ｈ区：住居２（２号竪穴住居跡）の完掘写真撮影・実測。<br>Ｉ区：住居３（３号竪穴住居跡）の完掘写真撮影・実測。<br>Ｊ区：住居４（４号竪穴住居跡）の完掘写真撮影・実測。Ｊ・Ｌ区：掘立柱建物跡完掘写真・実測。Ⅳ層上面地形測量。後に重機でⅥ層まで掘り下げ。Ｊ区に最終下層確認のためのトレンチ掘り。 |
| 11/ 1（日）<br>～11/ 6（金） | Ｆ区：住居１（１号竪穴住居跡）中央土器溜り写真・実測。完掘写真撮影。<br>Ｇ・Ｈ・Ｉ区：Ⅵ層まで重機で掘り下げ。Ⅵ層上面の精査。遺構検出。掘り下げ。<br>Ｊ区:住居４（４号竪穴住居跡）周辺人力でⅥ層上面まで掘り下げ。住居５（５号竪穴住居跡）検出。掘り下げ。床面土採集。<br>Ｋ区：Ⅲ層掘り下げ。遺物多量に出土。 |
| 11/ 9（月）<br>～11/13（金） | Ｇ・Ｈ・Ｉ区：Ⅵ層上面柱穴・土坑実測。<br>Ｊ区：住居５（５号竪穴住居跡）実測。<br>Ｋ区：Ⅲ層掘り下げ。遺物多量に出土。 |
| 11/16（月）<br>～11/21（土） | 住居２～５（２～５号竪穴住居跡）調査区土層断面図作成。<br>Ｊ区：住居５（５号竪穴住居跡）完掘写真撮影。<br>Ｋ区：住居７（６号竪穴住居跡）検出。埋土出土遺物実測図・写真撮影。 |
| 11/23（月）<br>～11/26（木） | Ｋ区：住居７（６号竪穴住居跡）埋土出土遺物実測図・写真撮影。住居跡実測図作成。完掘。 |
| 11/30（月）<br>～12/ 8（火） | 調査区埋め戻し。耕作地現状復旧。 |

# 第２章　遺跡の位置と環境

## 第１節　地理的環境

大崎町は鹿児島の東部，大隅半島の南西部に位置し，総面積は100.82㎢，東西に約８㎞，南北に約18㎞となっている。東は志布志市，南は肝属郡東串良町，西は鹿屋市，北は曽於市と接し，南東は志布志湾に面している。

北部を大鳥川が西から東へ流れ，曽於市大隅町，志布志市有明町で南流しながら菱田川として志布志湾に注いでいる。また，本町東部を田原川，中央部を持留川が南流し，これらも志布志湾に注いでいる。これらの河川によって本町の地勢は概ね２地区に分けられる。北端部は，菱田川の上流となる大鳥川を中心として，河川が溶結凝灰岩を切り開き，谷間の多い起伏の激しい渓谷を構成している。

本町の大部分はシラス土壌の上に形成された黒色火山灰土壌が広がる台地となっている。シラス台地の大部分は今から約29,000年前に姶良カルデラを起源とする破局噴火による入戸火砕流堆積物で構成されている。そのため本町は北部から南部の志布志湾に向けて緩やかな下り勾配となっている。しかし，本町においては北部の台地と中部以南の台地を分断するかのように丘陵地帯となっている。本町と志布志市有明町との境にある草野丘は代表的である。いずれの丘陵部は粘板岩で構成されている。入戸火砕流の埋没を免れた山の頂部が丘陵地帯を形づくっている。

中部から南部地帯は北西から東南の海岸線に向かって，緩やかに傾斜している起伏の少ない平坦な地帯であり，場所によって志布志湾まで見通せる。志布志湾に注ぐ河川によって台地は区切られ，本町西部から永吉台地，仮宿台地，飯隈（中沖）台地に分類される。永吉台地の西側を串良川，永吉台地と仮宿台地間を持留川，飯隈台地の東側を菱田川が流れている。入戸火砕流原を現在の河川の本流であった古肝属川，古菱田川により削剥，開析されて現在の地形の基礎が出来上がった。なお，本町飯隈台地東部に位置する菱田・中沖地区及び志布志市有明町蓬原地区までは一段低い菱田原台地が広がっており，菱田川によって形成された河成段丘が形成されていたことを示す。同じく菱田川対岸の志布志市有明町野井倉地区でも同じような河成段丘が見られる。

縄文海進最盛期の頃まで志布志湾に突出していたシラス台地の先端部が約5,500年～5,000年前の離水時までに海の浸食を受け，海岸線に沿うように浸食を受けた。肝属郡東串良町～志布志市に至ってこの時に形成された海食崖を見ることができる。約5,700年～5,500年前には，串良川下流域に河川堆積による大塚砂州が形成され，閉塞を受けた砂州の背後には広大な湿地が現れた。泥炭層が形成されることになる。約5,500年～4,500年前には横瀬砂州が形成され，同じく砂州の後背に湿地が形成された。永吉台地と仮宿台地間の低湿地には広域に泥炭層が厚く堆積しており，現在も非常に脆弱な地盤となっている。

横瀬砂州成立後も断続的に志布志砂州が形成されていった。さらにそれぞれの砂州形成時期後間もなく海浜からの飛砂による砂の再堆積があり，砂丘が形成された。約1,700年前以降，砂丘が急速に発達し，志布志湾岸には大規模な砂丘帯が形成された。最も発達しているところでは，本町益丸で標高約27ｍの高さに及んでいる。

麦田下遺跡は，鹿児島県曽於郡大崎町岡別府字の持留川の中流域に存在する。仮宿台地の麓部分にあって，持留川よりも微高地にある。遺跡近くの麦田橋での持留川水面が標高16.68ｍに対して，遺跡の立地する場所は標高19.3ｍである。

## 第２節　歴史的環境

大崎町における遺跡の分布は，主に田原川，持留川，菱田川，大鳥川を臨む台地の縁辺部に沿って分布している。現在も東九州自動車道建設に伴う発掘調査が行われており，次第に本町の歴史を知る上で重要な資料が得られつつある。

### １．旧石器時代

大崎町では旧石器時代の遺跡について記されている報告書はないが，東九州自動車道建設に伴う天神段遺跡の発掘調査で石器群が確認されている。

### ２．縄文時代

過去に，野方地区山間部などで耕作地から出土した縄文時代後期の土器が採取されたものしか資料がなかったが，近年の発掘調査件数の増加に伴い，縄文時代の遺構・遺物が確認されるようになった。平成11年に県営中山間地域総合整備事業の農道整備に伴い発掘調査を行った立山Ｂ遺跡は，本町北部の山間部に立地する。遺構は確認されなかったものの，晩期の黒川式土器を中心として縄文時代の遺物が出土した。

平成11年には県道黒石線改良工事に伴う二子塚Ａ遺跡では吉田式，石坂式，桑ノ丸式など早期の土器が出土し，集石遺構も確認された。

大隅グリーンロード建設に伴い発掘調査を行った下堀遺跡では前平式，石坂式，下剥峯式，手向山式，平栫式などの早期の土器が出土すると共に，13基の集石遺構が発見された。また，遺構は確認されていないが指宿式を中心とする後期の土器も出土した。

下堀遺跡と同事業で発掘調査を行った細山田段遺跡で

は後期土器としての丸尾式, 北久根式, 西平式, 御領式が, 晩期では黒川式土器が出土し，それに伴う柱穴群と土坑２基が確認された。これまで本町の発掘調査で報告される。縄文時代の成果は以上のとおりであるが，東九州自動車道建設に伴う発掘調査では縄文時代の遺構・遺物が多く確認されており，今後の新たな成果が期待される。

### ３．弥生時代

平成 11 年に民間の砂採に伴い調査を行った沢目遺跡は, 本町南部志布志湾岸の「くにの松原」内に所在する。砂丘に埋没した集落遺跡である。出土遺物として入来Ⅰ・Ⅱ式から山ノ口Ⅰ・Ⅱ式の時期に相当する弥生時代中期のものと，中津野式の時期を中心とする弥生時代終末 - 古墳時代初頭の土器が出土している。その他軽石製の加工品や，鉄製品も確認された。

在地では見られない形式の土器も多く，山ノ口式土器と共伴して出土した須玖式土器や，東九州地域から瀬戸内地域の影響を受けた土器も出土しており，広域的な交流の痕跡を窺わせる。

また，沢目遺跡は約 5,000 年前から 4,000 年前に形成された砂丘と古墳時代以降に形成された砂丘との間のクロスナ層を包含層としており，この２時期の砂丘の形成時期を示す手がかりとなった。

先述した下堀遺跡でも中期の遺構･遺物が確認された。山ノ口Ⅱ式を中心とする集落跡で，13 基の住居跡のほか，大型住居跡が２基発見された。また，５基の土坑を伴う掘立柱建物跡が計画的な配列で出土している。

平成 19 年に調査を行った麦田下遺跡は，弥生時代後期初頭に位置付けられる在地系土器が発見された。高付式土器の初段階と考えられる。その他西南四国型土器がまとまって出土しており，西南四国との関連を裏付ける貴重な成果を得ている。

現在のところ本町北部では弥生時代の遺跡についてまとまった成果はないが，立山Ｂ遺跡でも山ノ口式土器が出土している例があることや，分布調査，確認調査，工事立会でも弥生期の遺物が確認されていることから，北部台地及び山間部における弥生時代の集落が形成されている可能性は充分にある。

### ４．古墳時代

本町の古墳時代の遺構として中心的存在であるのは, 横瀬古墳である。横瀬砂州上の砂丘帯を利用して５世紀半ばに構築された九州でも有数の大型の前方後円墳で, 昭和 18 年に国の指定史跡となった。

昭和 53 ～ 54 年に行われた鹿児島県教育委員会文化財課の範囲確認調査で墳丘を廻る周溝の存在が明らかとなっている。周溝幅は約 12 m～約 25 m と推定されている。平成２年に行われた鹿児島大学と琉球大学の墳丘測量調査によれば, 墳長 132 m, 前方部幅 72 m, 前方部長 68 m, 後円部径 64 m, くびれ部幅 48 m を測ると報告されている。

平成 22 年～ 23 年に大崎町教育委員会が行った範囲確認調査では，これまで確認されていた周溝の北側と南側に外側にさらに廻らされている幅約４ｍの周溝の存在が明らかとなった。新に発見された外溝までを範囲とすれば，全長は約 180 ｍに及ぶ。

鹿児島県教育委員会の範囲確認調査では周溝の埋土から大阪陶邑産の須恵器が出土している。また墳丘では円筒埴輪，形象埴輪片が採集されている。

明治 35 年に盗掘を受けている。盗掘者の証言により腐食した直刀や甲冑，勾玉類が出土し，石室内は朱塗りであったと記録されている。

仮宿台地南端部に位置する神領遺跡群には神領古墳群が立地する。前方後円墳４基（６号墳, 10 号墳, 11 号墳, 13 号墳。うち６号墳は宅地造成のため消失。11 号墳は国鉄建設により半壊），円墳９基（１～５号墳，７～９号墳，12 号墳。７号墳は平坦化。８・９号，12 号については墳丘の形状が不明。）が存在する。また古墳群域には地下式横穴墓も点在し，過去に調査が行われたものだけで８基は確認されている。13 号墳を除いて，ほとんどが田原川を臨む台地の縁辺部に点在する。

６号墳では日光鏡，彷製獣帯鏡が採取され，宅地造成に伴い河口貞徳氏らによって昭和 43 年になされた調査では，石棺は花崗岩製の板石６枚を組み合わせたものと言われている。また，地下式横穴墓では，鉄剣，イモガイ製貝輪，内向花文鏡が出土している。

平成 18 年～ 20 年にかけて鹿児島大学総合研究博物館による神領 10 号墳の発掘調査が行われた。この調査で神領 10 号墳が全長約 50 ｍの前方後円墳であることが判明し，周溝に４基の地下式横穴墓が存在することが分かった。周溝から盾持人埴輪が発見された。またくびれ部では市場南組窯産の初期須恵器を大量に含む祭祀土器群が出土した。

埋葬施設の調査では，入戸火砕流の溶結凝灰岩製の刳抜式舟形石棺が確認された。この石棺には６ヶ所の縄掛け突起があり，突起を含む最大長は 277㎝，最大幅 128 ㎝に及ぶ。石棺内は盗掘によりほとんどの副葬品は失われていたが，棺外に鉄剣，短甲の一部と，鉄鏃束などが発見された。これらの調査の成果から神領 10 号墳の築造時期は５世紀前半と推定されている。

同じ仮宿台地内の古墳群では, 田中古墳群が存在する。３基の円墳が確認されているが，これについては未調査である。これらも田原川を臨む台地の縁辺部に立地している。仮宿台地内で確認されている古墳時代の墓域としては他に下堀遺跡がある。平成 14 年の大隅グリーンロード建設に伴う発掘調査では，地下式横穴墓が７基確認されている。副葬品として鉄剣，異形鉄器，鉄鏃が出土し，

墓周辺から大阪陶邑産の須恵器が確認された。

飯隈台地内には飯隈古墳群が存在する。神領古墳群とは異なり，台地の縁辺部ではなく，主に台地内部の小高い丘の頂部または微高地に点在するのが特徴である。１～３号墳は台地の平坦部もしくは微高地に立地する。４・５号と８・９号は『大崎名勝誌』で記すところの「鷲塚山」に立地する。鷲塚山とは，南北約 500 mにわたって延びる台地上の丘陵で，古墳はその尾根に点在する。また６・７号は鷲塚山より北西へ約 400 m離れた丘陵の頂上に立地する。

３号・４号・８号・９号は全壊もしくは半壊の状態である。８号は前方後円墳であったが，「戦時中に分かれ円墳化」と大崎町文化財要覧に記されているが，鷲塚山が半分造成をうけたため，８号墳の本来の姿をうかがい知ることはできない。

また永吉台地南端部の東串良町境近くには鷲塚地下式横穴墓が存在する。昭和 59 年に町道拡幅で不時発見され，河口貞徳氏によって調査された。

古墳時代の調査で集落跡の調査を行った例は多くないがが，二子塚Ａ遺跡では古墳時代の住居跡が確認されている。

## ５．古代

本町において古代の様相をうかがい知る遺構・遺物が確認された発掘調査の報告書は現在無いが，妻萬神社（現都萬神社）が古代日向国の５郡（臼杵郡，児湯郡，那珂郡，宮崎郡，諸県郡）ごとに設けられたことや，743 年には聖武天皇によって勅願所とされたと伝えられている飯隈山三権現社の存在していたことなどから，古代期にも主要な地域であったと推測され，今後の調査成果が期待される。

## ６．中世～近世

中世の山城として，神領遺跡群に所在する井出田城跡，龍相城跡，旧大崎城がある。文明 13 年（1488 年）に，肝付本家を離反した肝付兼光によって龍相城より北側に中心を移し，大崎城（後に新に築城される大崎城に対して「旧大崎城」と呼ぶ。）を構えた。井出田城跡，龍相城跡の築造時期は不明であるが，鎌倉期に構築されたものと推測されている。南北朝時代に龍相城は，南朝方の楡井氏が拠った城で，後述する胡摩ヶ崎城の南方を固めていたと伝えられている。

肝付氏が島津氏に降伏した後の，天正５年（1576 年）大崎城は島津方の武将の支配を受けるが，翌年に現在の大崎小学校北側に拠点を移し，新に大崎城を築城した。ここは近世以降大崎郷の地頭仮屋となった。

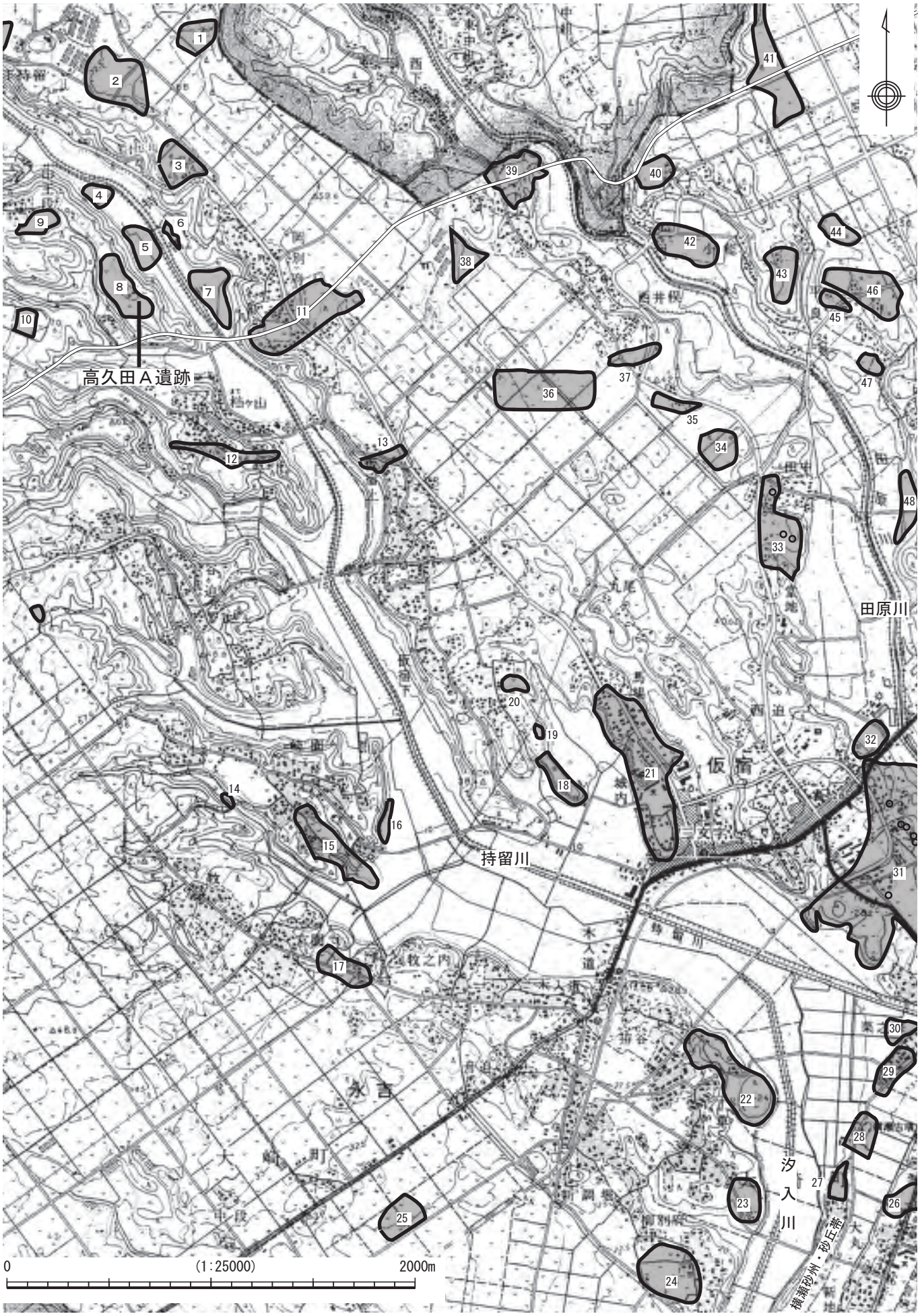
仮宿台地の西側に南に突き出た舌状台地がある。この舌状台地の一部が胡摩ヶ崎城で，鎌倉期築城と推定している。南北朝時代には，楡井頼重が拠った城であり，頼重は北朝方の武将に攻め込まれ，この地で命を落としたと伝えられている。

胡摩ヶ崎城西方の持留川対岸にも，永吉台地から突き出た舌状台地があって，ここには野卸城があった。現在は大半が現代のシラス採取で破壊されている。ここは胡摩ヶ崎城の西方を固める城であったと考えられる。本町の菱田地区にも菱田川を見下ろす台地の縁片部に立地する天守城は胡摩ヶ崎城の東方の防御を担っていたと考えられている。胡摩ヶ崎城の北方を固めていたと言われている天ヶ城は岡別府にあったと伝えられる。

永吉台地南部の横瀬古墳を臨む舌状台地は，栫谷城のあったと推定される場所である。荘園の弁済使であった肝付氏に対して，鎌倉期に新に配置された幕府の地頭名越氏が築城した城と考えられている。

金丸城は田原川上流域の仮宿台地縁辺部，志布志市有明町境に立地する。志布志市有明町蓬原にある救仁郷氏の居城である蓬原城と関連していたと言われている城で，延文４年（1359 年）に蓬原城が島津氏久に攻められ落城した時に，この城も落城したと言われている。平成 12 年に大隅グリーンロード建設に伴う金丸城跡の調査が行われた。台地で環状に配列する掘立柱建物跡が確認された。遺物はいずれも近世の陶磁器類が出土したのみで，城の時期に相当する遺物が無かったため，掘立柱建物跡が城に関する施設かどうかは判断できなかった。その他，近世墓が出土している。また，台地麓は田原川より小高い地形を呈しており，ここでは焼土を伴う土坑，貯水に用いられたと推測される土坑，多数の柱穴が出土した。焼土を伴う土坑は「カマド」に類する形状を呈している。この土坑が連なる場所の近くに軽石や破砕した土坑の炉部分の集積が認められ，その中に鉄滓や羽口が出土したことで，鉄製産関連の遺構も想定したが，焼土を伴う土坑そのものが鉄を扱っている痕跡は見つからなかった。

（参考文献）
・永迫敏郎・奥野充・森脇広・新井房夫・中村俊介（1998 年）『肝属平野の形成史 - テフラとＡＭＳ$^{14}$Ｃ年代による』
・大崎町教育委員会（1989 年）『神領地下式横穴群５号』大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書(1)
・大崎町教育委員会（1992）『神領地下式横穴群６号』大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)
・大崎町教育委員会（2001）『立山Ｂ遺跡』大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書(3)
・大崎町教育委員会（2004）『金丸城跡』大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)
・大崎町教育委員会（2005）『下堀遺跡　大崎細山田段遺跡』大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書(5)
・大崎町教育委員会（2006）『美堂Ａ遺跡』大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書(6)
・大崎町教育委員会（2014）『麦田下遺跡』大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書(7)
・鹿児島県立埋蔵文化財センター(2003)『後迫遺跡』埋蔵文化財センター発掘調査報告書(66)
・鹿児島県立埋蔵文化財センター（2004）『二子塚Ａ遺跡』埋蔵文化財センター発掘調査報告書（84）
・救仁郷断二（1951）『大崎町史』（株）べりかん社
・鹿児島大学総合研究博物館（2007）
『鹿児島大学総合研究博物館 News Letter　№15』
・鹿児島大学総合研究博物館（2008）
『鹿児島大学総合研究博物館 News Letter　№19』
・鹿児島大学総合研究博物館（2009）
『鹿児島大学総合研究博物館 News Letter　№22』




第１図　周辺遺跡分布図

## 第１表　周辺遺跡地名表

| No. | 遺跡名 | 所在地 | | 地　形 | 主な時代 | 遺　物・遺　構 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 五鳴 | 岡別府 | 五鳴 | 台地 | 弥生・古墳 | | |
| 2 | 坂本原 | 岡別府 | 坂本原 | 台地 | 弥生・古墳 | | |
| 3 | 早馬 | 岡別府 | 早馬 | 台地 | 弥生・古墳 | | |
| 4 | 高久田Ｂ | 岡別府 | 高久田Ｂ | 沖積地 | 弥（前・末）・古墳 | 弥生終末～古墳住居跡 | 県営農総事業に伴い H21 本調査。 |
| 5 | 小柳 | 岡別府 | 小柳 | 沖積地 | 弥生・古墳 | | 県営農総事業に伴い H18 確認調査。 |
| 6 | 麦田下 | 岡別府 | 麦田下 | 沖積地 | 弥（後）・古墳・古代 | 土器溜り | 県営農総事業に伴い H19 本調査。 |
| 7 | 宮田 | 岡別府 | 宮田 | 沖積地 | 弥生・古墳 | 弥生土器。 | 県営農総事業に伴い H18 確認調査。 |
| 8 | 高久田Ａ | 永吉 | 高久田Ａ | 沖積地 | 弥（前・中）・古墳 | | 県営農総事業に伴い H18 確認調査。 |
| 9 | 永迫 | 永吉 | 永迫 | 台地 | 弥生・古墳 | | |
| 10 | 船迫 | 永吉 | 船迫 | 台地 | 縄文・弥生・古墳 | | |
| 11 | 下堀 | 岡別府 | 下堀 | 台地 | 縄（早･後), 弥（中), 古墳，古代，中世 | 集石遺構・大型住居跡２基・土坑を伴う掘立柱建物跡・地下式横穴墓７基 | 大隅グリーンロード建設に伴い H13 ～ 15 に本調査。 |
| 12 | 永吉天神段 | 永吉 | 永吉天神段 | 台地 | 弥生・古墳・古代 | | H24 ～東九州自動車道建設に伴う本調査実施中。 |
| 13 | 荒園 | 仮宿 | 荒園 | 台地 | 弥生・古墳 | | H24 ～東九州自動車道建設に伴う本調査実施中。 |
| 14 | 牧谷・白山 | 永吉 | 牧谷・白山 | 沖積地 | 中世 | | |
| 15 | 野卸城跡 | 永吉 | 前岡・深坂 | 台地 | 古代・中世 | | シラス採取で半壊。 |
| 16 | 小園 | 永吉 | 小園 | 沖積地 | 古墳 | | |
| 17 | 外園 | 永吉 | 外園 | 台地 | 弥生・古墳 | | |
| 18 | 胡摩ヶ崎城跡 | 仮宿 | 古城 | 台地 | | | 南北朝期は楡井氏の城。 |
| 19 | 美堂Ｂ | 仮宿 | 胡摩 | 台地 | 古墳 | | |
| 20 | 美堂Ａ | 仮宿 | 美堂 | 台地 | 古墳・中世・近世 | 成川式土器。古道 | 大崎中央農道建設に伴い H14 本調査。 |
| 21 | 大崎城跡 | 仮宿 | 城内ほか | 台地 | 中世末・近世 | | |
| 22 | 榕谷城跡 | 永吉 | 枝迫 | 台地・沖積地 | 弥（中）・古墳・中世 | | 鎌倉期に大隅守護式名越氏築城か？ |
| 23 | 京ノ峰 | 永吉 | 京ノ峰 | 台地 | 縄文・弥生・古墳 | 山ノ口式土器 | H14 町道拡張のため工事立会。旧「桜迫遺跡」 |
| 24 | 堂地迫 | 永吉 | 堂地迫 | 台地 | 古墳・中世 | | |
| 25 | 茶屋場 | 永吉 | 茶屋場 | 台地 | | | |
| 26 | 浜田 | 横瀬 | 浜田 | 砂丘 | 古墳 | | |
| 27 | 大塚 | 横瀬 | 大丸 | 砂丘 | 弥生・歴史 | | |
| 28 | 横瀬古墳 | 横瀬 | エサイ町 | 砂丘 | 古墳 | | S18 国指定。 |
| | | | | | | 円筒埴輪・形象埴輪・大阪陶邑産須恵器など | S52・53 鹿児島県教育委員会周濠確認。 |
| | | | | | | | H22・23 大崎町教育委員会外濠確認。 |
| 29 | 栗之峰Ｂ | 横瀬 | 栗之峰・宇田貫 | 砂丘 | 古墳 | | 旧「横瀬遺跡」 |
| 30 | 栗之峰Ａ | 横瀬 | 溝下 | 沖積地 | 弥（中） | | 旧「栗之峰遺跡」 |
| 31 | 神領遺跡群 | 神領・横瀬 | | 台地 | 弥・古墳・中世 | 神領古墳群<br>円墳９基(1 ～ 5, 7 ～ 9, 12 号), 前方後円墳４基（6・10・11・13 号） | 6 号は宅地造成で消失。10 号は H18 ～ 20 に鹿児島大学総合研究博物館発掘調査。11 号は国鉄のために半壊。 |
| | | | | | | 地下式横穴墓群 | これまでに８基調査。 |
| | | | | | | 井出田城跡 | |
| | | | | | | 龍相城跡 | |
| | | | | | | 旧大崎城跡 | 文明初期肝付兼光築城。 |
| 32 | 田原Ａ | 神領 | 田原 | 沖積地 | 弥（中・後） | | |
| 33 | 田中古墳群 | 井俣・神領 | 田中・堂地 | 台地 | 古墳 | 円墳３基 | |
| 34 | 柿木 | 井俣 | 柿木 | 台地 | 弥生・古墳 | | |
| 35 | 坂上 | 井俣 | 坂上 | 台地 | 弥生・古墳 | | |
| 36 | 堂園堀 | 井俣 | 堂園堀 | 台地 | 弥生・古墳 | | |
| 37 | 宮脇 | 井俣 | 宮脇 | 台地 | 古墳・古代 | | |
| 38 | 干浅 | 井俣 | 干浅 | 台地 | 弥生・古墳 | | |
| 39 | 金丸城跡 | 井俣 | 小牧・金丸 | 台地・沖積地 | 中世 | 縄（早）・古墳・古代・中世・近世の土器・陶磁器類　焼土を伴う土坑・柱穴群等。 | 大隅グリーンロード建設に伴い H11 ～ 12 に本調査。 |
| 40 | 井俣牧 | 井俣 | 井俣牧 | 台地 | 弥生・古墳 | | |
| 41 | 中沖Ｂ | 井俣 | 中沖Ｂ | 台地 | 弥生・古墳 | | |
| 42 | 井俣和田 | 井俣 | 和田 | 沖積地 | 古墳 | 成川式土器片群 | 県営経営体事業に伴う H18 確認調査。 |
| 43 | 平良上Ａ | 井俣 | 平良上・平田 | 台地 | 縄文・古墳 | | |
| 44 | 平良上Ｂ | 井俣 | 平良上 | 台地 | 古墳 | | |
| 45 | 平良上Ｃ | 井俣 | 平良上 | 台地 | 弥生・古墳 | | |
| 46 | 平良宇都Ａ | 井俣 | 平良宇都Ａ | 沖積地 | 弥生 | | 県営経営体事業に伴う H18 確認調査。 |
| 47 | 平良宇都Ｂ | 井俣 | 平良宇都Ｂ | 沖積地 | 弥（前・中）・古墳 | 弥生前期土器１点 | 県営経営体事業に伴う H18 確認調査。 |
| 48 | 別府下 | 益丸 | 別府下 | 沖積地 | 古墳・古代 | 土師器 | 県営経営体事業に伴う H18 確認調査。 |

# 第３章　発掘調査の方法

## 第１節　発掘調査の記録方法

発掘調査では，調査区が細長いため，工事計画におけるセンター杭を設定し，20 mごとに設定されている№杭７ヶ所（№25，26，27，28，29，30，30+11.0）を基準杭とした。また，調査における補助杭として10箇所の中心点にアースポイントを設定した。杭・アースポイントの設定は鹿児島土木設計株式会社に委託して行った。

設定した№杭間及び各取り付け道路部分で分割し，調査区間を９分割に分けた（Ｅ～Ｍ区）。なお，各№杭には世界公共座標と絶対標高が与えられている。各杭の座標･標高と調査区割は第４章中の第１表のとおりである。

調査は，Ⅰ層を重機で掘削し，包含層であるⅡ・Ⅲ層を人力で掘り下げた。調査は全調査範囲を層序ごとで掘り下げ，各層の出土遺物の出土状況写真及びトータルステーションを用いたドット取上げを行った。遺構検出はⅢ層上面・Ⅳ層上面で行い，また最終的にはⅥ層上面での検出も試みた。検出，埋土堆積状況，完掘写真を撮影した。カラー写真は１眼レフデジタルカメラとリバーサルカメラを使用し，白黒写真はフィルムカメラを使用した。

住居跡については，1/20の実測を行った。住居内出土遺物については土器の出土が顕著で，まとまりがあるもの，床面出土のものは１/10もしくは１/20で実測を行った。ただし２号竪穴住居跡に関しては，時間不測のため止む無くドット取上げを行った。埋土内で床面から高い位置の遺物はドット取上げを行った。掘立柱建物跡と土坑についても１/20で実測を行った。ただし，不定形の小規模な土坑，配列が不規則な柱穴，溝状遺構は，トータルステーションで1/50の実測図面を作成した。

## 第２節　整理作業の方法

### １．洗浄・注記・接合

遺物ごとに洗浄後遺跡名（「ＴＫＤＡ」表記），取り上げ番号を注記し，取り上げ番号と実測平面図をもとに分類し，土器片の接合を行った。土器の復元ではセメダインＣで土器を接合させ，接合部や，欠損部などの補強・復元には止水･修復用セメント「デンカキューテックス」を用いた。

### ２．遺物実測図作成と遺構・遺物トレースの方法

遺物の実測は，原寸大で作成した。土器については，断面の展開を基本とした。土製品，ガラス玉，石器類は表・断面・裏面の展開を基本とするが，必要に応じて調整・施文及び使用痕のあるところは図化した。

トレースは，土器については実測原図を2/3に縮小し，製図用ペンでトレースを行った。線種は基本的に断面を0.4㎜，外形ライン0.4㎜，器面の強い稜線0.3㎜，弱い稜線は0.2㎜もしくは0.1㎜で表現し，ハケメ・ケズリ，原体幅を0.1㎜，原体内の木目は0.13㎜で，ミガキ，指頭圧痕などは0.13㎜で表現した。展開図における中央線は0.3㎜を用いた。石器，ガラス玉については実測を原寸で行い，トレースは遺物の大きさに応じて200％，150％，原寸大で行い，外形ラインは0.3㎜，強い稜線は0.1㎜，弱い稜線は0.1㎜を用いた。石器における使用痕は0.13㎜で表現した。

遺構の実測図，配置図等はスキャナーで図面を読み込み，フォトショップで歪みを修正した後，修正した図面をイラストレーターで合成し，デジタルトレースを行った。見通し断面図もレベル数値と実物及び写真を参考に復元した。

デジタルトレースにおける線種は，遺構の上場を0.5pt下場ラインを0.25ptを基本としている。また遺構内遺物の外形ラインを0.5pt，稜線を0.25ptで表現した。

### ３．遺物写真撮影

遺物の写真撮影は４×５㎜フィルム用カメラを用いて撮影を行った。土器は形式及び器類ごとで撮影を行い，完形もしくは完形のイメージしやすいものは立面で撮影し，小片のものは俯瞰で撮影した。また特徴のある箇所については接写を行った。

### ４．科学分析

遺物に付着している炭化物の採集を行い，放射性炭素年代測定を試みた。測定は株式会社地球科学研究所に委託して行った。また，５号竪穴住居跡の床面の土を採集し，フルイ水洗選別法で炭化物等の遺物を抽出し，さらに鹿児島大学埋蔵文化財調査センターの中村直子氏の指導のもとで抽出した炭化種実を分析した。種実分析は株式会社古環境研究所に委託をした。科学分析に関する詳細は第６章で述べる。

### ５．整理指導

遺跡では弥生時代終末期から古墳時代前期の土器が多く出土している。これらの土器についてさらに細かい形式学的分類の方法を中村直子氏の指導を賜った。

また２点の須恵器については時期・器種の判断が困難であったため，鹿児島大学総合研究博物館の橋本達也氏に指導を賜った。

他に掲載遺物の詳細については鹿児島県立埋蔵文化財センターの指導・助言を得た。

# 第４章　層序と確認調査の成果

## 第１節　層序

高久田Ａ遺跡における層序は以下のとおりである。

Ⅰ　表土。
　ａ　現代の耕作土。黒褐色土層（Hue10YR3/2）。
　ｂ　近代の層。褐灰色土層（Hue10YR4/1）。
　ｃ　近世末の層。黒褐色土層（Hue10YR3/1）。
Ⅱ層　黒色軟質土層（Hue10YR2/1）。遺物包含層。
Ⅲ層　黄色火山灰混黒色土層（Hue10YR2/1）。
　黄色（Hue2.5YR8/6）の火山灰らしき微粒子が含まれる。弥生前期～古墳初頭までの遺物包含層。
Ⅳ層　黒色土層（Hue10YR2/1）。
　ところによって池田降下軽石が浮遊する。
Ⅴ層　黒褐色土層（Hue10YR3/2）。
　池田降下軽石を含む層。
Ⅵ層　アカホヤ火山灰層。
　ａ　にぶい黄褐色火山灰層（Hue10YR5/4）。
　ｂ　明黄色褐色火山灰層（Hue10YR6/8）。
　ｃ　明黄色褐色軽石層（Hue10YR6/8）。
Ⅶ層　ａ　にぶい黄橙色粘質土層（Hue10YR6/4）。
　ｂ　灰黄褐色土層（Hue10YR6/2）。
Ⅷ層　橙色軽石混灰黄褐色土層（Hue10YR5/2）。
Ⅸ層　橙色軽石混黒褐色土層（Hue10YR3/1）。
Ⅹ層　にぶい黄橙色土層（Hue10YR6/3）。
　黄橙色火山灰ブロック（サツマ火山灰）を多く含む。
Ⅺ層　灰褐色粘質土層（Hue5YR5/2）。
Ⅻ層　にぶい橙色粘質土層（Hue5YR7/4）。

Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ層については，色調に大きな差は無い。Ⅲ層については，黄色の微粒子が含まれるため，Ⅱ層とⅣ層よりやや明るい状態で分層できる。ただし，日照の条件によっては判別できないこともある。曇天時が好条件と言える。

## 第２節　確認調査の成果

高久田Ａ遺跡におけるトレンチの配置図は第２図のとおりである。また各トレンチの地点，トレンチ規模については第２表に示すとおりである。以下各トレンチの成果について報告する。

### １．１～４トレンチの成果

１トレンチはⅠａ層以下Ⅱ・Ⅲ層が存在するが，遺物の出土は無かった。Ⅳ層の形成は無く，Ⅲ層以下はⅤ層となっている。遺構は検出されなかった。Ⅵ層以下も遺構・遺物は確認されなかった。

２トレンチ周辺は遺跡の中でも最も標高の高い位置にある。Ⅳ層の形成は無く，Ⅲ層以下はⅤ層となっている。Ⅱ・Ⅲ層に遺物の出土は無かった。また遺構は検出されなかった。Ⅸ層も形成されておらず，Ⅷ層以下はⅩ層となっている。Ⅶ層以下も遺構･遺物は確認されなかった。

３トレンチの土層の堆積は２トレンチと類似する。ただし，Ⅶｂ層とⅧ層の境は不明瞭である。またⅦ層のａとｂ が混在している。遺構・遺物は確認されなかった。

４トレンチのⅠａ層以下はⅥａ層となっており，Ⅱ～Ⅵａ層は耕作地によって削平されている。Ⅷ層以下はⅩ層となっている。遺構・遺物は確認されなかった。

### ２．５トレンチの成果（第３図）

５トレンチは，工事区域の大部分がコンクリート舗装された現道路にあたっていたため，工事区域外にトレンチを設けた。

Ⅱ・Ⅲ層で遺物が確認された。Ⅱ層は小片であり，Ⅲ層で遺物片が大きくなる。Ⅱ層上部でトレンチを横断する方向で硬化面が確認された。トレンチの範囲では帯状を呈するのか不明であるため，古道と断定できない。現存幅は 40 ～ 50㎝を基本とするが，トレンチ東側壁際は北側に拡張して最大幅 90㎝までに広がっている。硬化面の北側は，硬化した土が３箇所点在しており，可能性として本来の幅は 90㎝程度で，竹や樹根で部分的に破壊されている可能性もある。

硬化面の北側は高く，南側に低く傾斜している。硬化面の断面を確認するため，トレンチ東側に幅 20㎝のサブトレンチを設けた。

トレンチ東壁面の，硬化面南部分にⅡ層を埋土とする遺構らしき落ち込みが確認された。硬化面より下層に形成されているため，硬化面形成時期より古い段階のものと考えられる。硬化面以外の部分はⅤ層まで掘り下げたが，遺構は検出されなかった。なおⅣ層は形成されていない。

下層確認のため，トレンチを北側に 2.5 ｍ拡張して調査を行った。あまり土器の散布は無かったが，トレンチ東壁面のⅢ層にまとまった土器片が確認された。しかし，Ⅵ層上面までは層が安定していなかった。

なお，遺物包含層であるⅡ・Ⅲ層は，現道路面より高い位置にあり，現道路面において包含層は削平されていると推測した。

ただし遺物包含層は削平されているが，遺構の検出層が残存している可能性もあるため，本調査の範囲は，５トレンチのある周辺も含めた。

## ３．６～10 トレンチの成果

表土から 52㎝の深さは近代もしくは現代の埋め土であり，埋土からはコンクリートなどが出土している。埋め土を除去すると，Ⅵｂ層が現れ，Ⅵａ層に掘り込まれたＩｃを埋土とするプランが検出された。

プラン１の北側部分は５～ 15㎝大のアカホヤ火山灰ブロックが目立ち，この部分は土坑の性格に伴うものなのか，樹根などによる作用か不明である。なお，プラン１は後に本調査で近世～近代の竪穴状遺構として報告する。

７トレンチはⅡ・Ⅲ層が耕作などによる攪乱が生じており，遺物量も少ない。トレンチ南東隅にⅢ層を埋土とする竪穴状の遺構らしき断面を確認した。平面ではとらえられなかったので，遺構の端部がトレンチ壁面に現れたものと考えられる。Ⅵ層までは掘り込まれている。この遺構は本調査では調査区外で，実体を明らかにすることはできなかった。

８トレンチはⅡ・Ⅲ層から多量の遺物が出土した。特にⅢ層ではトレンチ南西壁面に集中しており，このことにより遺構の可能性が考えられた。この段階でⅢ層とⅣ層の色調差を認識できていなかったことなどから，結果的にⅤ層中での検出を試みたが，トレンチ南西壁面に不定形の浅い掘り込みのプランが確認された。後に土層断面で，このプランはⅢ層を埋土とする遺構の床面であることが判明した。後ほど第５章で報告する２号竪穴住居跡である。

９トレンチでもⅡ・Ⅲ層で多量に遺物が出土した。地表面から約 70㎝の深さで，トレンチ南東部 1/3 の面積でⅣ層が現れた。しかし残りの範囲はⅢ層が強く残るため，遺構の可能性が考えられた。検出を試みたが，検出ラインが明瞭ではなく，トレンチの範囲では全体像が捉えられないため，調査の詳細は本調査に委ねることとした。後に第５章で報告する５号竪穴住居跡，４・６号土坑が切りあっている場所がこの９トレンチにあたる。

10 トレンチは工事計画地における台地の縁辺部にあたり，トレンチの南側は深く切り込んだ谷がある。

Ⅱ層で遺物が出土した。Ⅲ層の形成がこれまでと異なり十分でなく，ブロック状に存在する。トレンチ南側で比較的やわらかいⅡ層が入り込んだプランをⅣ層中に検出した。このプランの調査は後の本調査で行っているが，単なる樹根であることが判明した。

Ⅴ層まで掘り下げたが，遺構らしきプランは確認されなかった。また，Ⅵｂ・ｃ層を除去した後，Ⅶ・Ⅷ層の掘り下げを行ったが，遺構・遺物は確認されなかった。

## ４．11 トレンチの成果

11 トレンチは，そもそも確認調査の予定にはなかったが，工事計画地に隣接する土地所有者が，工事計画に伴いゴミ捨て場を移設することにしたため，緊急に確認調査を実施したものである。

地表面から深さ約 40㎝は埋め立てによる土が堆積していた。この攪乱層の中にまとまった土器片が確認された。攪乱層直下はⅥｂ層が現れた。そのため，埋め立てる前にⅥａ層までは削平されていたことが分かる。このトレンチの東側半分にⅢ層を埋土とするプランが検出された。すでに西側部分は旧ゴミ捨て場によって削平されていたが，円形状のプランではないかと推測した。また残存するプランの規模から，住居跡の可能性が高い。

これについては調査区外にあたるため，埋戻しをして現状保存し，プランの無い箇所に位置をずらして新たなゴミ捨て場を設定した。

## ５．12 トレンチの成果

農道整備計画においては，№28 ～№30+11.0 の範囲は南側の谷部に向けて下り勾配に道路を新規に取付けるため，掘削の深さも大規模になる。19 年度の確認調査における 10 トレンチは黒色土層が厚かったため，作業の安全面を考慮して，調査の深さを２ｍまでにとどめた結果，Ⅷ層までの掘削で終了せざるを得なかった。

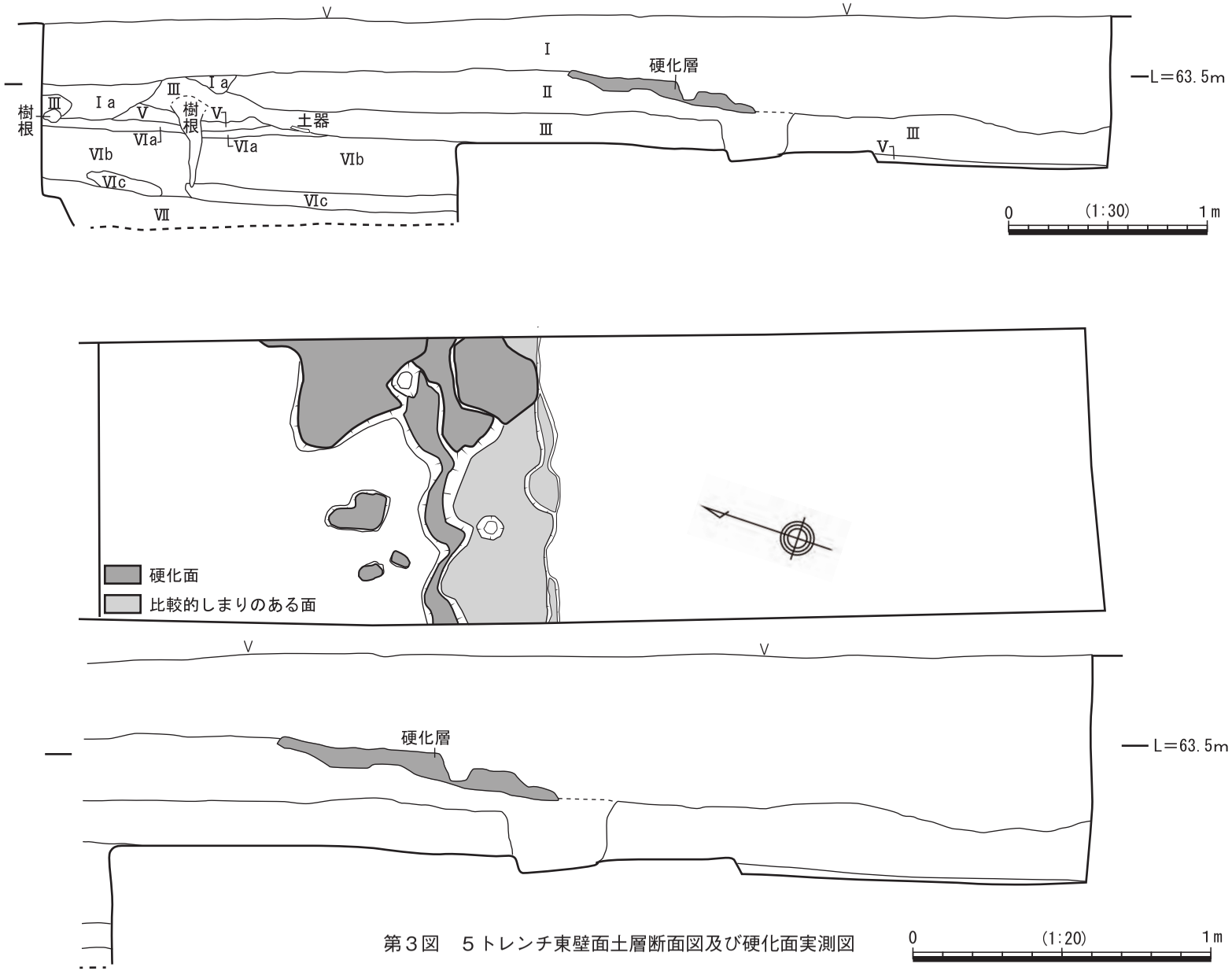
そこで本調査時，Ⅴ層上面まで掘り下がった段階で，旧石器時代に相当するⅪ層･Ⅻ層の確認調査を実施した。

Ⅺ層・Ⅻ層には遺構・遺物は確認されなかった。

第２表　トレンチ一覧表

| トレンチ№ | 調査面積（m × m=㎡） | 調査深度（m） | 遺構 | 遺構検出面の層と地表面からの深さ（m） | 遺物 | 遺物包含層の層と地表面からの深さ（m） | 工事計画におけるトレンチの位置 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1.5 × 3=4.5 | 1.4 | － | － | － | － | №13 付近 |
| 2 | 1.5 × 3=4.5 | 1.5 | － | － | － | － | BC8 と№15 付近 |
| 3 | 1.5 × 3=4.5 | 1.8 | － | － | － | － | BC9 付近 |
| 4 | 1.5 × 3=4.5 | 1.5 | － | － | － | － | EC10 と№20 付近 |
| 5 | 1.5 × 5.5=8.25 | 1 | 硬化面 | Ⅱ上部　－ 0.3 | 弥生終末土器 | Ⅱ・Ⅲ　－ 0.3 ～－ 0.6 | SP11 付近 |
| 6 | 2 × 2=4 | 0.9 | 土坑 | Ⅵｂ　－ 0.6 | 薩摩焼・鉄滓 | Ⅰ（混土）－ 1.0 ～ | SP13 付近 |
| 7 | 2 × 3=6 | 1.7 | 竪穴状遺構 | Ⅵａ　－ 0.8 | 土器 | Ⅱ・Ⅲ　－ 0.3 ～－ 0.6 | №26 付近 |
| 8 | 2 × 3=6 | 0.8 | 竪穴状遺構 | Ⅵａ　－ 1.2 | 弥生終末土器 | Ⅱ・Ⅲ　－ 0.4 ～－ 0.8 | BC15 付近 |
| 9 | 1.5 × 3.5=5.25 | 0.9 | 遺構あり | Ⅳ　－ 0.7 | 弥生終末土器 | Ⅱ・Ⅲ　－ 0.3 ～－ 0.8 | №29 付近 |
| 10 | 2 × 2.5=5 | 2.2 | － | － | 弥生終末土器 | Ⅱ　－ 0.5 ～－ 0.8 | №30+11.0 付近 |
| 11 | 0.7 × 2=1.4 | 0.5 | 住居跡？ | Ⅵｂ　－ 0.4 | 弥生終末土器 | Ⅲ　－ 0.4 | BC14 付近 |
| 12 | 1.5 × 3=4.5 | Ⅴ層上面から 1.8 | － | － | － | － | BC16 付近 |

第２図　トレンチの配置図



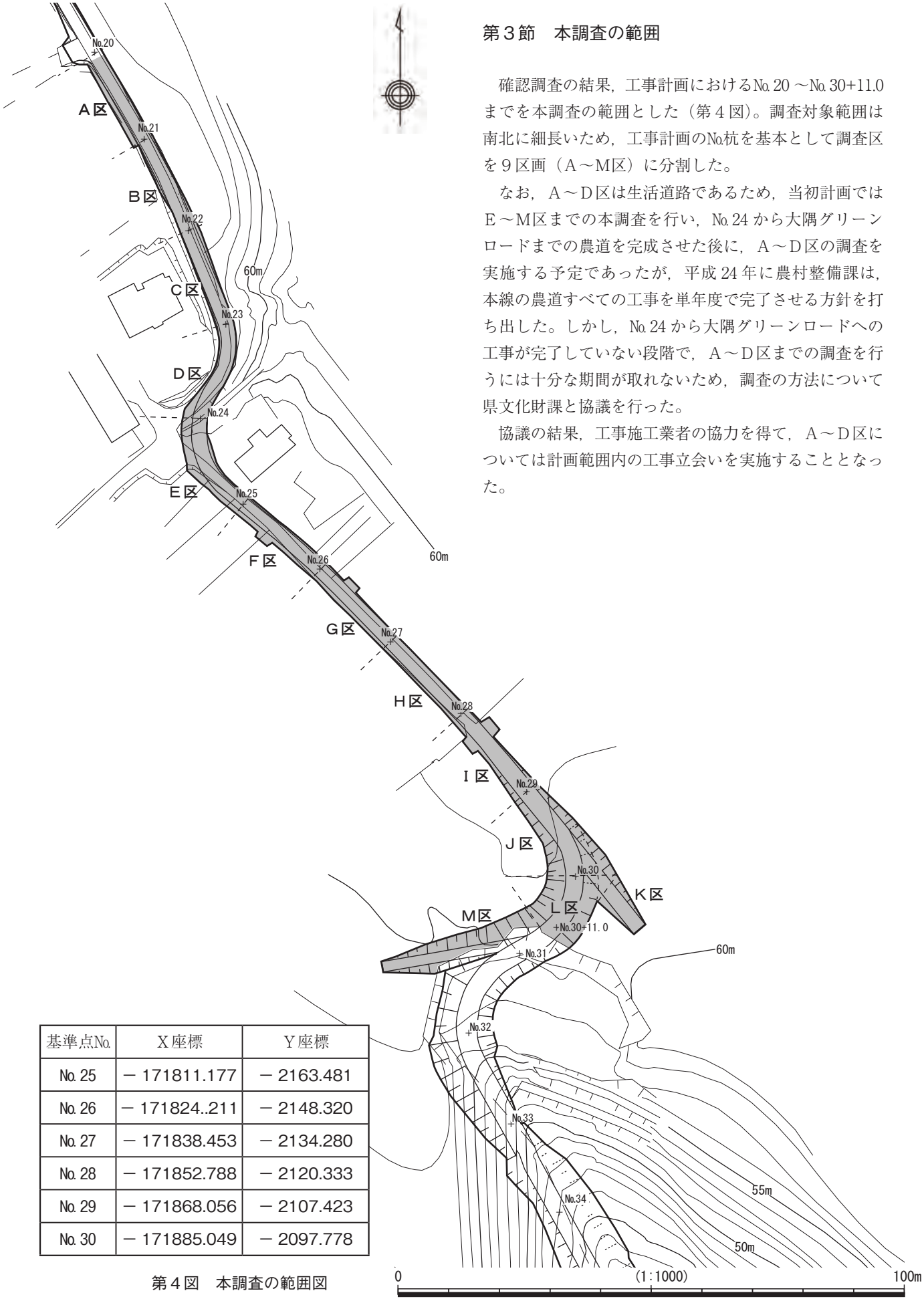

第３図　５トレンチ東壁面土層断面図及び硬化面実測図

## 第３節　本調査の範囲

確認調査の結果，工事計画における№20～№30+11.0までを本調査の範囲とした（第４図）。調査対象範囲は南北に細長いため，工事計画の№杭を基本として調査区を９区画（Ａ～Ｍ区）に分割した。

なお，Ａ～Ｄ区は生活道路であるため，当初計画ではＥ～Ｍ区までの本調査を行い，№24から大隅グリーンロードまでの農道を完成させた後に，Ａ～Ｄ区の調査を実施する予定であったが，平成24年に農村整備課は，本線の農道すべての工事を単年度で完了させる方針を打ち出した。しかし，№24から大隅グリーンロードへの工事が完了していない段階で，Ａ～Ｄ区までの調査を行うには十分な期間が取れないため，調査の方法について県文化財課と協議を行った。

協議の結果，工事施工業者の協力を得て，Ａ～Ｄ区については計画範囲内の工事立会いを実施することとなった。




| 基準点№ | Ｘ座標 | Ｙ座標 |
|---|---|---|
| №25 | －171811.177 | －2163.481 |
| №26 | －171824..211 | －2148.320 |
| №27 | －171838.453 | －2134.280 |
| №28 | －171852.788 | －2120.333 |
| №29 | －171868.056 | －2107.423 |
| №30 | －171885.049 | －2097.778 |

第４図　本調査の範囲図

## 第４節　Ａ～Ｄ区の工事立会の結果

生活道路を維持しながらの工事立会であったため，結果として全面的にコンクリート舗装を除去することが困難であった。そのため，№20～23の各アンカーポイント近くに３×３ｍのトレンチを設定し，コンクリート除去後，遺構検出面まで重機で少しずつ掘り下げた。

これらのトレンチで遺構，遺物が確認された場合は，工事立会を実施することとした。

### １．Ａ区の概要

コンクリートは厚さ７cm程度で，以下は約20～30cmの厚さでシラスや混ざり土が敷かれていた。これらを除去すると，Ⅵｂ層であった。Ⅵｂ層面には２条の溝状プランが確認できたが，これらはシラスや混ざり土を埋土としており，１つは水道管が埋設されていた。Ⅱ・Ⅲ層を埋土とする遺構は確認されなかった。

### ２．Ｂ区の概要

北側はＡ区と同じくⅥｂ～ｃ層まで削平されており，溝状プランが確認された。この溝状プランはさらにＣ区へと続いていたが，水道管の埋設ではなく，浅い溝状遺構であった。ただし，埋土はⅠ層に相当するため，近現代のものである。南側へと地形は下り勾配となっており，Ｃ区に向けてⅢ～Ⅴ層が残存している。Ⅱ・Ⅲ層を埋土とする遺構は確認されなかった。

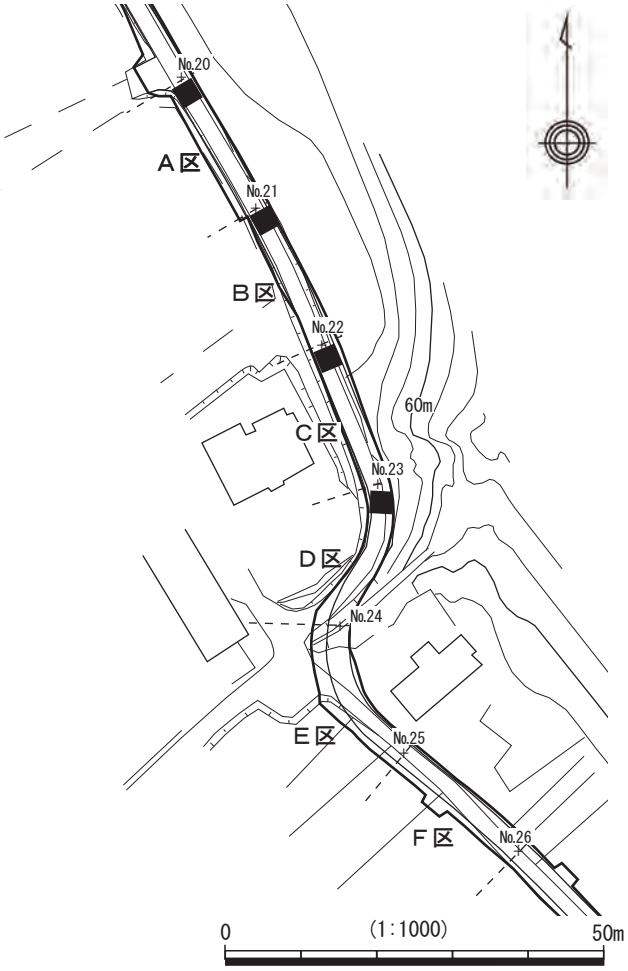
### ３．Ｃ区の概要

Ⅲ層以下が残存している。ただし，東側３分の１は溝状に掘られた痕跡がある。Ⅰ層を埋土としていたので近現代のものである。Ⅱ・Ⅲ層が残存している部分の掘り下げを行ったが，遺構・遺物は確認されなかった。南側に向けてⅡ・Ⅲ層は下り勾配となっており，Ⅱ・Ⅲ層の上層は埋め立てた土が次第に厚く堆積していた。

### ４．Ｄ区の概要

Ｄ区については，生活道路の保全を図るため，調査は№23～№24までとした。この区間は埋め立てた攪乱層が堆積しており，少なくとも工事による掘削の深さまでは攪乱層の範囲に留まる。

Ａ区の工事立会状況写真




第５図　Ａ～Ｄ区の工事立会試掘トレンチの位置図

# 第５章　調査の成果

## 第１節　縄文時代晩期の調査成果

遺構は確認されなかったが，Ⅱ層及びⅢ層から晩期のものと思われる土器片が出土した。

**【縄文時代晩期の土器　第６図：１～６】**

１～３・５・６は小片のため詳細不明であるが，残存形態，胎土，調整から晩期に相当するものと考えられる。１は深鉢の口縁部である。外器面に横方向のミガキがある。２も口縁部である。浅鉢と思われる。胴部から口縁部にかけて大きく外向し，口縁端部は屈曲して上方に立ち上がる。内外器面とも横方向のミガキ調整が施されるが，口縁端部の内器面だけナデによる調整がされている。３も口縁端部が欠けているが，浅鉢の口縁部と考えられる。内外器面ともにミガキ調整がされている。４は入佐式土器の口縁部から胴部である。口縁部と胴部の境目は「く」の字形に屈曲し，内外器面に明瞭な稜が生じる。外器面はミガキ調整，内器面は横方向のケズリ調整が施される。

５と６は小片である。浅鉢胴部の屈曲部として報告するが，６の外器面にある縦の細かい筋は，ハケメ痕にも見える。その場合，弥生時代終末以降の土器の可能性もある。

## 第２節　弥生時代前期の調査成果

遺構は確認されなかったが，Ⅱ層及びⅢ層から弥生時代前期に相当する土器片が出土した。

**【甕形土器　第７図：７～29・第８図：30～49】**

７～37は口縁部である。７から19は口縁端部よりやや下に刻目突帯文を施す。胴部から口縁部に向けて垂直もしくはやや外向して立ち上がるものが多い。17は大きく外向する。

７～９，11・12，14，18は内外器面ともナデ調整で仕上げている。ナデは指，工具などを用いている。10，13，16，17の外器面は横方向のミガキ調整が施される。15，19は内器面に横方向のミガキ調整が施される。18の突帯文下部に３箇所ほどの小さな刺突が見られるが，刻目を施す際についたヘラ工具の痕跡であると思われる。

20～32は口縁端部に刻目突帯文が施される。20・21・30・31は胴部にも刻目突帯文が確認できる。胴部から口縁部に向けて垂直もしくはやや外向して立ち上がるものが多いが，20～23のように胴部から口縁部にかけて内湾あるいは内傾するものもある。

20・21・23・24・26・28の外器面はミガキ調整が施される。28だけは縦方向のミガキ調整である内器面はナデ調整が多い。指や工具を用いる。20の胴部は内器面にもミガキ調整の痕跡を残す。

31には口縁部の刻目突帯文と胴部の刻目突帯文との間に縦の３条の沈線が確認される。胴部の突帯文を附した後に３条の沈線が施され，その後突帯文に刻目を施している。

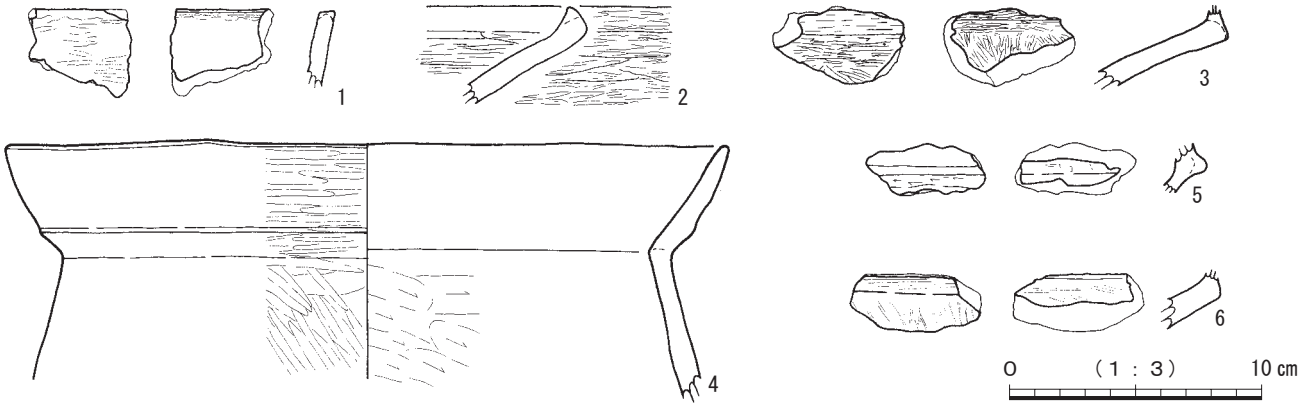
33～35は刻目の無い突帯文を附する。いずれも口縁端部に突帯文がある。33・35は胴部から口縁部に向けて内傾し，外器面には横方向のミガキ調整を施す。

36・37は口唇部の一部が突出する形態を呈する。36の口縁部下には２条の縦方向の突帯文が施され，内外器面ともミガキ調整が施される。

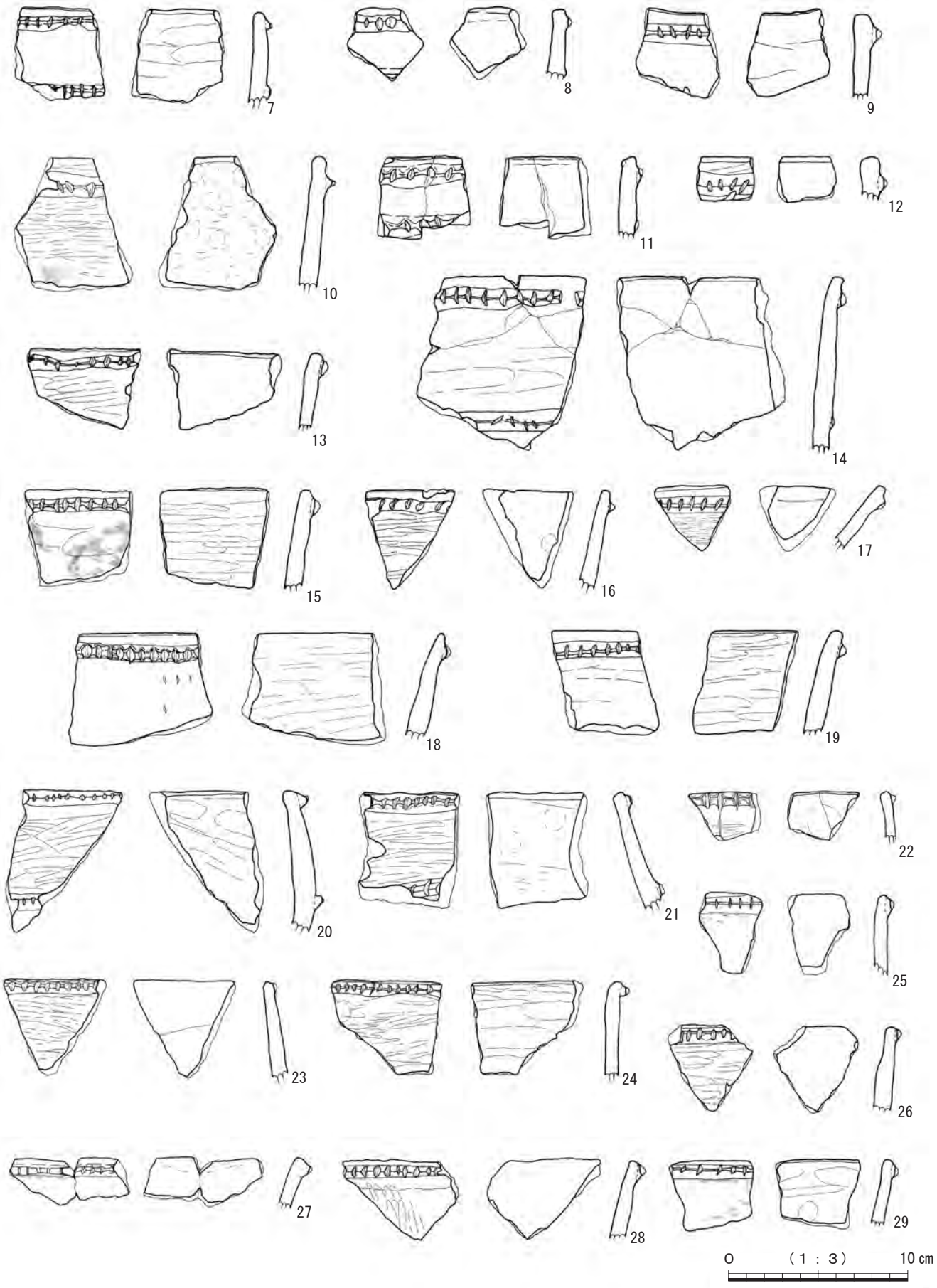
38～44は胴部である。38～40は胴部の刻目突帯文のところで内側に屈曲し，41は胴部から上部に向けて垂直に立ち上がる。38・41の外器面には横方向のミガキ調整が確認される。42は断面台形の突帯が貼り付けられ，突帯の上下を指オサエで調整している。

43は突帯文が「コ」の字形に貼り付けられている。44には縦に貼り付けられている刻目突帯文２条が確認される。１つは横方向の刻目突帯文に接して「Ｔ」字状を呈する。

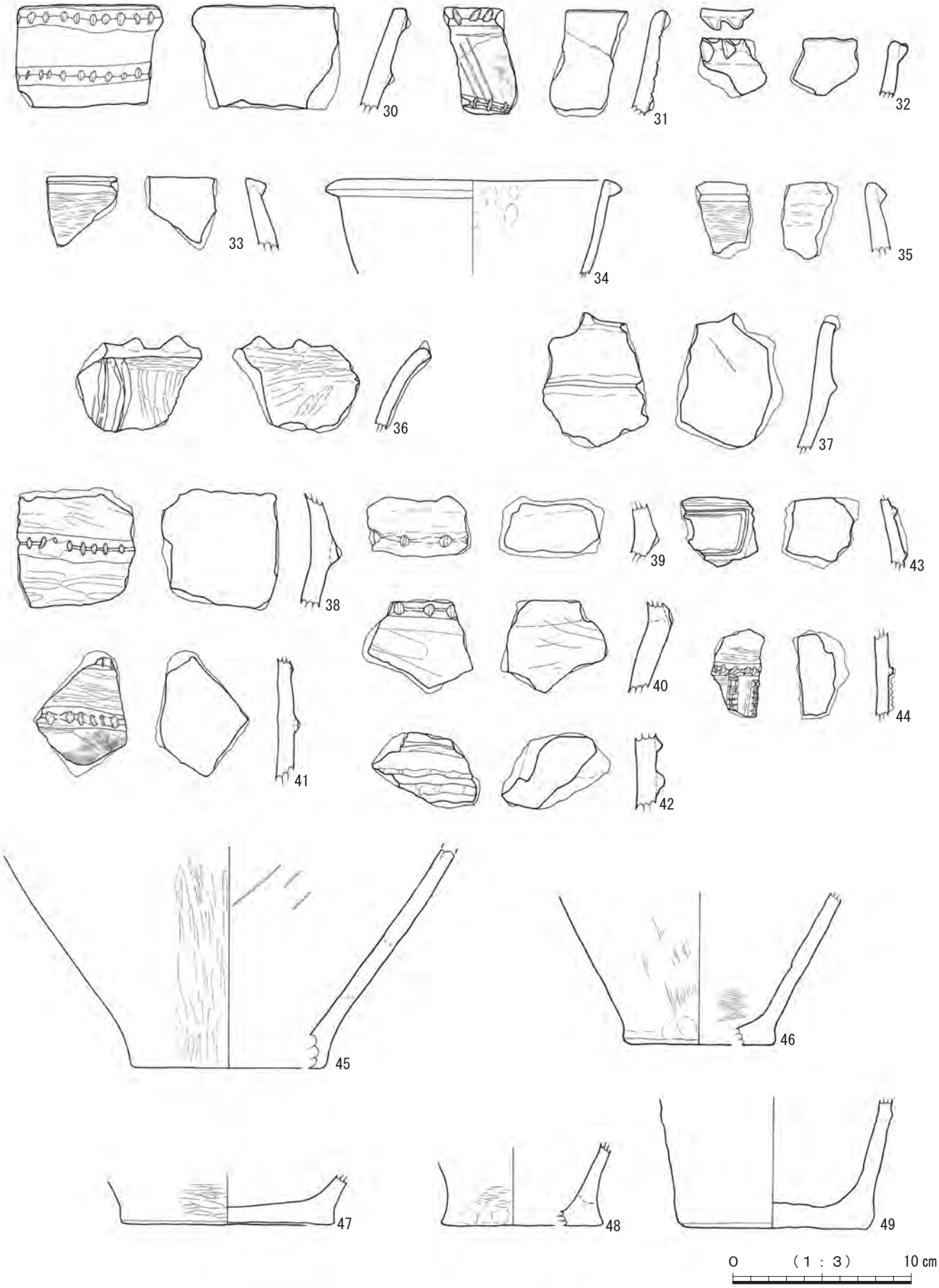
45～49は底部である。47・49は平底である。45・46・47の外器面は，底面から垂直に立ち上がり，底部から胴部へ向けて外側に大きく外向する。45は縦方向のミガキ調整が施される。47は底部に横方向のミガキ調整が施される。48の外器面は底面からわずかに内向し，底部から胴部へ向けて外向する。49は底部から胴部にかけて垂直に立ち上がる。




第６図　縄文時代晩期の土器




第７図　弥生時代前期土器①　甕形土器



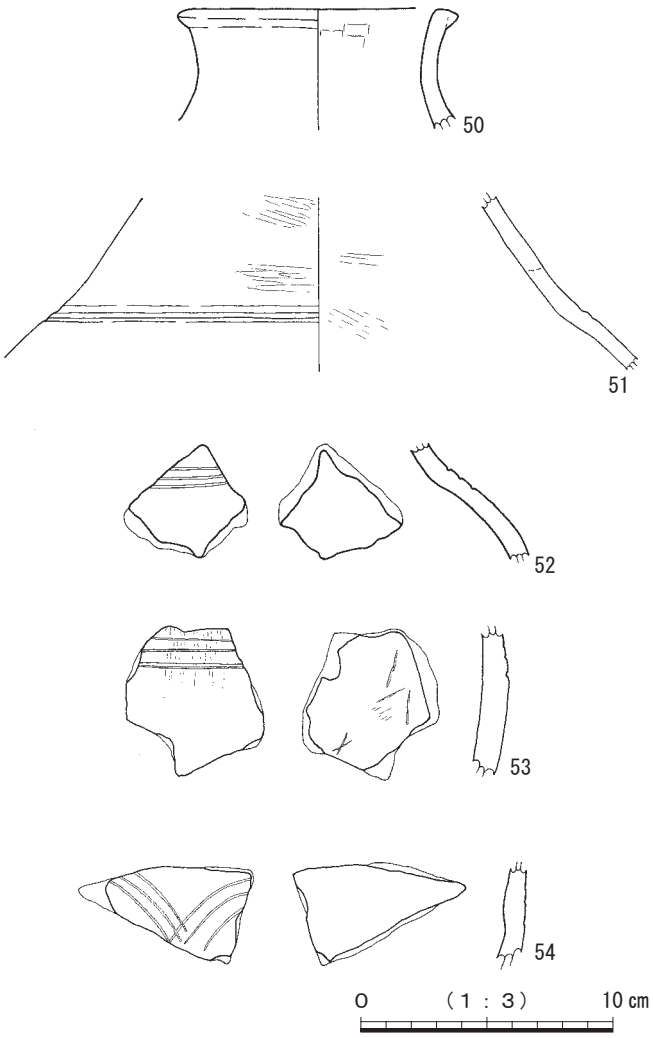

第８図　弥生時代前期土器②　甕形土器

【壺形土器　第９図：50 ～ 54】

50 ～ 54 は壺形土器である。50 は口縁端部に断面三角形の突帯を施す。口縁部から頸部にかけてやや窄まる。内外ナデ調整で仕上げる。

51･52 は肩部である。51 は２条の浅い沈線が施される。外器面の多くはナデ調整であるが，一部ミガキ調整の痕跡を残す。52 は３条の沈線が施されている。内外器面ともナデ調整が施される。

53・54 は胴部である。53 は３条の沈線が施される。最上段の沈線はほぼ刻線状である。８トレンチで出土したものである。内器面は工具ナデの痕跡が見られる。54 は３条の連弧文が施される。施文の刻線を観察すると鋸状の細かい凹凸が確認できる。貝殻施文と考えられるが，弧の内側に細かい凹凸が顕著に見られるため，検討を要する。文様の切りあい関係から，右側の連弧文を施した後に，左側を施文していることが確認できる。




第９図　弥生時代前期土器③　壺形土器

## 第３節　弥生時代中期～後期の調査成果

数量は少ないが，Ⅱ層及びⅢ層からは弥生時代中期から後期に相当する土器片が出土した（第 10 ～ 11 図）。この時期に相当する遺構は確認されなかったが，後に報告する弥生時代終末期に相当する住居跡の出土遺物には型式学的に後期の土器に相当するものも含まれている。

【甕形土器　第 10 図：55 ～ 58】

55 は口縁部である。口縁部形態は断面台形を呈しており，口縁端部は下方に向いている。中期中葉のものと推測する。口縁端部はやや凹んでいる。56 は口縁部下の突帯部分であり，形態から後期の大甕と思われる。

57 は平底の甕形土器の底部で，中期後葉のものと思われる。58 も底部と思われる。底面中央部が凹んでいるが中期段階に時折見られる形態である。

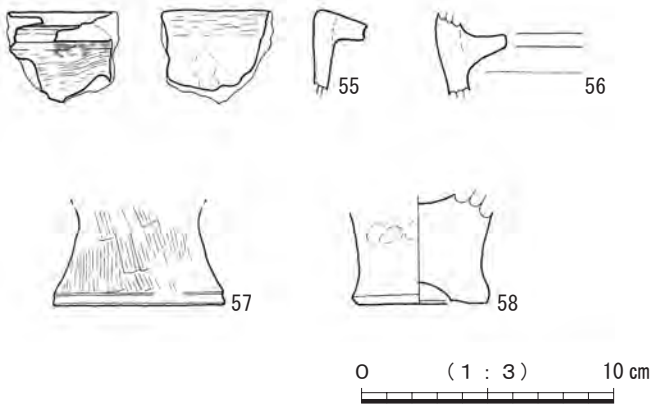
【壺形土器・鉢形土器　第 11 図：59 ～ 65】

59 ～ 63 は壺形土器である。59 は口縁部である。小片のため不確かだが，中期の広口壺の口縁部の可能性がある。口縁部には断面三角形の粘土帯が貼り付けられ，端部の接合部は撫で消さずに残す。60・61 は胴部である。断面三角形の突帯が貼り付けられる。

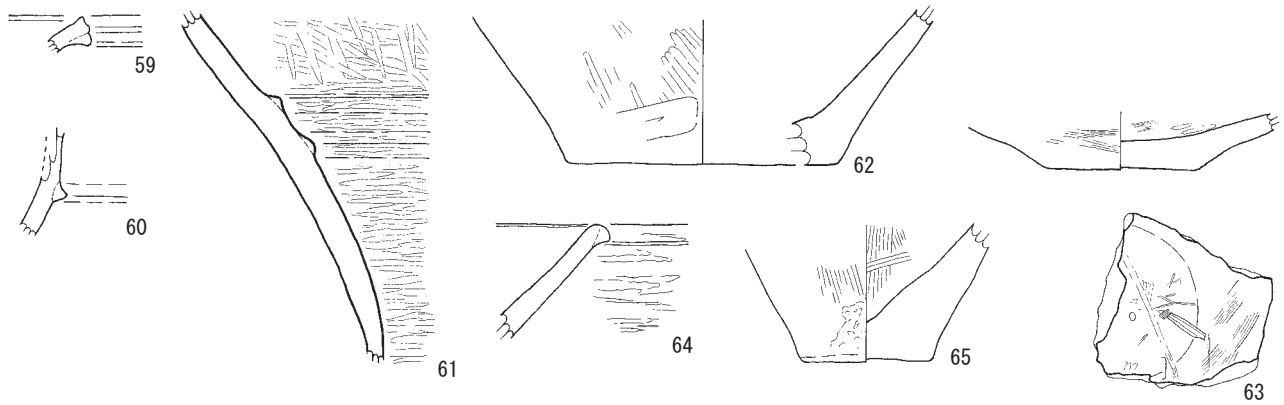
62・63 は壺形土器の底部と思われる。62 は底部をケズリ調整し，その後ハケメ調整を施す。一部ケズリ調整の痕跡を残す。63 はハケメ調整のちナデ調整を施す。底面に工具の痕跡が残る。

64 は口縁部である。この時期の鉢形土器として報告するが，詳細は不明である。口縁端部に粘土帯を貼り付け，肥厚させている。

65 は鉢形土器の底部として報告するが，底部に焼成による劣化が見られるため，甕として使用されていた可能性がある。




第 10 図　弥生時代中期～後期土器①　甕形土器




0　（１：３）　10 cm

第 11 図　弥生時代中期～後期土器②　壺形土器

## 第３表　縄文時代晩期～弥生時代後期　包含層出土土器観察表(1)

| 挿図番号 | 掲載番号 | 取上げNo. | 時代 | 器種 | 部位 | 法量 (cm) | | | | 焼成 | 色調 | | | | 胎土 | | | | | | 器面調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | | 外面 | | 内面 | | 石英 | 長石 | 角閃石 | 雲母 | 輝石 | その他 | 外面 | 内面 | |
| 6 | 1 | G 区Ⅲ層 No. 6627 | 縄晩 | 深鉢 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 黒褐 | 5YR3/1 | にぶい赤褐 | 5YR4/3 | ◎ | ◎ | △ | | | | 横ミガキ | ナデ | |
| 6 | 2 | 住 1 No. 75 | 縄晩 | 浅鉢 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR5/3 | 褐灰 | 10YR4/1 | △ | ◎ | | ○ | | | 指ナデ, 工具ナデ | 指ナデ, 工具ナデ | |
| 6 | 3 | G 区Ⅱ層 No. 1224 | 縄晩 | 浅鉢 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | にぶい黄褐 | 10YR5/3 | ○ | ○ | | ◎ | ○ | | 口唇：横ナデ ケズリ　口縁部下：斜め・横ミガキ | 縦ミガキ, 横ミガキ | |
| 6 | 4 | J 区Ⅱ層No. 6285 J 区Ⅲ層No. 7703,7704,7705 | 縄晩 | 深鉢 | 口縁～胴 | - | 28.6 | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | にぶい褐 | 7.5YR6/3 | △ | ○ | ○ | | | | 口縁：横ミガキ 胴：斜めミガキ | 口縁：ナデ 胴部：右方向ケズリ | |
| 6 | 5 | G 区Ⅱ層 No. 314 | 縄晩 | 浅鉢 | 口縁下 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | ○ | ○ | | | | 白色石 | 上部：横ナデ 下部：左方向ケズリ | ヘラ工具横ナデ | |
| 6 | 6 | J 区一括 | 縄晩 | 浅鉢 | 口縁下 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR7/3 | 橙 | 5YR6/6 | ○ | ○ | ○ | | | 暗赤褐石 | 縦横条痕？ | 横条痕 | |
| 7 | 7 | H 区Ⅱ層 No. 7019 | 弥前 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | 灰黄褐 | 10YR4/2 | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | △ | ○ | ○ | | | | ナデ | 横指ナデ・指オサエ | 刻目突帯文２条 |
| 7 | 8 | 住 2 No. 71 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | にぶい黄褐 | 10YR5/3 | ◎ | ◎ | ○ | | | | ナデ | ナデ | 刻目突帯文 |
| 7 | 9 | H 区Ⅱ層 No. 1870 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 灰褐 | 7.5YR4/2 | にぶい橙 | 7.5YR6/6 | ◎ | ○ | ○ | | | | ナデ | ナデ, 工具によるナデ | 刻目突帯文 |
| 7 | 10 | H 区Ⅲ層 No. 6983 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 10YR4/1 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | ◎ | ◎ | △ | | | | 横ミガキ | ナデのち指オサエ | 刻目突帯文 外面煤付着 |
| 7 | 11 | H 区Ⅲ層 No. 7826 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 明黄褐 | 10YR7/6 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | ◎ | △ | | | | 横指ナデ | ナデ | 刻目突帯文２条 |
| 7 | 12 | H 区Ⅲ層 No. 7010 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | ○ | △ | | | | ナデ | ナデ | 刻目突帯文 |
| 7 | 13 | 一括 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 10YR4/1 | 灰黄褐 | 10YR5/2 | ◎ | ○ | △ | | | | 横ミガキ | ナデ, 一部摩耗が激しい | 刻目突帯文 |
| 7 | 14 | I 区Ⅲ層 No. 7187(5) | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 7.5YR4/1 | にぶい赤褐 | 5YR4/3 | ◎ | ◎ | ○ | | | | 工具ナデ | ナデ, 摩滅により不明 | 刻目突帯文２条 |
| 7 | 15 | G 区Ⅲ層 No. 6543 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 黒褐 | 10YR3/2 | 灰黄褐 | 10YR5/2 | ◎ | ○ | △ | | | | 横ナデ 横ヘラナデ | 横ミガキ | 刻目突帯文 外面煤付着 |
| 7 | 16 | I 区Ⅱ層 No. 2475 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 黒褐 | 7.5YR3/1 | にぶい赤褐 | 5YR4/3 | ○ | ○ | △ | | | | 横ミガキ | ナデのち指オサエ | 刻目突帯文 |
| 7 | 17 | H 区Ⅲ層 No. 6969 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 7.5YR4/1 | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | ○ | ○ | △ | | | | 横ミガキ | 横ナデ, 工具痕あり | 刻目突帯文 |
| 7 | 18 | 8T Ⅲ層No. 188 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄褐 | 10YR5/4 | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | ◎ | ◎ | ◎ | | ○ | | 横ナデ | 横ヘラナデ | 刻目突帯文 |
| 7 | 19 | H 区Ⅲ層 No. 2200 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 黒褐 | 7.5YR3/1 | △ | ○ | △ | | | | 横工具ナデ | 横ヘラミガキ | 刻目突帯文 |
| 7 | 20 | G 区Ⅱ層 No. 151 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 7.5YR4/1 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | △ | △ | | | | 斜めミガキ・ナデ | 斜め指ナデ・ミガキ | 刻目突帯文２条 |
| 7 | 21 | H 区Ⅲ層 No. 7086 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 灰黄褐 | 10YR5/2 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ◎ | ◎ | △ | | ○ | | ミガキ ( 痕跡 ) | 横工具ナデ・指オサエ | 刻目突帯文２条 |
| 7 | 22 | F 区Ⅱ層No. 22 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 10YR4/1 | 灰黄褐 | 10 Y R 6/2 | ◎ | ○ | ○ | | | | 口縁：横ナデ・ミガキ痕あり 胴部：横ミガキ | 横ナデ・指オサエ | 刻目突帯文 |
| 7 | 23 | H 区Ⅲ層 No. 7080 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 灰黄褐 | 10YR5/2 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | ◎ | ◎ | ○ | | | | 横ミガキ痕（光沢無） | ナデ | 刻目突帯文 |
| 7 | 24 | H 区Ⅲ層 No. 6855 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 10YR4/1 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | ○ | △ | | | | | 横ミガキのち指オサエ | 横指ナデ, ミガキ, 工具によるナデ | 刻目突帯文 |
| 7 | 25 | G 区Ⅲ層 No. 6773 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄褐 | 10YR5/3 | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | ○ | △ | | | | | ナデ | ナデ | 刻目突帯文 外面煤付着 |
| 7 | 26 | H 区Ⅲ層 No. 7078 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 黒褐 | 10YR3/2 | にぶい黄褐 | 10YR5/4 | ◎ | ○ | △ | | | | 横ミガキ | ナデ？（摩滅が激しい） | 刻目突帯文 |
| 7 | 27 | G 区Ⅲ層 No. 6593 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/3 | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | ◎ | ○ | ○ | | | | ナデ | ナデ | 刻目突帯文 |
| 7 | 28 | G 区Ⅲ層 No. 6789 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 10YR5/1 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | ○ | ○ | | | | 砂粒 | 縦ミガキのちナデ | ナデ？, （摩耗が激しい） | 刻目突帯文 |
| 7 | 29 | G 区Ⅲ層 No. 6743 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 7.5YR6/6 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | △ | ○ | ○ | | | | ナデ？（摩滅） | 指ナデ | 刻目突帯文 外面煤付着 |

## 第３表　縄文時代晩期～弥生時代後期　包含層出土土器観察表(2)

| 挿図番号 | 掲載番号 | 取上げNo. | 時代 | 器種 | 部位 | 法量(cm) | | | | 焼成 | 色調 | | | | 胎土 | | | | | | 器面調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | | 外面 | | 内面 | | 石英 | 長石 | 角閃石 | 雲母 | 輝石 | その他 | 外面 | 内面 | |
| 8 | 30 | 住２No.15 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | ◎ | ◎ | ○ | | | | ナデ | ナデ | 刻目突帯文２条 |
| 8 | 31 | G区Ⅲ層No.6629 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 黒褐 | 10YR3/2 | 暗褐 | 7.5YR3/4 | ◎ | ○ | △ | | | | ナデのち沈線文 | ナデ | 刻目突帯文２条 外面煤付着 |
| 8 | 32 | H区Ⅲ層No.6075 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ◎ | ○ | | | | | ナデ | ナデ | 刻目突帯文 |
| 8 | 33 | 一括 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | ◎ | ◎ | △ | | | | 口縁：横ナデ 口縁下：横ミガキ | 横ナデ | 突帯文 |
| 8 | 34 | J区Ⅱ層No.4941 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | 14.8 | - | - | 良 | 灰黄褐 | 10YR5/2 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | ○ | △ | | | | 横ナデ，下部：ナデ | 上部：横ナデ 指オサエ，指ナデ | 突帯文 |
| 8 | 35 | H区Ⅲ層No.6907 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | △ | ◎ | △ | | | | 口縁部：ナデ 口縁部下：横ミガキ | 横ミガキ | 突帯文 |
| 8 | 36 | 調査区外一括 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 7.5YR4/1 | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | ○ | ○ | △ | | | | 縦ミガキ | 横ミガキ | 口唇部に２箇所突起・縦突帯文２条 |
| 8 | 37 | G区Ⅲ層No.6769 | 弥前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ◎ | ◎ | ○ | | | 白色軽石 | 上部：横ナデ，下部：ナデ | ナデ | 口唇部に１箇所突起・突帯文 |
| 8 | 38 | H区Ⅲ層No.6847 | 弥前 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 黒褐 | 7.5YR3/1 | 灰褐 | 7.5YR4/2 | ◎ | ◎ | △ | | | | 横ミガキ | ナデ | 刻目突帯文 わずかに外面煤付着 |
| 8 | 39 | H区Ⅱ層No.2013 | 弥前 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 灰黄褐 | 10YR 5/2 | 灰黄褐 | 10YR5/2 | ○ | ○ | ○ | | | | 横方向ナデ | 横方向ナデ（光沢） | 刻目突帯文 |
| 8 | 40 | G区Ⅲ層No.6654 | 弥前 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 褐 | 7.5YR4/3 | 褐 | 7.5YR4/3 | ○ | ○ | | ○ | | | 工具ナデ | 工具ナデ | 刻目突帯文 |
| 8 | 41 | H区Ⅲ層No.7044 | 弥前 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 10YR4/1 | 灰黄褐 | 10YR4/2 | ○ | △ | △ | | | | 横ミガキ | ナデ | 刻目突帯文２条 外面煤付着 |
| 8 | 42 | I区Ⅲ層No.2595 | 弥前 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ◎ | ◎ | | | | | ナデ | ナデ | 突帯文２条 |
| 8 | 43 | H区Ⅱ層No.2000 | 弥前 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | ○ | ○ | | | | 横ナデ | ナデ | 工字突帯文 |
| 8 | 44 | I区Ⅲ層No.4551 | 弥前 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 10YR4/1 | 褐 | 7.5YR4/3 | ◎ | ○ | △ | | | | 上部：ミガキ残す，横ナデ，ナデ | ナデ | 工字刻目突帯文 |
| 8 | 45 | G区Ⅲ層No.6544(2) H区Ⅲ層No.7079,7823(4) | 弥前 | 甕 | 胴～底 | - | - | 10.8 | - | 良 | にぶい橙 | 5YR6/4 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | ○ | ○ | | | | 縦方向の工具痕。ヘラナデ？ミガキ？ | ヘラナデ | 擬口縁 |
| 8 | 46 | H区Ⅱ層No.7040,7061 8T Ⅲ層No.119，他(1) | 弥前 | 甕 | 底 | - | - | 7.8 | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい橙 | 5YR6/4 | ○ | ○ | △ | | | | 縦板ナデ 底部下部：指オサエ | 底面：横板ナデ 胴部：ナデ(使用摩滅) | |
| 8 | 47 | H区Ⅲ層No.6936 | 弥前 | 甕 | 底 | - | - | 11.5 | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | 灰褐 | 7.5YR5/2 | ○ | | ○ | | | | 横ミガキ，ナデ | ナデ | |
| 8 | 48 | H区Ⅱ層No.2173 | 弥前 | 甕 | 底 | - | - | 9.0 | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 灰黄褐 | 10YR5/2 | ◎ | ◎ | △ | | | | 下端：指オサエ 上：横ハケメのちナデ，剥落 | ナデ（剥落による） | |
| 8 | 49 | G区Ⅲ層No.6648,6655 H区Ⅲ層No.6897 | 弥前 | 甕 | 底 | - | - | 10.0 | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | 褐灰 | 5YR4/1 | ○ | ◎ | △ | | | 軽石 | ナデ？（マメツ），ミガキ | 摩滅のため不明 | |
| 9 | 50 | H区Ⅱ層No.1772 | 弥前 | 壺 | 口縁 | - | 10.0 | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | ○ | ○ | | | | ナデ | ナデ | 口縁　突帯文 |
| 9 | 51 | H区Ⅲ層No.7004 | 弥前 | 壺 | 肩 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/3 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | ○ | ○ | | | | 褐色石 褐灰色石 | 一部ミガキ，多くはナデ | 横方向：ハケメのちナデ | ２条の沈線 |
| 9 | 52 | H区Ⅱ層No.2271 | 弥前 | 壺 | 肩 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | ○ | ○ | ○ | | | 赤褐石 | ナデ | ナデ | ３条の沈線 |
| 9 | 53 | 8T Ⅱ層No.162 | 弥前 | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 10YR5/1 | にぶい黄褐 | 10YR6/3 | ◎ | ◎ | | | | 白色軽石 | 縦：ハケメ？ | ヘラナデ | ３条の沈線 |
| 9 | 54 | 8T Ⅲ層No.30 | 弥前 | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | ○ | ○ | | | | | 横ナデ | 横ナデ | ３条の連弧文。貝殻使用？ |
| 10 | 55 | G区Ⅱ層No.335 | 弥中 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ◎ | ◎ | | | ○ | 白色軽石 | 横工具ナデ | 横ナデ | 外面煤付着 |
| 10 | 56 | I区Ⅲ層No.4615 | 弥中後 | 大甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 5YR6/8 | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | ◎ | ◎ | | | | 火山ガラス | 横ナデ | 横ナデ | |
| 10 | 57 | 7T Ⅱ層No.31 | 弥中 | 甕 | 底 | - | - | 6.7 | | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | - | - | ◎ | ◎ | | | | 黒色石 | ハケメ，底面ナデ | - | |
| 10 | 58 | J区Ⅱ層No.4234 | 弥中後 | 甕 | 底 | - | - | 5.5 | | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 灰褐 | 7.5YR6/2 | ○ | ○ | △ | | | | ナデのち指オサエ，ナデ | ナデ | |
| 11 | 59 | I区Ⅲ層No.7750 | 弥後 | 壺 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 明赤褐 | 5YR5/6 | にぶい赤褐 | 5YR5/3 | ○ | ◎ | | △ | | | 横ナデ | 横ナデ | |
| 11 | 60 | G区Ⅱ層No.292 | 弥中後 | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | 赤褐 | 5YR4/6 | ○ | △ | | | | | ナデ | ナデ | 突帯文 |
| 11 | 61 | I区Ⅲ層No.7198,7199,7151,7251(3) | 弥中後 | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | 橙 | 7.5YR6/6 | △ | ○ | △ | | | | 縦・横ミガキ | 摩滅のため不明（剥落） | 突帯文２条 |
| 11 | 62 | H区Ⅲ層No.6992,6996 | 弥中後 | 壺 | 底 | - | - | 10.8 | - | 良 | 灰褐 | 7.5YR5/2 | 灰褐 | 7.5YR5/2 | ○ | ○ | ○ | △ | | | 縦ミガキ，ミガキのち一部横ケズリ | ナデ | |
| 11 | 63 | H区Ⅲ層No.7009 | 弥中後 | 壺 | 底 | - | - | 5.8 | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | 褐灰 | 10YR4/1 | ○ | ○ | | ○ | | | ハケメのちナデ | ハケメのちナデ，指頭圧痕あり | 底面にたくさんの工具痕 |
| 11 | 64 | I区Ⅱ層No.2477 | 弥中後 | 鉢 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 5YR4/1 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | ○ | ○ | ○ | | | | 横ミガキ | 摩滅の為不明 | 口縁　突帯文 |
| 11 | 65 | H区Ⅱ層No.1804 | 弥中後 | 鉢 | 底 | - | - | 5.0 | - | 良 | にぶい橙 | 7.5 Y R 6/4 | 灰黄褐 | 10 Y R 4/2 | ○ | ○ | △ | | | | 縦ハケメ | 縦ハケメ | 底面付近二次焼成による劣化 |

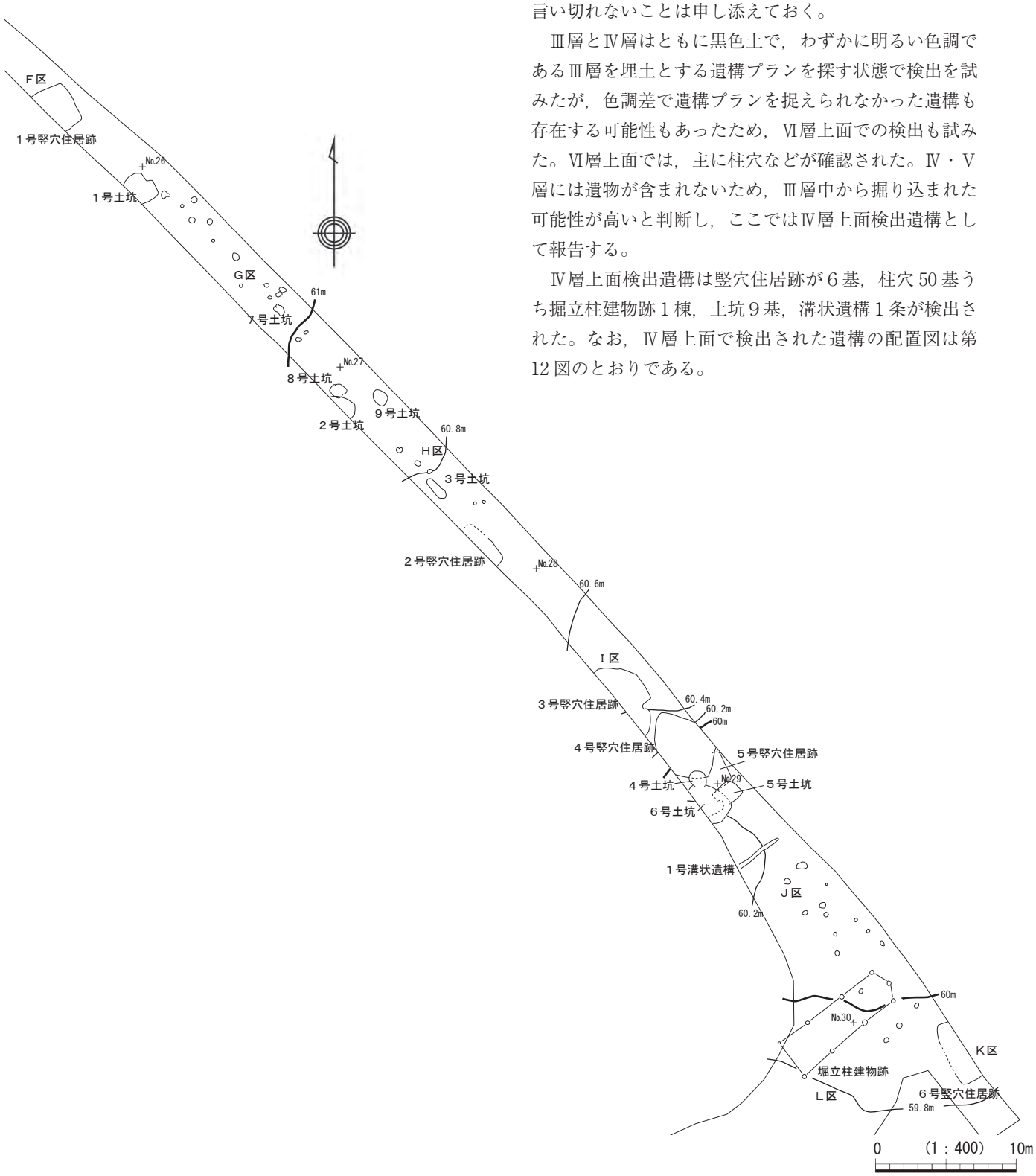
## 第４節　弥生時代終末期～古墳時代の調査成果

### １．遺構

Ⅳ層上面で検出された遺構は，遺構に伴う遺物から概ね弥生時代終末～古墳時代に相当するものと考え，報告する。しかし遺物包含層であるⅢ層中では，先述したとおり縄文時代晩期～弥生時代中後期の遺物も含まれているため，時期を特定する遺物が伴っていない遺構については必ずしも弥生時代終末から古墳時代に相当するとは言い切れないことは申し添えておく。

Ⅲ層とⅣ層はともに黒色土で，わずかに明るい色調であるⅢ層を埋土とする遺構プランを探す状態で検出を試みたが，色調差で遺構プランを捉えられなかった遺構も存在する可能性もあったため，Ⅵ層上面での検出も試みた。Ⅵ層上面では，主に柱穴などが確認された。Ⅳ・Ⅴ層には遺物が含まれないため，Ⅲ層中から掘り込まれた可能性が高いと判断し，ここではⅣ層上面検出遺構として報告する。

Ⅳ層上面検出遺構は竪穴住居跡が６基，柱穴 50 基うち掘立柱建物跡１棟，土坑９基，溝状遺構１条が検出された。なお，Ⅳ層上面で検出された遺構の配置図は第 12 図のとおりである。




第 12 図　弥生時代終末期～古墳時代の遺構配置図

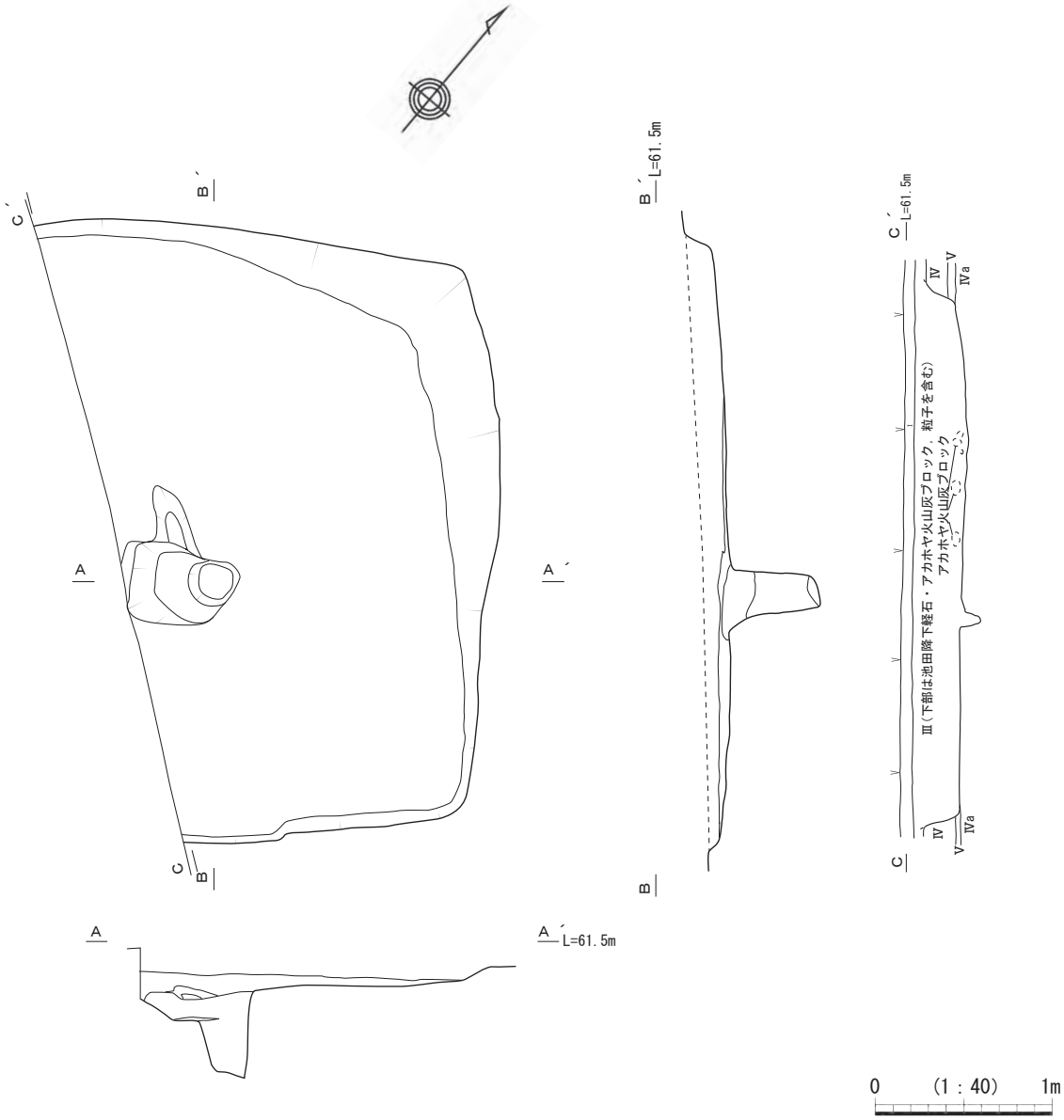
⑴　竪穴住居跡

①１号竪穴住居跡（第 13・14 図）

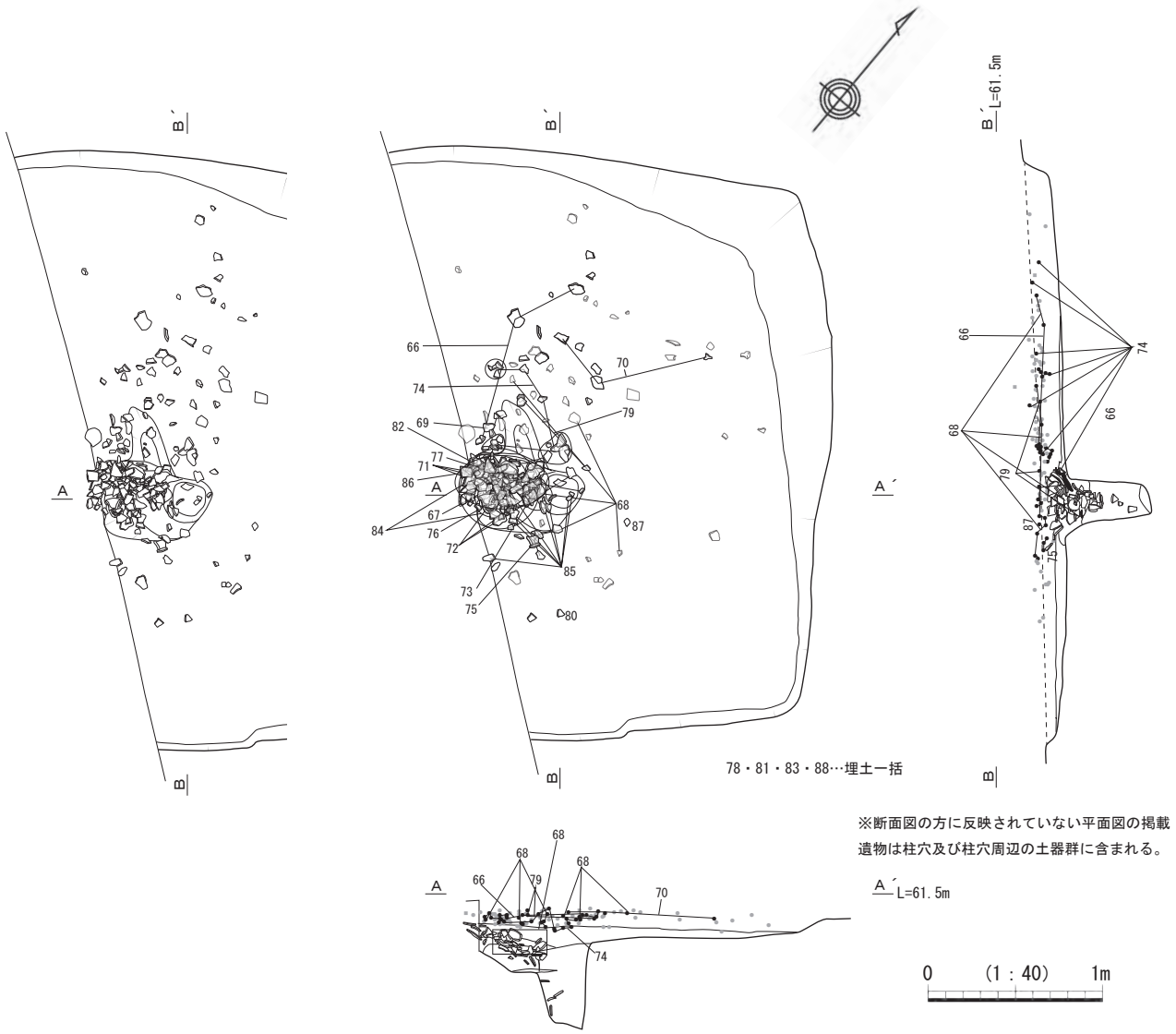
１号竪穴住居跡はＦ区で検出された。検出された箇所は，Ⅳ層上部までⅠ層の攪乱を受けており，結果住居跡の検出ができたのは，ほとんどⅣ層下部またはⅤ層上面である。掘り込み面はⅥ層まで及んでいる。西側調査区壁面の土層断面から，住居跡はⅣ層上面から掘り込まれており，実際の掘り込みは深さ約 40 ～ 50cm と推測される。Ⅲ層を埋土とする。埋土には多くの土器片が散在していた。

住居跡の一部は調査区外にあるため，住居跡の正確な規模は不明であるが，約 3.5 × 3.5 ｍの正方形を呈すると推測される。

上記に述べるとおり，正方形を呈すると仮定した場合この住居跡の中央部分にあたる箇所の床面に，床面からの深さ約 50cm の柱穴が確認された。この柱穴周辺から掘り込みの上層部分は，特に土器が集中的に出土している。床面から上層約５～ 10cm は住居跡の埋土に，アカホヤ火山灰の粒子やブロックが多く含まれている。




第 13 図　１号竪穴住居跡実測図




第 14 図　1 号竪穴住居跡遺物分布図

【1 号竪穴住居跡出土土器①　第 15 図：66 ～ 73】

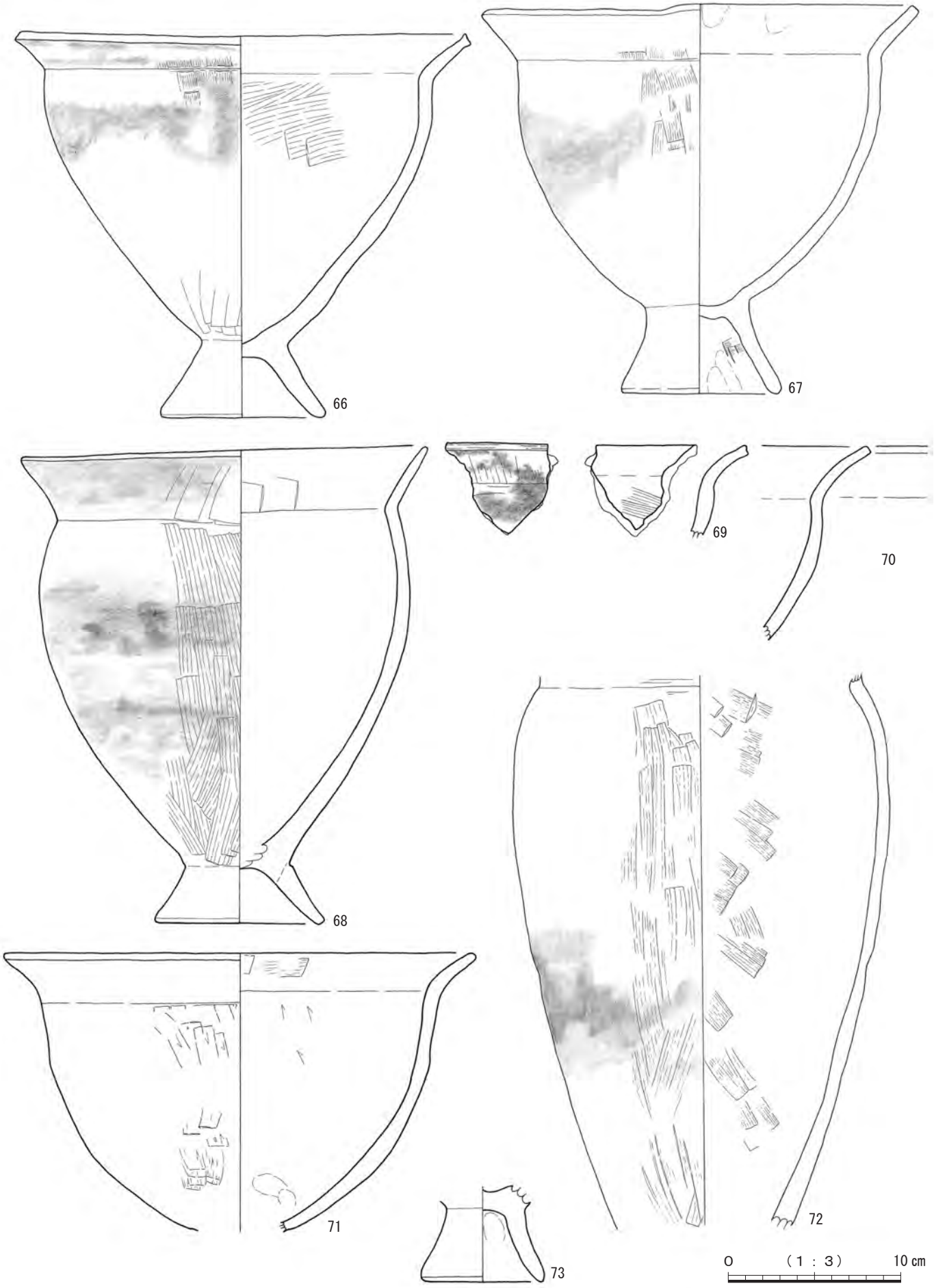
66 ～ 73 は甕形土器である。66 ～ 70 は上胴部で「く」字形に屈曲し，口縁部に向けて大きく外向する。そのため屈曲部分は内外器面とも明瞭な稜線が生じる。屈曲部直下で膨らみを持ち，底部に向けて窄まる。68 は屈曲部直下で外側に胴部が張り出す。いずれも底部は中空脚台である。

66・67 は外器面にハケメ調整後，ナデ調整を施す。口縁部との境目に縦方向のハケメ調整痕が残る。66 の上胴部内器面には横方向のハケメ調整痕が残る。68 の外器面には縦方向の明瞭なハケメ調整痕を残す。屈曲部から口縁部にかけては上方向のハケメ調整のちナデ調整を施す。

66・68 は上胴部に煤が付着する。67 にも胴部にコゲが付着する。

69 ～ 71 は 66 ～ 68 と比較して上胴部から口縁部へ外向する屈曲部が緩やかで断面概形はＳ字形に近いが，やはり口縁部は大きく外向する。68 の底部は中空高台である。69 は内外器面にハケメ調整痕を残し，煤が付着する。70 は内外器面ナデ調整，71 の胴部内外器面はケズリ調整の痕跡が見られる。

72 は甕形土器の胴部である。胴部下半部は使用摩滅しており，摩滅している箇所の最上部はコゲが付着する。内外器面はハケメ調整痕が残る。73 は中空脚台の底部である。



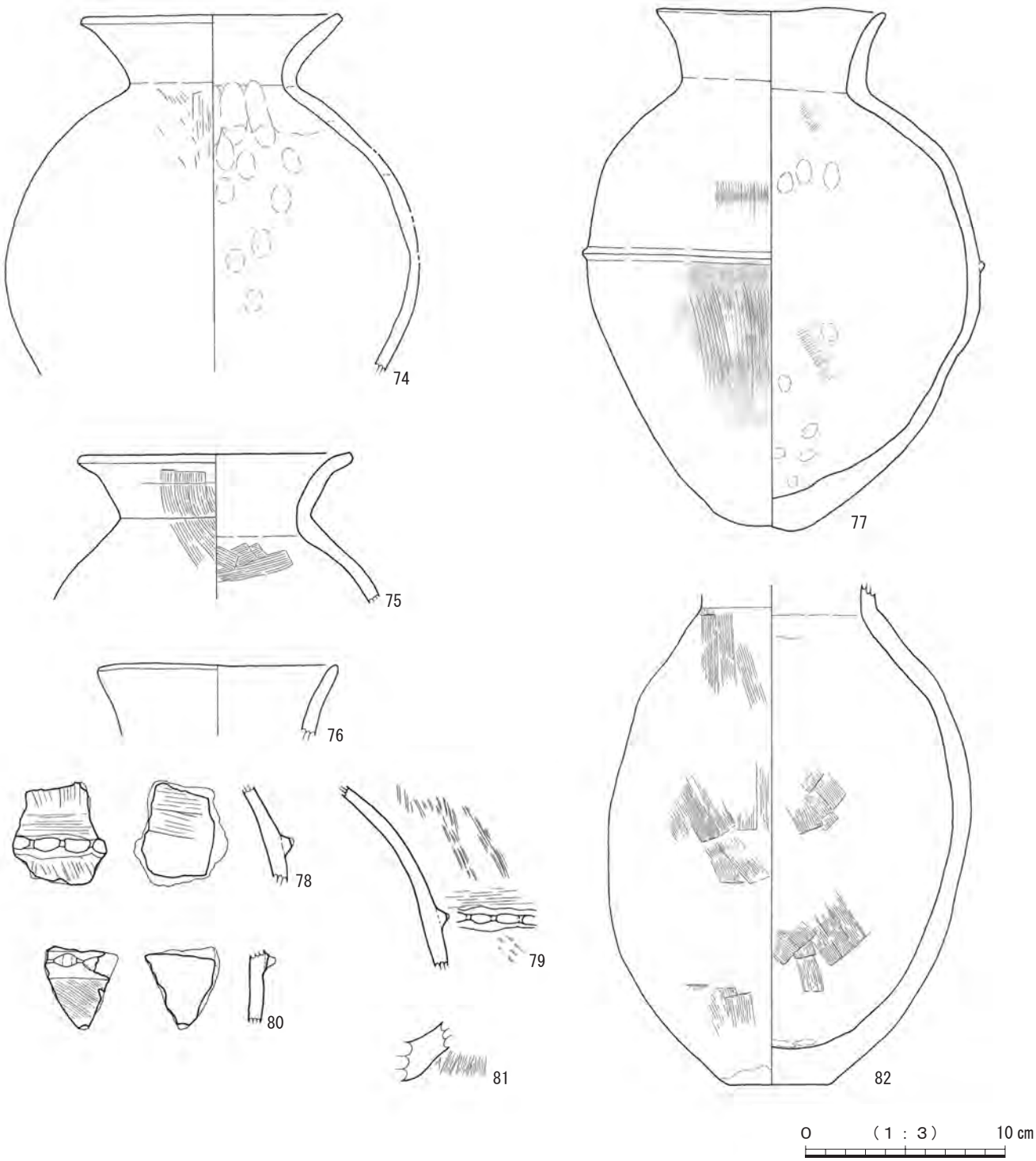

第 15 図　1 号竪穴住居跡出土土器①　甕形土器

【1号竪穴住居跡出土土器②　第16図：74～82】

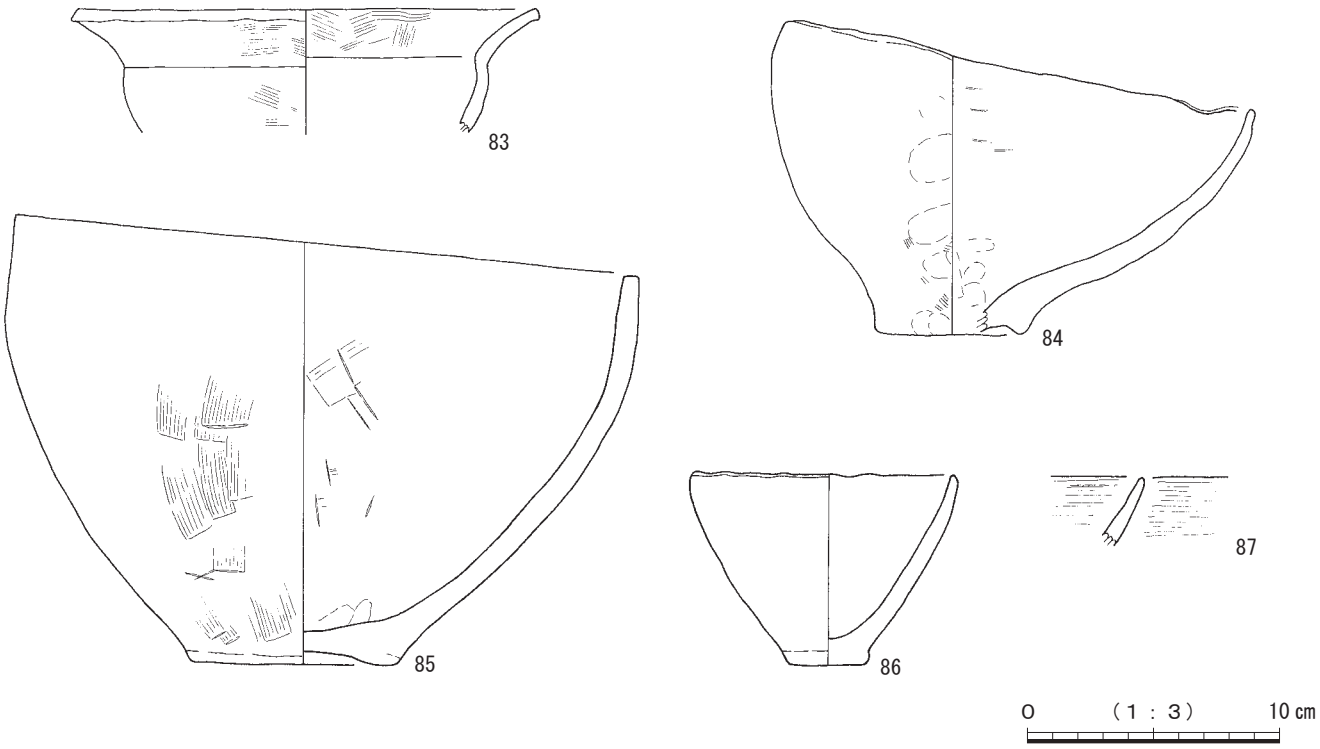
74～82は壺形土器である。74・75は口縁部が大きく外側に広がる形態である。74の胴部は大きく外に張り出す。外器面はナデ調整がされているが，肩部にわずかにハケメを残す。内器面は指頭圧痕が顕著である。75は内外器面にハケメ調整が施される。

76・77は肩部から直線的に立ち上がり，74・75と比較して口縁部への広がりは大きくない。77は口縁端部のところでやや外反する。底は丸底である。77は胴部に1条の突帯文が貼り付けられる。77の外器面特に突帯文から下部にハケメが残る。78～80は胴部で刻目突帯文が附されている。

81は底部である。82は胴部から底部である。底面は平底となっている。胴下半部がやや膨らんだ形態である。内外器面に縦方向のハケメ調整痕が残る。




第16図　1号竪穴住居跡出土土器②　壺形土器




第 17 図　1 号竪穴住居跡出土土器③　鉢形土器

【1 号竪穴住居跡出土土器③　第 17 図：83 ～ 87】

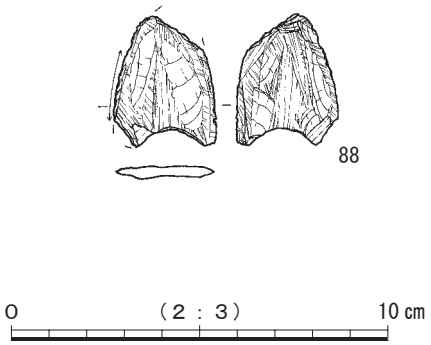
83 ～ 87 は鉢形土器である。83 はやや丸みを持つ胴部の上部で屈曲し，口縁部に向けて外側に大きく広がる。屈曲部に明瞭な稜線が表れる。

84・85 は底部のところで垂直に立ち上がり，胴部へと大きく外へ膨らみ，口縁部のところで内湾して口縁端部が垂直に上を向く形を呈する。底面はやや上げ底となっている。84 は内外器面とも，指ナデ調整がされている。85 は外に内外器面ともヘラまたは板状工具によるナデ調整がされている。

86・87 は 84・85 と比較してあまり内湾せずに立ち上がり，胴部に膨らみを持たない。86 の底部は平底である。

【1 号竪穴住居跡出土石器　第 18 図：88】

88 は頁岩製の磨製石鏃である。先端部は欠損している。表裏面は部分的に節理面が見られる。両端の刃部は鋭く磨いて整形する。矢印部分は使用による微細剥離が確認される。また表裏面の基部から尖頭部にかけては中央部が平面三角形に浅く凹んでいる部分があり，平滑に磨いて整形している。




第 18 図　1 号竪穴住居跡出土石器　磨製石鏃

②２号竪穴住居跡（第 19・20 図）

２号竪穴住居跡はＨ区Ⅳ層上面で検出された遺構である。Ⅴ層上面まで掘り込まれており，掘り込み面までの深さ 30 ～ 40cm に及ぶ。確認調査において８トレンチの調査で確認された遺構である。トレンチ掘り下げの段階では，Ⅲ層とⅣ層の分層が確立されていなかったため，Ⅴ層で検出段階では，すでに壁部分は削平されていた。掘り込み面でもより深く掘り込まれた箇所だけが検出された。トレンチの西側と南側の土層断面でⅣ層上面から掘り込まれた遺構の存在を認めたものである。

本調査では，Ⅳ層上面で８トレンチ南側にⅢ層を埋土とするプランが確認された。プランは方形の一部とみられ，８トレンチで確認された遺構の断面と同一のものと判断できた。８トレンチによって残存する遺構の半分は平面形を失っているが，方形の遺構である可能性が高い。遺構の一部または大部分が西側調査区外に延びているため，遺構の性格は詳らかにできないが，約 3.5 × 3.5 m の方形の住居跡ではないかと推測した。

貼り床と思われる痕跡は確認できなかった。住居の埋土はⅢ層を主体とするが，ところどころにアカホヤ火山灰の粒子が含まれる。

床面には一部不定形な掘り込みがあるが，調査では詳細は分からなかった。

【２号竪穴住居跡出土土器　第 21 図：89 ～ 96】

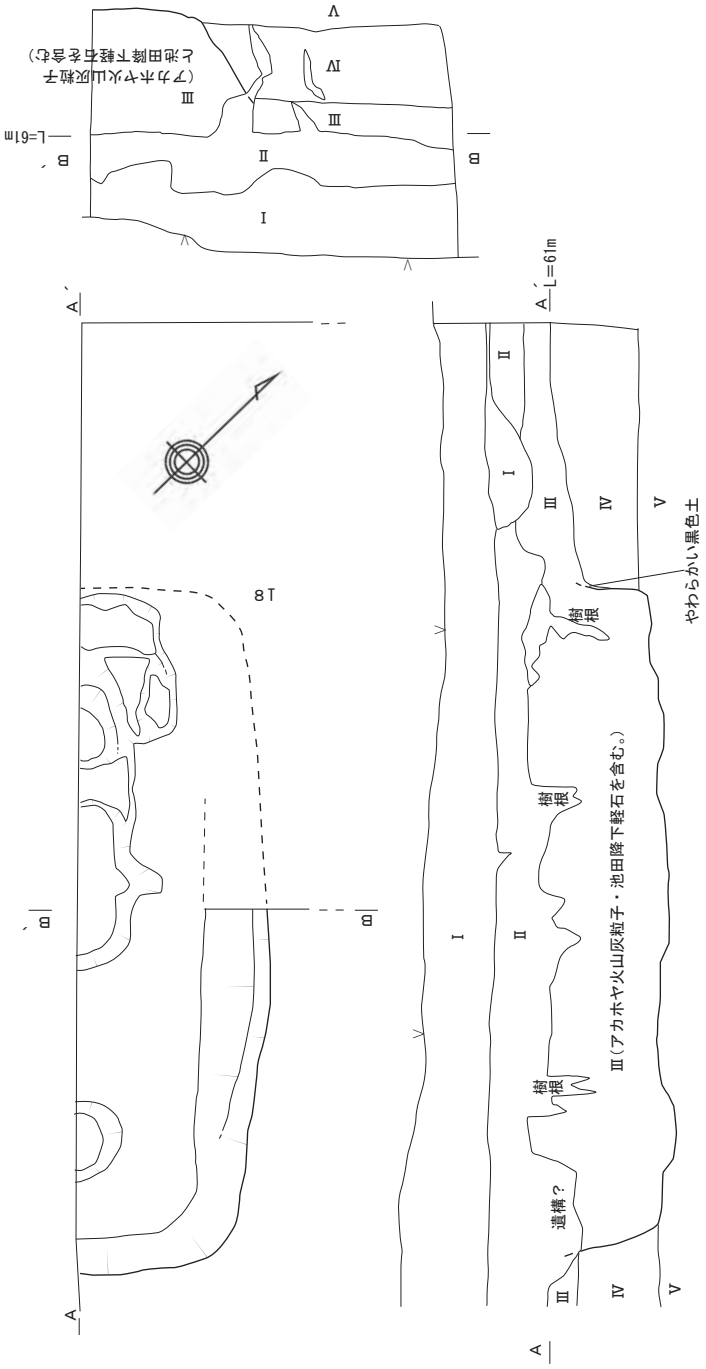
89 ～ 94 は甕形土器である。89 は，口縁端部がやや外反する。口縁部と胴部の境目は「く」字形に屈曲して，くびれ部が生じる。くびれ部には内外器面とも稜が生じる。くびれ部から胴部にかけて外側に膨らみ持たせ，胴部上半部で胴部径が最大となる。やや膨らみを持つ形に仕上げている。内外器面とも板状工具によるナデ調整が施される。口縁部と胴部に煤が顕著に付着している。

90 は胴部と比較して口縁部が短小である。口縁部は直線的に外向する。口縁部と胴部の境目は屈曲してくびれ部が生じ，内外器面とも明瞭な稜が生じる。くびれ部直下で外側に張り出し，屈曲して直線的に底部へと窄まる。内外器面ともナデ調整が施される。外器面はケズリ調整後にナデ消している。口縁部と胴部に煤が付着している。

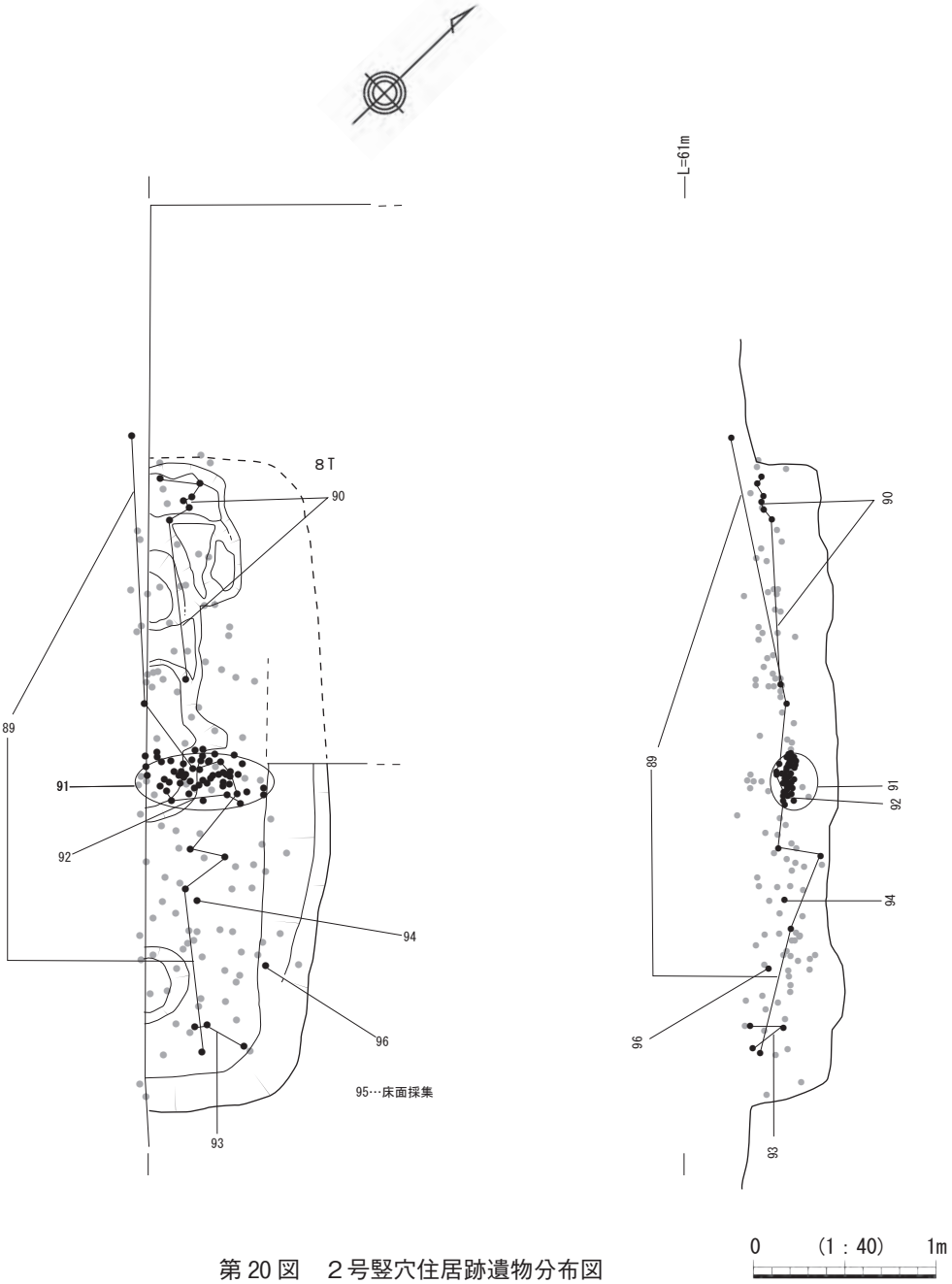
91 は口縁部から上胴部の部位である。口縁部と胴部の境目に屈曲が生じるが，屈曲が緩やかである。内器面は屈曲の稜がはっきりしているが，外器面は明瞭さに欠ける。ハケメ調整後ナデ調整を施している。

92 は 89 の形態と類似しており，胴部上半で膨らみを持たせている。内外器面とも縦方向のハケメを残す。93 も甕形土器の胴部と思われる。胴部はあまり膨らみを持たせず底部へと窄まる。外器面は縦方向のハケメ調整，内器面は斜め方向の板状工具によるナデ調整で仕上げている。94 は中空脚台の底部である。外器面は横ナデ調整後に縦方向のミガキで仕上げていると見られるが，光沢は無い。

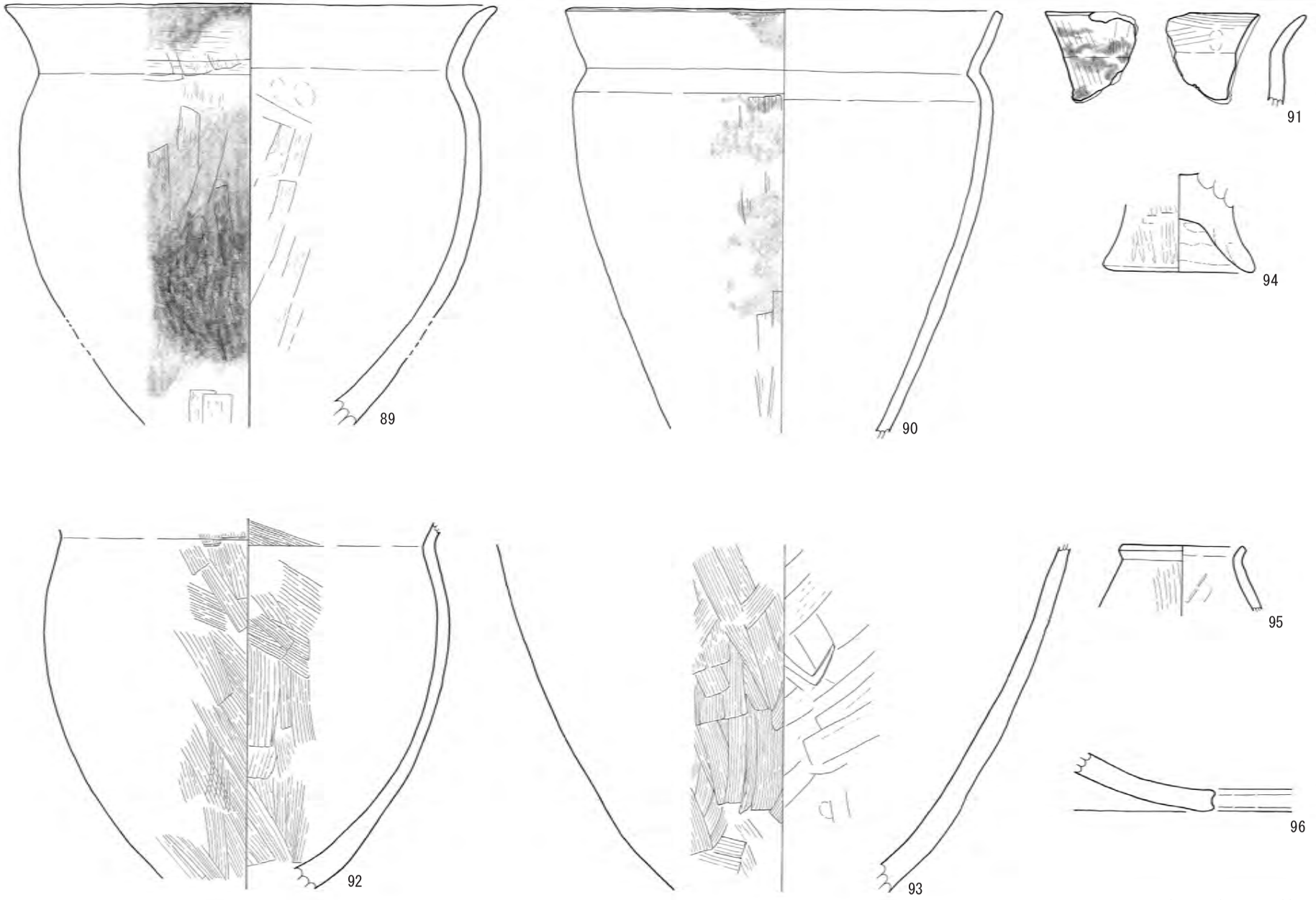
95 は無頸壺である。口縁端部は外反し，口唇部を丸く成形する。外器面は縦方向のハケメ調整が施される。96 は小片のため不明である。確認調査時に８トレンチで出土したものである。蓋ではないかと思われる。端部はナデ調整により，浅く凹んでいる。




第 19 図　２号竪穴住居跡実測図




第 20 図　２号竪穴住居跡遺物分布図




第 21 図　２号竪穴住居跡出土土器　甕形土器・壺形土器・その他

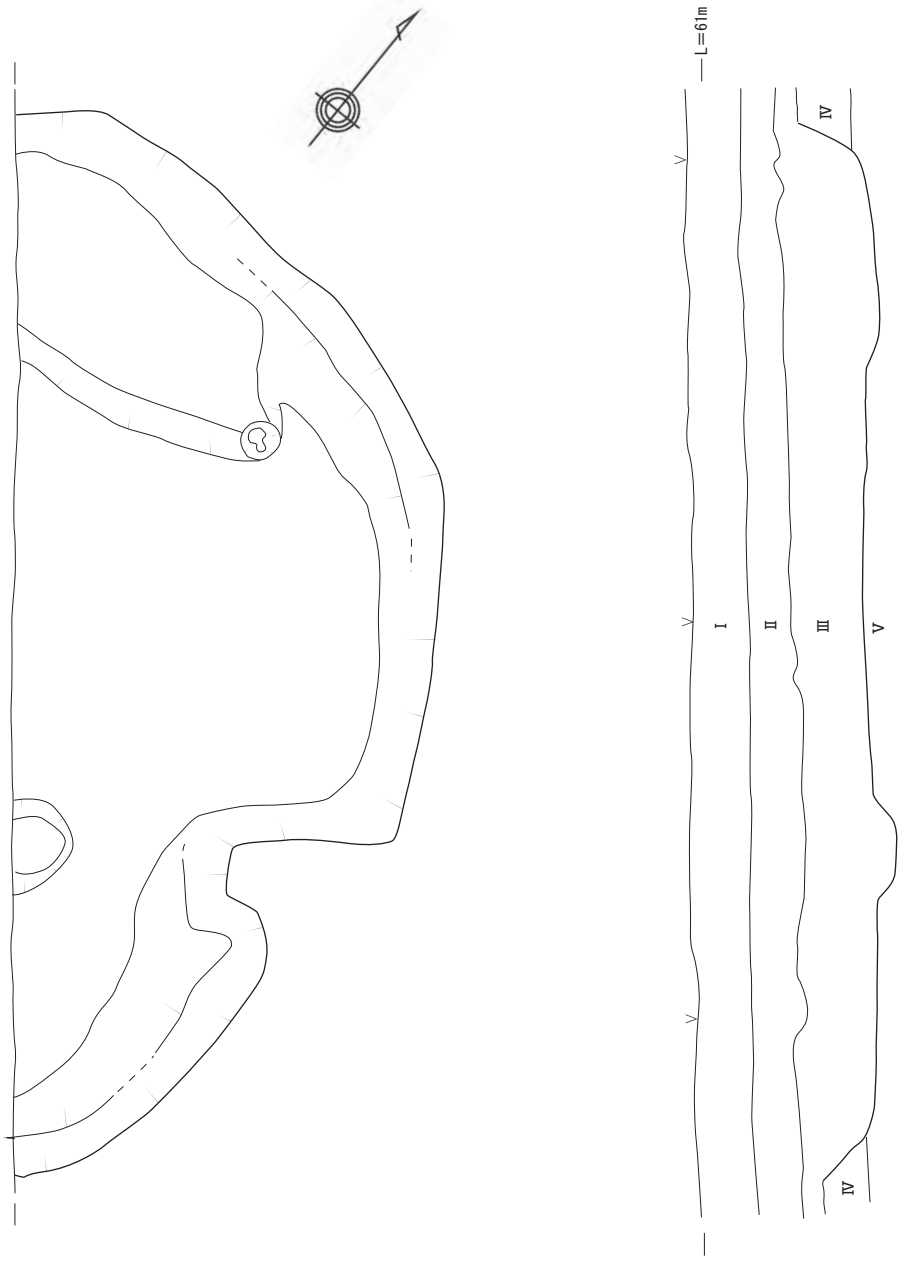
③３号竪穴住居跡（第 22・23 図）

３号住居跡はⅠ区Ⅳ層で検出された遺構である。半分以上は調査区外に存在する。調査区で検出された平面プランから，円形を呈するものと推測される。残存する範囲での径は 5.8 ｍに及び，推定約６ｍの径を測ると思われる。

Ⅴ層を床面とし，深いところはⅥ層まで掘り込まれている。調査区西側壁面土層から，掘り込みの深さは 30 ～ 40cm である。Ⅲ層を埋土とする。

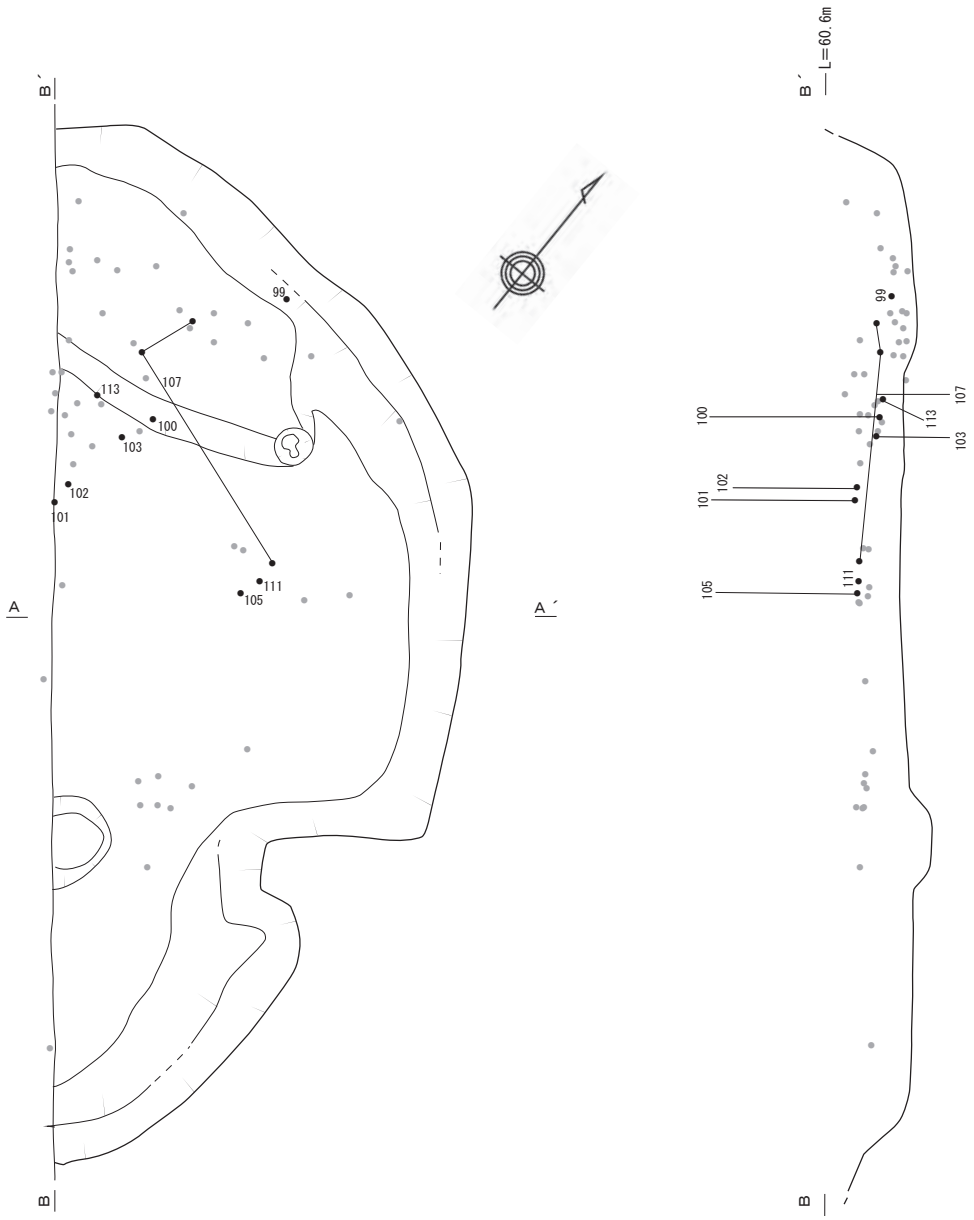
住居の北側は幅約１ｍ，深さ５～ 10cm 程度の浅い掘り込みがある。３号竪穴住居跡内の出土遺物は，埋土上層に集中するが，この浅い掘り込みの部分には，床面まで遺物が出土している。

東面壁面に１箇所間仕切りが設けられている。間仕切りから南側壁面は，住居壁面の立ち上がりが緩やかである。

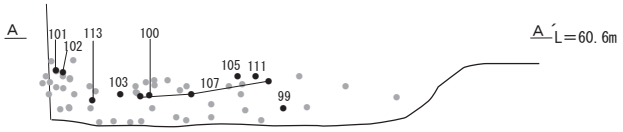



第 22 図　３号竪穴住居跡実測図

0　(1：40)　1m




97・98・104・106・108・110・109・110・112…埋土一括採集




0　(1：40)　1m

第 23 図　３号竪穴住居跡遺物分布図

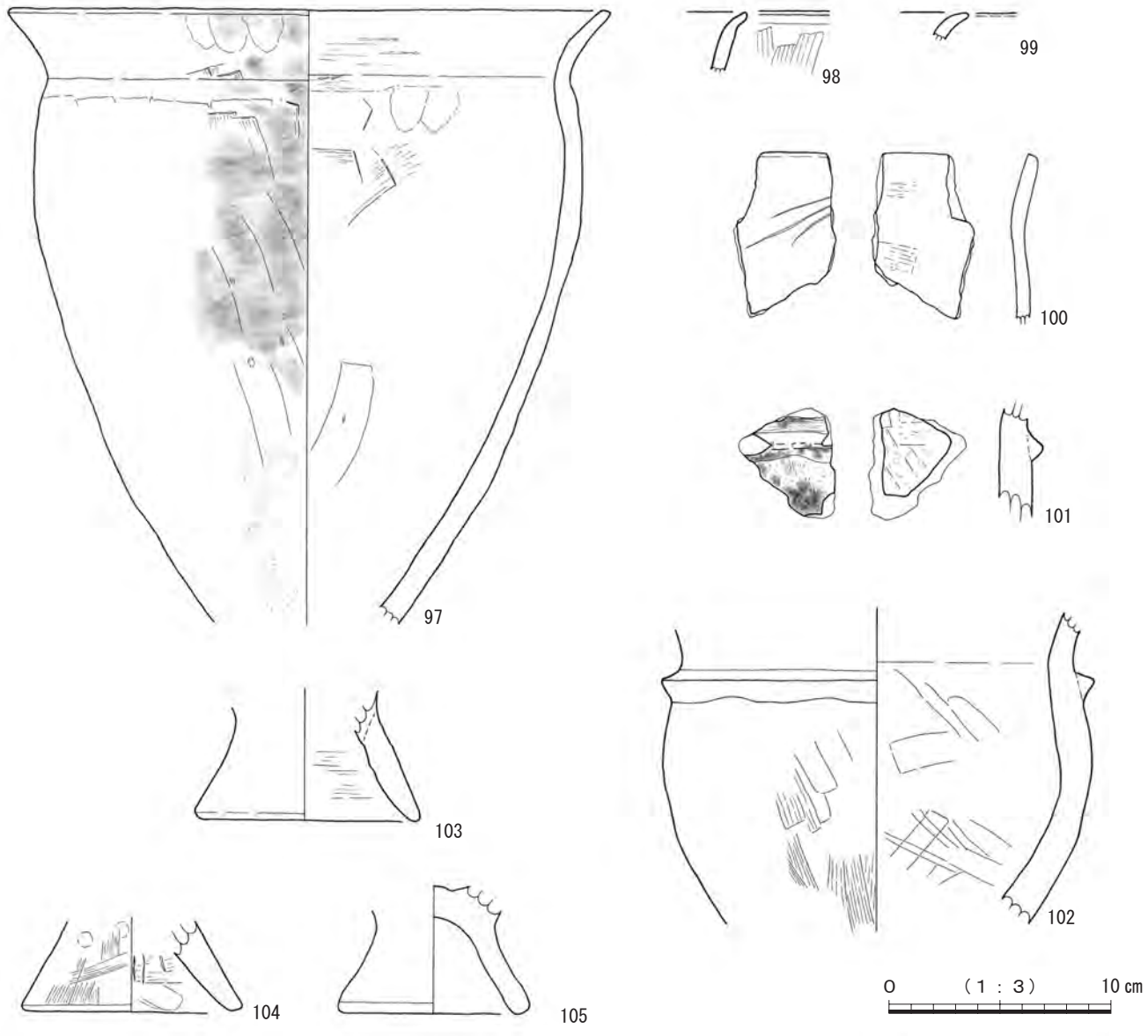
【３号竪穴住居跡出土土器①　第 24 図：97 ～ 105】

97 ～ 105 は甕形土器である。97 は胴部と比較して口縁部が短小である。口縁部は大きく外傾する。口縁部と胴部の境目はＳ字形に屈曲してくびれており，内外器面とも稜が生じる。くびれ部直下で外側にやや張り出し，上胴部に膨らみを持たせる。胴部からはあまり膨らみを持たせず底部へと窄まる。内外器面は縦方向のヘラまたは板によるナデ調整が施される。口縁部と胴部に煤が付着している。98・99 は，口縁部である。端部がやや外反する。小片であるため甕形土器以外の器種の可能性もあるが，２号竪穴住居跡出土の 89 の甕形土器の口縁部に類似するため，甕形土器に分類した。98 の外器面に縦方向のハケメを施す。

100 は口縁部から胴部にあたる。胴部はほぼ直立し，口縁部はやや外向して立ち上がる。口縁部外器面には３条の刻線が記される。

101・102 は甕形土器の胴部と思われる。101 は断面三角形の突帯文が付く。外器面に煤が付着する。102 は口縁部が欠損している。上胴部に断面三角形の突帯文を貼り付ける。断面概形はＳ字形で，突帯文の直上でくびれ，口縁部との境をなす。上胴部で外側に膨らみ，底部へと窄まる。外器面に縦方向のハケメ調整痕が残る。内器面は工具によるナデ調整を施す。

103 ～ 105 は中空脚台の底部である。いずれもあまり外反せず，直線的に裾へと広がる。105 の高台天井部は丸く整形される。104 の外器面には縦方向のハケメ調整痕が残る。




第 24 図　３号竪穴住居跡出土土器①　甕形土器

【３号住居跡出土土器②　第 25 図：106 ～ 113】

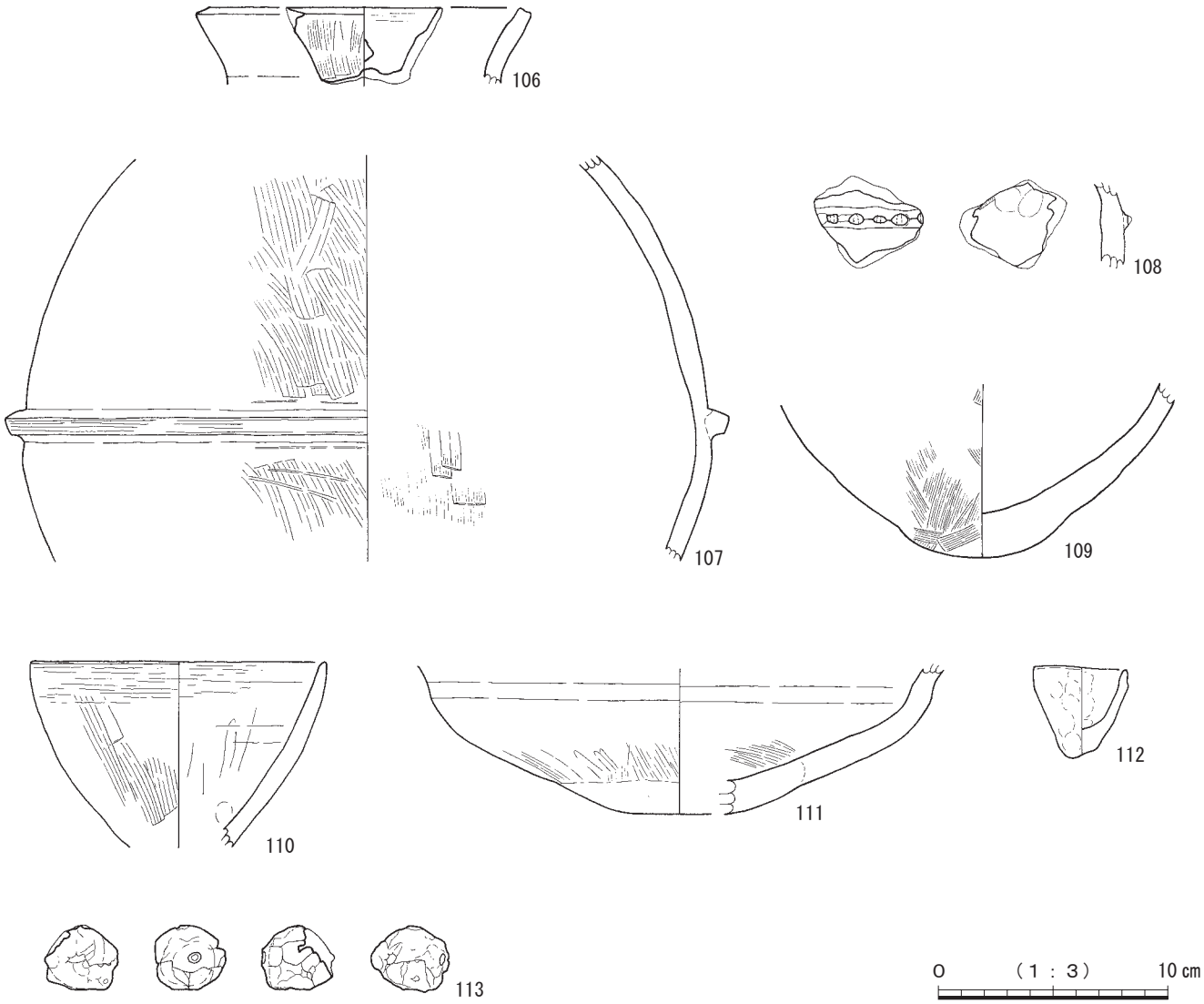
106 ～ 109 は壺形土器である。106 は口縁部である。外器面は縦方向のハケメ調整が施される。107 は胴部である。球形に膨らんだ胴部の最大径の箇所に「コ」字形の突帯文が貼り付けられる。外器面には縦方向のハケメ調整痕が顕著に残る。

108 も壺形土器の胴部の一部と思われる。刻目突帯文が貼り付けられる。内器面には指頭圧痕が残る。109 は底部である。底面は器厚が肥厚する。外器面はハケメ調整痕が顕著である。

110・111 は鉢形土器である。110 は椀形を呈する。胴部は縦方向のハケメ，口縁部は横ナデで調整している。111 は口縁部が欠損している。口縁部と胴部との境目でＳ字形に屈曲する。浅い鉢形土器である。胴下部で粘土の継ぎ目が確認できる。また，粘土継ぎ目から上側にのみ縦方向のミガキ調整痕が確認される。

112 は鉢形のミニチュア土器である。内外器面とも指頭圧痕が顕著に残る。

113 は土製品と思われるが不明である。粘土を半乾燥状態で丸めたような形である。１箇所焼成前に刺突した穴が確認できる。




第 25 図　３号竪穴住居跡出土土器②　壺形土器・鉢形土器・ミニチュア土器・土製品

④４号竪穴住居跡（第 27・28 図）

４号，５号竪穴住居跡，４～６号土坑はＩ・Ｊ区にかけて切り合った状態で検出された遺構群である（第 26 図）。４号竪穴住居跡と４～６号土坑はⅣ層上面で検出され，Ⅲ層を埋土としている。埋土に黄色の火山灰粒子が多く含まれるため，プランが明瞭に表れていた。ただし，５号竪穴住居跡はⅣ層上面で検出されず，４号竪穴住居跡の調査中に発見され，Ⅴ層上面で検出した。

４号竪穴住居跡は4.4 × 4.1 mの方形を呈する。ただし，住居の北東と南西のコーナーは調査区域外に延びる。調査区西側壁面の土層観察から，Ⅲ層中から掘り込まれており，掘り込みの深さは約 30cm である。

住居跡の西側半分はⅤ層上面まで掘り込まれており，床面としている。東側床面はⅥ層上面まで掘り込んでおり，住居跡中央部掘り込み面は不定形な凹凸を呈する。東側床面は掘り込み面上は厚さ約５～ 10cm 程度アカホヤ火山灰を含む黒色土が堆積しており，西側床面との高さを平坦に整えていると思われる。

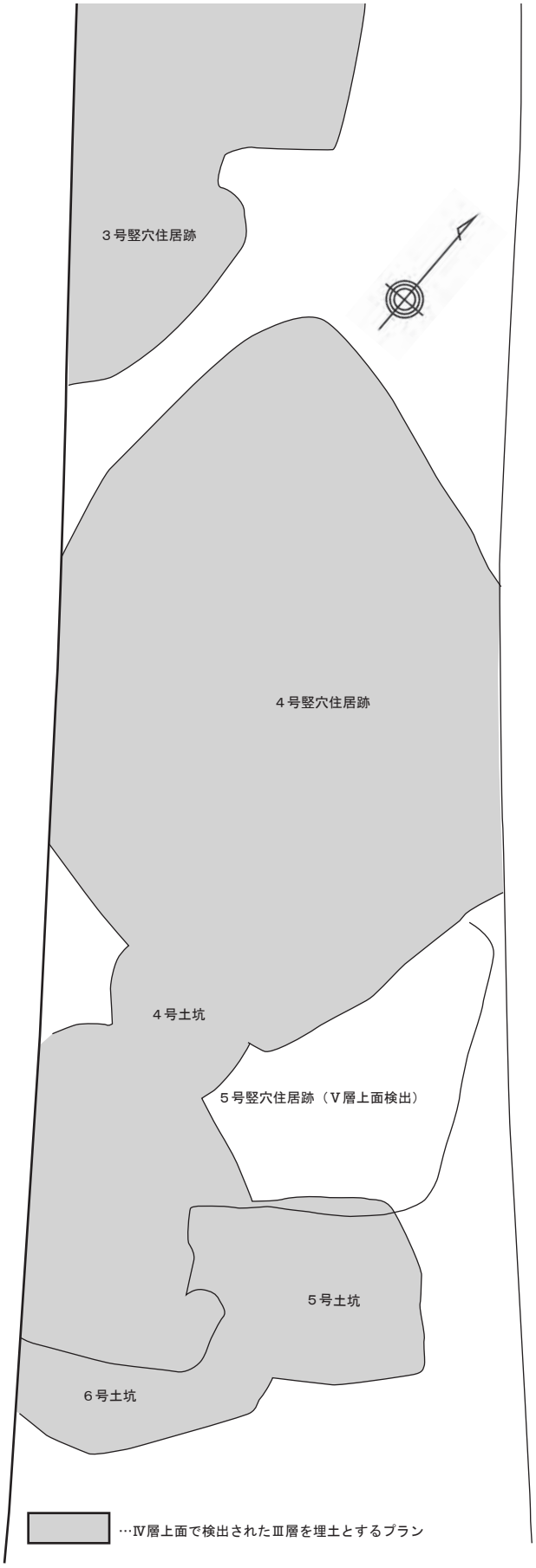
住居跡の南壁面際の掘り込み面で，長軸約 50cm，短軸約 30cm の楕円形のプランを検出し，掘り下げたところ，楕円形プランの中に径約 20cm，深さ約 50cm の柱穴（SP1）が確認された。ただし，この柱穴は後に報告する５号竪穴住居跡の範囲にも含まれる可能性がある。また，北壁面際の掘り込み面で，径約 30cm の円形プランを確認した。このプランの掘り込みは円柱状を呈するが，南壁面の柱穴と比較して浅く，深さは 15cm 程度である。これを柱穴とすべきか検討の余地があるが，ここでは SP2 と表現する。

SP1 と SP2 を結ぶ直線上にも径約 30cm の円形プランが検出された。この円形プランは SP2 寄りに配置されている。掘り込みの深さは約 25cm である。やや底面は径 20cm で検出面より窄まるが，円柱状を呈する。これを柱穴とすべきか検討の余地があるが，ここでは SP3 と表現する。

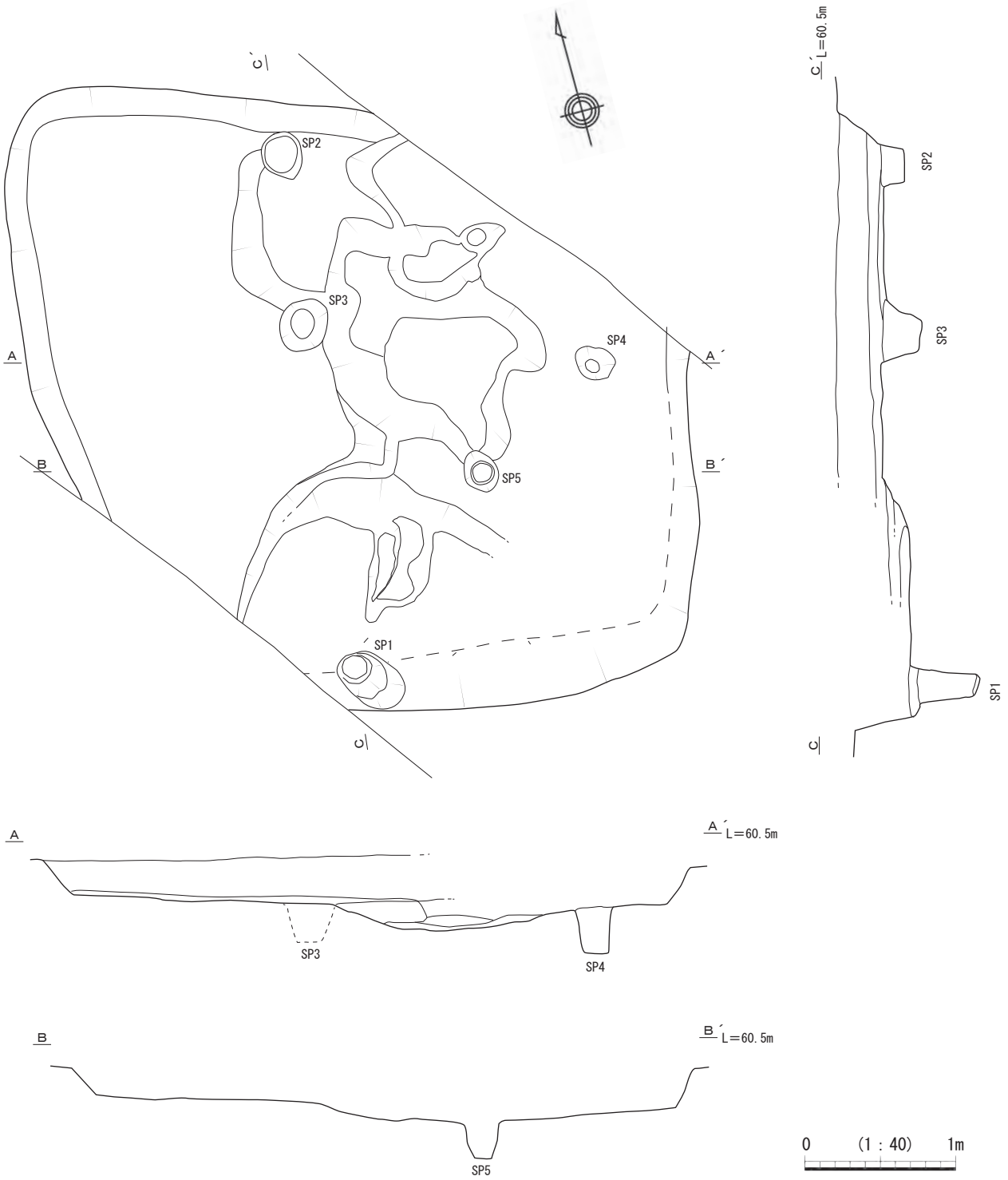
また，東壁面近くの掘り込み面に径約 20cm，深さ 30cm の柱穴が確認された（SP4）。この遺構の底面から 10cm 核の石が出土した。

その他，住居中心部から南東側に径約 20cm，深さ約 25cm の柱穴（SP5）が確認された。

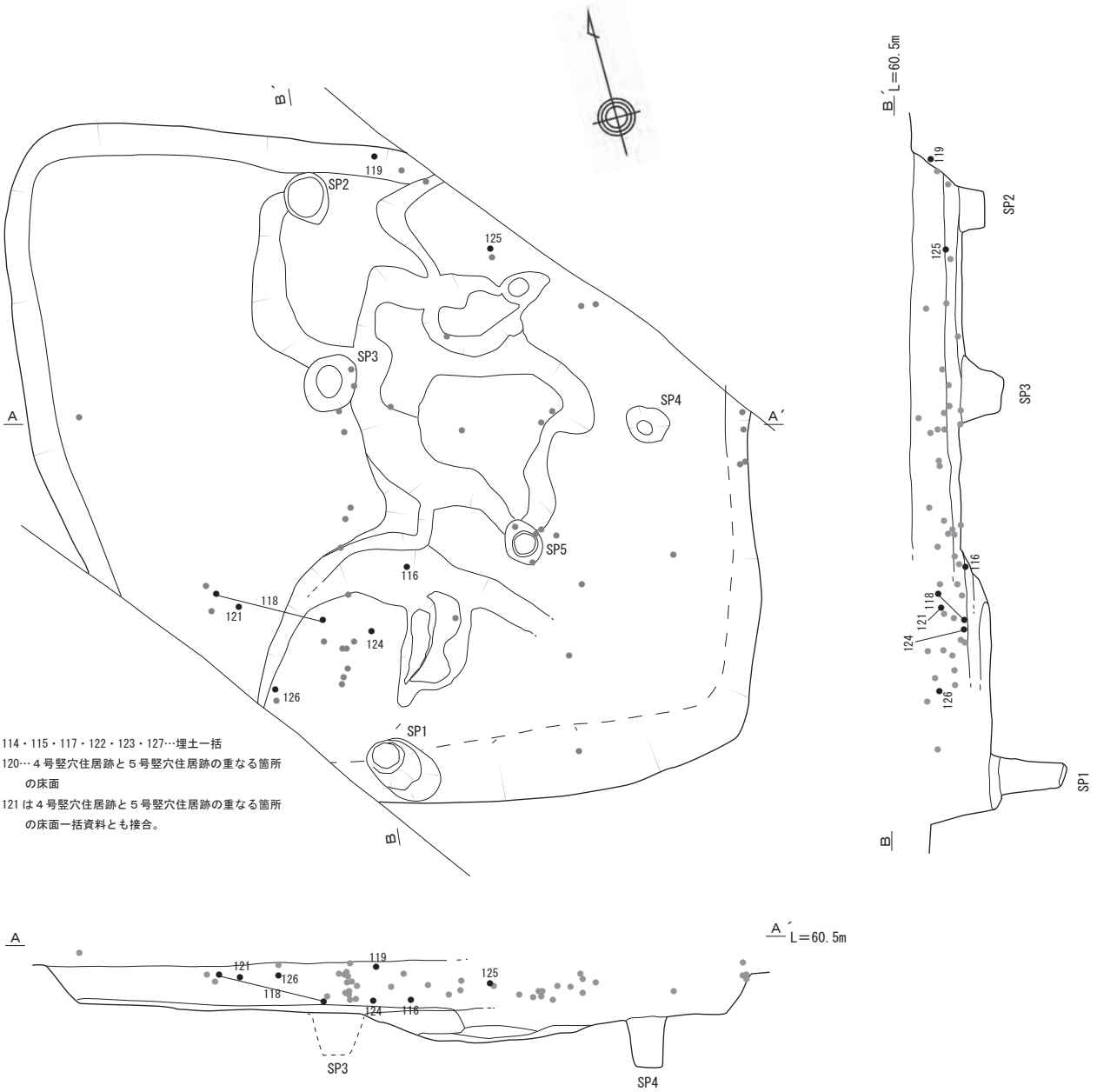
住居東南壁は５号竪穴住居跡及び４号土坑と切り合っている。




第 26 図　Ｉ・Ｊ区遺構群の検出状況図　0　(1：50)　1m




第 27 図　4 号竪穴住居跡実測図




0 (1：40) 1m

第28図　４号竪穴住居跡遺物分布図

【４号竪穴住居跡出土土器　第29図：114～123】

114・115は甕形土器である。114の口縁部は大きく開き，胴部との境目で窄まる。口縁部と胴部の境目は屈曲してくびれており，内外器面とも稜が生じる。115は胴下部の高台取付け部分にあたる。外器面はハケメ調整が施される。

116は壺形土器の底部と思われる。底面がやや上げ底となっている。外器面は指頭圧痕が残る。

117～120は高坏である。117は口縁部が大きく外反し，口縁部以下は緩やかなＳ字曲線を描きながら窄まる。口縁部と坏部の境目にある屈曲部は肥厚しており，外器面の口縁部の粘土接合部はナデ消さずに残されている。内外ともに横方向のミガキ調整を施す。

118は脚部から大きく直線的に外向する擬口縁を整形し，その口唇部に口縁部を接合している。口縁部と胴部の境目にあたる外器面には突帯文があるが，口縁部の取り付けに伴い，生じた可能性もある。胴部外器面はハケメが幾重にも重なったような調整痕がある。内器面は胴部が横方向のミガキ，口縁部が横方向のハケメ調整となっている。口縁部内器面に「コゲ」が確認できる。後に蓋として転用している可能性がある。

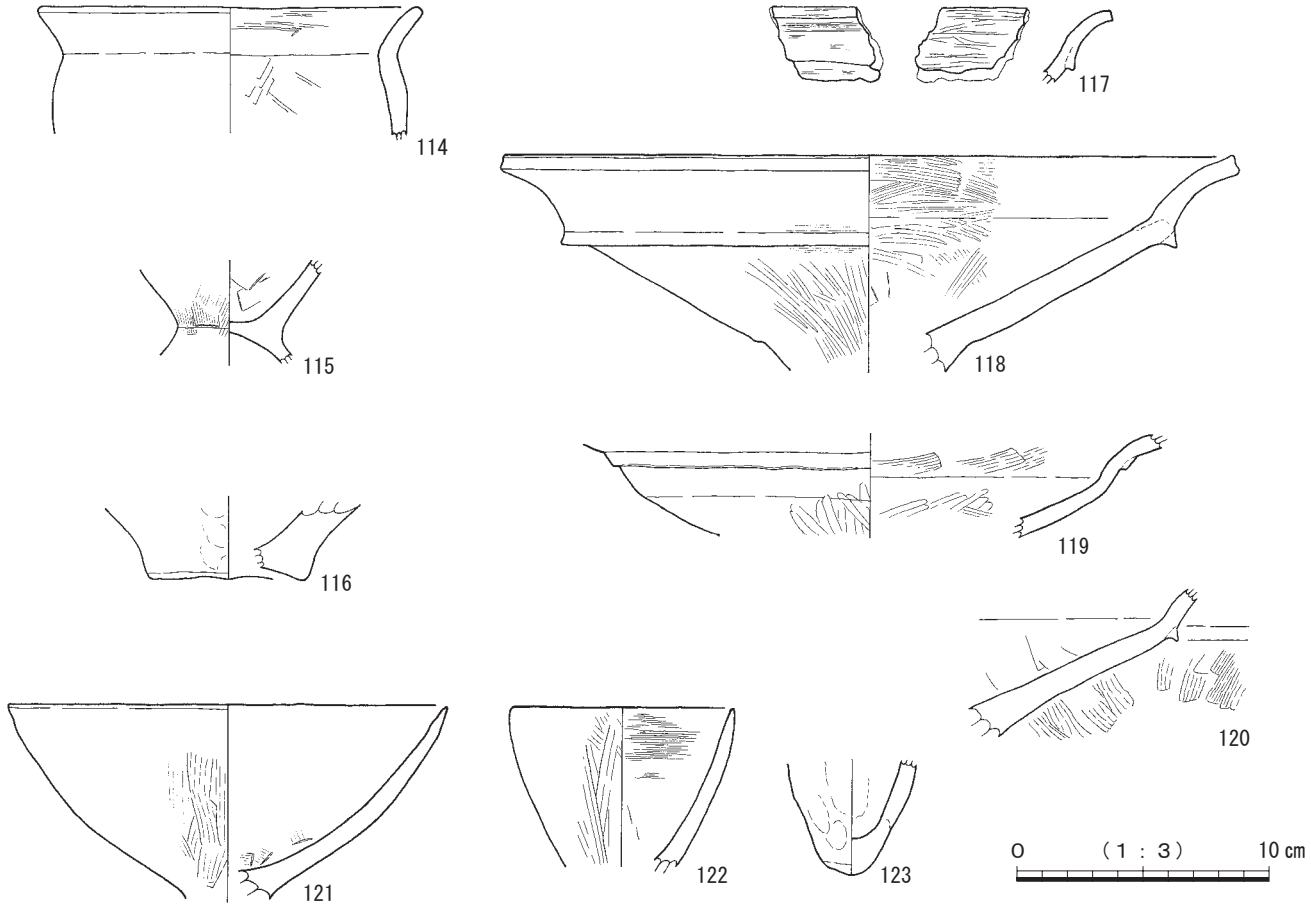
119も120と類似する形態である。119の場合は口縁部直下に粘土帯を貼付けている。内外坏部は縦方向のミガキ調整を施す。口縁部はナデ調整となっているが，内器面はハケメを残す。

120も口縁部は欠損しているが，118と同じような形態である。

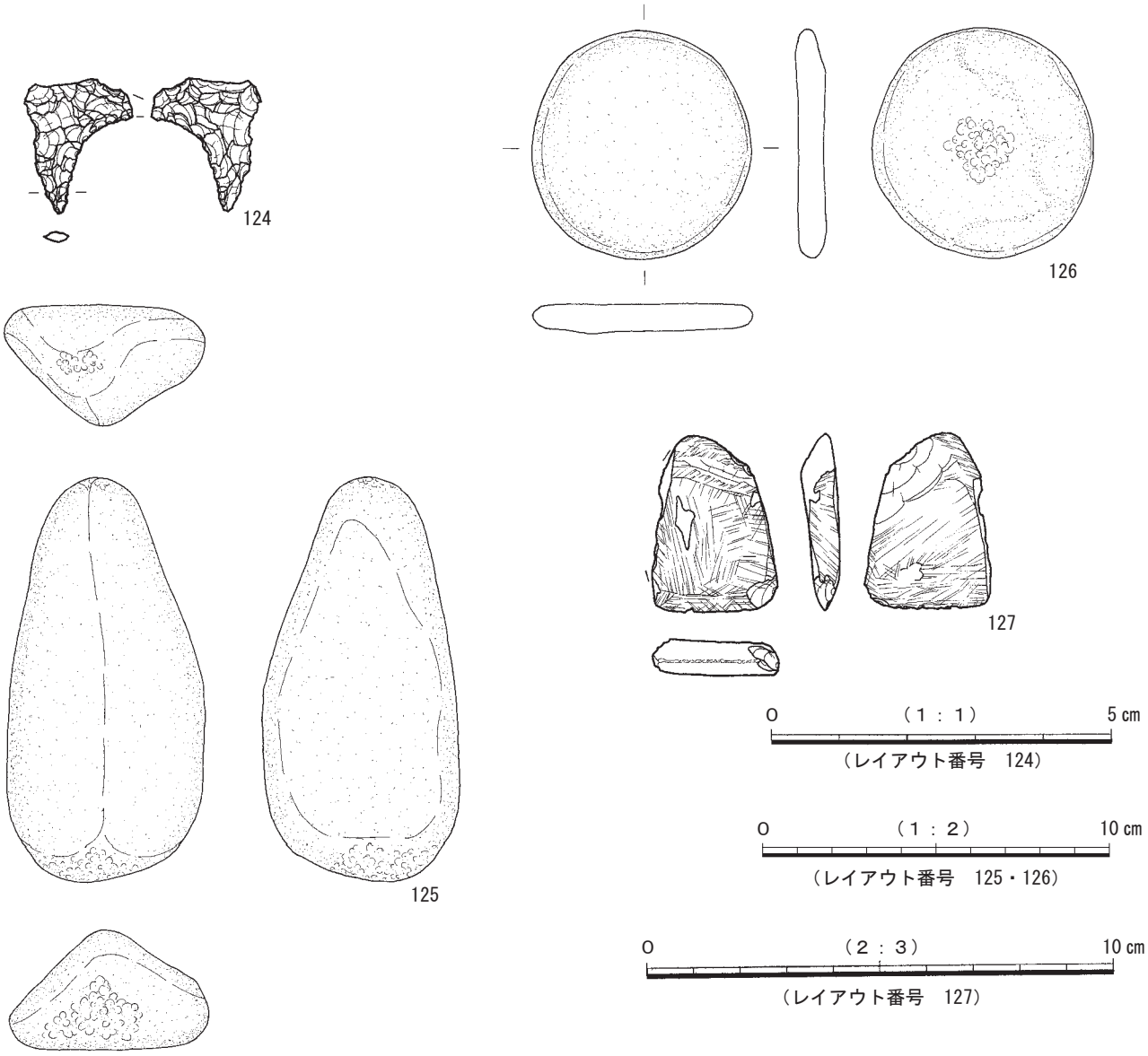
118の外器面坏部は縦方向の，内器面口縁部は横方向のヘラミガキによる調整が施されている。120の外器面は縦方向のミガキ調整が施されている。内器面はヘラ状工具によるナデ調整を施す。120は４号住居跡と５号住居跡の双方の床面から出土している。

121～123は鉢形土器である。121・122は口縁部から底部まで緩やかに内湾する鉢形土器である。121は底部から大きく外へ傾き，口縁が大きく広がる。外器面は縦方向のハケメによる調整がされている。122の外器面は縦方向のハケメ調整が施される。

123は口縁部が欠損しているため，詳細は不明であるが，ミニチュア土器の可能性がある。内外器面とも指頭圧痕が顕著である。




第29図　４号竪穴住居跡出土土器　甕形土器・壺形土器・高坏・鉢形土器・ミニチュア土器




第 30 図　４号竪穴住居跡出土石器　石錐・敲石・磨石・扁平片刃石斧

【４号竪穴住居跡出土　石器　第 30 図：124 ～ 127】

124 は頁岩製の石錐である。尖頭部は先端を鋭く整形している。縄文時代の混入品であろう。

125 は砂岩製の礫石器である。上面と下面に敲打痕があり，敲石として使用されたものと考えられる。

126 の平面はきれいな円形に整えられ，扁平な形状である。砂製である。表面は明瞭な擦痕は確認できなかったが，平滑であり，磨石として使用されたと思われる。裏面は中央部に敲打痕が確認できるが，端部は磨面があり，裏面全体も平滑である。

127 は小型の扁平片刃石斧である。頁岩製である。左側側面は部分的に欠損しているが，ほぼ完形に近い。基部は表面を研磨することで，端部を細く整形する。刃部は表裏を研磨して鋭い先端に整形する。先端は刃こぼれと思われる痕跡がある。

⑤５号竪穴住居跡（第 31・32 図）

５号竪穴住居跡は，４号竪穴住居跡の東南部分と重なるように検出されたものである。先述したとおり，５号竪穴住居跡は４号竪穴住居跡の東南部壁面，４・６号土坑の床面にアカホヤ火山灰粒子を含む黒色土が含まれているところから，その存在が疑われ，Ⅵ層上面で改めて検出を試みたことによって発見された遺構である。

北側壁面は４号竪穴住居跡によって失われ，また住居跡の一部が西側調査区外へと延びているため，全体的な形状は詳細にできないが，残存する東側壁面の幅は約２ｍで，これを一辺とする方形と，一部南側に幅 1.2 ｍ程拡張する掘り込みで構成されていると推測される。

住居跡は，アカホヤ火山灰の粒子を含む黒色土を埋土とし，Ⅵａ，Ⅵｂ層を床面とする。調査区西側壁面近くの住居跡内床面に約 1.6 × 1.2 ｍの不定形プラン（SK1）が確認された。不定形プランはアカホヤ火山灰のブロックや粒子だけでなく，炭化物片や焼けた土の破片などを含む黒色土を埋土とする。

SK1の掘り込み面は円錐状を呈しており，底面は径５cm未満まで窄まる。その深さは床面から約40cmに及ぶ。

しかし，炭化物や焼けた土の破片が埋土に含まれているが，SK1そのものの壁面，底部には焼けた痕跡は無かった。

なお，５号竪穴住居跡が検出される前に検出していた４号土坑がある。４号土坑はSK1の最も深い箇所と同じ位置にあるため，SK1が埋まる過程で生じた凹みのところに最後に堆積したⅢ層の堆積を４号土坑として検出した可能性もある。４号土坑についての詳細は後述する。

また，住居北側が推定される箇所には幅40～60cm，深さ５～10程度の浅い帯状に広がる掘り込みがある。その浅い掘り込みの中に30×30cm，底面が径10cm，検出面からの深さは約50cmに及ぶ柱穴（SP1）が検出された。ただし，浅い掘り込みとSP1は４号竪穴住居跡と関連する可能性もある。

SK1と浅い溝状の掘り込みとの間にも柱穴（SP2）が検出された。検出面は約30×20cmの楕円形で，底面は10×10cmである。検出面からの深さは45cm程度である。

調査区西側壁面に近い箇所に検出された柱穴（SP3）の検出面は約20×20cmの円形で，底面は径10cm，検出面からの深さは30cm程度である。

また，南側壁面側にも柱穴（SP4）が確認された。検出面は約30×20cmの楕円形で，底面は径10cm，検出面からの深さは約50cmである。

これらの柱穴は検出面から底面に向けて窄まる円錐状を呈しており，底面が径10cm程度というところが共通する。

南側への拡張部分は，調査区西側壁面際が一段低くなっており，その掘り込み面からさらに掘り込まれた土坑（SK2）が確認された。検出面の平面形は約60×50cmの楕円形で，深さは15～25cmである。同じく拡張部分の南端部に検出面の平面形が約70×40cmの楕円形を呈する土坑(SK3)が確認された。深さは15～20cmである。

なお，５号住居跡が検出される前に南側への拡張部分の東側にあたるところに，Ⅳ層上面で検出された５号土坑」が存在していた。５号土坑は方形を呈しており，南北幅1.4 m，東西の長さは６号土坑と切り合っているため，不明である。Ⅲ層を埋土とし，深さは検出面から10cm程度であり，Ⅴ層を床面とする。土坑の北側壁面は，不明瞭であったが，これは５号竪穴住居跡の埋土と混ざっていたためと思われる。この土坑と５号竪穴住居跡の位置関係をあわせて，検証してみたところ，第26図に示すとおりとなった。この土坑の東側壁面が５号住居跡の東壁面が直線上に揃い，同じく10号土坑の南側壁面が，５号住居跡の南側拡張部としている南壁面と直線上に揃う。このことから５号住居跡の南東部分はⅥ層まで掘り込まれておらず，この部分だけⅢ層の堆積が顕著に残っていたものであるとするなら，５号土坑は５号竪穴住居跡の一部であったことも疑われる。

**【５号竪穴住居跡出土土器　第33図：128～139】**

128～131は甕形土器である。128はSK1で出土した。口縁部は大きく外傾する。断面形は口縁部から胴部にかけて緩やかなＳ字形を呈しており，胴部はやや外側に膨らむ。外器面は明瞭なハケメ調整痕が残る。129も甕型土器である。口縁部は大きく外に開き，胴部との境目に内外器面とも強い稜線が生じる。胴部はあまり膨らみを持たない形態と推測する。

131は中空高台の底部である。底部端部に向けて外反し広がる形態である。底部の上半部の外器面はほぼ垂直に立ち上がる。内器面は工具痕が残る。SK1の検出面で出土した。

132～135は壺形土器である。132・134はSK1で出土したものである。132は無頸壺と思われる。口縁部はわずかに外へ広がる。口縁部と胴部の境目はくびれた形となるが，あまり強い稜線ではなく，断面概形はＳ字となる。内外ハケメ調整痕が残る。133は小型の壺型土器の胴部と思われる。上胴部に縦方向のハケメ調整痕が残る。

134は小片であるが，壺形土器の胴部と思われる。断面三角形の突帯２条が確認できる。135は胴部から底部である。底面は平底となっている。内外器面ともハケメ調整痕跡が残る。内器面は横方向の工具ナデ調整痕がある。

136・137は鉢形土器である。口縁部はやや外反し，内器面にわずかに稜線が生じる。137は底部に向けて器厚が厚くなり，底部は平底となる。136の胴部内器面は斜め方向のハケメが顕著である。137の胴部外器面はミガキ調整が施される。口縁部外器面は工具による横ナデ調整が施される。

138・139は脚台付きの鉢形土器である。138は外器面に縦方向のミガキ調整が施されている。

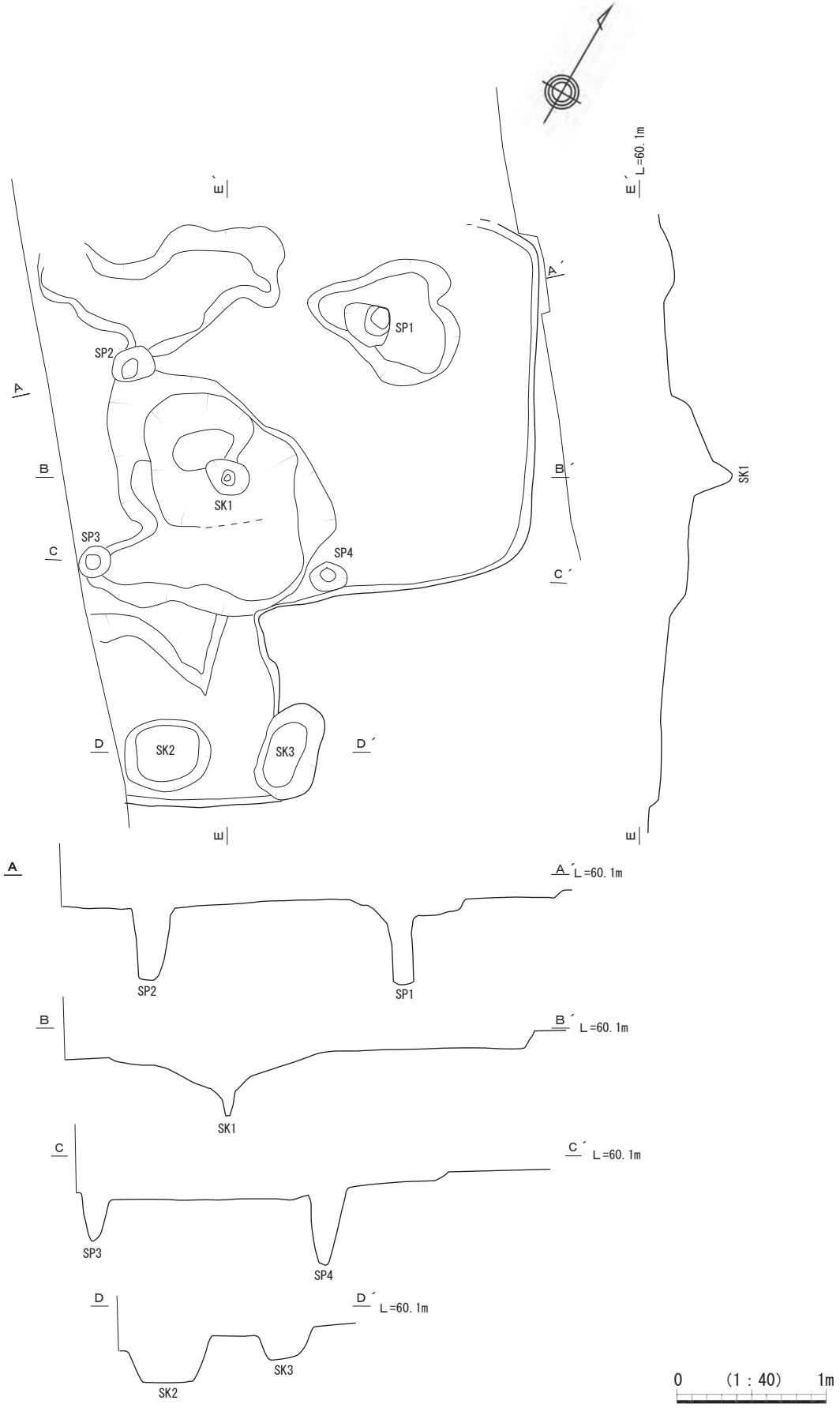
**【５号竪穴住居跡出土石器　第34図：140】**

140は安山岩製の礫石器である。表面と裏面及び下面に敲打痕があり，敲石として使用されたものと考えられる。

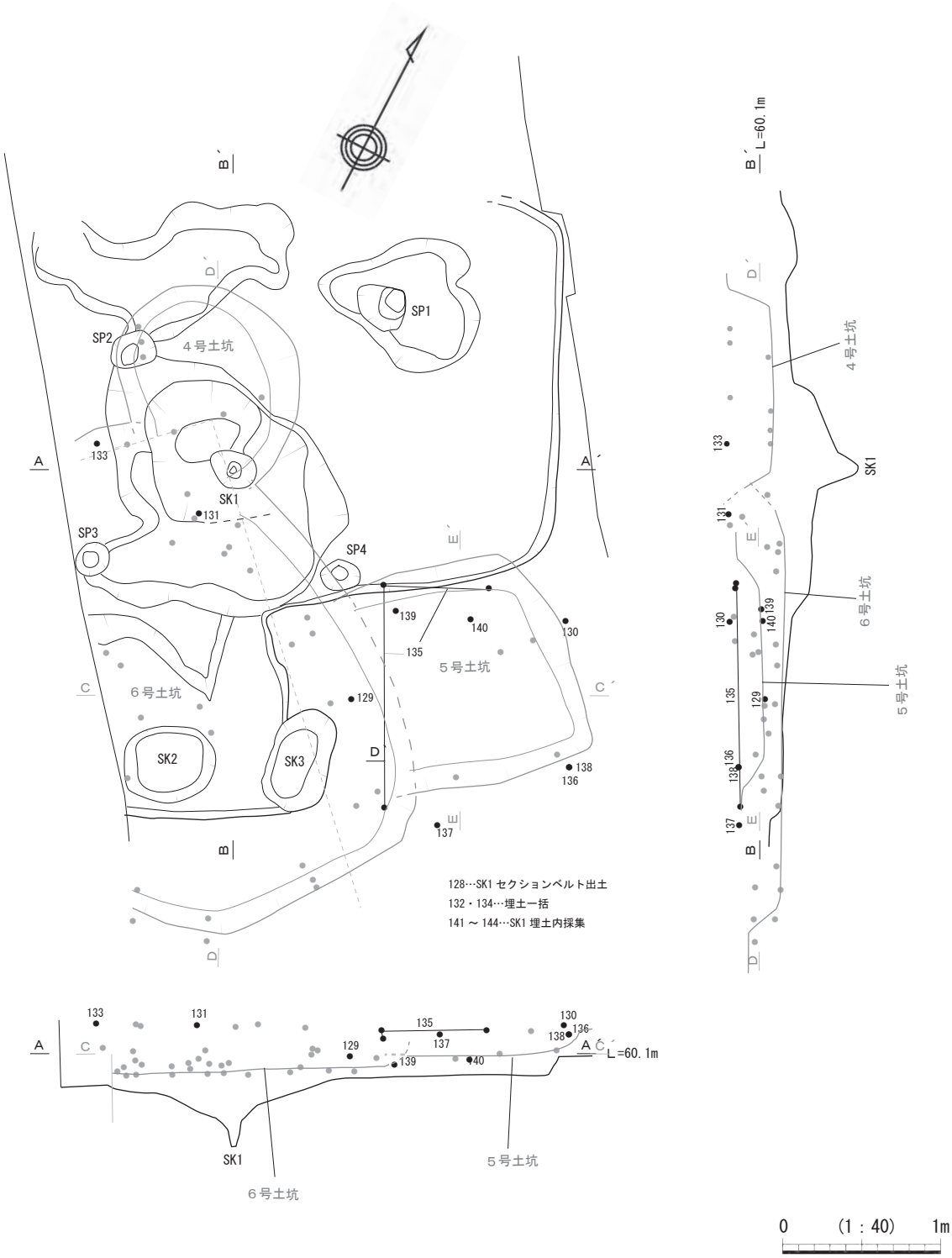
**【５号竪穴住居跡出土ガラス玉　第35図：141～144】**

床面の土の水洗フルイ選別をした結果，採集されたものである。141～143は径４mm程度で，いずれも小口面，側面は丸く整形されている。それぞれの色調は141・142濃紺色で，143は水色となっている。

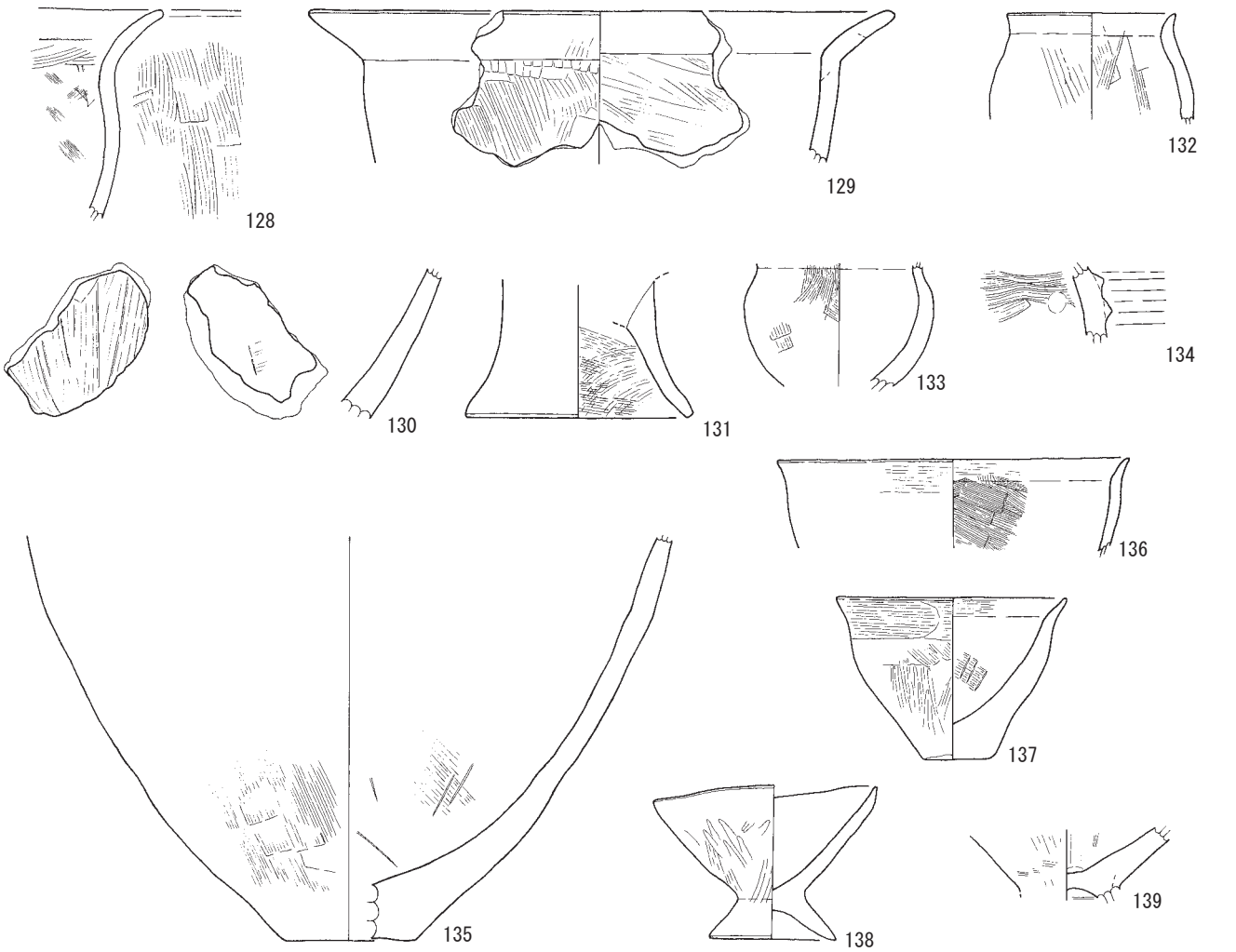
144は径７mmである。小口面は平坦に整形される。平面概形は円形を呈するが，細かく観察すると側面はいくつかの平坦面があり，円形に近い多角形という形態である。側面に孔を穿ったような痕跡が確認できるが，何のためのものか不明である。色調は灰青色となっている。



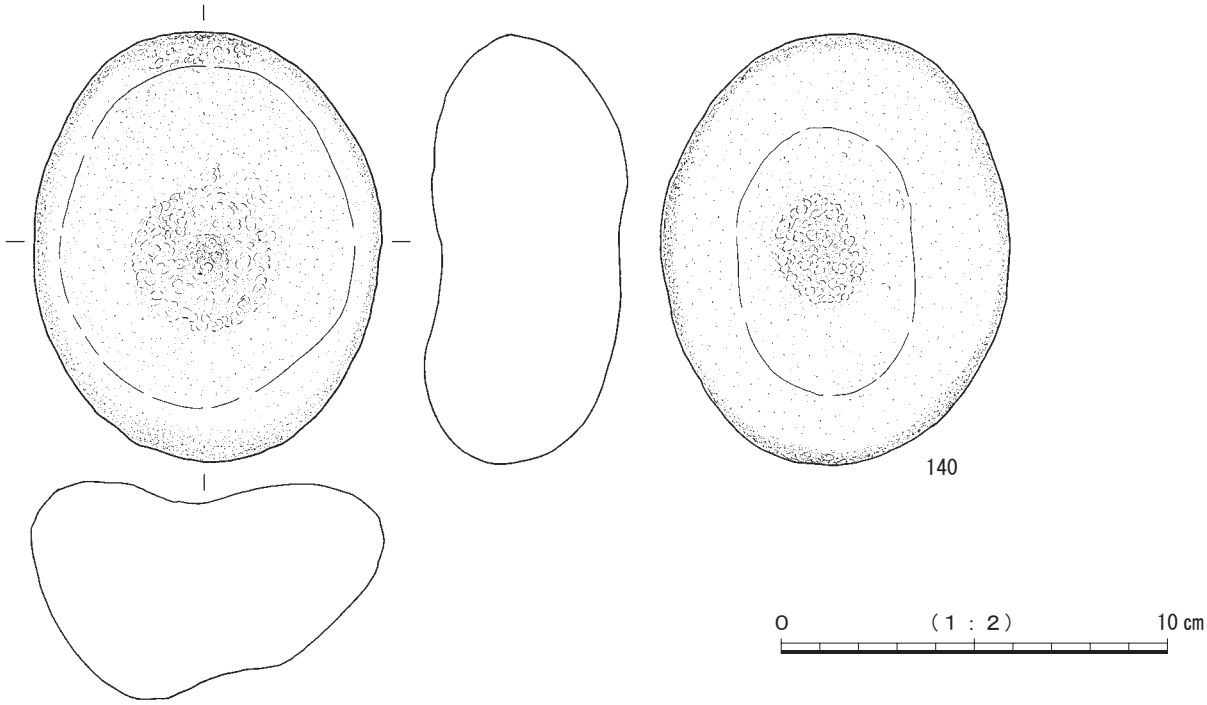

第 31 図　5 号竪穴住居跡実測図



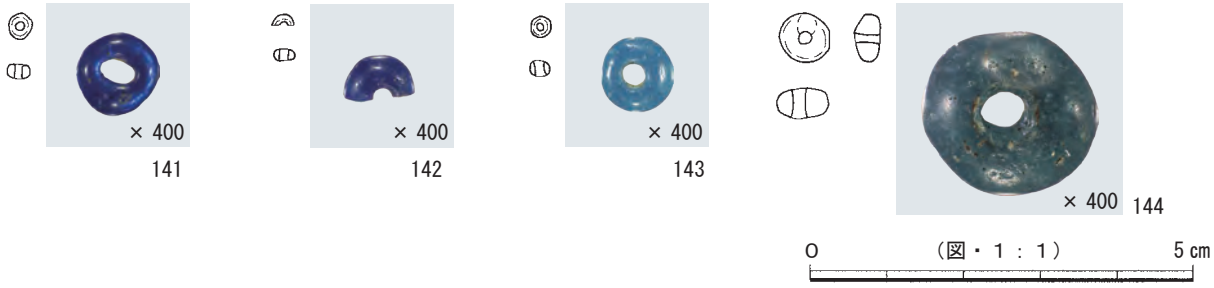

第 32 図　５号竪穴住居跡・４～６号土坑遺物分布図




第 33 図　５号竪穴住居跡出土土器




第 34 図　５号竪穴住居跡出土石器




第 35 図　５号竪穴住居跡出土ガラス玉

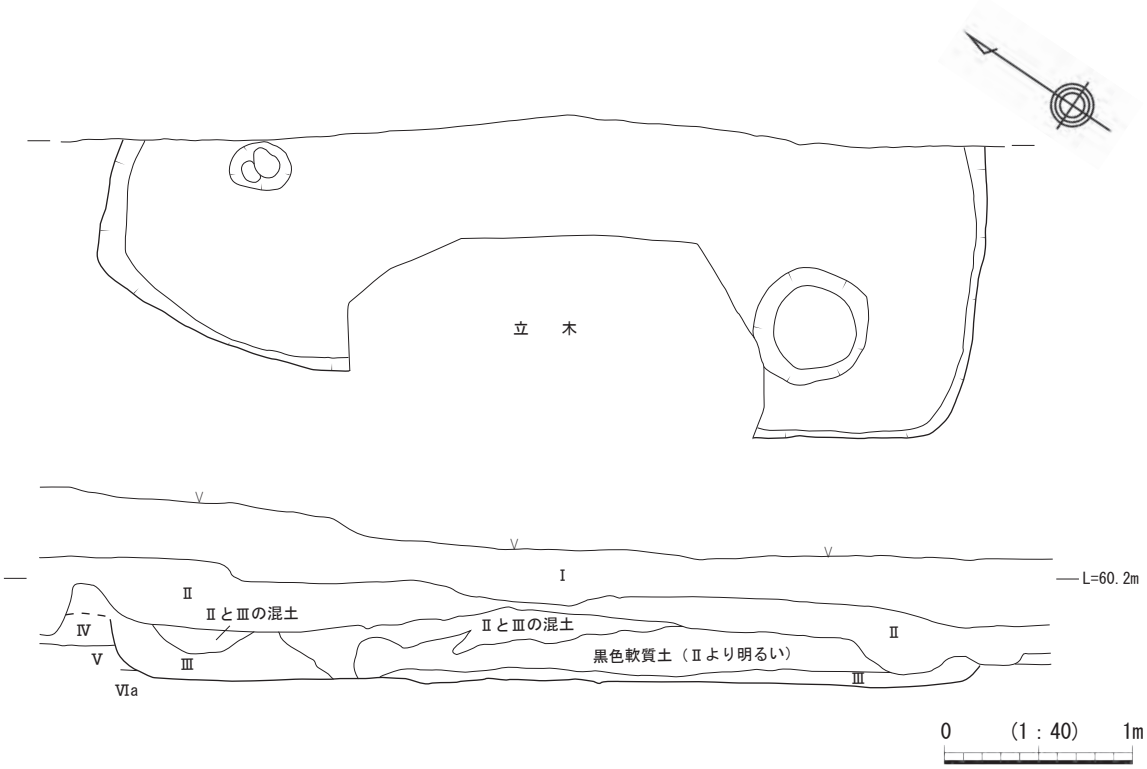
⑥６号竪穴住居跡（第 36・37 図）

Ｋ区のＶ層上面で検出された住居跡である。古墳時代の遺物がまとまって出土したことで発見された。推定３分の２以上は調査区外であるが，残存する部分で推定すると，一辺が約 4.5 ｍの方形の住居跡と推定される。この部分は取付け道路にあたるところで，未買収であったため，樹木の除去ができないままの住居跡の調査となった。

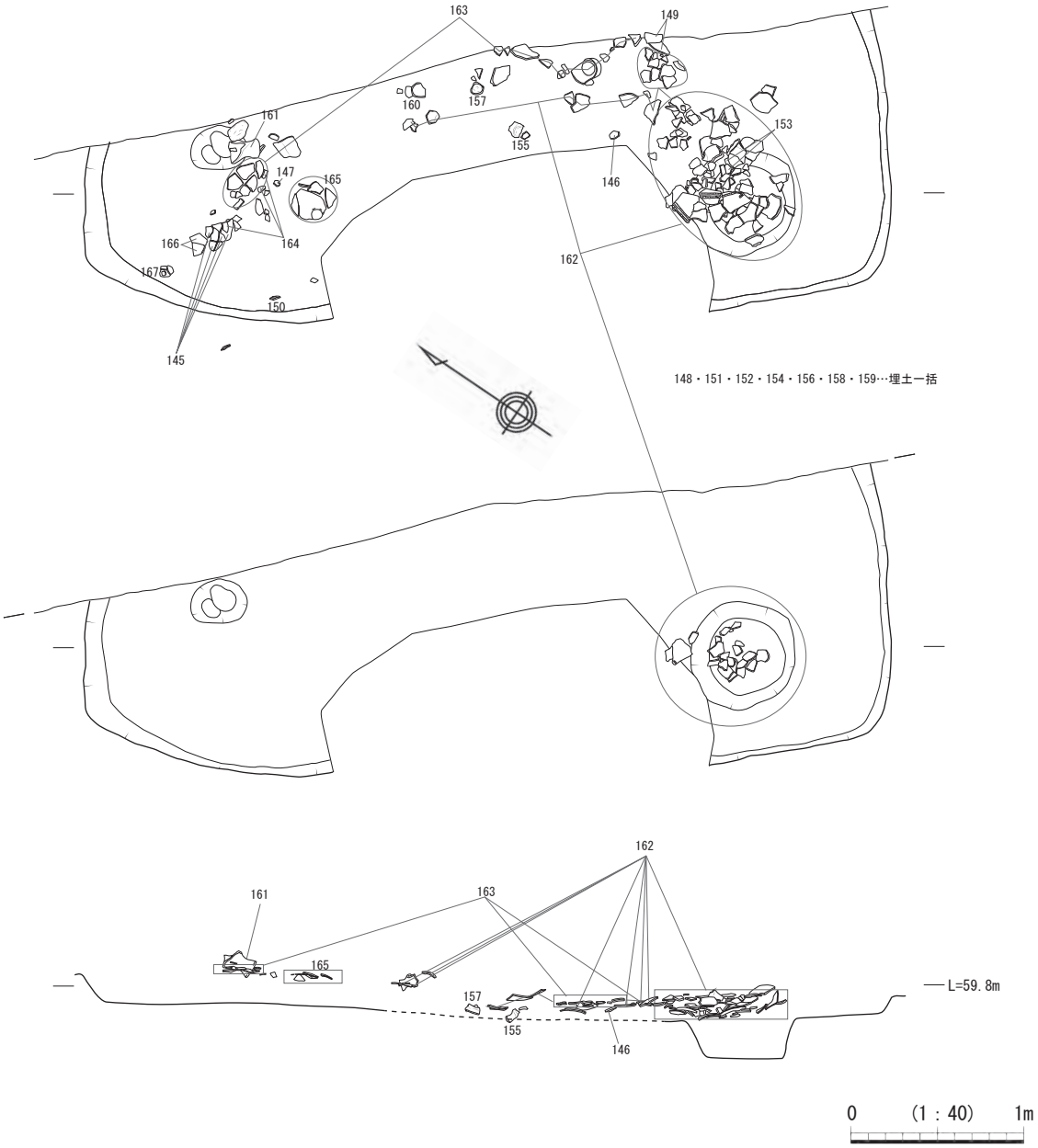
住居跡の南西側住居隅近くの床面に上面径 60 × 60cm，底面 40 × 40cm，深さ約 20cm の平面円形の土坑が確認された。

土坑の上層はⅢ層となっているが，下層はアカホヤ火山灰の粒子を含む黒色土となっている。土器片はこの土坑の上面を中心に堆積している。住居跡の床面はこの土坑に向けて低く傾斜している。この土坑を中心に土器だまりが確認された。また，北側の床面には平面 20 × 30cm，深さ５cm 程度の浅い楕円形の凹みがあるが，住居跡に伴うものかは不明である。

調査区東側壁面の土層観察では，床面直上はⅢ層が厚さ５cm 程度堆積しているが，住居北側はⅢ層の堆積が厚い。Ⅲ層の堆積が浅いところの上層はⅡ層とⅢ層の混ざり，あるいは黒色土であるがⅡ層より明るい土が堆積している。南側は住居の壁の立ち上がりが 10cm 程度の高さしか確認できない。後世に削られた可能性もある。したがって，先述したⅡ層とⅢ層の混ざり，あるいは黒色土であるがⅡ層より明るい土などは，後世に削られた後に堆積したとも考えられる。ちなみに住居跡内で出土した遺物はⅢ層の堆積に伴っているものがほとんどである。




第 36 図　６号竪穴住居跡実測図




第 37 図　６号竪穴住居跡遺物分布図

【６号竪穴住居跡出土土器①　第 38 図：145 ～ 154】

145 ～ 154 は甕形土器である。145 は口縁部から胴部である。口縁部はやや外反し，口縁部から胴部にかけて断面概形は緩やかなＳ字形を描きながら，底部へと窄まる。口縁部と胴部の境目に刻目突帯文を施す。刻目には布目が確認できる。内器面は板状工具によるナデ調整が施される。口縁端部は平坦に整えている。

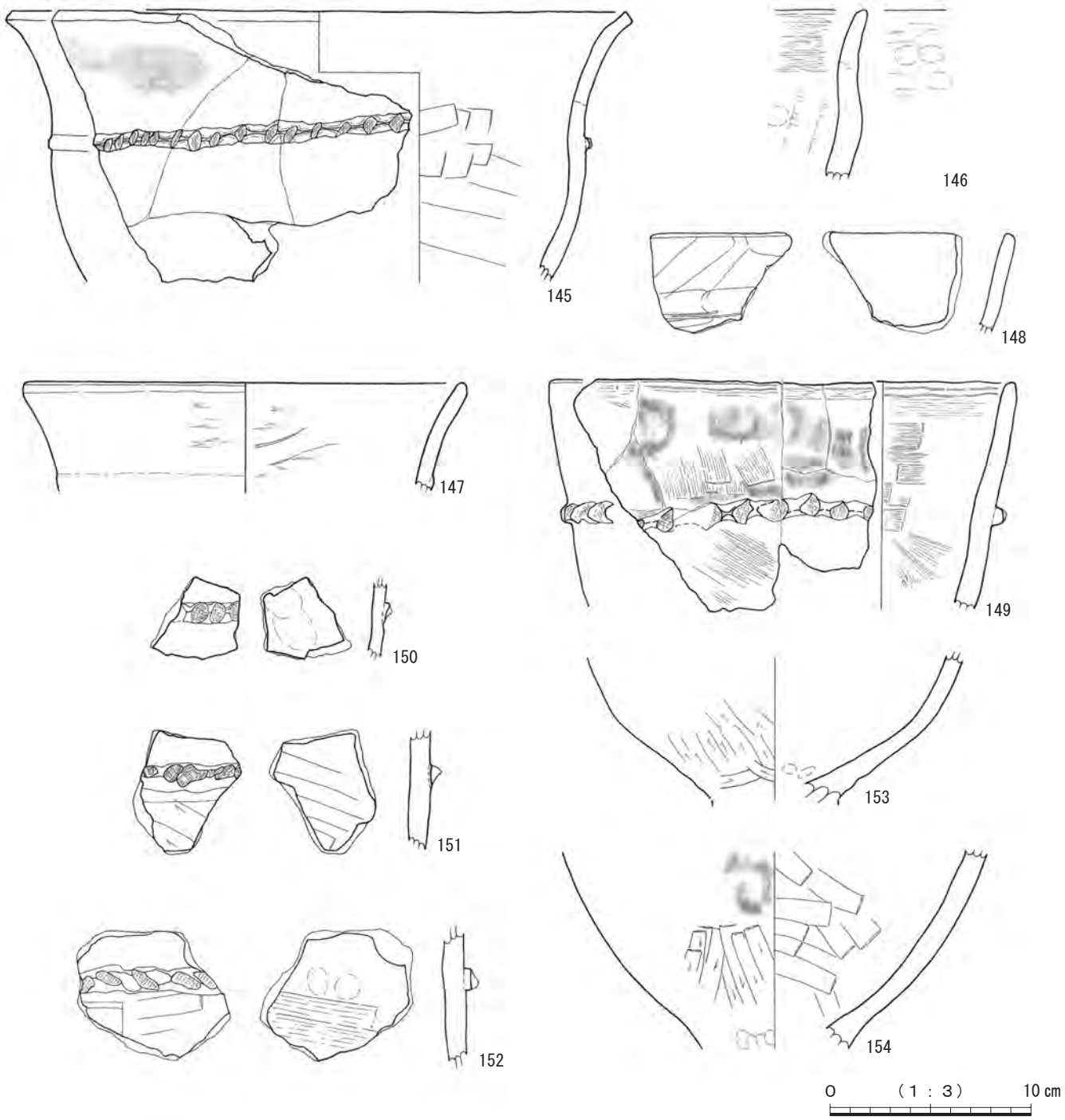
146 も甕形土器の口縁部から胴部と思われる。口縁部は外反し，胴部にかけての断面概形は緩やかなＳ字形を呈する。147 も外反する口縁部で，145・146 と同様の形態と推測される。内器面に工具痕を残す。口縁端部は丸く整えている。

148・149 の口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。148 は内外器面ともに指ナデで仕上げている。胴部に棒状の工具で刻線が施されている。149 は胴部から直線的に外径して立ち上がっており，胴部に刻目突帯文を施す。

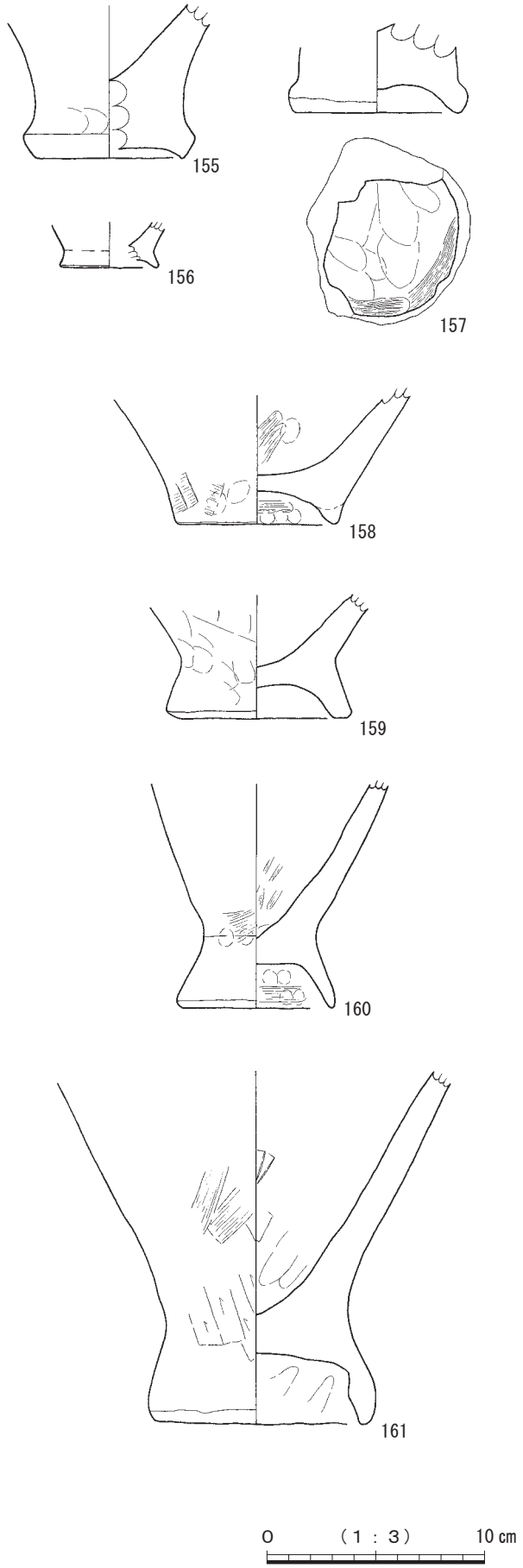
刻目は布目が確認される。149の外器面は縦・斜め方向に板状工具によるナデ調整が施されており，口縁部下には煤が付着する。内器面も斜め・横方向に板状工具によるナデ調整が施される。

150から152は胴部である。148・149のように胴部から直線的に外径して立ち上がっており，胴部に刻目突帯文を施す形態の甕形土器と思われる。いずれも刻目には布目が確認される。150は内器面に指オサエを残す。151・152は板状工具によるナデ調整が施される。

153・154は胴部下部である。いずれも外器面は縦方向にケズリによる調整がされており，後にナデ調整を施す。154は内器面に板状工具によるナデ調整が顕著である。




第38図　6号竪穴住居跡出土土器①　甕形土器




第 39 図　６号竪穴住居跡出土土器②　甕形土器

【６号竪穴住居跡出土土器②　第 39 図：155 ～ 161】

155 ～ 161 は甕形土器の底部である。155 ～ 157 は底面が広がる概形で，やや上げ底となっている。157 の上げ底の内器面は指ナデで仕上げている。158 ～ 161 は中空高台の底部である。158 は高台脚が短く，裾が広がらない。高台内天井面は丸く整形する。160 と 161 の高台内天井面は平坦に仕上げている。161 の高台裾部は直立している。胴部と底部の境目あたりの外器面はケズリによる調整がされている。

【６号竪穴住居跡出土土器③　第 40 ～ 41 図：162】

162 は二重口縁となっている。口縁部は垂直に立ち上がり，口唇部は平坦に整えている。胴部に対して口縁部が比較的狭小である。

口縁部外器面には櫛描波状文が描かれ，口縁部下には刻目突帯文が施されている。肩部から胴中部までは大きく外に張り出し，胴中部に２条の刻目突帯文が施される。この２条の刻目突帯文の一端は下降しており，端部同士は繋がらない。胴下部から底部にかけて直線的に窄まり，外器面はミガキ調整痕が顕著に残る。内器面は摩滅している。

底面は平底となっており，焼成後に穿孔している。残存径約５cm の円形の穿孔であろうと推測される。

胴下部から底部付近の内器面は穿孔した部分を含めて器面が凸凹になっている。器表面が複数箇所剥離したような凸凹であるが，剥離した後にさらに摩滅したような状態である。焼成後のものと考えられる。この凸凹の箇所は底部付近全体ではなく，穿孔部分から一方向にだけ生じている。これが穿孔に伴うものなのかは不明である。

なお，住居跡の土坑周辺の土器片の多くはこの 162 の接合資料である。

【６号竪穴住居跡出土土器④　第 42 図：163 ～ 167】

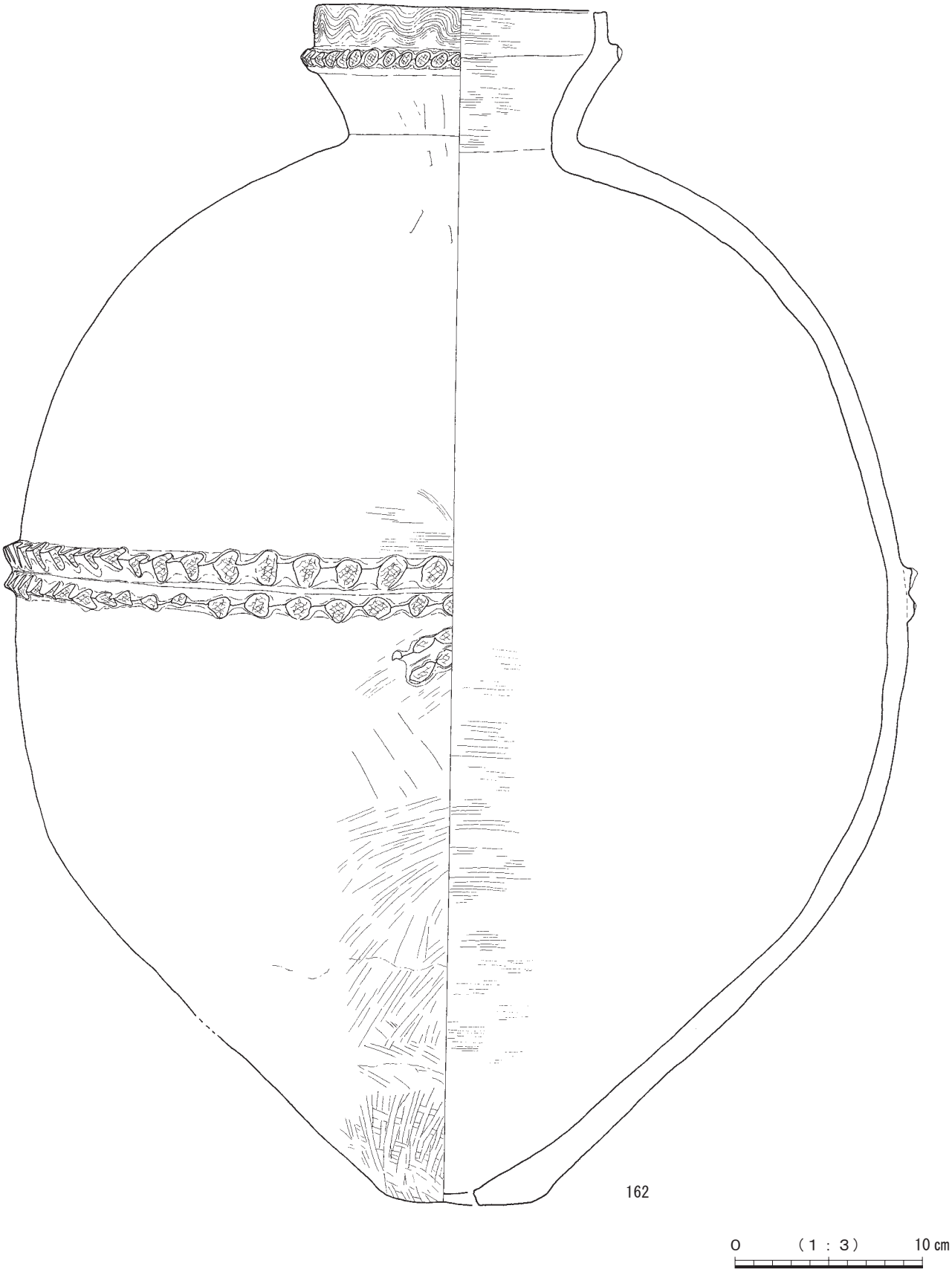
163 ～ 165 は壺形土器である。163 は口縁部から胴部である。口縁端部は平坦に整えている。肩部あたりにはハケメ調整痕が残る。163 は胴部に対して口縁部が比較的狭小である。

164 の口縁端部は平坦に整えられる。内器面は指ナデによる調整がされている。

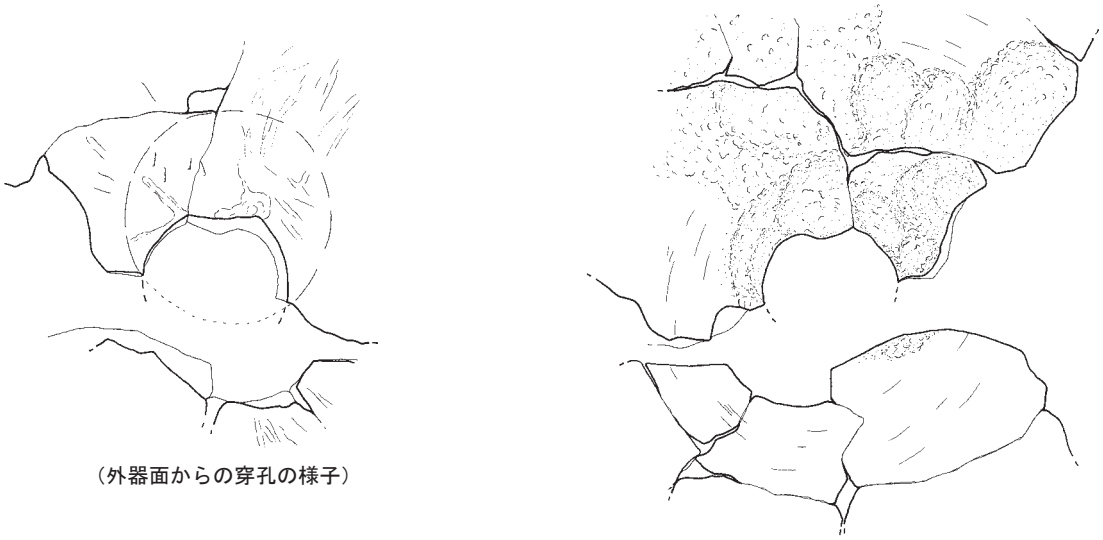
165 は底部である。底面から胴部にかけて直線的に立ち上がる。底面はわずかに平坦面がある。底部と下胴部の境目あたりにわずかに粘土の接合部が確認できる。外器面はヘラミガキの調整が施される。

166・167 は鉢形土器と思われる。166 は口縁部から胴部にあたると思われる。口縁端部が大部分欠けており，残存する口唇部は少ない。口縁部から胴部は直立し，胴下部で内湾しながら窄まっていく形態と推測できる。外器面は縦方向に工具によるナデ調整が施される。口縁部内器面は横方向の工具ナデで整えている。

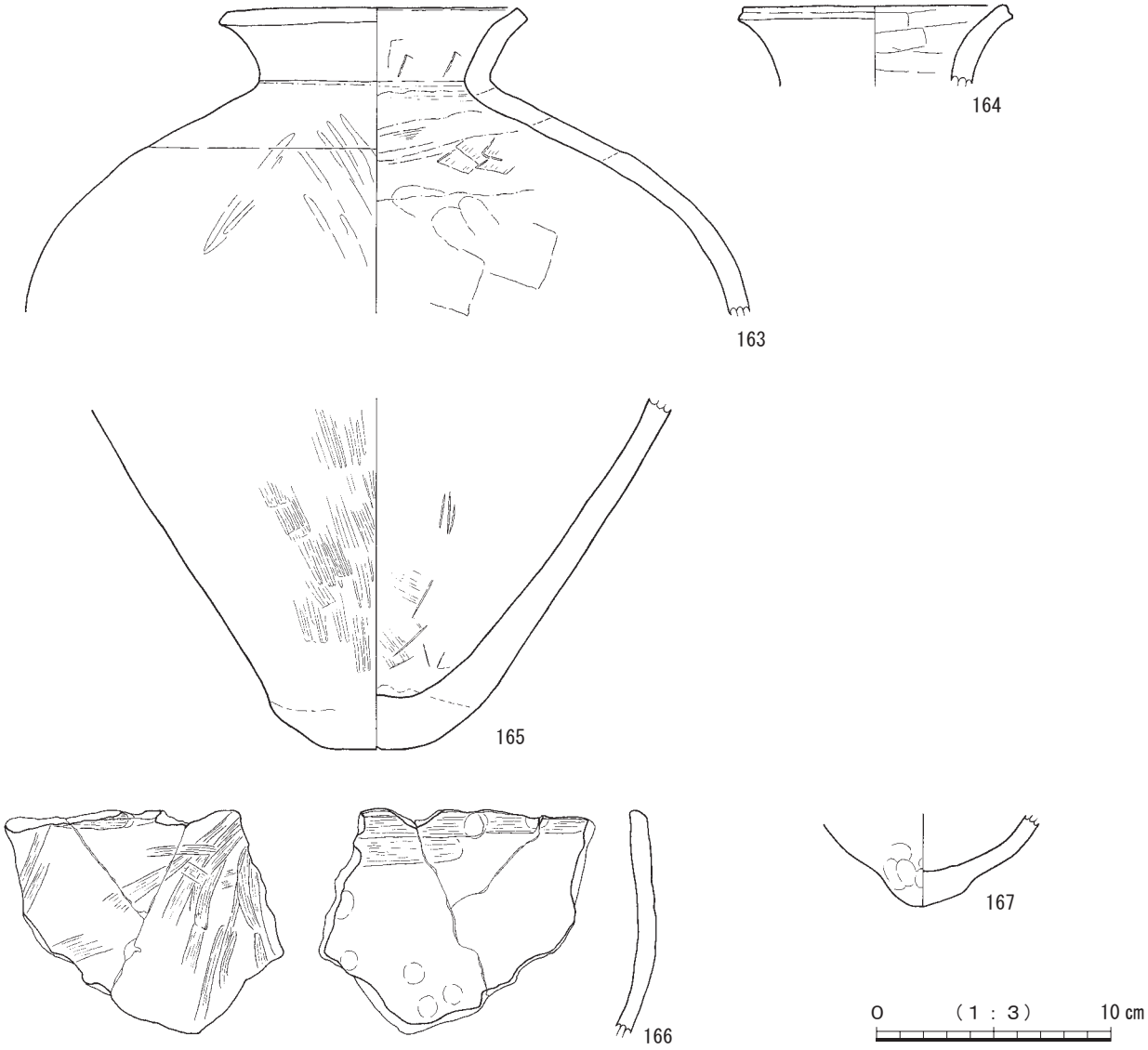
167 は底部である。壺形土器の底部の可能性もある。外器面は指オサエによる調整が施される。




第 40 図　6 号竪穴住居跡出土土器③　壺形土器




第 41 図　６号竪穴住居跡出土壺形土器 162 の底部穿孔




第 42 図　６号竪穴住居跡出土土器④　壺形土器

⑵　土坑

①１号土坑（第 43 図）

Ｇ区の西側調査区壁面際，Ⅳ層上面で検出された。検出された範囲では北西－東南に 2.2 m，北東－南西に 1.2 ～ 1.7 mである。南西側は調査区外に残存する。方形を基本とするが，土坑の東壁は幅約 1.2 × 0.5 m突き出た形態をなす。検出面からの深さは 10 ～ 15cm 程度であるが，調査区西側壁面の土層堆積状況の観察から，Ⅲ層中から掘り込まれており，20cm 程度の深さであることが分かる。埋土はⅢ層である。

【１号土坑出土　甕形土器　第 43 図：168】

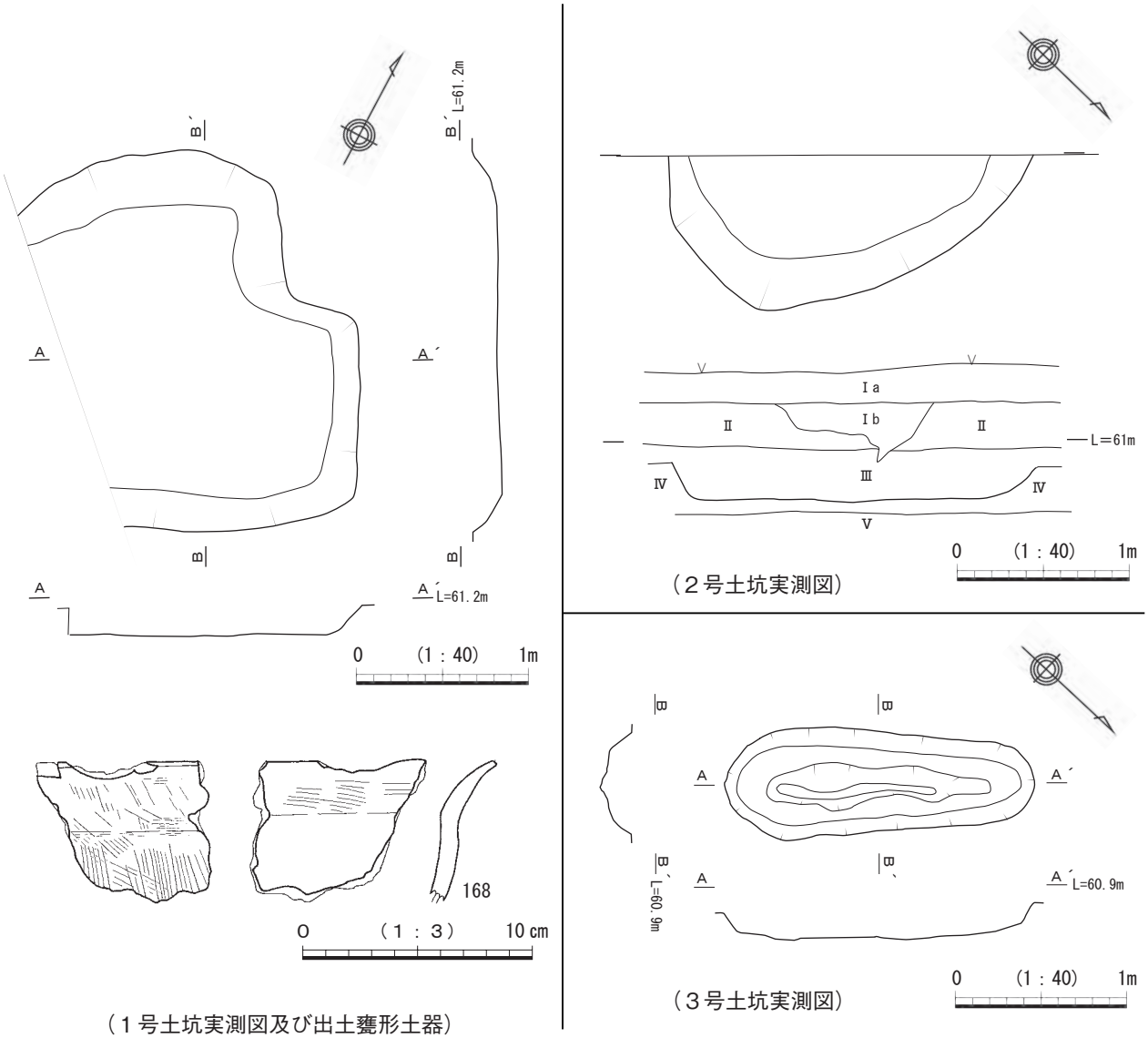
168 の口縁部はやや外反して広がる。断面概形はゆるやかなＳ字を呈しており，口縁端部は細く整形する。口縁部と胴部の境目の稜はあまり強くない。内外器面ともにハケメ調整のちナデ調整を施す。

②２号土坑（第 43 図）

Ｈ区の西側調査区壁面際，Ⅳ層上面で検出された。埋土はⅢ層であり，検出面からの深さは 15 ～ 20cm 程度であるが，調査区西側壁面の土層堆積状況の観察から，Ⅳ層上面から掘り込まれている。

③３号土坑（第 43 図）

Ｈ区のⅣ層上面で検出された。平面形は長軸 1.8 ×短軸 0.5 ～ 0.7 mの楕円形である。埋土はⅢ層である。この土坑の中央部は長軸方向に長さ 95cm，幅５cm 程度の溝状の掘り込みとなっており，検出面から深さ 15cm 程度と最も深くなっている。 全体的に床面はこの中央の溝状の掘り込みに向けて緩やかに低く傾斜する。




（１号土坑実測図及び出土甕形土器）

（２号土坑実測図）

（３号土坑実測図）

第 43 図　１～３号土坑実測図及び１号土坑出土甕形土器

④４号土坑（第 44 図）

Ⅰ区のⅣ層上面で検出しており，長軸 1.3 m，短軸１mの楕円形のプランである。Ⅲ層を埋土とするが，検出はⅢ層が強く残る部分を平面円形のプランとして検出したが，比較的検出ラインは曖昧であった。埋土であるⅢ層を掘り上げたところ，検出面から深さ約 30cm となった。しかし，底面は炭化物，アカホヤ火山灰粒子などを含む土となっており，後にこれが５号住居跡の SK １の埋土であることが判明した。

先述したとおり，この土坑は５号住居跡の SK １の最も深く掘り下がっている部分の直上にあたるため，SK １が埋没する最終段階で堆積したⅢ層を「４号土坑」として記録した可能性もある。

⑤５号土坑（第 44 図）

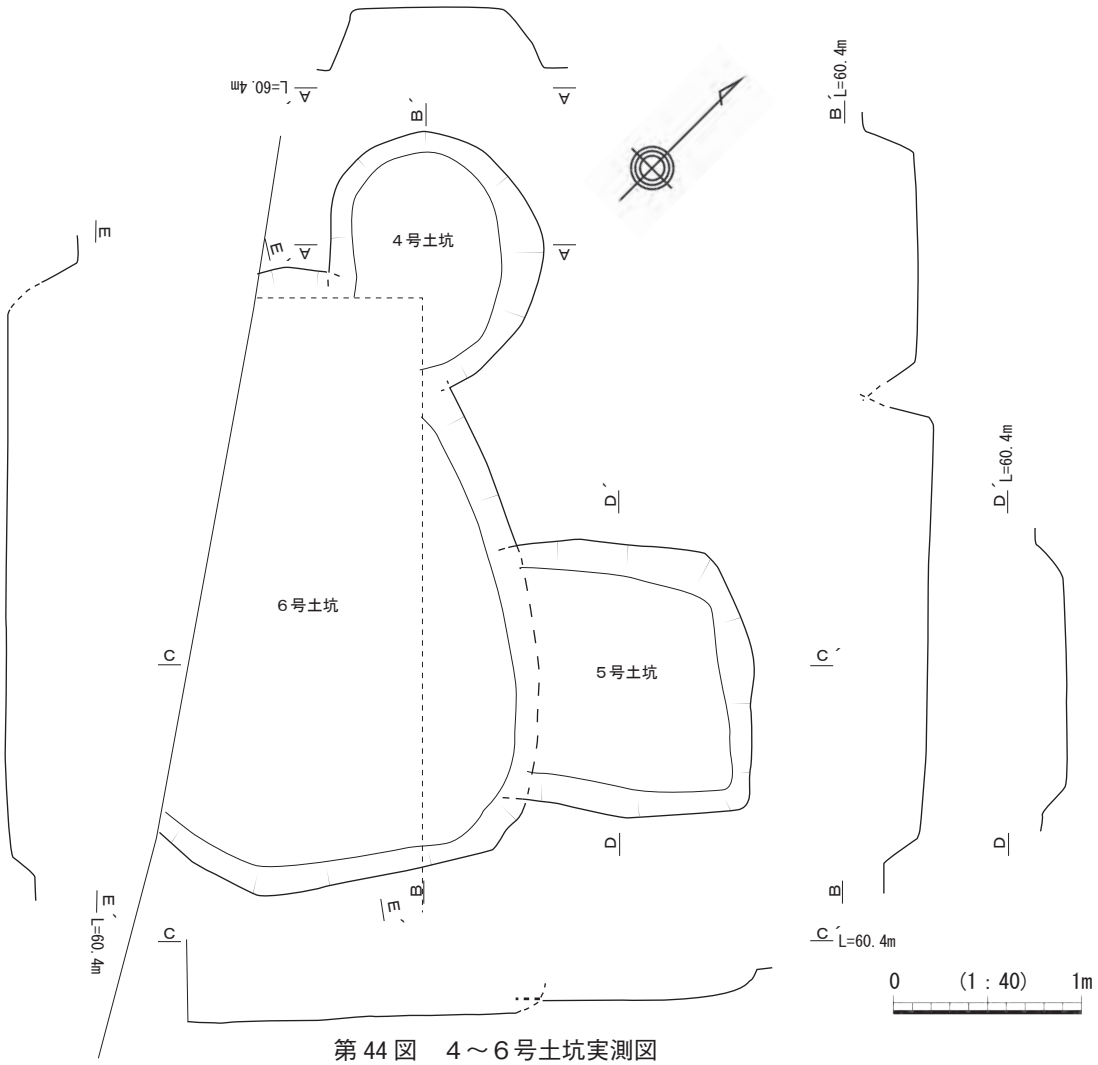
Ｊ区のⅣ層上面で検出された方形プランである。検出段階では北西－南東に幅 1.4 mのプランとしていた。しかし，土坑の北西側の検出ラインは不明瞭であった。埋土であるⅢ層を掘り下げたが，北西側の壁面はアカホヤ火山灰粒子をわずかに含む黒色土となっており，後にこれが５号住居跡の埋土と判明した。北東－南西の長さは６号土坑と切り合っているため，不明である。深さは検出面から 10cm 程度であり，Ⅴ層を床面とする。

５号住居跡で報告したように，この土坑の壁面が５号住居跡の壁面に直線的に揃うことから，土坑ではなく５号住居跡の一部の可能性もある。

⑥６号土坑（第 44 図）

Ｊ区のⅣ層で検出された。11 号土坑の北側部分は４号土坑と，東側壁面の一部が６号土坑と切り合っている。長軸推定約３m，短軸推定約２mの楕円形の土坑である。ただし，この土坑の検出ラインも４・５号土坑同様に不明瞭で，４・５号土坑が切り合っている箇所だけでなく，切り合いの生じない東南側の検出もⅢ層が強く残る範囲を定めてラインを引いたものの，実際は南側に向けてⅢ層が徐々に少なくなっていく状態であった。

掘り込みの深さは検出面から 10 ～ 15cm 程度で，Ⅲ層を埋土とする。Ⅴ層～Ⅵ層上面まで掘り込まれている。なお，この土坑の調査後に土坑の南東壁面より約 30cm 先にⅤ層上面でⅢ層を埋土とするプランが新たに検出された。先に報告した「６号住居跡」としているものである。このことから，６号土坑は本来「６号住居跡」の埋土中よりⅢ層に含まれる火山灰粒子の強い部分をプランとして検出した可能性もある。




第 44 図　４～６号土坑実測図

⑶　掘立柱建物跡（第45・46図）

Ｊ区からＬ区のⅣ層上面で検出された柱穴のうち，９箇所（Ｐ１～９）の柱穴が規則的な配列を呈しており，これを掘立柱建物跡として報告する。掘立柱建物跡は東西に３間，南北に１間としており，主軸はＮ90°Ｅである。今回の調査では建物の南面の柱穴が４箇所（Ｐ１～Ｐ４），これに対応するように北面の柱穴３箇所（Ｐ６～Ｐ８）がそれぞれ直列して検出されている。なお建物の南面の柱穴列の西端の柱穴に対応する北面の柱穴について調査区を一部拡張して調査を行った。相応する箇所にⅥ層上面で径20cmの円形プラン（Ｐ５）が検出された。しかし他の柱穴がⅥｂ層まで掘り込まれているのに対し，Ⅵ層上面までの深さと比較的浅い。建物の東面にはＰ１とＰ８の中間よりやや東側に柱穴（Ｐ９）が配置されており，棟持柱ではないかと推測される。

南北に対応するＰ１－Ｐ８間は2.5ｍ，Ｐ２－Ｐ７間は2.5ｍ，Ｐ３－Ｐ６間が2.6ｍ，Ｐ４－Ｐ５間が2.5ｍとなっており，南面柱穴列と北面柱穴列間は約2.5ｍである。南面柱穴列の柱穴間は，Ｐ１－Ｐ２間は2.5ｍ，Ｐ３－Ｐ４間は2.6ｍであるが，Ｐ２－Ｐ３間は３ｍと開きがある。同じように北面柱穴列の柱穴間もＰ５－Ｐ６間は2.5ｍ，Ｐ７－Ｐ８間は2.8ｍ，Ｐ６－Ｐ７間は３ｍとなっている。

なお，Ｐ１－Ｐ９間は1.3ｍ，Ｐ８－Ｐ９間は1.5ｍである。

検出面からの柱穴の深さはＰ１，Ｐ４，Ｐ６，Ｐ７，Ｐ９は50cm程度の深さまで掘り込まれているが，Ｐ５は10cm，Ｐ８は30cm程度と浅い。逆に，Ｐ２とＰ３は75cmと深く掘られている。

Ｐ５を除くいずれの柱穴も上面がおよそ径30cm格の円形もしくは楕円形であり，底面は10～15cm程度まで窄まる。柱穴の断面に見られるように，柱穴の一箇所は床面まで垂直に掘り込まれており，垂直の掘り込まれている部分以外は上面から底面まで傾斜して掘り込んでいる。

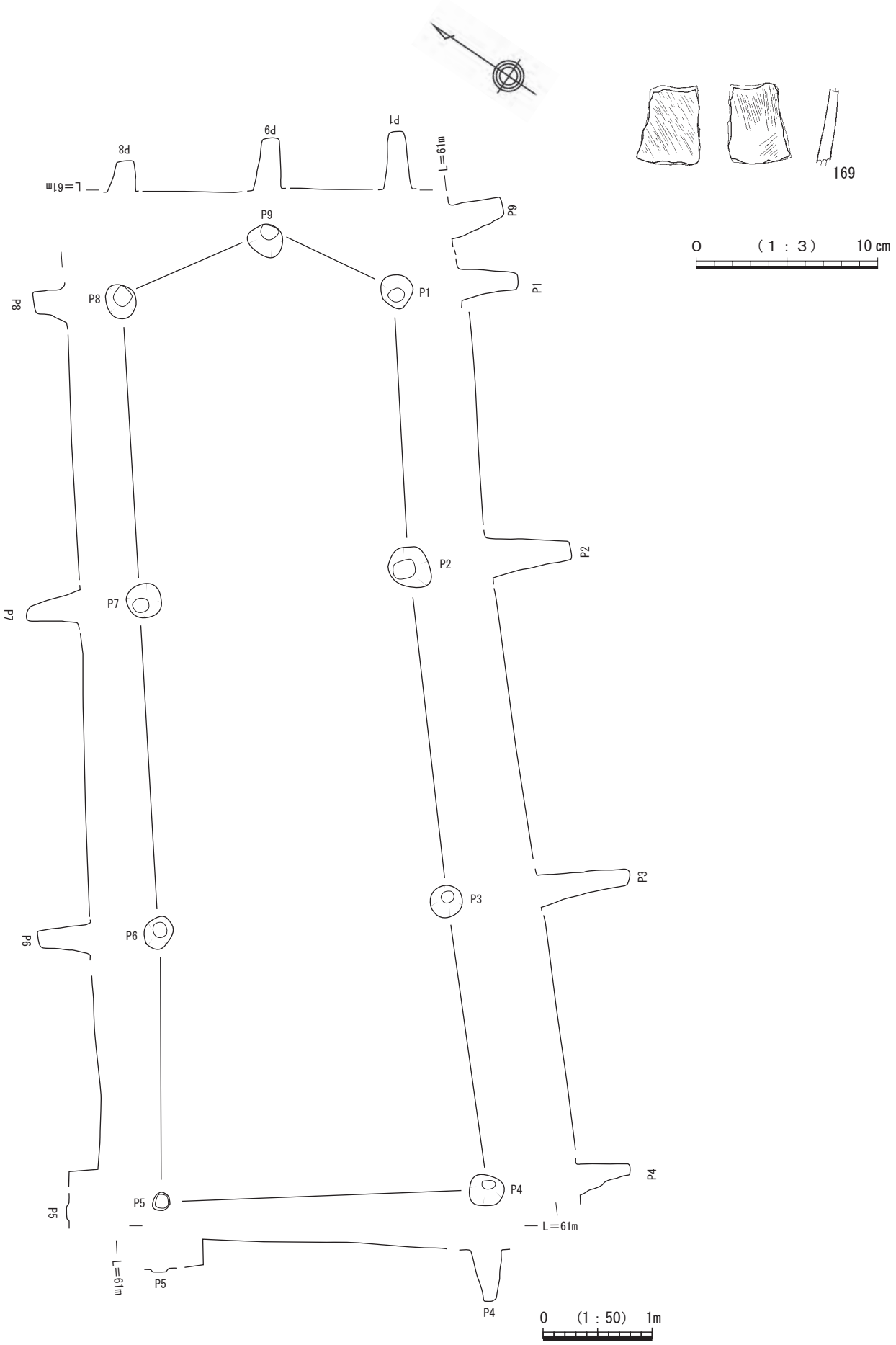
なお，柱穴の底面は円形を基本とするが，Ｐ２とＰ８の底面は方形を呈している。

Ｐ１，Ｐ６，Ｐ９の埋土から土器片が１点ずつ出土したが，いずれも胴部であった。Ｐ９から出土した胴部は，終末時期の土器に近いと思われるが，いずれにしてもこの遺構の年代特定の決め手とはならない。

**【掘立柱建物跡柱穴出土土器　第46図：169】**

Ｐ９の埋土から出土した。甕形土器の胴部と思われるが，詳細は分からない。外器面にハケメ調整痕を残す。

第45図　掘立柱建物跡の配置図



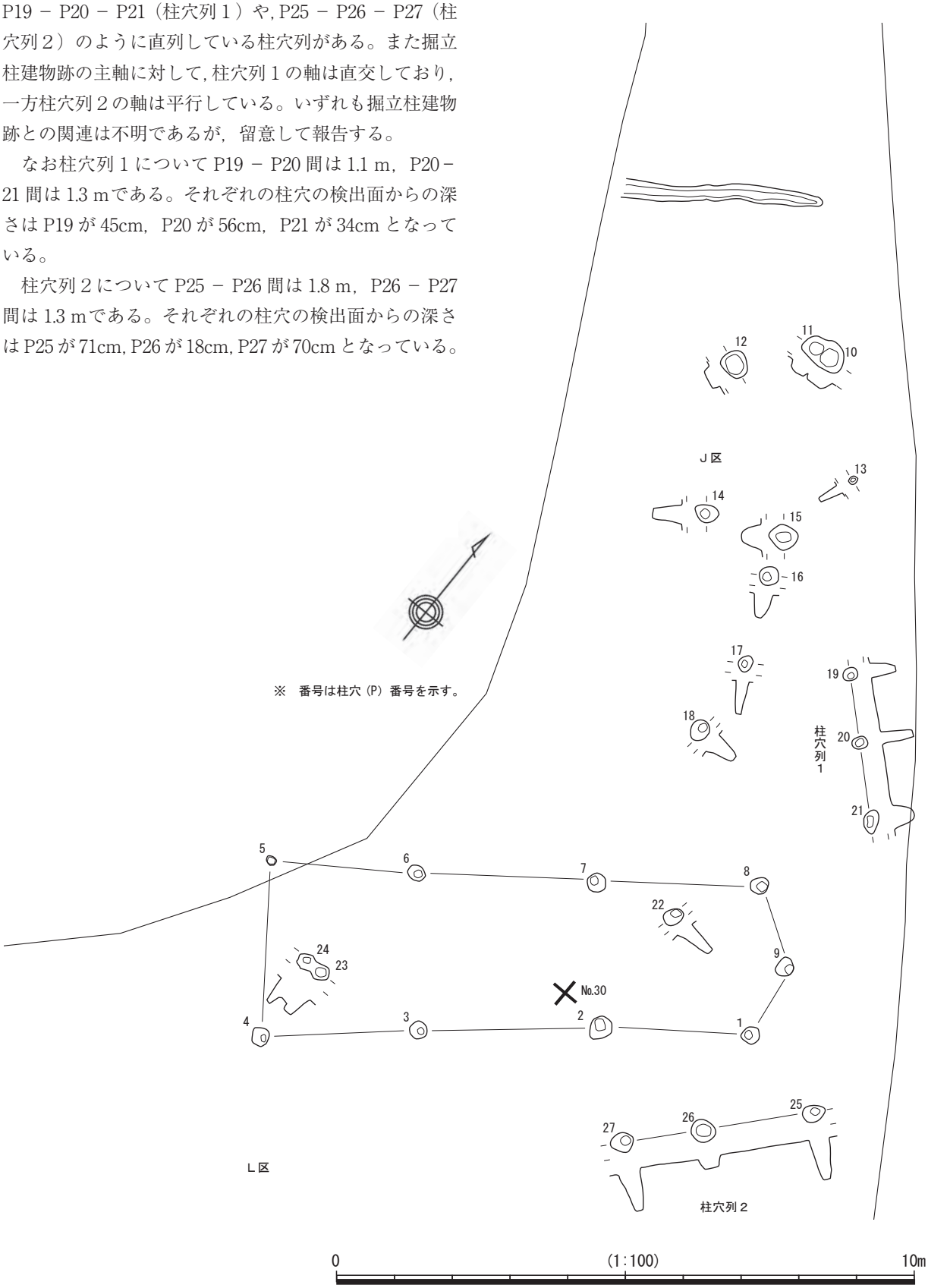

第46図　掘立柱建物跡実測図及びＰ９出土土器

### ⑷　掘立柱建物跡周辺の遺構（第 47 図）

Ｊ区Ⅳ層上面では，掘立柱建物跡以外に 18 箇所の柱穴(P10～27)が確認された。建物跡を示す配列は無いが，P19 － P20 － P21（柱穴列１）や, P25 － P26 － P27（柱穴列２）のように直列している柱穴列がある。また掘立柱建物跡の主軸に対して, 柱穴列１の軸は直交しており，一方柱穴列２の軸は平行している。いずれも掘立柱建物跡との関連は不明であるが，留意して報告する。

なお柱穴列１について P19 － P20 間は 1.1 m，P20－21 間は 1.3 mである。それぞれの柱穴の検出面からの深さは P19 が 45cm，P20 が 56cm，P21 が 34cm となっている。

柱穴列２について P25 － P26 間は 1.8 m，P26 － P27 間は 1.3 mである。それぞれの柱穴の検出面からの深さは P25 が 71cm, P26 が 18cm, P27 が 70cm となっている。

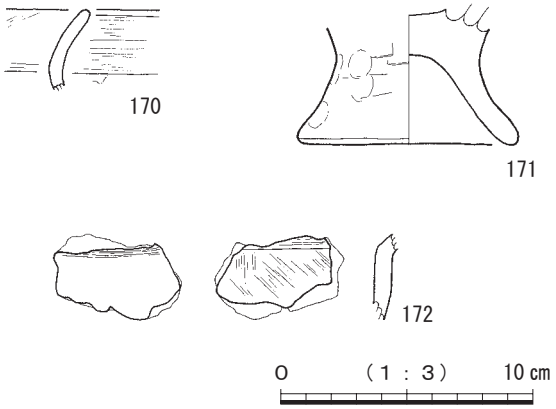



第 47 図　掘立柱建物跡周辺柱穴実測図

【柱穴出土土器　第48図：170・171・172】

170は甕形土器の口縁部である。口縁部は大きく外反する。内外器面とも横ナデ調整が施される。171は甕形土器の底部である。中空高台となっており，高台は低く，端部に向けてわずかに外反する。端部は丸く成形される。高台内天井部はドーム型に成形されている。外器面は工具ナデと指オサエで整えている。170・171のいずれもP25の埋土から出土したものである。

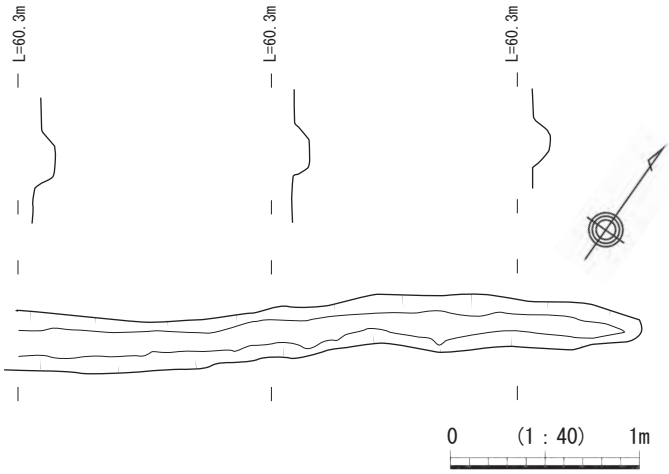
172はＰ14から出土した甕形土器の胴部である。胴部から口縁部へと屈曲して立ち上がると想定され，上部に明瞭な稜が生じる。また屈曲部直下から胴部が大きく張り出す。内外器面ともナデ調整が施されるが外器面は光沢を持つ。




第48図　J・L区Ⅳ層上面検出柱穴内出土土器

(5)　溝状遺構（第49図）

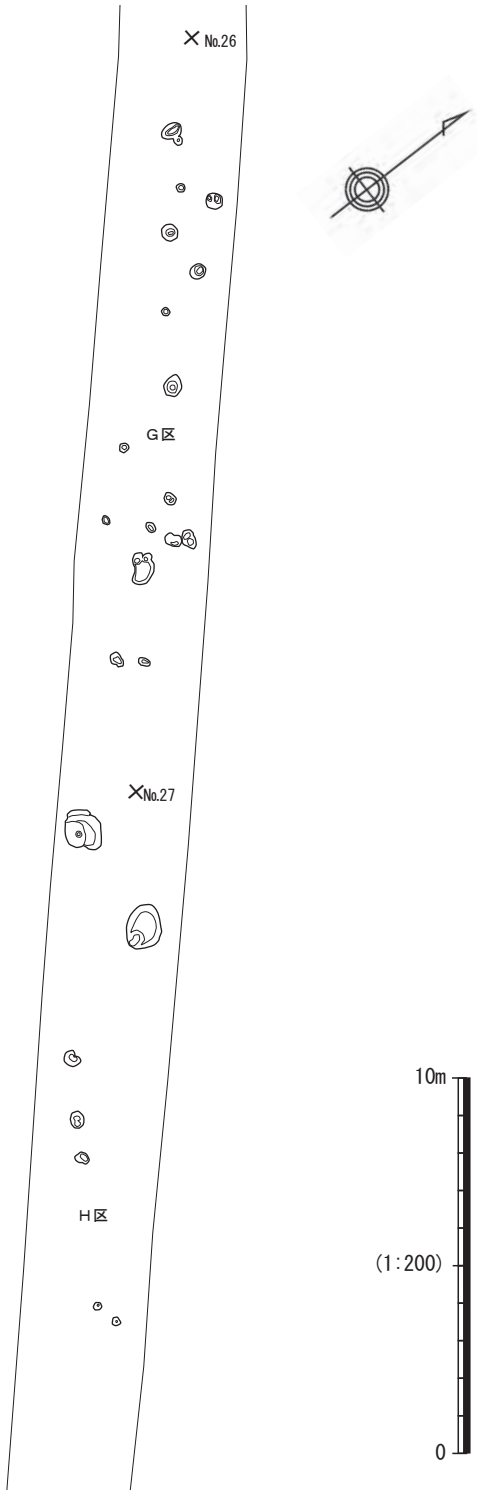
J区Ⅳ層上面でⅣ層を埋土とする溝状の遺構プランが確認された。幅約30cm，調査区内の残存延長約3.5 m，検出面からの深さ約８～10cmの東西に延びる溝状遺構である。底面は西側に向けてわずかに傾斜する。



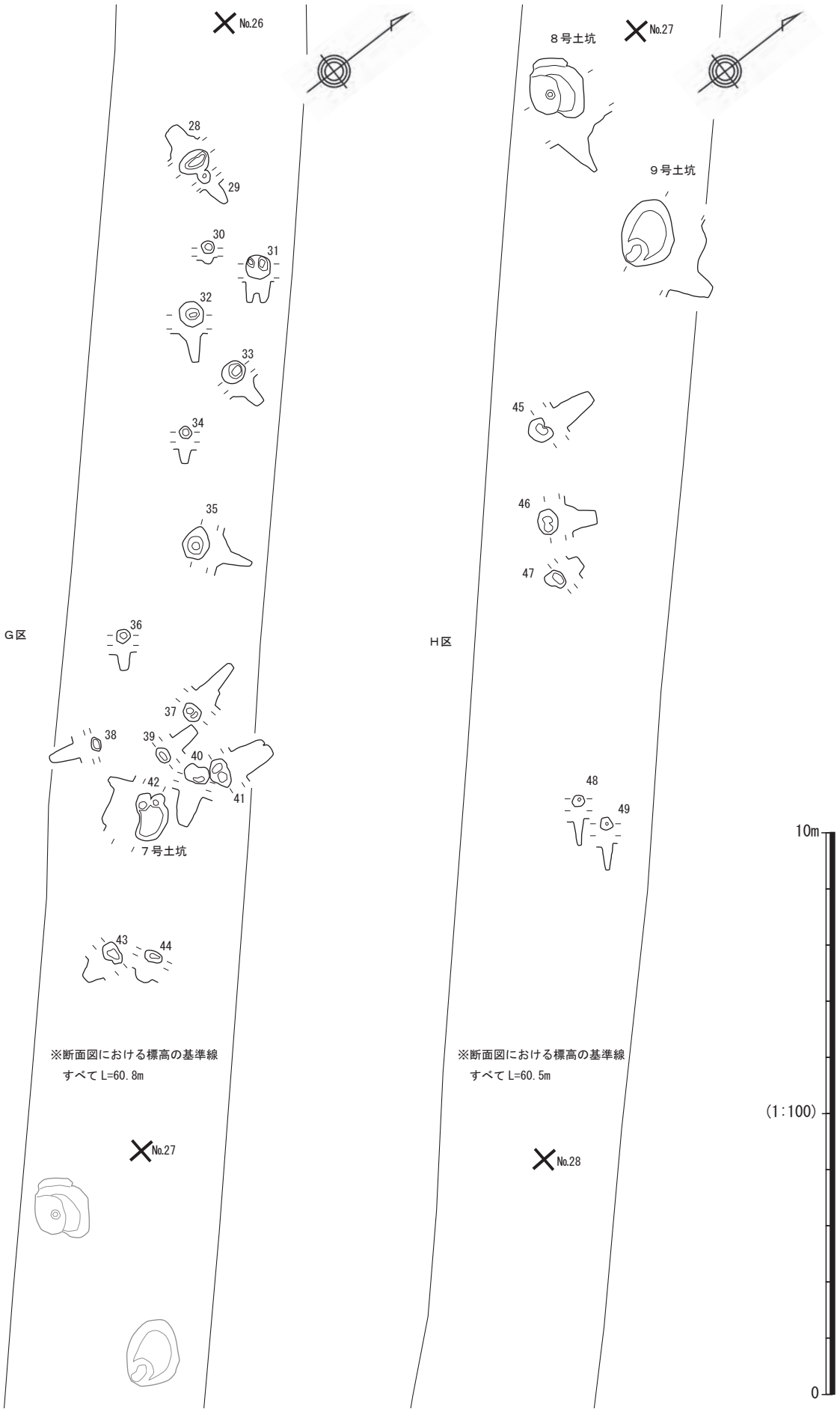

第49図　1号溝状遺構実測図

(6)　その他の柱穴・土坑（第50・51図）

またＧ区からＨ区にかけては，柱穴21基（P28～48）と土坑３基（７～９号土坑）がⅤ層上面で検出された。Ⅵ層上面での最終検出面で確認されたもので，Ⅳ層上面で検出できなかったもので，柱穴は特に建物跡を示す配列は無く，土坑も不定形である。




第50図　Ｇ・Ｈ区Ⅴ層上面検出柱穴・土坑配置図




第51図　G・H区Ⅴ層上面検出柱穴・土坑実測図

## 第４表　弥生時代終末～古墳時代遺構出土土器観察表(1)

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 時代 | 器種 | 部位 | 法量（cm） | | | | 焼成 | 色調 | | | | 胎土 | | | | | | 器面調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | | 外面 | | 内面 | | 石英 | 長石 | 角閃石 | 雲母 | 輝石 | その他 | 外面 | 内面 | |
| 15 | 66 | １号竪穴住居跡埋土<br>Ｆ区Ⅱ・Ⅲ層 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 口縁～底 | 22.2 | 25.6 | 9.4 | 胴最大径22.8 | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | 明赤褐 | 5YR5/6 | | ○ | ○ | | △ | | 口縁：上方向ハケメ後横ナデ<br>上胴：下方向ハケメ後ナデ<br>中胴：ナデ<br>下胴：縦板ナデ<br>高台：横ナデ | 口縁：横ナデ<br>上胴部：ハケメ<br>中・下胴部：ナデ | 外面煤付着 |
| 15 | 67 | １号竪穴住居跡埋土<br>Ｆ区 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 口縁～底 | 22.4 | 24.6 | 8.9 | 胴最大径21 | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 橙 | 5YR6/6 | ○ | ◎ | ◎ | | ○ | 赤褐色石 | 縦ハケメ後ナデ<br>口縁：横ナデ | ナデ。高台内面と口縁に指頭圧痕 | 非在地系胎土<br>外面煤付着 |
| 15 | 68 | １号竪穴住居跡埋土<br>Ｆ区Ⅲ層 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 口縁～底 | 28.7 | 23.4 | 9.7 | 胴最大径21.6 | 良 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | 赤褐 | 5YR4/6 | ○ | ○ | | ○ | | | 口唇：横ナデ<br>口縁：上方向板ナデ<br>胴：下方向ハケメ<br>高台：横ナデ | 口縁：横板ナデ後横ナデ，<br>胴：ナデ<br>高台：横ナデ | 外面煤付着 |
| 15 | 69 | １号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | 明赤褐 | 5YR5/6 | △ | △ | ◎ | | | | 口縁：縦ハケメ後ナデ<br>胴：ナデ | 胴部：ハケメ後ナデ<br>口縁部：工具横ナデ | 外面煤付着 |
| 15 | 70 | １号竪穴住居跡埋土<br>Ｆ区 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | 明赤褐 | 2.5YR5/6 | 橙 | 5YR7/6 | △ | ○ | | | △ | | 横ナデ，ナデ | 横ナデ，ナデ | |
| 15 | 71 | １号竪穴住居跡埋土<br>Ｆ区Ⅲ層 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 口縁～胴 | - | 26.9 | - | 胴最大径23 | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 橙 | 7.5YR7/6 | ○ | ◎ | ◎ | | | 赤褐色石 | 口縁：横ナデ<br>胴：縦ハケメ後ナデ・摩滅 | ナデ | |
| 15 | 72 | １号竪穴住居跡埋土<br>Ｆ区Ⅱ・Ⅲ層<br>Ｇ区Ⅲ層 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 肩～胴 | - | - | - | 胴最大径22 | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | 橙 | 5YR6/6 | ○ | ○ | | | | | 肩：横ナデ<br>上胴：下方向ハケメ<br>中下胴：縦ハケメ | 斜めハケメ，ナデ | 外面煤付着 |
| 15 | 73 | １号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 底 | - | - | 7.3 | - | 良 | 明赤褐 | 2.5YR5/6 | 褐灰 | 10YR4/1 | ○ | ○ | △ | | | | ナデ？(摩滅が激しい) | ナデ，指オサエ | |
| 16 | 74 | １号竪穴住居跡埋土<br>Ｆ区Ⅲ層 | 弥終末～古墳初 | 壺 | 口縁～胴 | - | 12.6 | - | 胴最大径20.5 | 良 | にぶい褐 | 7.5YR6/3 | にぶい褐 | 7.5YR6/3 | ○ | ◎ | | ◎ | | 赤色石 | 口縁：横ナデ<br>胴部：ナデ | 口縁：ナデ<br>胴：指ナデ・指オサエ | |
| 16 | 75 | １号竪穴住居跡埋土<br>Ｆ区Ⅲ層 | 弥終末～古墳初 | 壺 | 口縁～肩 | - | 13.4 | - | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 浅黄橙 | 7.5YR8/4 | ○ | ○ | ○ | | | | 口縁～肩：下方向ハケメ後ナデ | ナデ，肩：横ハケメ | |
| 16 | 76 | １号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 壺 | 口縁 | - | 11.7 | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | 浅黄 | 2.5Y7/3 | △ | ○ | △ | | | | ナデ | ナデ（摩滅が激しい） | |
| 16 | 77 | １号竪穴住居跡埋土・Ｆ区Ⅱ・Ⅲ層 | 弥終末～古墳初 | 壺 | 口縁～底 | - | 11.3 | - | 胴最大径20.5 | 良 | 灰褐 | 7.5YR5/2 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | ◎ | ◎ | | | △ | 火山ガラス | 胴：縦方向ハケメのちナデ | ナデ，ヘラ工具ナデ | 突帯文<br>外面煤付着 |
| 16 | 78 | １号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい黄褐 | 10YR7/4 | △ | ○ | ○ | | | | 縦ハケメ，横ナデ | 横ハケメ，ナデ | 刻目突帯文 |
| 16 | 79 | １号竪穴住居跡埋土<br>Ｆ区Ⅲ層 | 弥終末～古墳初 | 壺 | 肩～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄褐 | 10YR6/4 | 橙 | 7.5YR7/6 | ○ | ○ | ◎ | | | | 突帯上：縦ハケメ後ナデ<br>突帯下：斜めハケメ後ナデ | ナデ | 刻目突帯文 |
| 16 | 80 | １号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | にぶい橙 | 7.5YR7/3 | ○ | ○ | ○ | | | | 斜めハケメ | ナデ | 刻目突帯文<br>内側剥落 |
| 16 | 81 | １号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 壺 | 底 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 7.5YR4/2 | 褐 | 7.5YR4/3 | ○ | | | | △ | | 縦ハケメ | ナデ | |
| 16 | 82 | １号竪穴住居跡埋土 | 弥後 | 壺 | 肩～底 | - | - | 5.0 | 胴最大径18.5 | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | △ | ○ | | | | | 縦ハケメ | 胴部：縦ハケメ<br>底部：指オサエ | 平底 |
| 17 | 83 | １号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 鉢 | 口縁 | - | 19.0 | - | - | 良 | 明黄褐 | 10YR7/6 | 明黄褐 | 10ＹＲ7/6 | ○ | ◎ | ◎ | | | 褐灰色石<br>褐色石 | 横ナデ | 斜め横ナデ，横ナデ | 砂粒が１～3mm 大で粗成 |
| 17 | 84 | １号竪穴住居跡埋土・Ｆ区Ⅲ層 | 弥終末～古墳初 | 鉢 | 口縁～底 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ◎ | ○ | △ | | | | ナデ，指オサエ | ナデ，指オサエ | 煤付着 |
| 17 | 85 | １号竪穴住居跡埋土・Ｆ区Ⅲ層 | 弥終末～古墳初 | 鉢 | 胴～底 | - | 24.7 | 8.0 | - | 良 | 橙 | 7.5YR7/6 | 橙 | 7.5YR7/6 | | | | | | | 縦ハケメまたはヘラナデ | 横ヘラナデ | 底面やや上げ底。擬口縁か？ |
| 17 | 86 | １号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 鉢 | 口縁～底 | 7.5 | 10.3 | 3.0 | - | 良 | 明赤褐 | 2.5YR5/6 | 明赤褐 | 5YR5/6 | △ | △ | ○ | △ | | | 指ナデ | 指ナデ | |
| 17 | 87 | １号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 鉢 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 明赤褐 | 5YR5/6 | にぶい橙 | 5YR6/4 | ○ | ○ | △ | | | | 横ナデ | 横ナデ | |
| 21 | 89 | ２号竪穴住居跡埋土<br>８Ｔ | 弥終末～古墳初 | 甕 | 口縁～胴 | - | 27.0 | - | 胴最大径25.6 | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | 橙 | 5YR6/4 | ○ | ○ | △ | | | | 口縁：上方向板ナデのち横ナデ<br>胴部：下方向板ナデ | 口縁：横ナデ<br>胴部：下方向板ナデ | 外面煤付着<br>下部：使用摩滅大きい |
| 21 | 90 | ８Ｔ遺構（２号竪穴住居跡）埋土 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 口縁～胴 | - | 23.2 | - | 肩径23 | 良 | にぶい橙 | 5YR6/4 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | ◎ | ○ | △ | | | 白色軽石 | 口縁：横ナデ<br>胴部：縦方向ケズリのちナデ | 口縁：横ナデ<br>胴：ナデ | 口縁～胴部に煤付着<br>口唇部：沈線 |
| 21 | 91 | ２号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄褐 | 10YR6/3 | にぶい褐 | 7.5YR6/3 | ○ | ○ | △ | | | | 縦ハケメのちナデ | 口縁部：横ハケメのちナデ | 外面煤付着 |

## 第４表　弥生時代終末～古墳時代遺構出土土器観察表(2)

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 時代 | 器種 | 部位 | 法量（cm） | | | | 焼成 | 色調 | | | | 胎土 | | | | | | 器面調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | | 外面 | | 内面 | | 石英 | 長石 | 角閃石 | 雲母 | 輝石 | その他 | 外面 | 内面 | |
| 21 | 92 | ２号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 胴 | - | - | - | 胴最大径22.6 | 良 | にぶい赤褐 | 2.5YR4/4 | 黒 | 7.5YR2/1 | △ | ○ | | ○ | | | 上方向ハケメ | 上方向ハケメ | 外面煤付着 |
| 21 | 93 | ２号竪穴住居跡埋土Ⅰ区Ⅲ層 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 5YR6/8 | 橙 | 5YR6/6 | | △ | | ○ | △ | | 上方向ハケメ | 斜め上方向板ナデ | |
| 21 | 94 | ２号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初？ | 甕 | 底部 | - | - | 8.4 | - | 良 | 明赤褐 | 2.5YR5/6 | 明赤褐 | 2.5YR5/6 | ◎ | ◎ | ○ | | | | 横ナデのちミガキ，光沢なし | 横ナデ | 焼成：深層部黒化層あり |
| 21 | 95 | ８Ｔ遺構（２号竪穴住居跡）埋土 | 弥終末～古墳初？ | 短頸壺 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | 明赤褐 | 5YR5/6 | 橙 | 5YR6/6 | ○ | ○ | | | | | 横ナデ，縦方向ハケメ | 板ナデ，横ナデ | |
| 21 | 96 | ８Ｔ遺構（２号竪穴住居跡）床上 | 弥終末～古墳初？ | 蓋 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | △ | ○ | | ◎ | | | ナデ | ナデ | |
| 24 | 97 | ３号住居跡埋土 Ⅰ区Ⅲ層 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 口縁～胴 | - | 26.5 | - | 胴最大径25 | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | ◎ | ◎ | ○ | | | | 口縁部：横ナデ・指オサエ<br>胴：下方向板ナデ | 口縁：横ナデ<br>上胴：横・斜めヘラナデ<br>胴下：下方向ヘラナデ | 外面煤付着 |
| 24 | 98 | ３号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初？ | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 明赤褐 | 5YR5/6 | 赤褐 | 5YR4/6 | | △ | ○ | △ | △ | | 口縁：横ナデ<br>胴：縦方向ハケメ | 横ナデ | |
| 24 | 99 | ３号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初？ | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 7.5YR6/6 | にぶい赤褐 | 10YR7/2 | ◎ | ○ | ○ | | | | 横ナデ | 横ナデ | |
| 24 | 100 | ３号竪穴住居跡埋土 | 古墳前 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | | 良 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | ○ | ○ | | | | 黒色石 | ナデ | 横ヘラナデ・ナデ | 外面は３条の刻線。文様か？工具のキズか？ |
| 24 | 101 | ３号竪穴住居跡埋土 | 古墳中 | 甕 | 胴 | - | - | - | | 良 | にぶい黄褐 | 10YR6/3 | 褐灰 | 10YR4/1 | ◎ | ◎ | ◎ | | | | 突帯上：横ナデ<br>突帯下：２次焼成摩滅 | 横ナデ，斜め横ナデ | 外面煤付着 |
| 24 | 102 | ３号竪穴住居跡埋土 | 古墳前？ | 甕 | 胴 | - | - | - | 胴径18.6 | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | △ | △ | | | | 口縁：横ナデ<br>胴：上方向ハケメ | 口縁：横ナデ<br>胴：斜め工具ナデ | 断面三角形突帯文。外面煤付着 |
| 24 | 103 | ３号竪穴住居跡埋土 Ⅰ区Ⅱ層 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 底 | - | - | 10.2 | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | ○ | | ◎ | | | 横ナデ | 横ナデ | |
| 24 | 104 | ３号住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 底 | - | - | 10.0 | - | 良 | にぶい橙 | 5YR6/4 | 橙 | 5YR6/6 | △ | ○ | △ | | | ○（砂粒） | 指オサエのち縦ハケメ，ナデ | 工具ナデ，ナデ | |
| 24 | 105 | ３号竪穴住居跡埋土 Ⅰ区Ⅱ層 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 底 | - | - | 7.7 | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | 褐灰 | 5YR4/1 | △ | ◎ | | ○ | | | ナデ | 指ナデ | |
| 25 | 106 | ３号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 壺 | 口縁 | - | 13.6 | - | - | 良 | にぶい橙 | 5YR6/4 | にぶい橙 | 5YR6/4 | ◎ | ○ | | △ | | | 縦方向ハケメ | 横ナデ，ナデ | |
| 25 | 107 | ３号竪穴住居跡埋土 Ⅰ区Ⅲ層 | 弥終末～古墳初 | 壺 | 胴 | - | - | - | 胴最大径29.6 | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 赤褐 | 5YR4/6 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 突帯文上：縦方向ハケメ<br>突帯文下：下方向ハケメ | 横ナデ<br>一部縦方向の板ナデがみられる | 断面台形突帯文 |
| 25 | 108 | ３号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 黒 | 10YR2/1 | 褐灰 | 10YR4/1 | ○ | △ | | | | | ナデ | 指オサエ，ナデ | 刻目突帯文 |
| 25 | 109 | ３号竪穴住居跡埋土 Ⅰ区Ⅲ層 | 弥終末～古墳初 | 壺 | 底 | - | - | 0.8 | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | ◎ | | △ | | | 底：縦方向ハケメ | ナデ | 底部肥厚 |
| 25 | 110 | ３号竪穴住居跡埋土 Ⅰ区Ⅲ層 | 弥終末～古墳初 | 鉢 | 口縁～胴 | - | 12.6 | - | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | ○ | △ | △ | | | 口縁：横ナデ<br>胴：上方向ハケメ | 口縁：横ナデ<br>胴：縦方向工具ナデ | |
| 25 | 111 | ３号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 鉢または蓋 | 胴～底 | - | - | 4.2 | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | ○ | ○ | ○ | | | | ナデ・ハケメのちミガキ | ナデ・ハケメ | |
| 25 | 112 | ３号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 小型土器 | 口縁～底 | 4.0 | 4.0 | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | 明赤褐 | 5YR5/6 | △ | △ | | | | | 指オサエ | 指オサエ | 手捏ね |
| 29 | 114 | ４号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 口縁 | - | 15.3 | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/3 | 浅黄橙 | 10YR8/3 | ○ | ○ | ○ | | | | ナデ | 口縁：ハケメ後ナデ<br>胴：斜め工具ナデ後ナデ | |
| 29 | 115 | ４号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 下胴～底 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | ○ | △ | | | | ハケメ，横ナデ | 板状工具によるナデ | |
| 29 | 116 | ４号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 壺？ | 底 | - | - | 6.0 | - | 良 | にぶい黄褐 | 10YR4/3 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | ○ | ○ | | | | 赤褐色石 | 指オサエ，ナデ | 表面剥離 | 底面やや上げ底か？ |
| 29 | 117 | ４号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 高坏 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい赤褐 | 5YR4/3 | ○ | ◎ | △ | ◎ | △ | | 横方向工具ナデ | 横方向ミガキ | |
| 29 | 118 | ４号竪穴住居跡埋土 Ⅰ区Ⅲ層 | 弥終末～古墳初 | 高坏 | 口縁下～坏 | - | 28.7 | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | ○ | ○ | ○ | △ | | | 口縁部：横ナデ<br>坏部：縦方向ハケメ？ハケメ幾重にも重なる。 | 口縁～胴：ヘラミガキ<br>坏底：ナデ | 突帯文 |
| 29 | 119 | ４号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 高坏 | 坏 | - | - | - | - | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | 暗赤褐 | 5YR3/6 | ○ | ○ | ○ | △ | | | 口縁下：横ナデ<br>坏：縦ミガキ | 口縁下：横ハケメ，ナデ<br>坏：横ミガキ・縦ハケメ | 突帯文 |
| 29 | 120 | ４・５号竪穴住居跡埋土・床面 | 弥終末～古墳初 | 高坏 | 杯 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | ○ | ○ | △ | | | | 口縁下：ナデ，横ナデ<br>坏：縦ハケメ | 口縁下：ナデ，横ナデ<br>坏：工具ナデ | 突帯文 |

## 第４表　弥生時代終末～古墳時代遺構出土土器観察表(3)

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 時代 | 器種 | 部位 | 法量（cm） | | | | 焼成 | 色調 | | | | 胎土 | | | | | | 器面調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | | 外面 | | 内面 | | 石英 | 長石 | 角閃石 | 雲母 | 輝石 | その他 | 外面 | 内面 | |
| 29 | 121 | ４号竪穴住居跡埋土・床面 | 弥終末～古墳初 | 鉢 | 口縁～胴 | - | 17.3 | - | - | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | 明赤褐 | 5YR5/6 | ○ | ○ | ○ | ○ | | 白色軽石 | 口縁：横ナデ<br>胴：縦ハケメ | ナデ，底部に工具痕あり。 | |
| 29 | 122 | ４号竪穴住居跡埋土<br>Ⅰ区Ⅱ層 | 弥終末～古墳初 | 鉢 | 口縁～胴 | - | 8.8 | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 灰褐 | 7.5YR5/2 | △ | △ | | | | 灰白色石 | 横方向工具ナデのちナデ | 縦方向のハケメ | |
| 29 | 123 | ４号竪穴住居跡埋土<br>Ⅰ区Ⅱ層 | 弥終末～古墳初 | 小型土器 | 胴～底 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | ○ | ○ | | | | | 指ナデ・オサエ | 指ナデ | 丸底 |
| 33 | 128 | ５号竪穴住居跡 SK1 埋土 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | ○ | ○ | | | | | 口縁：横ナデ<br>胴：縦ハケメ | 口縁：横ナデ<br>口縁下：ヘラナデ<br>胴：工具ナデ | |
| 33 | 129 | ５号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 口縁～胴 | - | 24.4 | - | - | 良 | 赤褐 | 2.5YR4/6 | 赤褐 | 2.5YR4/6 | ○ | △ | | | | 赤褐色石<br>灰白色石 | 口縁：横ナデ<br>胴：縦方向ハケメ | 口縁：横ナデ<br>胴：斜め方向ハケメのちナデ | |
| 33 | 130 | ５号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 明赤褐 | 5YR5/6 | 褐灰 | 10YR4/1 | ○ | ◎ | | ◎ | | | 縦方向ヘラナデ | 縦方向ヘラナデ | |
| 33 | 131 | ５号竪穴住居跡 SK1 埋土 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 底 | - | - | 9.2 | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | 灰白 | 10YR8/2 | △ | ○ | | | | | ナデ | 工具によるナデ | 接合痕（擬口縁） |
| 33 | 132 | ５号竪穴住居跡 SK1 埋土 | 弥終末～古墳初 | 無頸壺 | 口縁～胴 | - | 7.0 | - | - | 良 | 明赤褐 | 5YR5/6 | 明赤褐 | 5YR5/6 | ○ | ○ | | | | | 口縁：横ナデ<br>胴：縦ハケメのちナデ | 口縁：横方向ナデ<br>胴：縦ハケメのちナデ | |
| 33 | 133 | ５号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 小型壺？ | 胴 | - | - | - | - | 良 | 黒褐 | 10YR3/2 | 暗褐 | 7.5YR3/4 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ハケメ，ナデ | ナデ | 坩の可能性もある。小型丸底壺にしては粗製 |
| 33 | 134 | ５号竪穴住居跡 SK1 埋土 | 弥終末～古墳初 | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 灰褐 | 7.5YR5/2 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ◎ | ◎ | | | | | 横ナデ | 横板ナデ | 断面三角形突帯文２条 |
| 33 | 135 | ５号竪穴住居跡埋土・床面 | 弥終末～古墳初 | 壺 | 胴～底 | - | - | 5.5 | - | 良 | 褐灰 | 10YR4/1 | 浅黄橙 | 10YR8/3 | ○ | ○ | ○ | | | | 縦方向板ナデのちナデ | 横方向板ナデのちヘラナデ | |
| 33 | 136 | ５号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 鉢 | 口縁 | - | 15.0 | - | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 橙 | 5YR6/6 | ○ | ○ | | | | | 口縁：横ナデ<br>胴：ナデ | 口縁：横ナデ<br>胴：斜めハケメ | |
| 33 | 137 | ５号竪穴住居跡・９号土坑埋土 | 弥終末～古墳初 | 鉢 | 口縁～底 | 6.8 | 9.7 | 2.7 | - | 良 | にぶい赤褐 | 2.5YR4/4 | にぶい赤褐 | 2.5YR4/4 | ○ | ○ | △ | | | | 口縁：横ナデ<br>胴：ミガキ | 口縁：横ナデ<br>胴：斜め板ナデ | |
| 33 | 138 | ５号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 台付鉢 | 口縁～底 | 6.5 | 9.5 | 5.3 | - | 良 | 赤褐 | 5YR4/8 | 橙 | 5YR6/6 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ナデ，棒状工具によるナデ（ミガキ？），ハケメ | ナデ | |
| 33 | 139 | ５号竪穴住居跡埋土 | 弥終末～古墳初 | 台付鉢 | 下胴～底 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | にぶい黄褐 | 10YR6/3 | ◎ | ◎ | ◎ | | | | ヘラミガキ，一部横板ナデ | 縦方向板ナデ，部分的に光沢有 | |
| 38 | 145 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 甕 | 口縁～胴 | - | 30.4 | - | 胴最大径 26.6 | 良 | 赤褐 | 2.5YR4/8 | 黒 | 7.5YR2/1 | ○ | △ | | | △ | | 口縁：横ナデ<br>胴：ナデ | 口縁：横ナデ<br>胴：横板ナデ | 絡縄突帯文<br>外面煤付着 |
| 38 | 146 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | にぶい黄橙 | 10YR7/3 | ◎ | ◎ | | | | | 口縁：横ナデ<br>胴：横板ナデ・指ナデ | 口縁：横ナデ，指ナデ<br>胴：ナデ | |
| 38 | 147 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 甕 | 口縁 | - | 22.0 | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/3 | にぶい黄橙 | 10YR7/2 | ○ | ○ | ○ | △ | | | 横ナデ | 横ナデ（工具痕） | |
| 38 | 148 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 灰褐 | 7.5YR4/2 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | ○ | ○ | △ | | | 斜め・横工具ナデ，指ナデ， | ナデ | 棒状工具による沈線？工具痕？ |
| 38 | 149 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 甕 | 口縁～胴 | - | 23.0 | - | - | 良 | 黒褐 | 7.5YR3/1 | にぶい褐 | 5YR4/4 | ○ | ○ | ○ | | | | 口縁：横ナデ<br>突帯上：縦ハケメ<br>突帯下：斜め板ナデ | 口縁：横ナデ<br>胴：横斜め板ナデ | 絡縄突帯文<br>外面煤付着 |
| 38 | 150 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | ○ | ○ | | | | | ナデ | 指オサエ・ナデ | 絡縄突帯文 |
| 38 | 151 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | 褐灰 | 7.5YR4/1 | ○ | ○ | △ | | | | ナデ<br>突帯下：ケズリ後ナデ | 斜め板ナデ | 絡縄突帯文 |
| 38 | 152 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 黒褐色 | 7.5YR3/1 | 褐灰色 | 7.5YR4/1 | △ | ◎ | △ | | | | ナデ<br>突帯下：横板ナデ | ナデのち指オサエ，横ハケメ | 絡縄突帯文 |
| 38 | 153 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | 赤褐 | 5YR4/6 | ○ | ○ | ○ | | | | 下胴：上方向ケズリ後ナデ | 指ナデ，指オサエ | |
| 38 | 154 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | 黒褐 | 5YR2/1 | △ | ○ | △ | | | | 下方向ケズリ後ナデ<br>下部：指オサエ | 横・斜め板ナデ | 外面煤付着<br>ライン状の凹み有り（継ぎ目？） |
| 39 | 155 | ６号住居跡埋土 | 古墳 | 甕 | 底 | - | - | 7.8 | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | 橙 | 7.5YR7/6 | ◎ | ○ | △ | | | | ナデ，指オサエ | ナデ？（摩滅が激しい） | |
| 39 | 156 | ６号住居跡埋土 | 古墳 | 甕 | 底 | - | - | 4.6 | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | にぶい黄褐 | 10YR4/3 | ○ | △ | △ | | | | ナデ | ナデ | |
| 39 | 157 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 甕 | 底 | - | - | 7.4 | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | ◎ | ○ | ○ | | | | ナデ<br>底面：指オサエ | ナデ | |
| 39 | 158 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 甕 | 底 | - | - | 7.2 | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | ○ | | ○ | △ | | ナデ，指オサエのち板状工具ナデ | 指オサエのち板状工具によるナデ | |

## 第４表　弥生時代終末～古墳時代遺構出土土器観察表(4)

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 時代 | 器種 | 部位 | 法量（cm） | | | | 焼成 | 色調 | | | | 胎土 | | | | | | 器面調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | | 外面 | | 内面 | | 石英 | 長石 | 角閃石 | 雲母 | 輝石 | その他 | 外面 | 内面 | |
| 39 | 159 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 甕 | 底 | - | - | 8.4 | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | 褐灰 | 5YR4/1 | ○ | ○ | ○ | | | | 指ナデ | 摩滅 | |
| 39 | 160 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 甕 | 底 | - | - | 6.9 | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | 橙 | 5YR7/6 | ○ | ○ | ○ | | | | 胴～底：ナデ（接合部は指オサエ後ナデ） | ナデ，工具によるナデ | |
| 39 | 161 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 甕 | 胴～底 | - | - | 10.4 | - | 良 | にぶい赤褐 | 2.5YR4/4 | にぶい赤褐 | 5YR4/3 | △ | ◎ | △ | | | | 胴：ナデ，板状工具によるナデ（接合部上方向ケズリ） | 胴：板状工具ナデ<br>底：指ナデ | |
| 40 | 162 | ６号住居跡埋土 | 古墳 | 壺 | 口縁～底 | 63.0 | 15.4 | 7.4 | 胴最大径45.7 | 良 | 黒褐 | 7.5YR2/2 | にぶい橙 | 5YR6/4 | ○ | ◎ | ○ | | | | 頸～突帯文上胴：ナデ<br>突帯下～底：縦ハケメまたは板ナデ後に縦・斜めミガキ | 口縁：横ナデ<br>胴～底：ナデ | 二重口縁：櫛描波状文<br>胴：絡縄突帯文<br>底面：穿孔 |
| 42 | 163 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 壺 | 口縁～肩 | - | 12.3 | - | - | 良 | 赤 | 10R4/6 | 赤 | 10R4/6 | ○ | ○ | | | | | 口縁：横ナデ<br>肩：ヘラミガキ | 口縁：横方向板ナデ<br>胴：横方向板・指ナデ | |
| 42 | 164 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 壺 | 口縁 | - | 10.1 | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | ○ | ○ | △ | | | | 横ナデ | 横方向板または指ナデ | |
| 42 | 165 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 壺 | 底部 | - | - | 4.0 | - | 良 | 赤褐 | 2.5YR4/6 | 赤黒 | 2.5YR2/1 | ◎ | ◎ | △ | | | | 縦方向：ヘラミガキ | 横方向：ヘラナデ | |
| 42 | 166 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 鉢 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 黒 | 7.5YR1.7/1 | 明赤褐 | 5YR5/1 | ○ | ◎ | △ | | | | 縦方向工具ナデ | 口縁：横ナデ<br>胴：指オサエ後ナデ | |
| 42 | 167 | ６号竪穴住居跡埋土 | 古墳 | 鉢 | 底 | - | - | 0.7 | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 橙 | 5YR6/6 | ○ | ○ | △ | | | | 指オサエ，ナデ | ナデ？（摩滅が激しい） | 底部は肥厚 |
| 43 | 168 | １号土坑埋土 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 灰黄褐 | 10YR4/2 | にぶい黄褐 | 10YR5/3 | ◎ | ◎ | | | | 灰白色石，橙色石 | 口縁：ハケメ後横ナデ<br>胴：縦ハケメ | 口縁：横方向ハケメ後ナデ | |
| 46 | 169 | 掘立柱建物跡Ｐ９埋土 | 弥終末～古墳初？ | 不明 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 褐 | 7.5YR4/3 | にぶい黄褐 | 10YR4/3 | ○ | ○ | | | | | 縦工具ナデ | 縦工具ナデ | |
| 49 | 170 | Ｊ区Ⅳ層 P25 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい褐 | 7.5YR4/4 | ○ | ○ | ○ | | | | 横ナデ | 横ナデ | |
| 49 | 171 | Ｊ区Ⅳ層 P25 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 底 | - | - | 8.0 | - | 良 | 橙 | 5YR7/6 | 橙 | 5YR6/6 | △ | ◎ | △ | | | | 板状工具によるナデ，<br>指オサエのちナデ | ナデ | |
| 49 | 172 | Ｊ区Ⅳ層 P14 | 弥終末～古墳初 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 褐 | 7.5YR4/3 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | ◎ | | | | | 横ナデ | 斜め・縦工具ナデ | |

## 第５表　３号竪穴住居跡出土土製品計測表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 最大長（cm） | 最大幅（cm） | 最大厚（cm） | 重さ（ｇ） | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 25 | 113 | 3.2 | 3.4 | 2.8 | 18.95 | ３号住居跡埋土 | 焼成前に穿孔あり。 |

## 第６表　竪穴住居跡出土石器計測表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 器種 | 石材 | 最大長（cm） | 最大幅（cm） | 最大厚（cm） | 重さ（ｇ） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 18 | 88 | １号竪穴住居跡埋土 | 磨製石鏃 | 頁岩 | 3.5 | 2.8 | 3.0 | 4.58 | 先端部欠損。中央は基部から先端部にかけて凹む。 |
| 30 | 124 | ４号竪穴住居跡埋土 | 石錐 | 頁岩 | 2.0 | 1.6 | 3.1 | 0.62 | |
| 30 | 125 | ４号竪穴住居跡埋土 | 敲石 | 砂岩 | 11.9 | 5.9 | 3.4 | 258.40 | |
| 30 | 126 | ４号竪穴住居跡埋土 | 磨敲石 | 砂岩 | 6.8 | 6.5 | 0.9 | 64.22 | 円盤型。表面は磨面。裏面中央に敲打痕。 |
| 30 | 127 | ４号竪穴住居跡埋土 | 磨製石斧 | 頁岩 | 3.8 | 2.7 | 0.8 | 9.45 | 小型の扁平片刃石斧。 |
| 34 | 140 | ５号竪穴住居跡埋土 | 敲石 | 安山岩 | 11.1 | 9.0 | 5.6 | 759.02 | 表裏，上面に顕著に敲打痕 |

## 第７表　５号竪穴住居跡出土ガラス玉計測表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 最大長（cm） | 最大幅（cm） | 最大厚（cm） | 重さ（ｇ） | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 35 | 141 | グリッド２　SK1 埋土 | 3.5 | 3.0 | 1.8 | 0.04 | 濃紺色 | 気泡あり。鋳型整形。 |
| 35 | 142 | グリッド２・３・９・10　SK1 埋土 | - | - | 1.9 | 0.01 | 濃紺色 | 気泡あり。鋳型整形。半分欠損。 |
| 35 | 143 | グリッド９　SK1 埋土 | 3.0 | 3.0 | 2.0 | 0.02 | 水色 | 気泡あり。鋳型整形。 |
| 35 | 144 | グリッド４　貼床 | 6.0 | 7.0 | 3.5 | 0.21 | 灰青色 | 気泡あり。鋳型整形。側面に穿孔あり。 |

## ２．包含層出土遺物

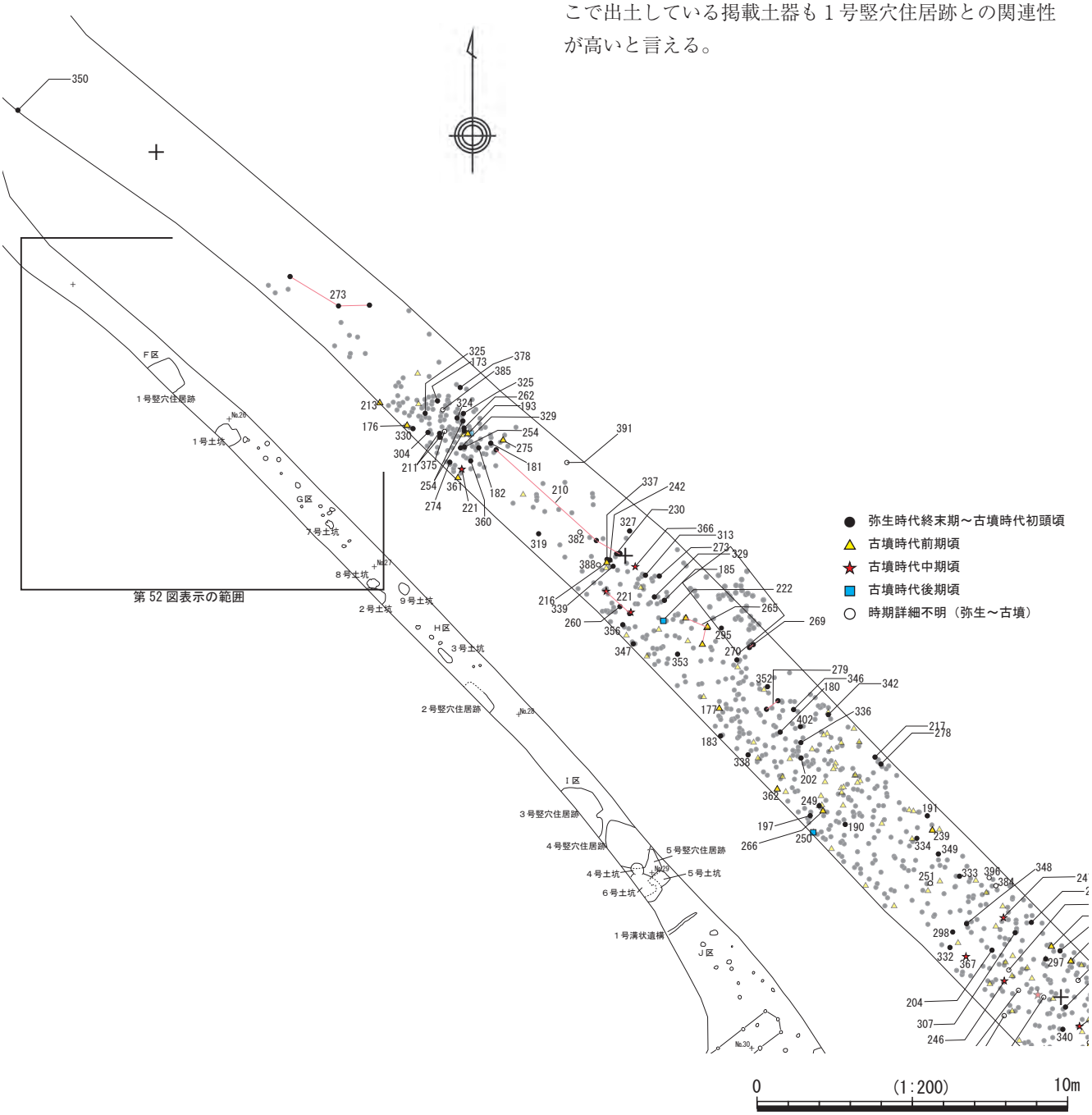
Ⅱ・Ⅲ層中，特にⅢ層では弥生時代終末期から古墳時代の遺物が多く出土している（第 52 ～ 54 図）。遺物は弥生時代終末期の土器片が目立つ印象があるが，多くの場合，正確な時期を特定することが難しかった。また，Ⅲ層では縄文時代晩期～弥生時代早期などの土器片も含まれており，観察ではこの時期の土器片と胎土が似ているものもある。

口縁部や底部，概形が判断できるものは可能な限り型式分類しているが，概ね胴部のハケメが顕著に残るものは弥生時代終末～古墳時代前期にしており，主にナデ調整を行っているものは古墳時代としている。

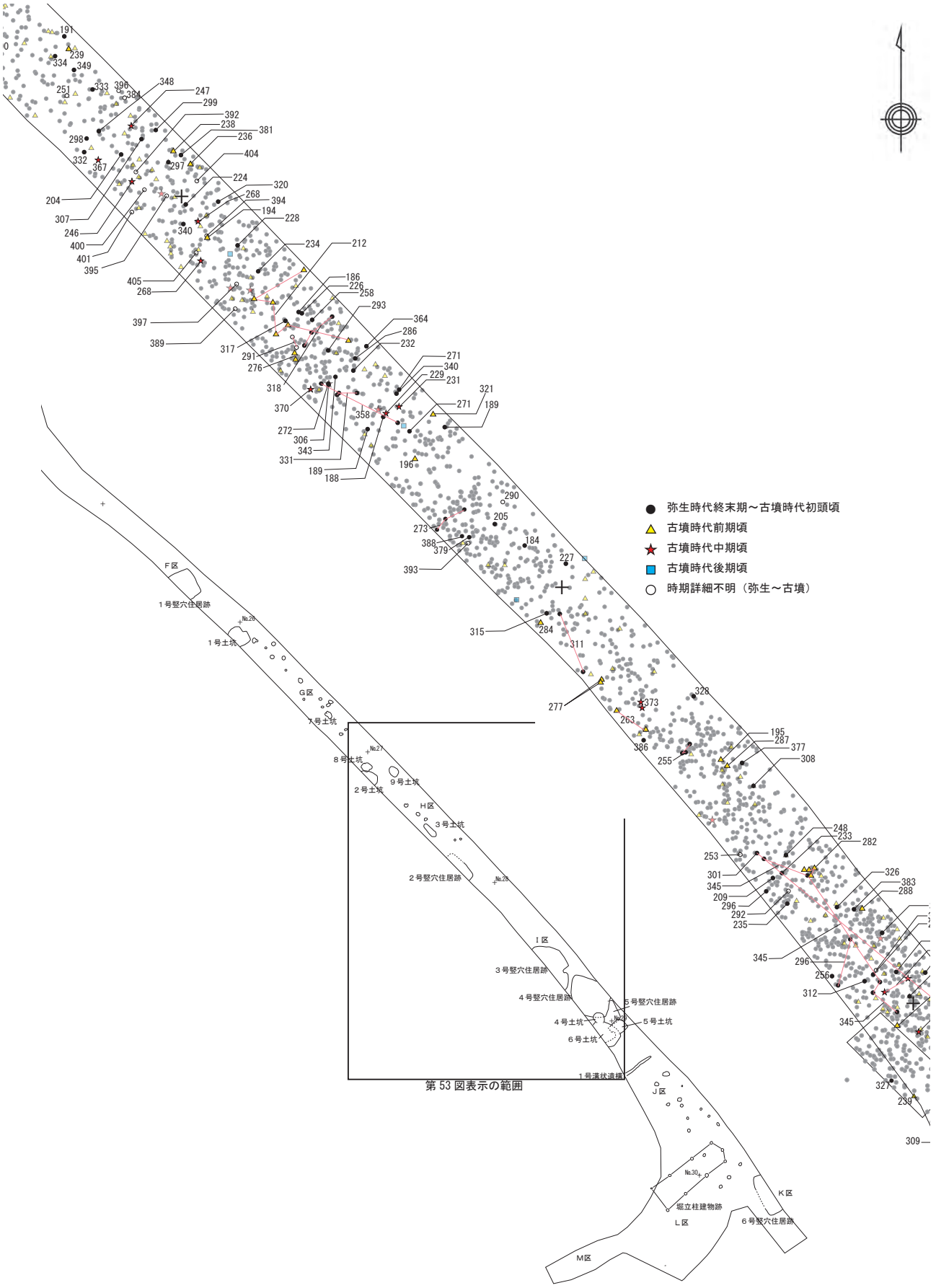
傾向として，弥生時代終末期～古墳時代初頭と思われる土器片は調査区全体に分布する。しかし，これらの土器片には，弥生時代後期に含めても良いもの，古墳時代前期に含めても良いものも含まれる。

古墳時代前期の土器片も弥生時代終末期～古墳時代初頭の土器片と同じく調査区全体に分布するが，場所によって集中し，またＪ～Ｌ区に多く分布する傾向がある。古墳時代中期以降の遺物も主にＪ～Ｌ区に多く分布する傾向がある。

なおＦ区で集中して出土している遺物は，１号竪穴住居跡検出前に包含層遺物として取り上げたが，１号竪穴住居跡の埋土遺物とも考えることができる。従って，ここで出土している掲載土器も１号竪穴住居跡との関連性が高いと言える。

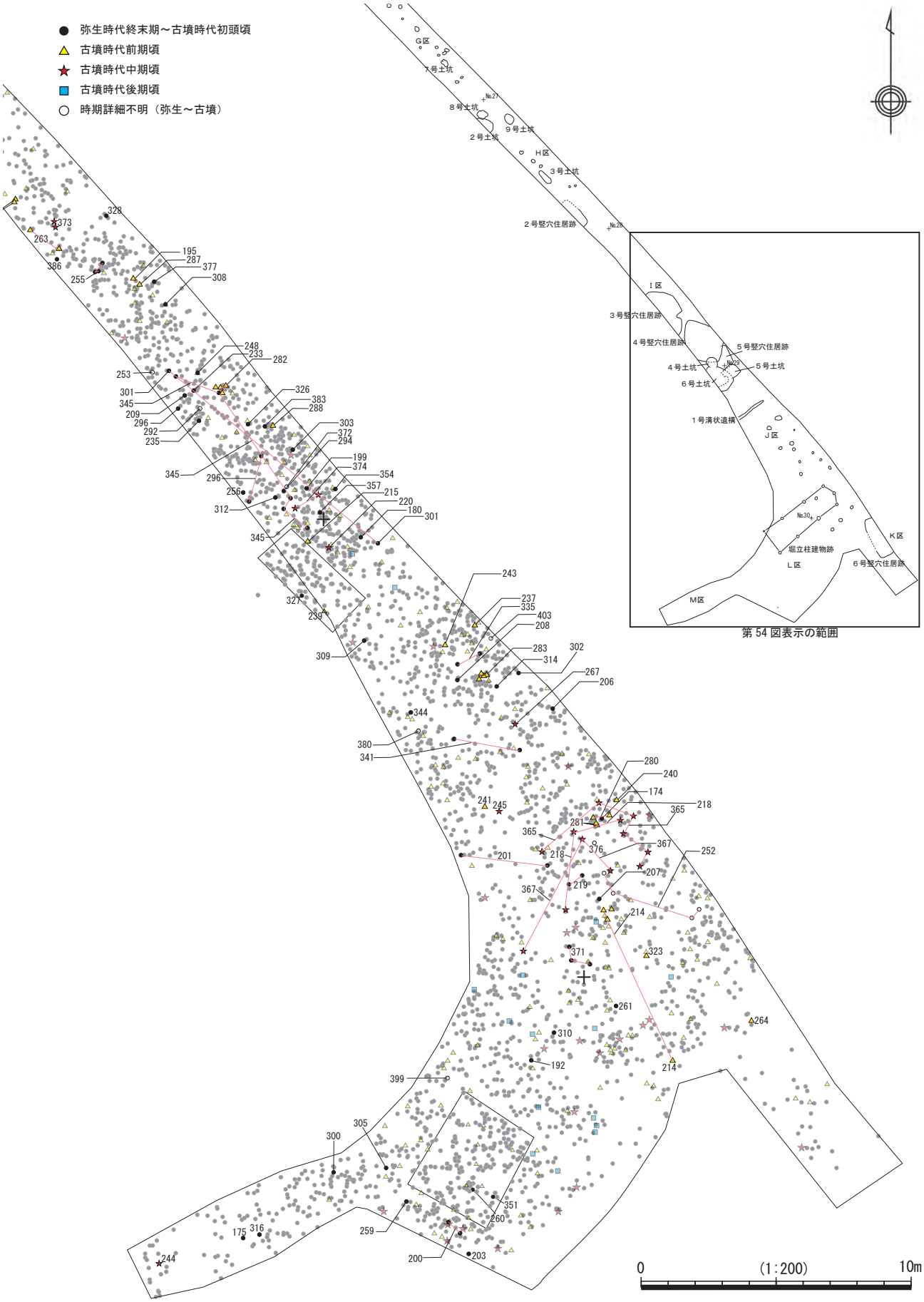



第 52 図　弥生時代終末期～古墳時代包含層出土土器分布図（Ｆ・Ｇ区）




第53図　弥生時代終末期～古墳時代包含層出土土器分布図（H・I区）

0　(1:200)　10m




第54図　弥生時代終末期～古墳時代包含層出土土器分布図（J・K・L・M区）

⑴　土器

【包含層出土土器①　甕形土器　第55図173～186】

173～177は大甕である。173は外反して広がる口縁部の端部に粘土の接合痕跡が確認できる。口縁部下は「く」字に屈曲し，屈曲部はやや肥厚する。口唇部は丸く整形する。屈曲部下に断面三角形の突帯文が貼り付けられる。突帯文の先端は鋭く整えられている。外器面突帯文下は縦方向のハケメ調整痕跡を残す。内器面は横方向のハケメ調整が施されている。

174・175は胴部である。断面「コ」字形の突帯文を貼り付け，横ナデで調整している。突帯文上下に縦方向のハケメ調整痕が残る。174の内器面は横方向のハケメ調整が施される。175の内器面はヘラ工具によるナデ調整がされている。

176・177は刻目突帯文を付する胴部である。断面三角形の突帯文に施された刻目は突帯文に対して垂直に深く刻み込まれ，右側に向けて次第に浅くなっており，刻目の平面形は右向き三角形となる。いずれもハケメとナデによる調整がされている。

178～186は口縁部が大きく外向し，胴部との境目は「く」字形に屈曲する形態で，口縁部外器面はナデ・横ナデ調整が施される個体である。178・179は胴部との境目に強い稜が生じ，182～186は屈曲の強さはあるものの，178・179ほどの明瞭な稜線は生じない。

178の口唇部は丸く成形される。口縁部外器面には煤が付着する。179の口唇部は平坦に成形される。

180～183の口唇部は丸く成形される。180は内外器面とも摩滅しており，詳細は不明であるが，ハケメ調整痕は確認されない。181は外器面に煤が付着する。182は口縁部が大きく外側に拡張する。上胴部に上方向のハケメ調整痕跡を残す。

183・184は口縁部の器厚さが薄くなり，口唇部は細く丸く成形される。口縁部～上胴部は横方向のハケメ調整がされる。

185・186は口唇部が平坦に成形されている。いずれも内外器面とも横ナデ調整により器面を丁寧に整えている。

【包含層出土土器②　甕形土器　第56図187～211】

187～192は口縁部と胴部との境目は緩やかになり，断面概形が緩やかなS字形を呈する。いずれも口唇部は丸く成形される。190・191は口縁端部が細く成形される。

187に関しては胴部への移行が不明であるが，口縁部が外反しているところから想定すると，あまり胴部との間に強い稜が生じないものと思われる。口縁部に逆「ノ」字形の刻線が連続して施文される。

188・189は口縁部内器面に横方向の板ナデ調整痕跡が顕著である。190は口縁部が短い。胴部内外器面は上方向のハケメ調整を施す。外器面に煤が付着する。191の上胴部外器面に上方向の板ナデ，内器面に上方向のハケメ調整が施される。192の上胴部外器面にハケメ調整痕がわずかに残る。

193は胴部の張りが弱く，口縁部と胴部の境目がさらに緩やかになる。外器面に煤が付着する。

194～196は口唇部を平坦に整えている。195・196は口唇部のナデ調整によってやや凹む。194は内外器面とも横ナデ・板ナデ調整が施されているが，光沢がある。196の内器面は斜め方向の板ナデ調整がされている。

197・198の詳細は不明である。口唇部は平坦に成形される。ここで報告するが，時代・器種については検討が必要である。197の内器面は指ナデ調整がされる。

199～209は，口縁部が大きく外向し，胴部との境目は「く」字形に屈曲する形態を呈すると推測できるものである。200～208は胴部が無いため，口縁部と胴部との屈曲が不明であるが，口縁部の傾きから，強い屈曲を伴うものと判断した。いずれも口縁部外器面に縦方向のハケメ調整が施されており，カキアゲ技法が採用されている。199～204は口唇部が丸く成形され，205・206は口縁端部が細く，口唇部をやや外反して丸く成形する。207～209の口唇部は平坦に成形される。

199の胴部外器面はケズリ調整が確認できる。200は口縁端部に沈線文がある。内器面は横方向のハケメ調整が施される。同じく200・202・204・205・208の内器面も横方向のハケメ調整が施される。

210・211は口縁部と胴部の屈曲が緩やかで断面概形は緩やかなS字形を呈する。口縁部が短い。いずれも口縁部に縦方向のハケメ調整が施される。210は口唇部を丸く成形し，211は平坦に成形する。211は胴部外器面も縦方向のハケメ調整がされており，また内器面の口縁部～上胴部は斜め方向のハケメ調整が施される。

200・210・211の外器面には煤が付着する。

【包含層出土土器③　甕形土器　第57図212～232】

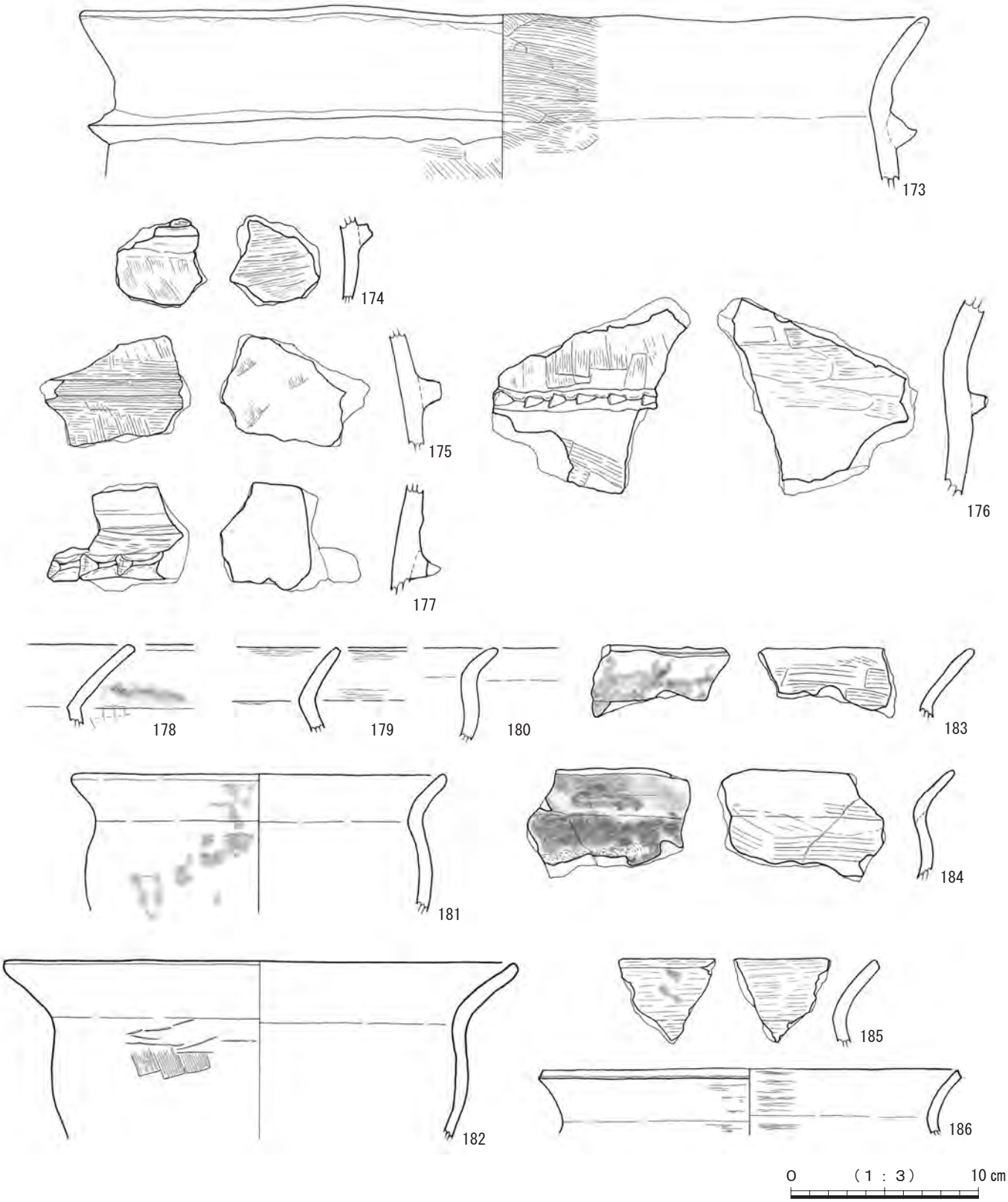
212～214は口縁部と胴部の屈曲が緩やかで断面概形は緩やかなS字形を呈する。いずれも口縁部外器面は縦方向のハケメ調整を施す。212の口縁部はハケメ調整後に工具によるナデ調整を施している。胴部外器面は上方向のハケメ調整を施している。内器面は口縁部を横方向のハケメ調整後に工具ナデ調整を施し，胴部は斜めのハケメ調整後にナデ調整をしている。213の胴部外器面は斜め方向にハケメ調整を行っている。内器面は横方向のハケメ調整後にナデ調整を施す。214の外器面は屈曲部から胴部は下方向へとハケメ調整を施している。内器面も胴部は縦方向のハケメ調整である。212は口唇部を丸く成形し，213・214は平坦に成形する。

215～217は胴部が無いため，口縁部と胴部との屈曲が不明である。口縁部外器面はハケメ調整が施されている。内器面はナデ調整が施されている。いずれも口唇部を平坦に成形する。216はナデ調整によって浅く凹む。

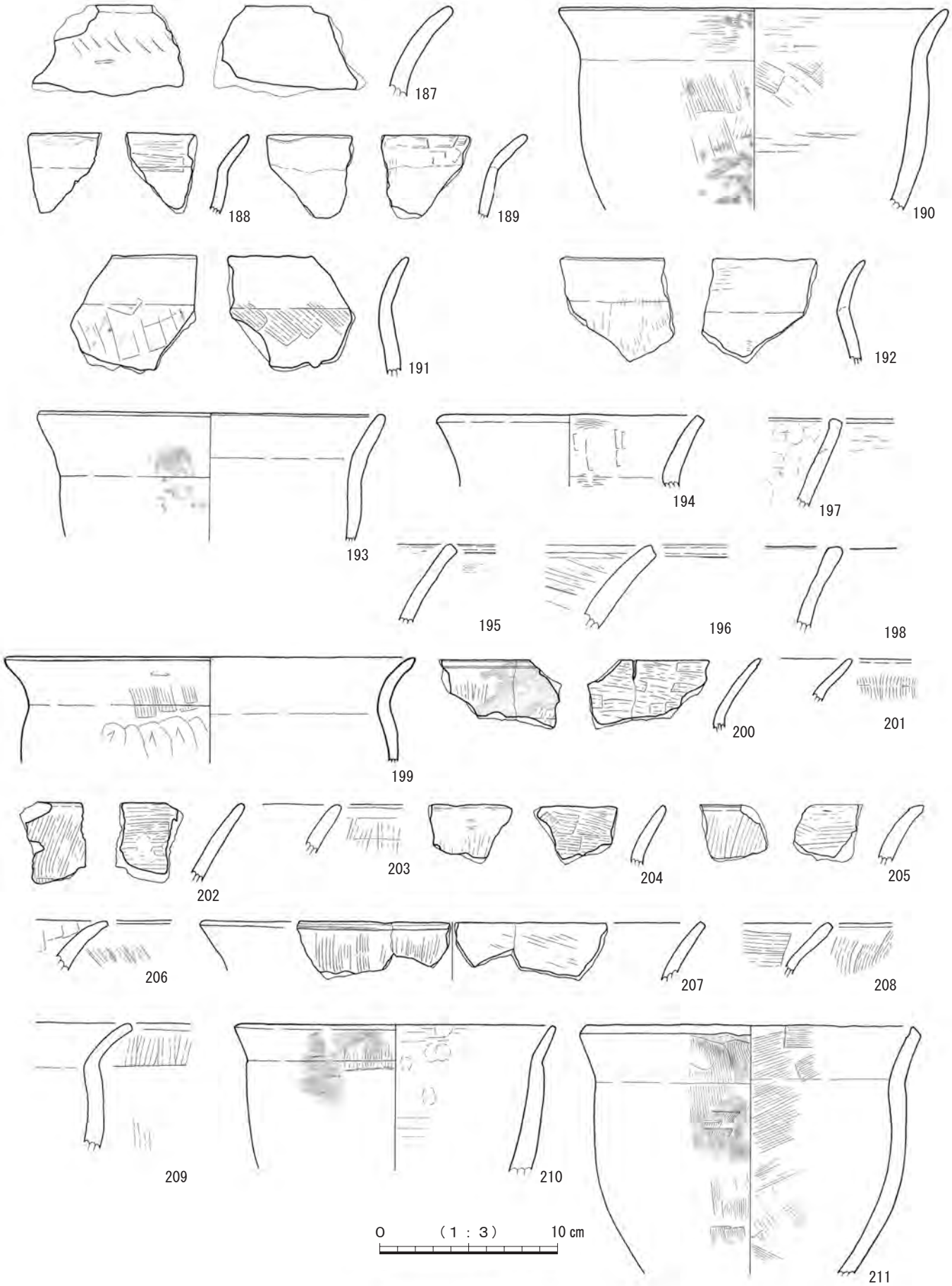
218 ～ 221 は口縁部が外反するが，胴部との境目が不明瞭である。いずれも口唇部は平坦に成形される。218 ～ 220 は口縁部に縦方向のハケメ調整が施される。218 は上方向へ調整が施されている。

221 は口縁部としているが，口唇部の形態から擬口縁の可能性がある。222 は口縁部が直立する。口縁端部はやや内向する。

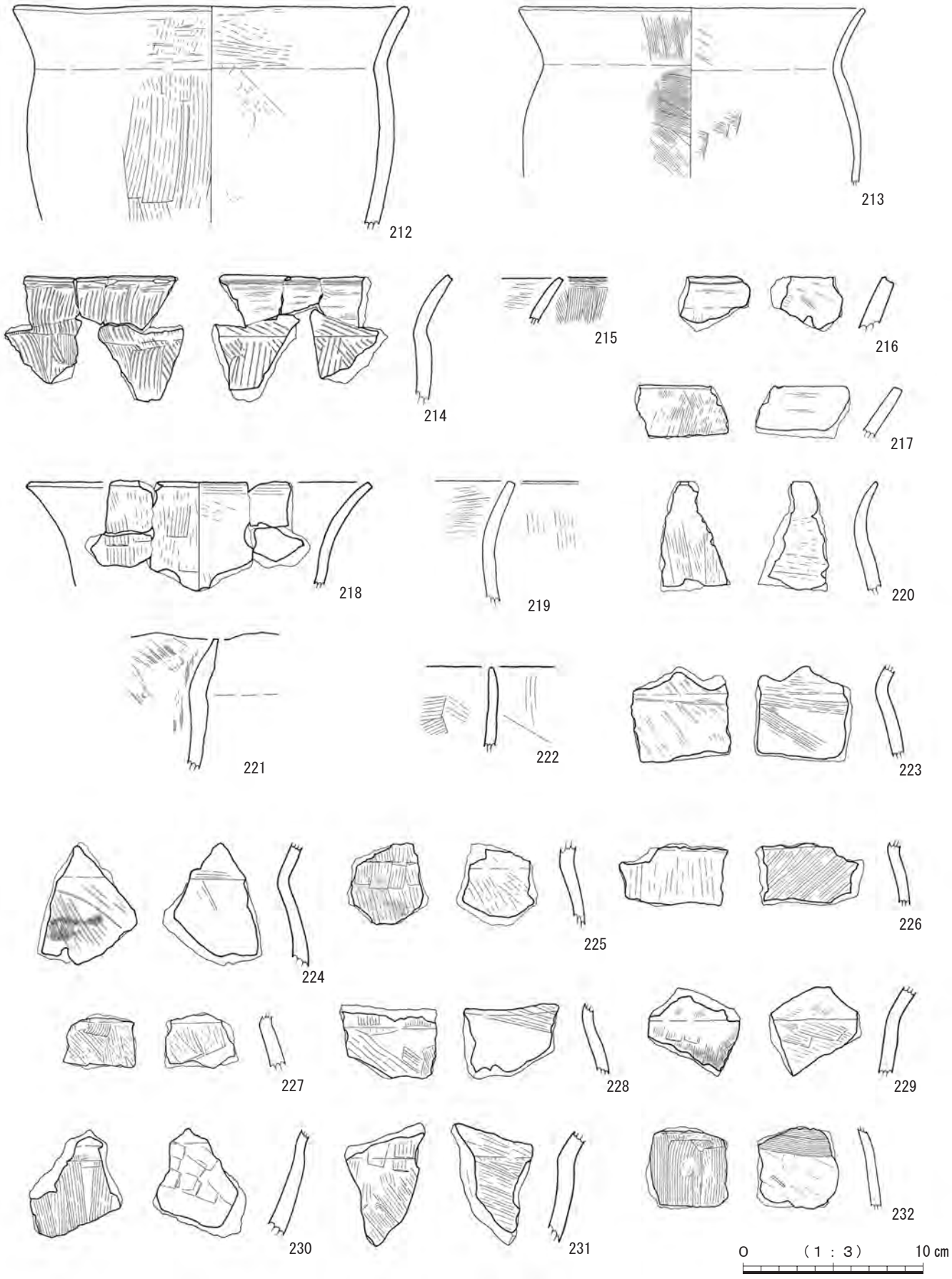
223 ～ 232 は胴部である。いずれも外器面はハケメ調整が施されている。223・224 は口縁部と胴部の屈曲が強く，「く」字を呈する。225 ～ 231 は口縁部と胴部の屈曲は緩やかである。




第 55 図　包含層出土土器①　甕形土器




第 56 図　包含層出土土器②　甕形土器




第 57 図　包含層出土土器③　甕形土器

【包含層出土土器④　甕形土器　第58図233～251】

233・234は垂直に立ち上がる胴部に内湾する口縁部を取り付けた受口状口縁を呈する。口縁部は胴部との境目で大きく外へ屈曲し，内外器面とも口縁部と胴部の境に明瞭な稜線が生じる。233の外器面には沈線が施される。内器面は横方向にハケメ調整が施される。234は内外器面とも横・斜め方向のヘラ状工具ナデ調整が施される。

235～251は，突帯文を伴う胴部である。235～238は突帯を貼り付け，突帯の上下を指で押さえることによって仕上げている。235は突帯文直下の胴部がやや外側に膨らむ。口縁部と胴部の境目の断面概形が緩やかなS字形を呈する形態と思われる。236は直立する胴部に，外向する口縁部が取り付けられる。口縁部と胴部の境目は屈曲し，屈曲部に刻目突帯文が貼り付けられる。237は口縁部と胴部の境目の断面概形が緩やかなS字形を呈している。突帯文には部分的に指頭圧痕が施される。238は直立する胴部に２条の突帯文が確認される。内外器面に斜め方向のハケメ調整痕が確認できる。

239・240は，刻目突帯文である。いずれも断面台形または断面三角形の突帯頂部に丸みのあるヘラ状工具を刺突している。239の外器面はハケメ調整のちナデ調整がされており，内器面は横方向にヘラナデ調整痕がある。小片のため，壺形土器の可能性もある。240は突帯文直下で内側に屈曲し，稜が生じる。口縁部は欠損しているが，突帯上部はやや外向する傾向を呈し，口縁部と胴部の境目の断面概形がS字形を呈する形態と思われる。明瞭な刻目ではなく，工具で突帯の端部に軽く押し当てている。外器面にはわずかにミガキ調整痕もある。内器面は指オサエで調整している。241は緩やかに内湾する胴部である。外器面は縦方向のハケメ調整痕が残り，煤が付着する。内器面には指頭圧痕がある。

242～248は刻目に布目圧痕が確認できる。242・243は突帯文下の胴部がやや外側に膨らみ，緩やかなS字形を呈しながら口縁部へと立ち上がる。242の突帯下は刻目施文時の工具痕が残る。243の外器面はナデ調整となっており，煤が付着する。内器面はハケメ調整後に指オサエ・ナデ調整を行っている。244は緩やかに内湾する胴部である。縦方向にハケメ調整を施すが，刻目突帯文直上は帯状に横ナデ調整がされている。内器面は下部に指頭圧痕，上部は斜め方向のハケメ調整を行い，後にナデ調整を施す。245は口縁部まで真っ直ぐに外向する胴部である。内器面は指ナデ調整がされている。246～248は口縁部から胴部にかけてほぼ直立する。246・247内器面の上胴部に指頭圧痕が施される。246の口縁部内器面は横ナデ調整を施す。248は突帯の末端部が交差する部分で，右側の突帯末端は左側突帯末端の直下に貼り付けられる。

249・250は丸みのある突帯を貼り付け，刻目を施す。突帯文直下に刻目を施した工具痕が残る。249の内器面には指頭圧痕が残る。250の外器面刻目突帯文直下は光沢があり，ミガキ調整がされていると思われる。251は突帯文が断面台形であるが，突帯頂部が摩滅している可能性もある。わずかに刻目らしき痕跡が残る。

【包含層出土土器⑤　甕形土器　第59図252～268】

252・253は胴部である。いずれも下部は下から上へのハケメ調整が施される。253の内器面下部に煤が付着する。

254～268は底部である。いずれも中空高台となっている。254～258は高台が外反しながら大きく開き，端部は丸く整形される。高台内の天井部は丸く整形される。254は内外器面とも板ナデ調整が施される。255の外器面は縦方向のハケメ調整，内器面の底部端部は横方向のケズリ調整が施される。256の内器面も横方向にケズリ調整を行っている。外器面は胴部境目のところで，上方向のハケメ調整の痕跡が見られる。257は内外器面とも横方向の板状工具ナデ調整がされている。258の外器面は胴部との境目に上方向のハケメ調整痕が確認できる。

259は高台が外反しながら開く。端部は細く整形される。高台内の天井部は丸く整形される。260～264は直線的に広がる高台である。260は内器面の端部は外反し，端部が細く整形される。261・262は端部が丸く整形される。高台内の天井部は丸く整形される。262は内外器面とも板状工具によるナデ調整が施される。263～265は高台内の天井部がやや下方に膨らむ。263の高台端は平坦に整形され，263の下胴部内外器面は上方向の工具ナデと指オサエによる調整がされる。264の高台端は丸く整形されている。高台は指オサエによる調整で仕上げている。胴部との境目から上方向に板状工具によるナデ調整の痕跡がある。底部は充填し，高台を貼付けている。

266は底面の直径に対して器厚が厚い。内器面端部は外反して端部を細く整形する。外器面は上方向への板ナデ調整が施される。

267は底面がわずかに凹む形態であるが，やや外反した底部は脚部として貼り付けられている。胴部と底部の境目は指オサエで整えている。 268は脚の比較的短い中空高台である。下胴部は上方向のケズリ調整が施される。

【包含層出土土器⑥　壺形土器　第60図269～295】

269・270は口縁端部が大きく外反する。口唇部が平坦に整形され，ナデ調整によって浅く凹む。269は外器面に縦方向のハケメ調整痕が残る。

271～273は緩やかに外反し，ラッパ状に開く。273は口唇部を平坦に整え，頸部の屈曲が強い。271～273

いずれも外器面に縦方向のハケメ調整痕を残す。

274 ～ 277 は肩部から直線的に外向するが，上方でやや屈曲気味に外反し，わずかに外器面に稜が生じる。277 は口縁端部の屈曲が強く，口縁上面がやや下向する。276 は頸部の屈曲が強い。274 ～ 277 いずれも外器面に縦方向のハケメ調整がされている。

278・279 の口縁部は直線的に外向して立ち上がる。口縁端部の内器面が外反することで，口唇部が細く整えられる。いずれも，外器面に縦方向のハケメ調整が施される。

280 ～ 282 は頸部の屈曲が緩やかであり，282 はあまり胴部が張らない。口縁部は直線的に外向する。281 の内器面は口縁部と胴部の境目が肥厚し，明瞭な稜が生じる。280・281 はいずれも外器面が縦方向のハケメ調整，内器面が横方向のハケメ調整が施される。282 の外器面は斜め・縦方向にハケメ調整が施される。部分的に指ナデの痕跡もある。内器面の口縁部は斜め方向のハケメ調整痕を残し，上胴部は指頭圧痕が顕著である。

283 は口縁部が直線的に外向する。頸部は大きく屈曲し，肩部は外側に大きく張る。胴部の径が最大のところに刻目突帯文が貼り付けられる。断面三角形の突帯頂部にヘラ状工具を刺突している。刺突は先端が丸みのあるものを使用している。外器面は縦方向のハケメ調整である。口縁部は上方にハケメ調整を施す。内器面も横方向のハケメ調整痕を残す。

284・285 は櫛描波状文を伴う口縁部である。285 の口唇部下８～10mm 下方には，直線状の文様が観察できる。細かく見ると径１mm 台の管状工具の刺突文が一直線に並んでいるような形態を呈している。櫛描施文具の先端部を刺突している可能性もある。部分的に櫛描波状文によって，かき消された様子が確認できるので，この文様は櫛描文を施す前に施文されている。

286 ～ 289 は二重口縁壺の口縁部である。286 は上方に延びる擬似口縁部の外面に粘土を貼り付け，貼り付けた粘土の上部と下部外反させて整形している。これによって口縁端部は大きく外反し，口縁下部と頸部との境目は段が生じる。内外器面とも横ナデ調整で仕上げている。287 は頸部から外反する擬口縁の端部に直立する口縁部を加えて整形していると推測する。残存する口縁端部が口唇部であるか，あるいは口唇部が摩滅しているのか不明である。

288・289 も二重口縁壺の口縁部である。いずれも大きく外反する擬口縁の口縁端部に粘土を貼り付け，口唇部は先端を尖らせる。口縁端部の外器面は垂直に整形され，ナデ調整によりわずかに凹面を形成する。

290 は無頸壺である。口縁端部が直立し，口唇部を細く整形する。口縁部下は大きく膨らみ，胴部の張る形態である。

291・292 は口縁部下～肩部にあたる。283 と同じ形態と推測する。293 ～ 295 は肩部である。あまり胴部が張らない形態である。293 の外器面は横方向のハケメ調整を施す。内器面は縦方向のケズリ調整がされている。294 は内外器面ナデ調整が施される。外器面に煤が付着する。295 は頸部に刻目突帯文が貼り付けられる。内外器面ともに縦方向にハケメ調整を施す。

**【包含層出土土器⑦　壺形土器　第 61 図 296 ～ 320】**

296 は断面三角形の突帯文を２条貼り付ける。内外器面ハケメ調整を施す。297･298 は胴部に断面台形の突帯文を貼り付け，突帯の上下を指オサエで整える。

299 ～ 304 は胴部に断面三角形の突帯文を施し，頂部にヘラ状工具による刻目を施す。いずれも外器面は縦方向のハケメ調整が施される。内器面の調整については，299・303 がヘラ状工具ナデ調整，301・302 が斜め，または横方向のハケメ調整を施されている。303 の外器面に煤が付着する。

305 ～ 307 は胴部に断面台形の突帯文を施し，頂部にヘラ状工具による刻目を施す。305 は内器面に指頭圧痕が残る。306 は内外器面にハケメ調整がされている。307 の内器面は横方向のナデ調整がされている。

308 は突帯文を貼り付けた後，断面Ｍ字形に整形し，突帯の凹部分に，米粒形の浮文を貼り付けている。内器面に横方向のハケメ調整がされている。309 は下胴部である。外器面は縦方向のハケメ調整が顕著である。

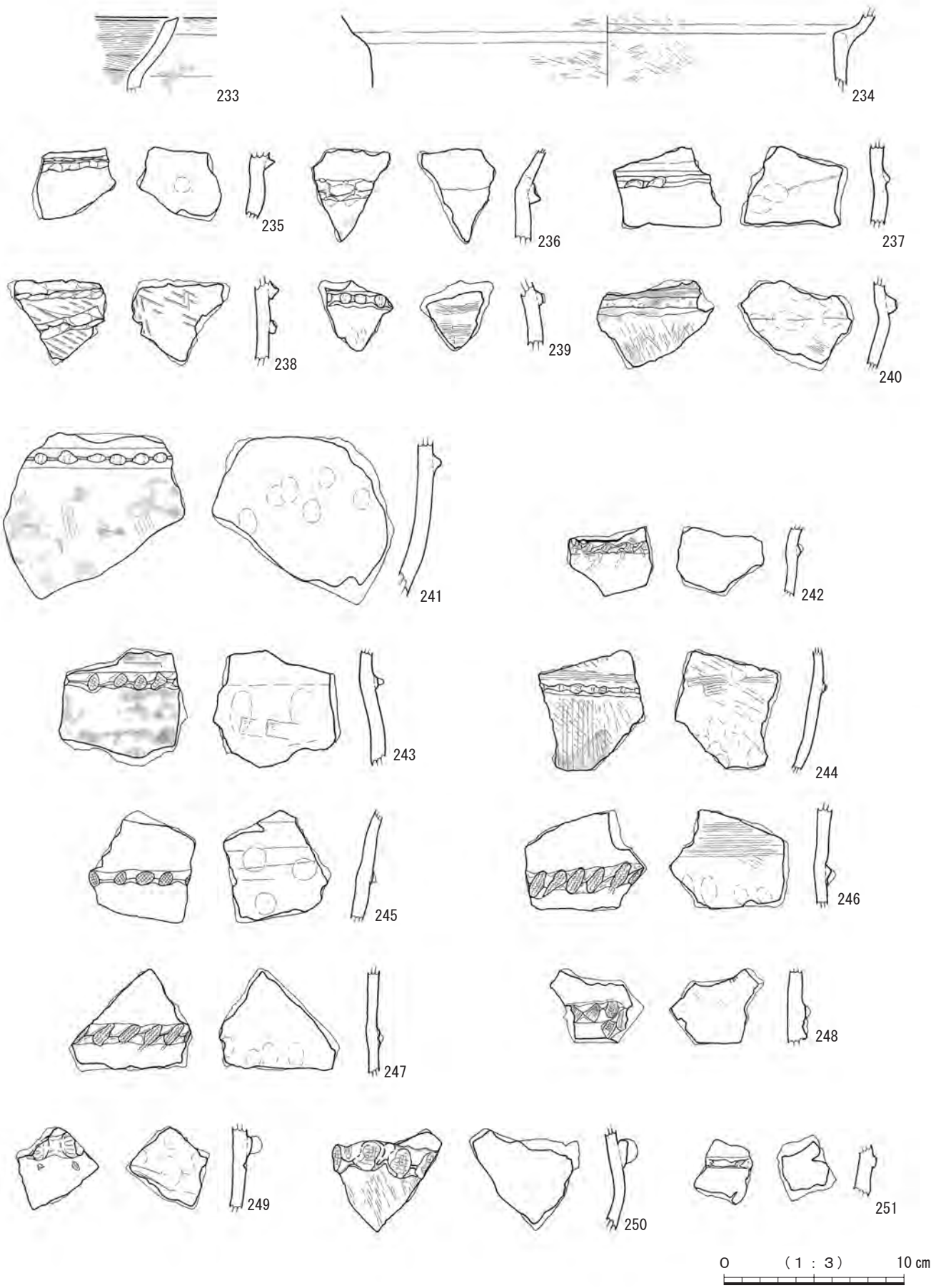
310 ～ 320 は底部である。310 は外側底面が上方にやや凹む。内器面は底面から直線的に胴部へと立ち上がり，底面の器壁は薄く仕上げている。外器面の底部下は指頭圧痕がある。胴部にむけてケズリ調整を施している。

311 ～ 314 は平底を呈し，底面から大きく外向して胴部へと立ち上がる。311 の外器面は縦方向のハケメ調整，内器面は指ナデ調整を施す。312 は内外器面ともにナデ調整である。313 の外器面はミガキ調整がされている。314 の外器面は胴部と底部の境目がやや屈曲しており，胴部が外へと広がる。外器面はヘラケズリ後ナデ調整がされており，内器面はハケメ調整が施される。

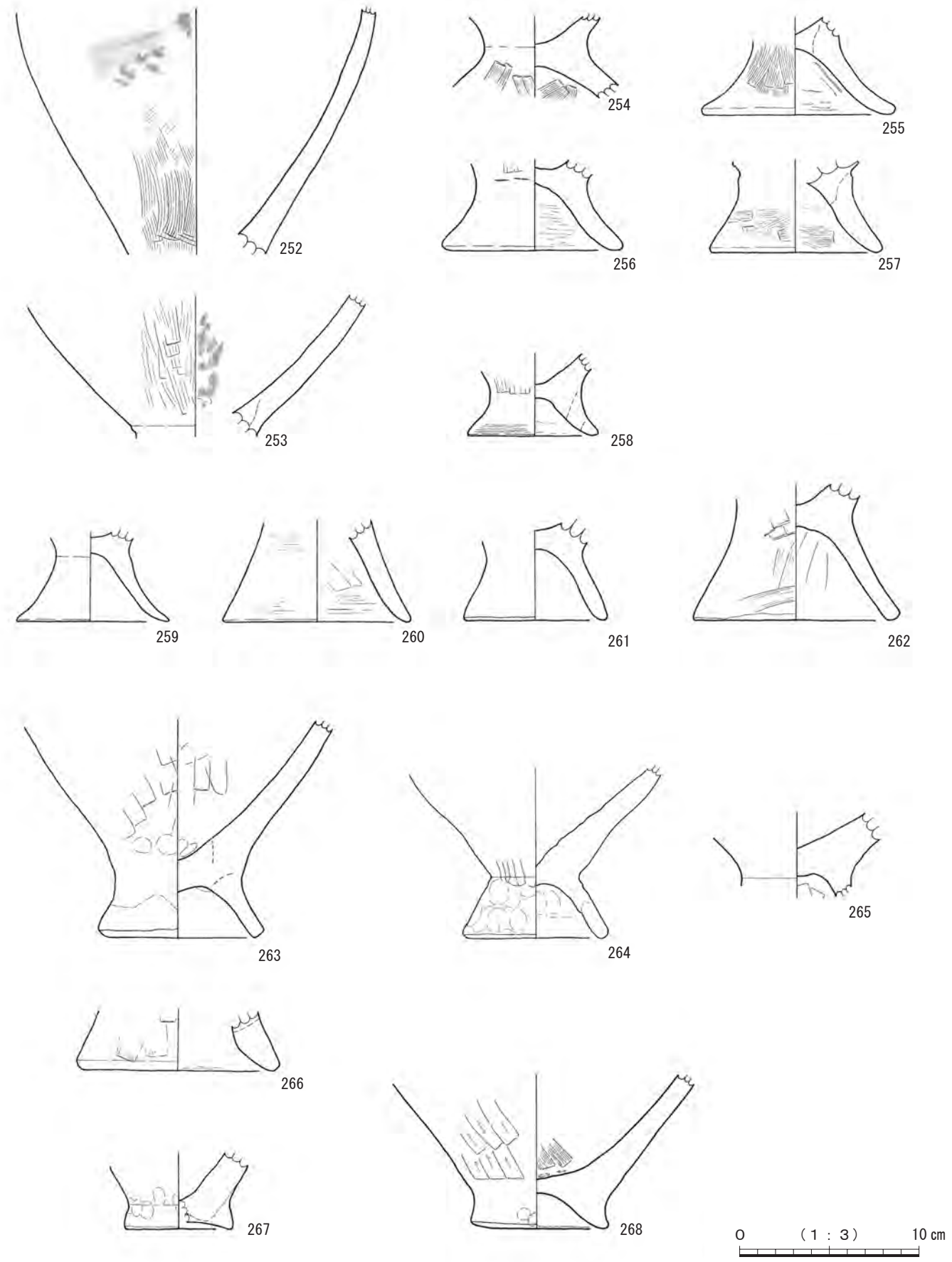
315・316 も平底を呈している。底面からあまり外向せず立ち上がる。いずれも内器面はヘラ状工具によるナデ調整が施される。

317 は外側底面が下方にやや膨らむ。内器面に工具痕を残す。318 も底面に凸凹があるが，底面にやや丸みがある。いずれも内側底面は深く窄んでいる。外器面はハケメ調整を施し，内器面は工具痕を残す。

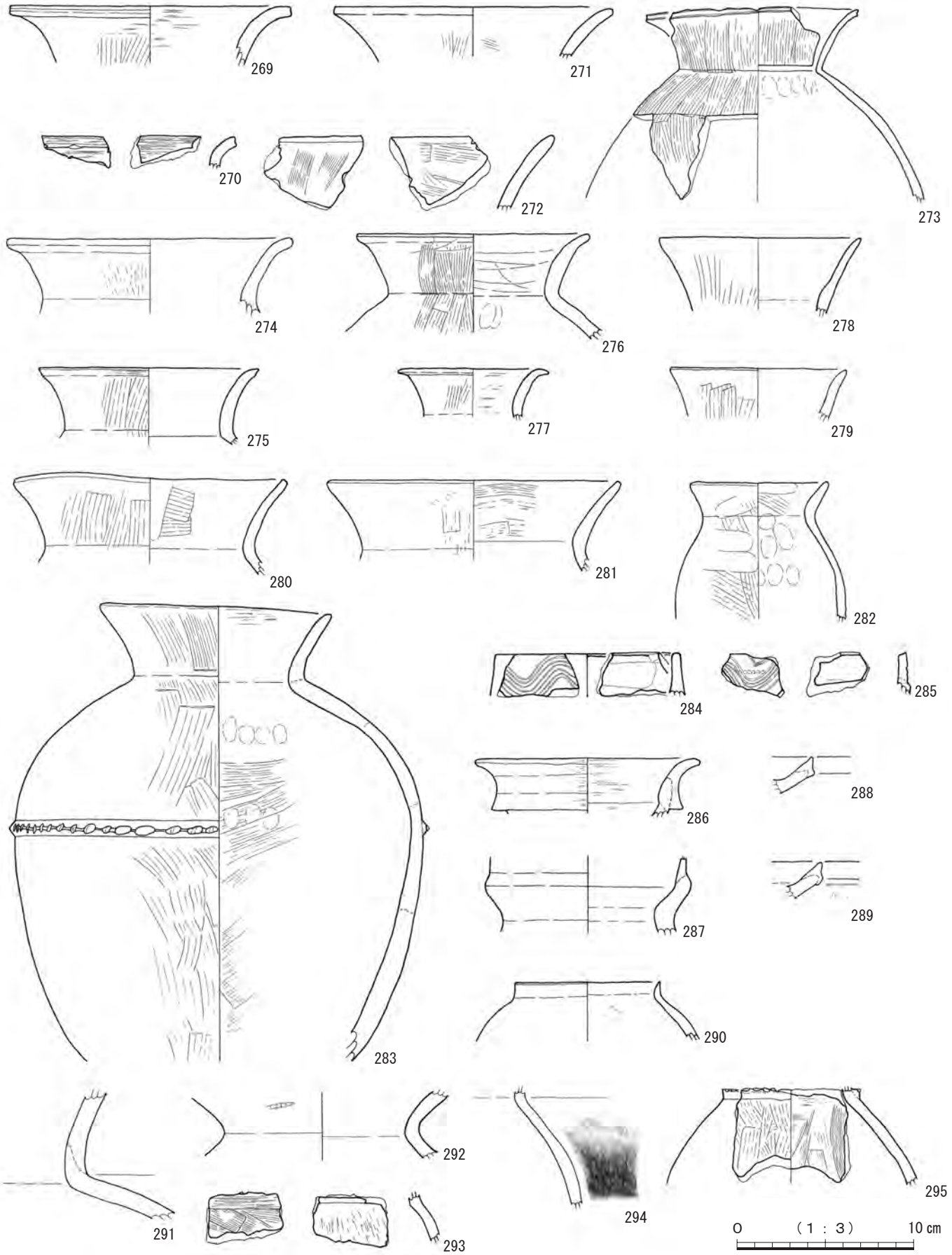
319 は底面が丸く整形される。内外器面に指頭圧痕を残す。320 は外側底先端部に径１cm，厚さ３mm 程度の乳房状突起が貼り付けられる。



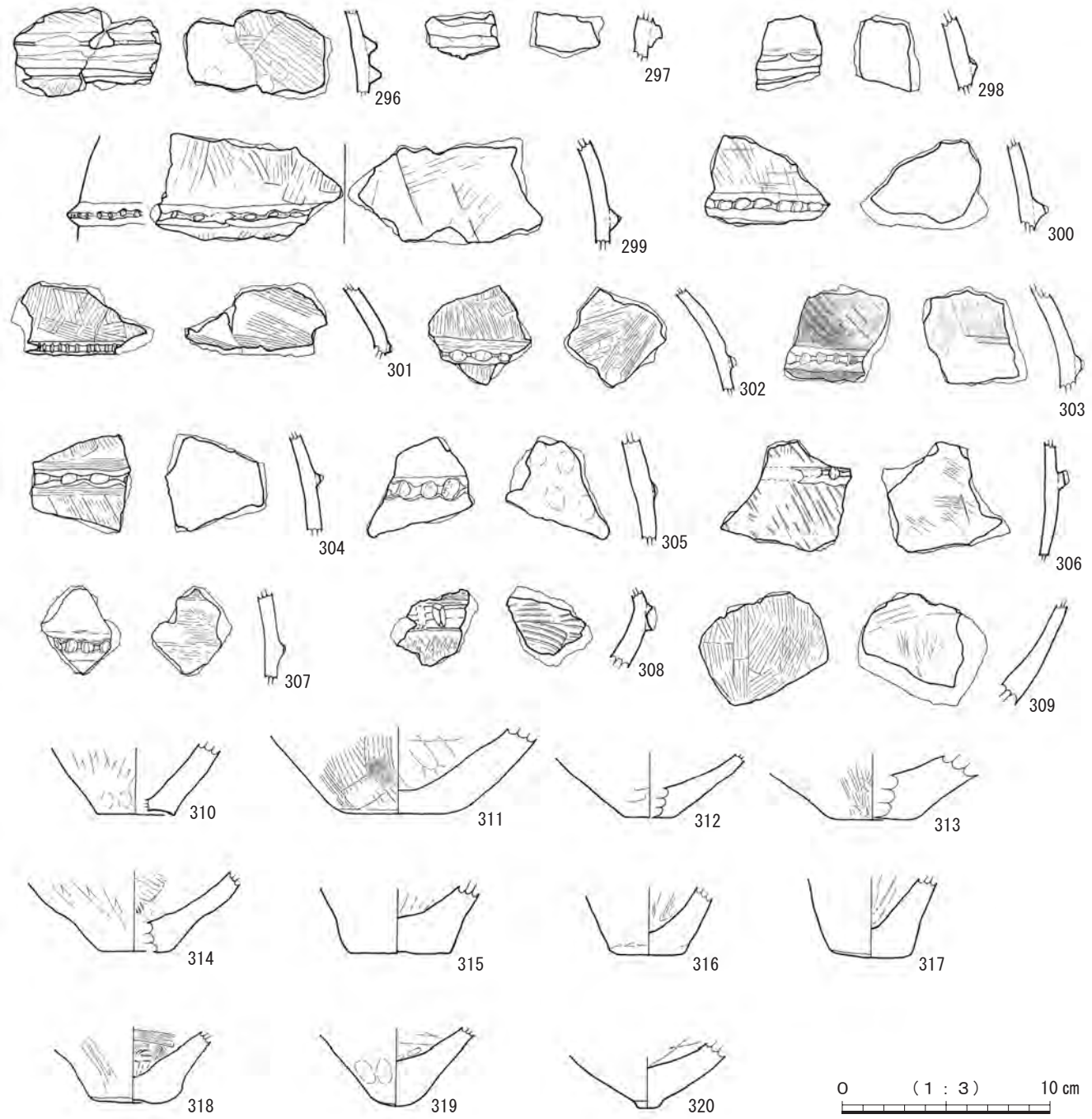

第 58 図　包含層出土土器④　甕形土器




第 59 図　包含層出土土器⑤　甕形土器



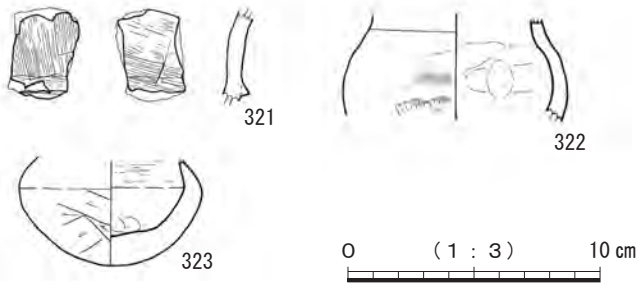

第 60 図　包含層出土土器⑥　壺形土器




第 61 図　包含層出土土器⑦　壺形土器

【包含層出土土器⑧　坩　第 62 図 321 ～ 323】

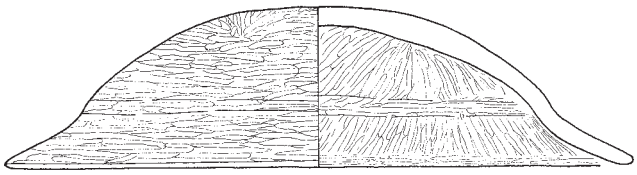
321 の外器面は上方向へのハケメ調整，内器面は斜め方向のハケメ調整がされる。322 は口縁部と底部が欠損しているため概形は不明であるが，丸みのある胴部と推定される。323 は器壁の厚い小型丸底を呈する。下胴部は横方向のケズリ調整が施される。



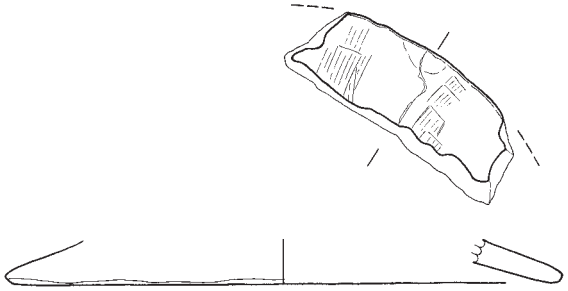

第 62 図　包含層出土土器⑧　坩

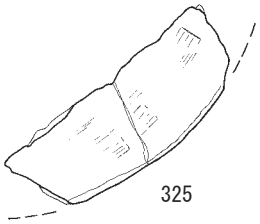
【包含層出土土器⑨　蓋　第63図324・325】

324・325は蓋である。324の身部はドーム型を呈し，口縁部は外反する。外器面は横方向のミガキ調整が施される。内器面も縦方向のミガキ調整を主とするが，身部の最下部，口縁部へと移行する屈曲部の直上にあたる部分だけ横方向のミガキ調整となっている。口唇部は「コゲ」が確認できる。325も蓋の口縁部と思われる。概形は不明である。外器面は縦方向のハケメとミガキ調整，内器面は横方向の板ナデ調整で仕上げる。



324





325

0　（1：3）　10㎝

第63図　包含層出土土器⑨　蓋

【包含層出土土器⑩　高坏　第64図326～358】

326～336は口縁部である。326～329は口縁端部が大きく外反する。326は口唇部を平坦に整え，外器面に断面三角形の粘土帯を貼り付ける。327の口唇部は平坦に整えられ，外器面は縦方向のミガキ調整，内器面は横方向のミガキ調整が施されている。328は口唇部を丸く整形し，内器面に横方向のミガキ調整を施す。329は口縁部下の外器面にわずかに屈曲に伴う稜線がある。口縁部下は緩やかに内湾しながら窄まる。330の口唇部は細く整形される。断面概形は口縁部下で屈曲の強いS字形を呈する。口縁部は内外ともに横ナデ調整で仕上げる。

331・332は口縁端部がやや外反する。331は口唇部が平坦に整形される。屈曲する部分の直下に断面三角形突帯文が施される。突帯文の下側は粘土の接合線が撫で消されずに残る。断面の観察では，突帯文は粘土紐を貼り付けているように見える。外器面はナデ調整，内器面もナデ調整を施している。内器面の方は光沢が認められる。332も331同様，屈曲する部分に断面三角形突帯文が施される。突帯文の下側は粘土の接合線が撫で消されずに残る。口唇部は丸く整形する。332の内外器面には横ナデ調整が施されている。

333～335は，いずれも口唇部を平坦に整え，ナデによりわずかに凹む。335は口縁端部がわずかに外反する。内外器面をハケメ調整で仕上げる。336は直線的に外向し，口縁端部を細く整形する。わずかに口縁端部が外反する。

337～343は口縁下から胴部である。337～341は断面の粘土接合部から，外向して開く擬口縁を作り，擬口縁端部に外反する口縁部を取り付けている。337～339の屈曲部は取り付けた口縁部の下部を断面三角形の突帯状に整形する。337の外器面は屈曲部直下にハケメ調整痕が確認できるが，口縁部下は摩滅している。内器面もミガキ調整の痕跡が残る。338の屈曲部下にハケメ調整痕が確認できる。

340～342は断面の粘土接合部から，外向して開く擬口縁を作り，擬口縁端部の内器面側に口縁部を取り付け，擬口縁の口唇部が屈曲部となるよう整形している。341は屈曲部の粘土接合部で剥離している２つの土器片の接合資料である。擬口縁の口唇部は平坦に整えられ，口唇部外側がちょうど坏部外器面の屈曲部になるよう整形している。外器面の屈曲部下側は縦方向のハケメが施される。内器面は接合部から下側が縦方向のハケメ調整，上側が横方向のハケメ調整で仕上げる。

340の外器面はわずかに縦方向のハケメか工具ナデの調整の痕跡を残すが摩滅している。内器面は横方向の磨き調整が施されている。

343はやや丸みのある坏部で，口縁部への立ち上がりはわずかにS字の屈曲を呈する。屈曲部分に接合痕が見られる。接合面に断面三角形の突帯があるが，坏部整形後に貼り付けたものか，坏の口縁部接合時の整形段階で作られたものかは不明である。外器面は大部分二次焼成によって摩滅している。屈曲部直上にハケメ調整の痕跡が残る。内側の屈曲部下は縦方向の板ナデ調整後，ハケメ調整を行い，屈曲部から上は横ナデ調整を行っている。

344～358は脚部である。344は坏部と脚部の接合部で，脚部内天井部は平坦に整形される。外反しながら八の字形に端部へと広がる。外器面は板ナデ調整がされている。

345～349も外反しながら八の字形に端部へと広がる。345の外器面は縦方向のハケメ調整がされている。裾部

に透かしが２箇所確認できる。346 の外器面は縦方向の，内器面は横方向の工具ナデ調整がされている。上部に透かしと思われる穿孔の一部が確認できる。348 の外器面は縦方向のハケメ調整後に指ナデ調整を施している。内器面は横方向に指ナデ調整を施している。上部に透かしと思われる穿孔の一部が確認できる。347 の外器面は縦方向のハケメ調整を施し，内器面は指オサエ調整を行っている。透かしと思われる穿孔の一部が確認できる。349 の外器面は縦方向の板ナデ調整を施している。３条の刻線が確認できる。

350 ～ 358 は裾部である。350 は端部が細く整形され，末端部は平坦に整形されている。透かしの一部が確認できる。351 は端部が丸く整形される。内外器面ハケメ調整を施している。小片のため，高坏であるかは不明である。352・353 の末端面は平坦に整形され，末端部の外器面側は上方に突き上がったようになっている。外器面は縦方向のハケメ調整，内器面は横方向のハケメ調整が施される。353 は透かしと思われる穿孔の一部が確認できる。

354・355 は末端部で大きく外反し，354 は末端面を平坦に整形し，355 は端部を細く整えている。

357･356･358 は外反せず，直線的に「ハ」字形に広がる。357 は上方向へのハケメ調整が施される。透かしを伴う。356・358 は末端部を丸く整形しており，外器面は上方向のハケメ調整を施す。358 の内器面は指オサエ調整を施す。

**【包含層出土土器⑪　鉢形土器・ミニチュア土器・メンコ　第 65 図 359 ～ 385】**

359 は断面概形が緩やかなＳ字を呈し，口縁部がやや外反する。口縁部下には断面台形の突帯文を施す。360 も 359 と同様の形態と推測する。突帯を貼り付け，横ナデ調整によって断面三角形に整えている。

361 は浅い鉢形を呈すると思われる。底部が欠損しているため，脚部を構成するかは不明である。口縁部が大きく外反し，口唇部は平坦に仕上げる。ナデ調整によりやや凹む。362 も浅い鉢形を呈すると思われる。口縁部は外反し，口縁部下で屈曲して底部へと窄む。断面概形はＳ字形を呈する。口唇部は細く整形する。内外器面の口縁部は横ナデ調整を施し，屈曲部直下は縦方向のミガキ調整を施す。

363 ～ 370 は深い鉢形を呈する。363 の口縁部は外反し，口縁部下で屈曲して底部へと窄む。断面概形は緩やかなＳ字形を呈する。口唇部は細く整形する。外器面の口縁部は横ナデ調整，胴部は縦方向のハケメ調整を施す。内器面の胴下半は黒斑がある。364 は口縁部が欠損しているが，363 の形態に近いと思われる。外器面は指頭圧痕が残る。365 は口縁部がやや外向して開く。口唇部は細く整形する。内外器面はナデ調整，板ナデ調整が施される。

366 は直線的に外向する深型の鉢形土器である。口唇部を丸く整形する。外器面胴部に縦方向のミガキ調整が施される。367 ～ 369 も直線的に外向する鉢形土器であるが，内器面は直線的に立ち上がり，外器面はやや口縁部が内湾することで口唇部が細く整形される。367 は口縁部に一箇所縦方向に施した直線の刻線がある。368 は内外器面に工具ナデ調整の痕跡を残す。369 は黒斑により残存する部分は黒化している。外器面底面は平底であるが，中央部はやや凹む。内外器面はナデ調整で仕上げている。

370 ～ 374 は内湾して立ち上がる鉢形土器である。370 ～ 372 は，口縁端部を丸く整形する。370 の外器面はハケメ調整後板ナデ調整を施す。371 は内外器面ともに指オサエ調整が施される。372 は口縁部下で屈曲し，口縁部が直立する。内外器面工具ナデ調整が施される。

373・374 は口縁部が内向する。373 は口唇部に平坦に整形しているが，仕上げは丁寧ではない。外器面にはヘラ状の工具痕が残る。内器面は指ナデ調整を行う。指頭圧痕が残る。374 は口縁部を丁寧に仕上げ口唇部は凹みが生じる。内外器面ともにナデ調整を施す。

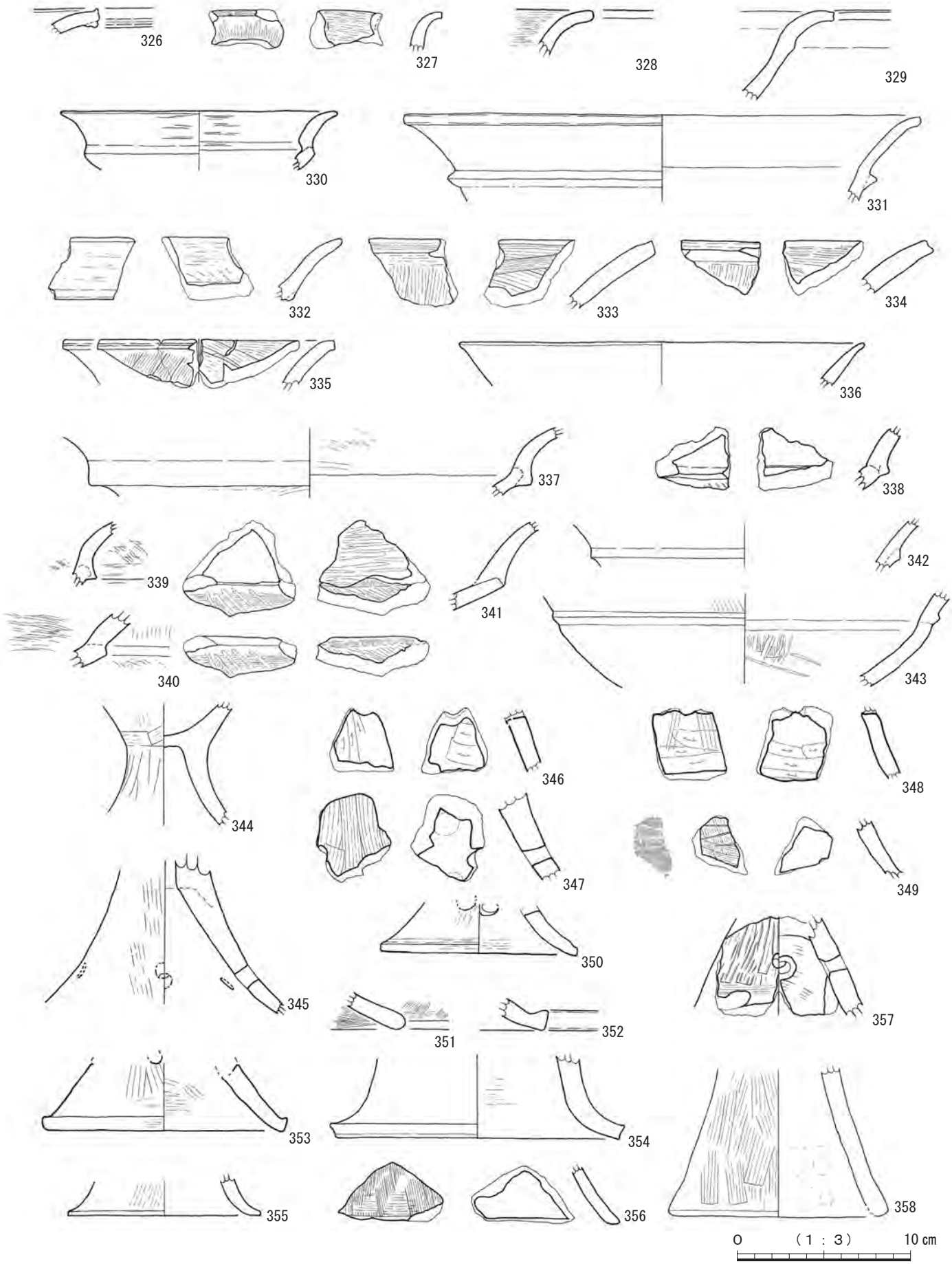
375 は小片のため不明であるが，内湾する鉢形土器の可能性がある。口唇部は平坦に整形する。外器面口縁端部は粘土の接合線が明瞭に残る。内外器面ともに板状工具によるナデ調整を施す。

376 は甕形を呈する。口縁部は外向し，胴部との境目にはくびれ部を持つ。くびれ部は稜が生じる。くびれ部から直下は胴部が張り出し，底部へと窄まる。断面概形はＳ字形を呈する。377・378 は内湾する鉢形を呈する。377 は底部が窄んだ丸底である。外器面は指頭圧痕が顕著である。内器面は指ナデ調整を施す。378 も丸底である。

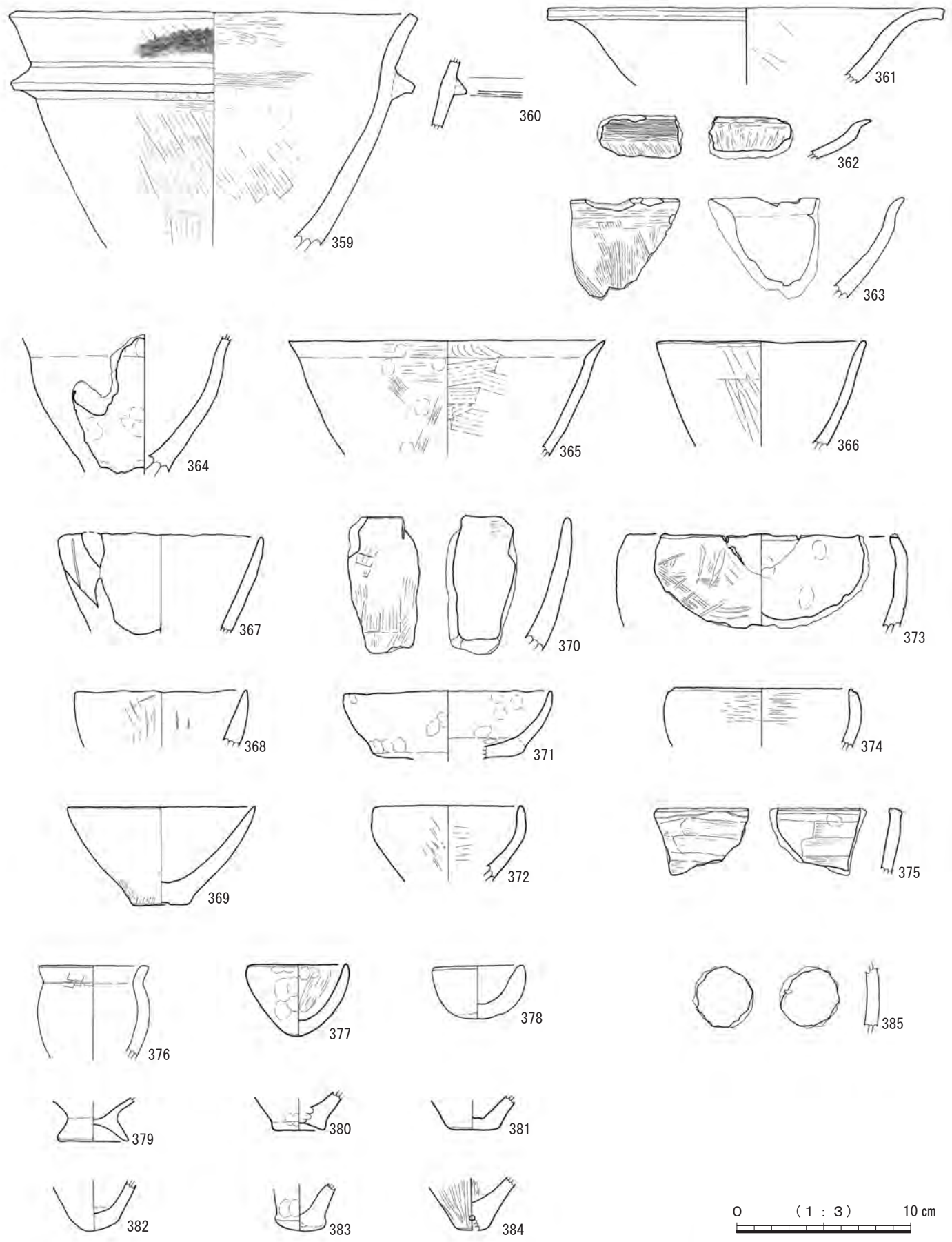
379 ～ 384 は底部である。379 は鉢形土器の中空高台である。高台は「ハ」字に直線的に広がり，高台裾端部が細く整形される。高台内の天井部は丸く整形される。380 は脚の比較的短い中空高台である。外器面に指頭圧痕が残る。

381 は平底の底部である。内器面もわずかに平坦面を形成している。382 は丸底を呈する。383 の器種は不明である。底部は下方に膨らむ。外器面は指オサエ調整がされている。384 は底面がわずかに下方に膨らむ。外器面は縦方向のミガキ調整が施される。底部を貫通する穿孔が施されており，土製品の可能性もある。

385 はメンコである。焼成後に打ち掻き，円盤状に加工したものである。




第 64 図　包含層出土土器⑩　高坏




第65図　包含層出土土器⑪　鉢形土器・ミニチュア土器・メンコ

【包含層出土土器⑫　須恵器・櫛描文土器・刻線文土器　第 66 図 386 ～ 405】

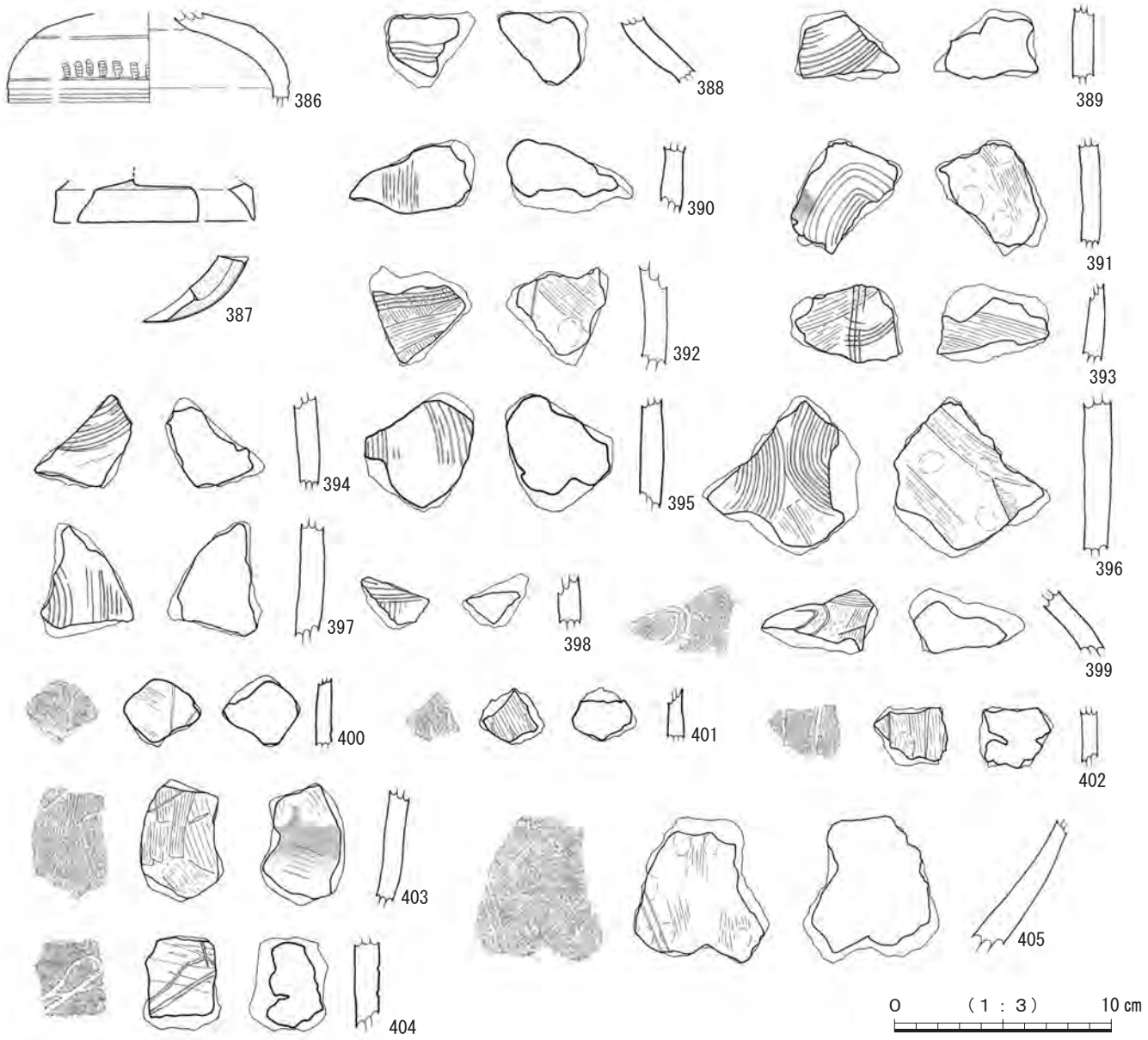
386 は土器片の上部と下部が欠損しており，詳細不明であるが，上部内器面端部がやや上方に屈曲することから，さらに上方に延びると推測される。可能性として 386 はハソウと思われる。肩部に１条の沈線，胴部最大径のところにも確認できるところで３条の沈線がみられる。胴部最大径の沈線文の直上には平行して列点文が施されている。

387 は高坏の脚部裾部分にあたると推測されるが，胎土の色調を観察すると，初期須恵器に酷似する。端部は先端が細く整形されている。裾部外器面は直立し，内器面は内傾する。脚部は欠損しているが，脚部に施された透かしと思われる痕跡が残る。

388 ～ 401 は，櫛描きによる施文である。388 は壺形土器と思われる。横方向の明瞭な櫛描直線文が施される。389 ～ 401 についてはすべて胴部にあたるため，器種の判別が困難で，施文についても類例が見出せなかったため，時代は不明である。今回はここで報告する。389 ～ 401 の櫛描文は，光の照射角度によって文様が確認できる程細い。391・396 に見られるように，器面調整によるものではなく，明らかに文様を意識していることが分かる。

線同士は一定の平行性を保ちつつも，細かく観察すると微かに平行でない部分がある。しかしながら１本ずつ施したとは考えづらいので，可能性として柔らかい素材のハケ状の道具を使用していると推測する。

399 ～ 405 は明瞭な刻線で描かれている。399･404 は、不規則な動きを呈しており，絵画的な文様として描かれたものと言える。これまでにこの時期で報告した土器にも不明な刻線が見られている。これらは弥生時代終末から古墳時代に相当する時期の可能性が高い。




第 66 図　包含層出土土器⑫　須恵器・櫛描文土器・刻線文土器

## 第５節　包含層出土石器・石製品

包含層出土の石器・石製品については，時代の正確な判断は困難であるため，概ね縄文～古墳時代の出土遺物として第５節で一括して報告する。ただし，磨石，敲石，礫石器，軽石製品などは中世まで使用されることもある。

【包含層出土石器①　第 67 図 406 ～ 409】

406 ～ 409 は剥片石器である。406･407 は頁岩製の打製石鏃である。縄文時代のものと言える。器面調整を丁寧に仕上げており，基部も端部が細く整形される。407 は先端部を欠く。408・409 はフレークである。縄文～弥生時代で使用されたと考えられる。408 はホルンフェルスを素材とする。下部から右側にかけて鋭い刃部をもつ。409 は頁岩を素材とする。裏面の観察で上部を打ち込んだ剥離した剥片であることが分かる。

【包含層出土石器②　第 68 図 410 ～ 412】

410・411 はホルンフェルス製の打製石斧である。410 は基部が欠損している。刃部は使用によって刃が摩滅している。411 は基部である。

412 は頁岩製の砥石である。網フセの部分は節理面である。表裏面，下面に擦痕が確認できる。

【包含層出土石器③　第 69 図 413 ～ 416】

413 ～ 416 は砂岩を素材とする敲石である。413 は上部が欠損している。下面に敲打痕がある。414 の片側３分の１は欠損している。表裏中央部と縁辺に敲打痕を残す。

415 の上部は欠損している。断面はほぼ方形を呈している。表面から見て右側面に顕著な敲打痕があるが，左側面にも破損箇所付近にわずかに敲打痕が見られる。下面中央部にも敲打痕がある。416 は表面中央部，上面，右側面に２箇所の敲打痕がある。裏面は節理面となっている。

【包含層出土軽石製品①　第 70 図 417 ～ 420】

417 は，裏面左半分に２面の平坦面があり，磨面ではないかと思われる。また中央部には敲打によって生じたものか，やや凹凸のある面が確認される。

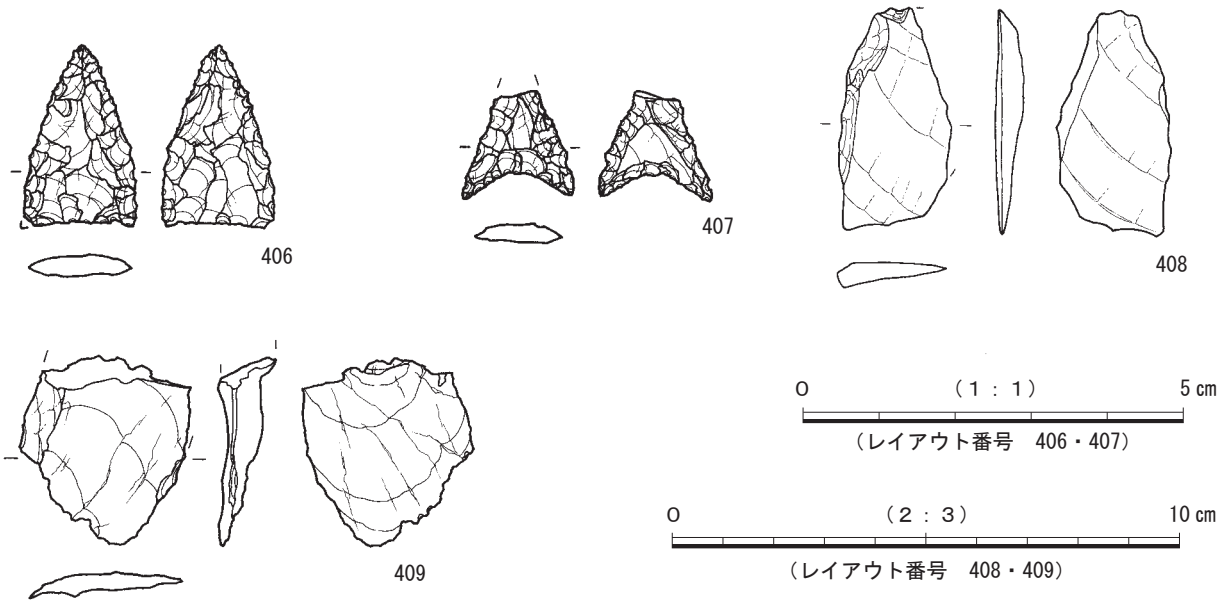
418 は一部側面が欠損している。表裏面に擦ったような痕跡がある。表面中央部は単軸方向に凹む。裏面は平坦に整形されるが，下部は平坦面に対して傾斜する面が生じる。419 の表面は全体的に擦ったような痕跡が見られる。裏面の上部に幅約 1cm，長さ約２cm 程度の凹みがあるが，加工または使用に伴うものかは不明である。

420 は平面三角形を呈しており，断面形状は不定形である。表面は右側中央部から左側面方向及び上下面方向にかけて低く傾斜しており，左側面側は平坦面を形成する。風化しているので詳細は分からないが，磨面の可能性がある。下部は傾斜する面に，幅３～４cm，長さ約４cm の深い凹みが斜めに生じている。この凹みを詳細に観察すると，上部は扇形の最も深い凹みで，その下部は幅３cm 程度の帯状の凹みによって構成されている。加工痕または使用痕と考えられる。裏面は右側面側中央部から裏面中央部にかけて不定形の浅い凹みがあるが，人為的なものかは判断ができなかった。

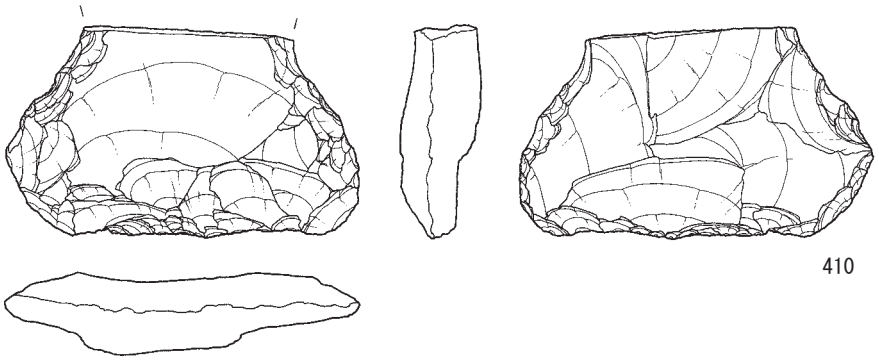
【包含層出土軽石製品②　第 71 図 421 ～ 422】

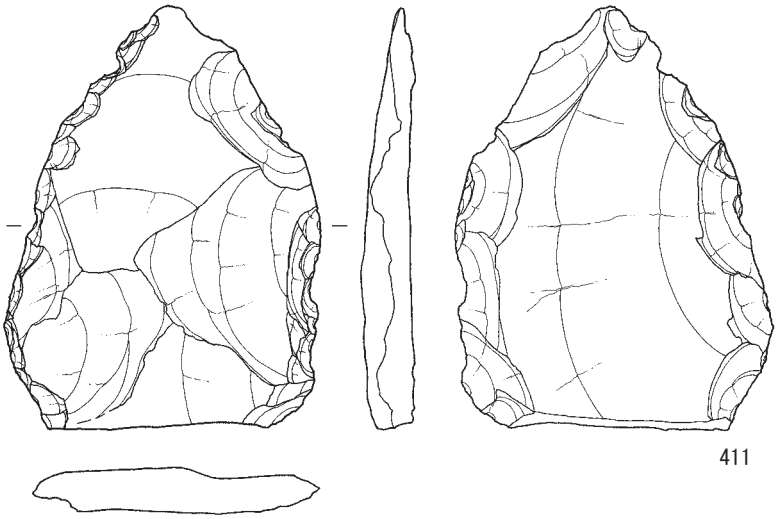
421 は欠損しているが，表面の上部，右側から下部にかけて明瞭な磨面がある。また裏面は平坦面が形成され，磨面となっている。また，下部にも磨面があり，断面でも分かるように，下部は先端に向けて窄む形となっている。

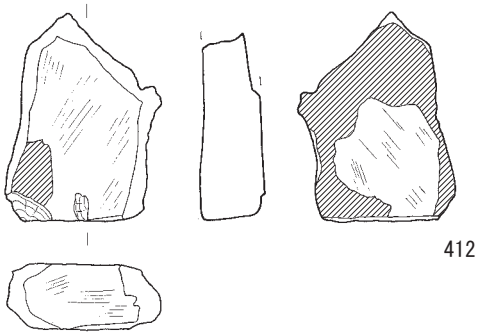
422 は，楕円形の扁平な形状を呈する。中央縦軸に刻線が施される。

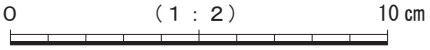



第 67 図　包含層出土石器①　打製石鏃・剥片

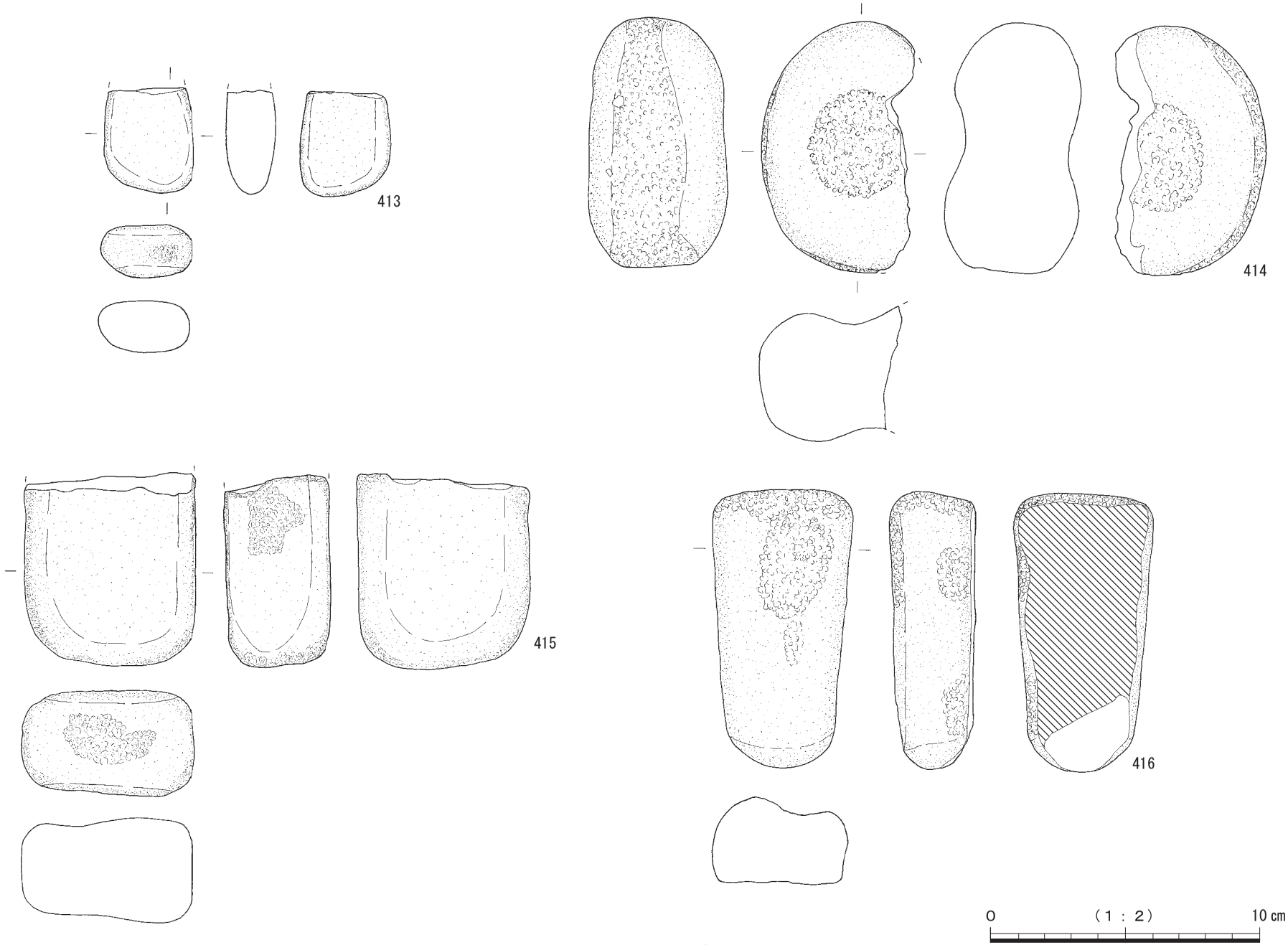


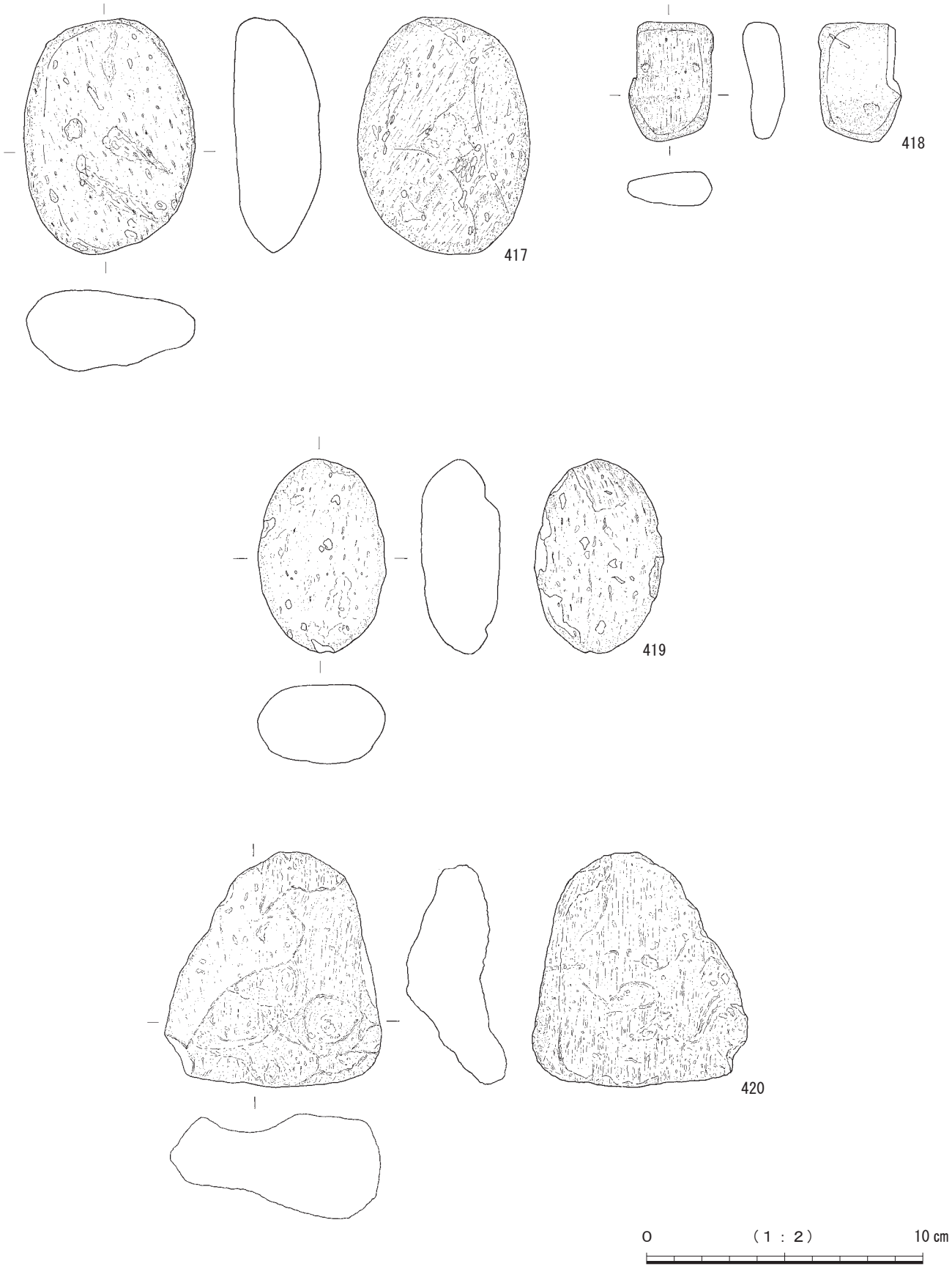



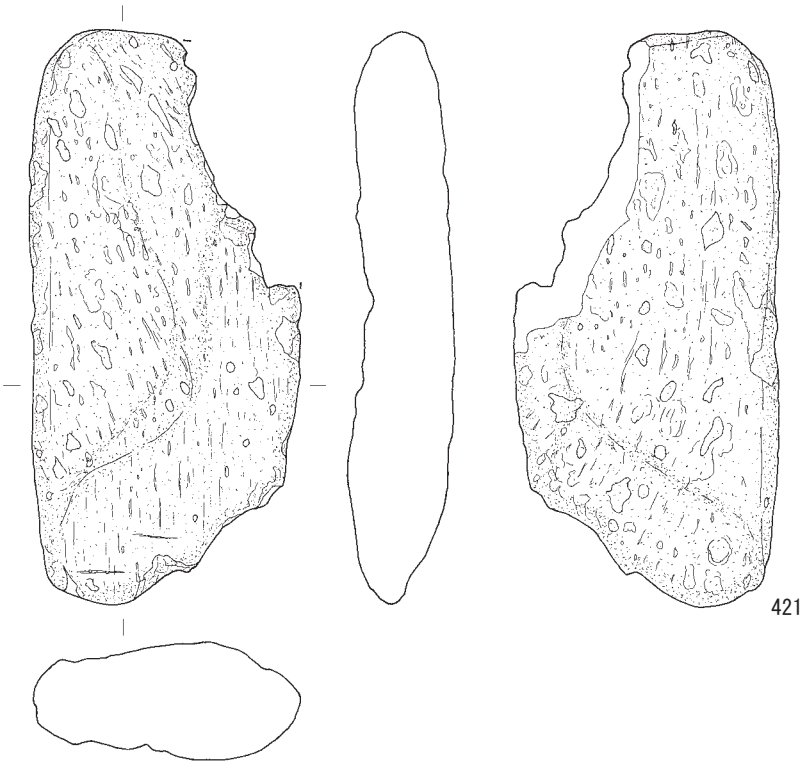

第 68 図　包含層出土石器②　打製石斧・砥石

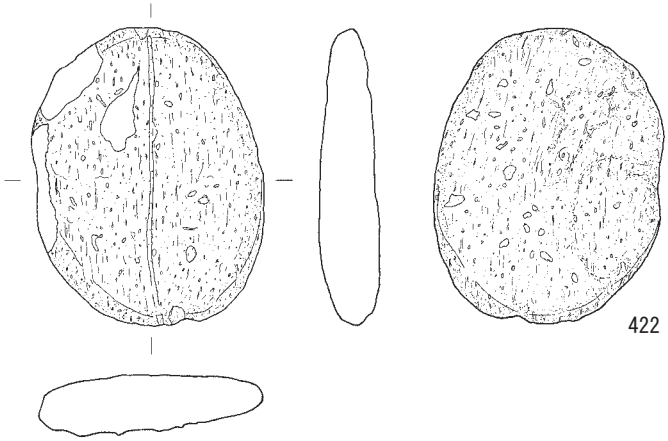



第69図　包含層出土石器③　敲石




第70図　包含層出土軽石製品①




0　（1：2）　10 cm

第 71 図　包含層出土軽石製品②

## 第８表　弥生時代終末～古墳時代　包含層出土土器観察表(1)

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土位置 | 時代 | 器種 | 部位 | 法量（cm） | | | | 焼成 | 色調 | | | | 胎土 | | | | | | 器面調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | | 外面 | | 内面 | | 石英 | 長石 | 角閃石 | 雲母 | 輝石 | その他 | 外面 | 内面 | |
| 55 | 173 | F区Ⅲ層 No.826 | 弥生後～末 | 大甕 | 口縁～胴 | - | 42.0 | - | - | 良 | 明赤褐 | 5YR5/6 | 明赤褐 | 5YR5/6 | △ | △ | ○ | | | | 口縁：横ハケメ<br>胴：縦ハケメ | 口縁：横ハケメ<br>胴：横ハケメのちナデ | 断面三角突帯文 |
| 55 | 174 | J区Ⅱ層 No.4978 | 弥生後～末 | 大甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 明赤褐 | 5YR5/6 | ◎ | ○ | △ | | | | 縦方向ハケメ<br>突帯：横ナデ<br>（上はミガキ？） | 横ハケメ | コ字突帯文 |
| 55 | 175 | M区Ⅱ層 No.6457 | 弥生後～末 | 大甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | にぶい黄橙 | 10YR7/3 | ○ | ○ | △ | | | 灰褐色<br>褐色の石粒 | 縦ハケメ<br>突帯：横ナデ | 横・斜めヘラナデ | コ字突帯文 |
| 55 | 176 | F区Ⅲ層 No.1458 | 古墳前 | 大甕 | 口縁下～胴 | - | - | - | - | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | 赤褐 | 5YR4/6 | ○ | △ | ○ | | | | 突帯上：縦板ナデ<br>突帯：ナデ<br>突帯下：縦・斜めハケメ | 横板・指ナデ，指オサエ | 刻目突帯文 |
| 55 | 177 | G区Ⅱ層 No.6547 | 古墳前 | 大甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 灰黄褐 | 10YR4/2 | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | ◎ | ◎ | △ | | | | 横ハケメのちナデ | ナデ | 刻目突帯文 |
| 55 | 178 | G区Ⅱ層 No.1188 | 弥生末 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | ○ | ○ | | △ | | | 横ナデ | 横ナデ | 外面煤付着 |
| 55 | 179 | F区一括 | 弥生末 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR6/3 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | △ | △ | | | | | 横ナデ | 横ナデ | |
| 55 | 180 | I区Ⅱ層No.327<br>J区Ⅱ層 No.3349 | 弥生末 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | 黄橙 | 7.5YR7/8 | 橙 | 7.5YR6/6 | | △ | | | △ | 白色・褐色石 | 摩滅 | 摩滅激しい | 外面煤付着 |
| 55 | 181 | F区Ⅱ層 No.102(6) | 弥生末 | 甕 | 口縁～胴 | - | 19.4 | - | - | 良 | 橙 | 7.5YR6/6 | にぶい黄褐 | 10YR7/4 | ○ | ○ | ◎ | | | 白色軽石 | 口縁：横ナデ<br>胴：ナデ | 口縁：横ナデ<br>胴：ナデ | 外面煤付着 |
| 55 | 182 | F区Ⅱ層 No.103 | 弥生末 | 甕 | 口縁～胴 | - | 27.4 | - | - | 良 | 明赤褐 | 5YR5/6 | 橙 | 5YR7/8 | △ | △ | △ | | | | 口縁：横ナデ<br>上胴：上方向ハケメ<br>下胴：ナデ | 横ナデ，ナデ | 上胴板状工具痕<br>外面煤付着 |
| 55 | 183 | G区Ⅲ層 No.6549 | 弥生末 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 灰褐 | 7.5YR5/2 | 灰褐 | 7.5YR6/2 | ○ | ○ | | | | | 横ナデ | 横ハケメ，横ナデ | 煤付着 |
| 55 | 184 | H区Ⅱ層 No.2349(2) | 弥生末 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | にぶい赤褐 | 5YR4/3 | ○ | ◎ | | | | | 横ナデ，ナデ | 口縁：横ナデ<br>胴：横ハケメ | 外面煤付着<br>使用摩滅 |
| 55 | 185 | G区Ⅱ層 No.211 | 弥生末 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 5YR6/4 | にぶい橙 | 5YR6/4 | ◎ | ◎ | | | | 白色，灰白色石 | 横工具ナデ | 横工具ナデ | 煤付着 |
| 55 | 186 | H区Ⅱ層 No.2086 | 弥生末 | 甕 | 口縁 | - | 22.0 | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | △ | ◎ | △ | ○ | | | 横工具ナデ | 横工具ナデ | |
| 56 | 187 | 11T 一括 | 弥生末～古墳初 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | 明赤褐 | 5YR5/6 | ○ | ○ | ○ | | | | 横ナデ | 横ナデ・ナデ | 口縁：連続刻線文 |
| 56 | 188 | H区Ⅱ層 No.2171(4) | 弥生末～古墳初 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | ○ | ○ | | | | | ナデ（使用摩滅） | 口縁：横板ナデ<br>胴：ナデ | |
| 56 | 189 | H区Ⅱ層 No.1882,1898 | 弥生末～古墳初 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/3 | にぶい黄橙 | 10YR7/3 | ○ | ○ | | | | | ナデ | 口縁：横板ナデ<br>胴：ナデ | |
| 56 | 190 | G区Ⅲ層 No.6622 | 弥生末～古墳初 | 甕 | 口縁～胴 | - | 21.9 | - | - | 良 | 灰褐 | 7.5YR6/2 | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | ○ | ○ | | | ○ | 灰白色石 | 口縁：横ナデ<br>胴：上方向ハケメのちナデ | 口縁：横ナデ<br>上胴：斜めハケメ後ナデ<br>胴：ナデ | 外面煤付着 |
| 56 | 191 | G区Ⅱ層 No.447 | 弥生末～古墳初 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR6/3 | にぶい橙 | 7.5YR7/3 | ○ | ○ | △ | | | | 口縁：横ナデ<br>胴：縦板ナデ | 口縁：横ナデ<br>胴：斜めハケメ | |
| 56 | 192 | K区Ⅱ層 No.5814(4) | 弥生末～古墳初 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 7.5YR7/6 | 橙 | 7.5YR7/6 | ○ | ○ | | | | 白色軽石<br>火山ガラス | 口縁：横ナデ<br>胴：縦ハケメのちナデ | 横ハケメのち横ナデ | |
| 56 | 193 | F区Ⅲ層 No.87(4) | 古墳前 | 甕 | 口縁～胴 | - | 19.2 | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 橙 | 7.5YR6/6 | ○ | ◎ | ○ | | | | 摩滅 | 摩滅 | 外面煤付着 |
| 56 | 194 | H区Ⅱ層 No.1991 | 古墳前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ◎ | ○ | ○ | | △ | | 横ナデ一部光沢あるがミガキ痕なし | 工具による横方向ナデ<br>光沢あるがミガキ痕なし | |
| 56 | 195 | I区Ⅱ層 No.2693 | 古墳前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 黒褐 | 2.5Y3/2 | 黒褐 | 2.5Y3/2 | △ | ◎ | | | | | 横ナデ | 横ナデ | 口唇部ナデによる凹み |
| 56 | 196 | H区Ⅱ層 No.1940 | 古墳前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄褐 | 10YR7/3 | にぶい黄褐 | 10YR7/3 | ◎ | ○ | △ | | | 褐色石多 | 縦方向ハケメ | 斜め方向ハケメ<br>上部板ナデ | 口唇部平坦ナデ凹み<br>外面煤付着 |
| 56 | 197 | G区Ⅲ層 No.6609 | 弥生末～古墳前か？ | 甕？ | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 赤褐 | 5YR4/4 | にぶい赤褐 | 5YR5/3 | ◎ | ◎ | | | | | 口縁：横ナデ，<br>口縁下：ナデ（やや光沢） | 指オサエのち横ナデ | 時期詳細不明 |
| 56 | 198 | 一括 | 弥生末～古墳初前？ | 甕？ | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR6/3 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | ○ | ◎ | | | △ | | 横ナデ | 横ナデ | 時期詳細不明 |
| 56 | 199 | I区Ⅱ層 No.3051 | 弥生末～古墳初 | 甕 | 口縁～胴 | - | 22.5 | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | 明赤褐 | 5YR5/6 | ○ | ○ | | | | | 口縁：上方向ハケメ<br>胴：上方向ケズリ | 口縁：横ナデ<br>胴：ナデ | カキアゲ技法 |

## 第８表　弥生時代終末～古墳時代　包含層出土土器観察表(2)

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土位置 | 時代 | 器種 | 部位 | 法量（cm） | | | | 焼成 | 色調 | | | | 胎土 | | | | | | 器面調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | | 外面 | | 内面 | | 石英 | 長石 | 角閃石 | 雲母 | 輝石 | その他 | 外面 | 内面 | |
| 56 | 200 | K区Ⅱ層<br>No.6088,6157 | 弥生末～古墳初 | 甕形土器 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 灰黄褐 | 10YR4/2 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | △ | △ | △ | | | | 縦ハケメ | 横ハケメ | カキアゲ技法煤付着 |
| 56 | 201 | J区Ⅱ層<br>No.4034,4124 | 弥生末～古墳初 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 明赤褐 | 5YR5/6 | 明赤褐 | 5YR5/6 | △ | ○ | | | ○ | | 縦ハケメ | 横ナデ | カキアゲ技法<br>外面煤付着 |
| 56 | 202 | G区Ⅱ層<br>No.1062 | 弥生末～古墳初 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 黒褐 | 10YR3/2 | 黒褐 | 10YR3/1 | △ | ◎ | | ○ | | | 縦ハケメ | 横方向ハケメ | カキアゲ技法 |
| 56 | 203 | K区Ⅲ層<br>No.7878 | 弥生末～古墳初 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 明赤褐 | 5YR5/6 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | | △ | | ○ | △ | | 縦ハケメのち横ナデ，<br>口唇部摩滅 | 横ナデ | カキアゲ技法 |
| 56 | 204 | G区Ⅱ層<br>No.505 | 弥生末～古墳初 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/3 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ◎ | ◎ | | | | | 縦ハケメのち横ナデ | 横ハケメ | カキアゲ技法 |
| 56 | 205 | H区Ⅲ層<br>No.7060 | 弥生末～古墳初 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | ○ | ○ | | △ | | | 板ナデ，ハケメ痕あり<br>口縁：横ナデ | 縦方向：ハケメ<br>口縁：横ナデ | |
| 56 | 206 | J区Ⅱ層<br>No.3766 | 弥生末 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | | △ | | ○ | △ | | 口唇：ナデ，<br>口縁上部：ハケメのち横ナデ，<br>口縁下部：ハケメ | ナデのち板状工具によるナデ | |
| 56 | 207 | J区Ⅱ層<br>No.5024 | 弥生末～古墳初 | 甕 | 口縁 | - | 28.0 | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | △ | △ | | ○ | | | 口唇：横ナデ<br>口縁：縦ハケメ | 斜めハケメのちナデ | |
| 56 | 208 | J区Ⅱ層<br>No.3655 | 弥生末～古墳初 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR6/3 | にぶい橙 | 7.5YR 7/4 | △ | △ | | | | | 縦ハケメ | 横ハケメ | |
| 56 | 209 | I区Ⅲ層<br>No.7324(2) | 弥生末～古墳初 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 橙 | 7.5YR7/6 | △ | ○ | | | | 褐色石 | 口縁：縦ハケメ<br>摩滅 | 摩滅 | 外面煤付着? |
| 56 | 210 | F区Ⅱ層<br>No.902,913<br>G区Ⅱ層<br>No.154,162 | 弥生末～古墳初 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | △ | △ | △ | | | | 口縁：縦ハケメ<br>胴：ナデ | 口縁：指オサエ・横ナデ<br>胴：横工具ナデ | 外面黒斑<br>煤付着 |
| 56 | 211 | F区Ⅲ層<br>No.815,1447 | 弥生末～古墳初 | 甕 | 口縁～胴 | - | 18.2 | - | - | 良 | 灰褐 | 7.5YR4/2 | 褐 | 7.5YR4/6 | ○ | ○ | ○ | | | | 口縁：縦ハケメ<br>胴：縦ハケメ | 口縁～上胴：横斜めハケメ<br>下胴～底部：縦ハケメのちナデ | 外面煤付着 |
| 57 | 212 | H区Ⅱ層<br>No.691,1615,1636,1653,1689,1778 | 古墳前 | 甕 | 口縁～胴 | - | 21.5 | - | - | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | ○ | △ | ◎ | ◎ | | 口縁：縦ハケメのち工具ナデ<br>胴：上方向ハケメ | 口縁：横ハケメのち工具ナデ<br>胴：ナデ | |
| 57 | 213 | 5T Ⅲ層No.48<br>一括 | 古墳前 | 甕 | 口縁～胴 | - | 18.8 | - | - | 良 | 灰褐 | 7.5YR4/2 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | ○ | ◎ | | | | 白色軽石 | 口縁：縦ハケメのちナデ<br>上胴：横ハケメのちナデ<br>下胴：斜めハケメのちナデ | 横ハケメのちナデ | 外面煤付着 |
| 57 | 214 | J区Ⅱ層<br>No.4313,4315,4317<br>K区Ⅱ層No.5969 | 古墳前 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | ◎ | △ | △ | △ | | 口縁：縦ハケメ<br>胴：下方向ハケメ | 口縁：横工具ナデ<br>口縁下～胴：縦ハケメ | |
| 57 | 215 | I区Ⅱ層<br>No.3300 | 古墳前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | 橙 | 5YR6/6 | ○ | ○ | ○ | | | 灰褐色石 | 縦ハケメ | 横ナデ | |
| 57 | 216 | G区Ⅱ層<br>No.163 | 古墳前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | ○ | ○ | ○ | | | | 口縁：横ナデ<br>口縁下：縦ハケメ | ハケメのちナデ | 胎土異質。<br>口唇部ナデによる凹み |
| 57 | 217 | G区Ⅱ層<br>No.1128 | 古墳前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | ○ | △ | | | | 縦ハケメのちナデ | 横ナデ | |
| 57 | 218 | J区Ⅱ層<br>No.4140,4156,4302 | 古墳中 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 橙 | 5YR6/6 | ○ | △ | ◎ | | ○ | | 上方向ハケメのちナデ | 口縁端：横ナデ<br>口縁～胴：ハケメのちナデ | |
| 57 | 219 | J区Ⅱ層<br>No.4172,4214 | 古墳中 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | ○ | △ | | | | 縦ハケメのちナデ | 横工具ナデ | |
| 57 | 220 | J区Ⅲ層<br>No.7735 | 古墳中 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 10YR4/1 | にぶい黄褐 | 10YR5/4 | ◎ | ◎ | | | | 白色軽石 | 口縁：横ナデ<br>胴：縦ハケメ | 口縁：横ナデ<br>胴：横板ナデ | |
| 57 | 221 | F区Ⅱ層<br>No.890<br>G区Ⅱ層<br>No.195,6519(4) | 古墳中 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | 黒 | 10YR2/1 | 赤褐 | 5YR4/6 | △ | ○ | ◎ | | △ | | ナデ | 口縁：斜め・縦方向ヘラナデ<br>胴：ナデ | |
| 57 | 222 | G区Ⅱ層<br>No.223 | 古墳後 | 甕 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 7.5YR5/3 | にぶい橙 | 10YR7/4 | ○ | ○ | ○ | | | | 斜めハケメのちナデ | 横ハケメのちナデ | |
| 57 | 223 | 一括 | 弥生末～古墳前 | 甕 | 口縁下～胴 | - | - | - | - | 良 | 赤褐 | 2.5YR6/4 | にぶい赤褐 | 2.5YR4/4 | ○ | ◎ | | | | 白色軽石 | 斜めハケメ | 斜め工具ナデ・ナデ | |
| 57 | 224 | H区Ⅲ層<br>No.6824 | 弥生末～古墳前 | 甕 | 口縁下～胴 | - | - | - | - | 良 | 灰褐 | 7.5YR6/2 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ◎ | ○ | △ | | | | 斜めハケメ | 斜め工具ナデ・ナデ | 外面煤付着 |
| 57 | 225 | H区No.1940 | 弥生末～古墳前 | 甕 | 口縁下～胴 | - | - | - | - | 良 | 褐 | 7.5YR4/3 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ◎ | ◎ | | | | | 縦ハケメ | 斜めハケメ | |
| 57 | 226 | H区Ⅱ層<br>No.1659 | 弥生末～古墳前 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | ○ | ○ | | △ | | | 縦ハケメのちナデ消し | 斜めハケメ | |
| 57 | 227 | H区No.2415 | 弥生末～古墳前 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | 赤褐 | 5YR4/6 | ◎ | ○ | | | △ | | 斜め方向ハケメ | ナデ | |
| 57 | 228 | H区Ⅱ層<br>No.1548 | 古墳初～前 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 灰褐 | 5YR4/2 | 褐 | 5YR4/6 | ◎ | ○ | | | | 赤褐石 | 口縁下：縦ハケメ<br>胴：斜めハケメ・ナデ | 斜めハケメ・ナデ | |
| 57 | 229 | H区Ⅱ層<br>No.2172 | 古墳中 | 甕 | 口縁下～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR4/3 | 赤褐 | 5YR4/6 | ◎ | ◎ | | △ | | | 横ナデ，ハケメ | 横板ナデ | |

## 第８表　弥生時代終末～古墳時代　包含層出土土器観察表(3)

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土位置 | 時代 | 器種 | 部位 | 法量（cm） | | | | 焼成 | 色調 | | | | 胎土 | | | | | | 器面調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | | 外面 | | 内面 | | 石英 | 長石 | 角閃石 | 雲母 | 輝石 | その他 | 外面 | 内面 | |
| 57 | 230 | 9T Ⅲ層No.163 | 古墳中 | 甕 | 口縁下～胴 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 7.5YR4/1 | 褐灰 | 7.5YR4/1 | ○ | ○ | | | | | 横ナデ，ハケメ | 横ナデ，工具ナデ | 小型の甕，外面煤付着 |
| 57 | 231 | H区Ⅱ層No.2188 | 古墳中 | 甕 | 口縁下～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR4/3 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | ○ | | ◎ | | | 横方向工具ナデ<br>縦方向ハケメ | 上部：横方向ハケメ<br>斜め方向工具ナデ | |
| 57 | 232 | H区Ⅱ層No.734 | 古墳後 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | ○ | △ | △ | | | 上部：横方向工具ナデ<br>縦方向ハケメ | 上部：横方向ハケメ<br>下部：斜め方向工具ナデ | |
| 58 | 233 | Ⅰ区Ⅱ層No.2852 | 古墳前 | 甕 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 黒褐 | 10YR3/2 | 暗褐 | 10YR3/3 | ○ | △ | | | | | 横ナデ，ナデ　沈線あり | 横ハケメ | 外面煤付着，布留系の甕？<br>二重口縁 |
| 58 | 234 | H区Ⅱ層No.666 | 古墳前 | 甕 | 口縁下～胴 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 7.5YR7/6 | 浅黄橙 | 10YR8/3 | ○ | ◎ | △ | | ○ | 明褐色石<br>褐灰色石 | 横：斜めヘラナデ | 斜め方向ヘラナデ | 外面煤付着，布留系の甕？<br>二重口縁 |
| 58 | 235 | I区Ⅱ層No.2860 | 古墳前～中 | 甕 | 胴 | - | - | - | 胴径29.6 | 良 | 灰褐 | 7.5YR4/2 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | △ | | | | | ナデ | ナデのち指オサエ | つまみ整形<br>突帯文 |
| 58 | 236 | G区Ⅱ層No.1341 | 古墳前～中 | 甕 | 口縁下～胴 | - | - | - | - | 良 | 灰黄褐 | 10YR4/2 | にぶい褐 | 10YR5/4 | ○ | ○ | ○ | | | 白色石 | ナデ | ナデ | つまみ整形<br>突帯文<br>一部煤付着 |
| 58 | 237 | J区Ⅱ層No.3508 | 古墳前～中 | 甕 | 口縁下～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | ◎ | ○ | △ | | | | 突帯上：横方向ナデ，<br>突帯下：ナデ | ナデ・指オサエ | つまみ整形<br>突帯文 |
| 58 | 238 | G区Ⅱ層No.1337 | 古墳前～中 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 灰褐 | 7.5YR4/2 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | ◎ | ○ | ○ | | | 灰白色石 | 斜めハケメ | 斜めハケメのちナデ | つまみ整形<br>突帯文 |
| 58 | 239 | G区Ⅱ層No.1167 | 古墳前～中 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | ○ | △ | | | | 縦ハケメのちナデ | 横ヘラナデ | つまみ整形<br>突帯文 |
| 58 | 240 | J区Ⅱ層No.4060 | 古墳前～中 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 黒褐 | 7.5YR3/1 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | ○ | △ | △ | ○ | 白色石 | 斜めハケメのちミガキ | ナデ，指オサエ | つまみ整形<br>突帯文<br>外面煤付着 |
| 58 | 241 | J区Ⅱ層No.3934 | 古墳前～中 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 5YR7/6 | 浅黄橙 | 7.5YR8/6 | △ | ○ | | | | | ハケメのちナデ | ナデのち指オサエ<br>(摩滅が激しい) | 刻目突帯文<br>外面煤付着 |
| 58 | 242 | G区Ⅱ層No.166 | 古墳前～中 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 5YR4/1 | 暗赤褐 | 5YR3/4 | ◎ | ◎ | △ | | | | ナデ | ナデ | 絡縄突帯文 |
| 58 | 243 | J区Ⅱ層No.3561 | 古墳前～中 | 甕 | 口縁下～胴 | - | - | - | - | 良 | 黒 | 7.5YR2/1 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | ◎ | ○ | △ | | | | 横ナデ，上部：工具横ナデ | ハケメのちナデ，指オサエ | 絡縄突帯文<br>外面煤付着 |
| 58 | 244 | M区Ⅱ層No.6501 | 古墳中 | 甕 | 口縁下～胴 | - | - | - | - | 良 | 明赤褐 | 5YR5/6 | 明赤褐 | 5YR5/6 | ◎ | ○ | △ | | | | 縦方向ハケメ<br>突帯直上：横ナデ | 斜めハケメのちナデ<br>下部：指オサエ | 絡縄突帯文<br>外面黒斑あり |
| 58 | 245 | J区Ⅱ層No.3955 | 古墳中 | 甕 | 口縁下～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | にぶい黄橙 | 10YR7/3 | ○ | △ | ○ | | | | ナデ | 指ナデのち指オサエ | 絡縄突帯文<br>外面黒斑あり |
| 58 | 246 | G区Ⅱ層No.1302 | 古墳中 | 甕 | 口縁下～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | ○ | ○ | △ | | | | ナデ | 上部：横方向ナデ<br>下部：ナデ・指オサエ | 絡縄突帯文 |
| 58 | 247 | G区Ⅱ層No.1274 | 古墳中 | 甕 | 口縁下～胴 | - | - | - | - | 良 | 黒褐 | 7.5YR3/1 | 暗褐 | 7.5YR3/4 | ◎ | ◎ | △ | | | | ナデ | ナデ<br>胴：指オサエ | 絡縄突帯文 |
| 58 | 248 | I区Ⅱ層No.2819 | 古墳中 | 甕 | 口縁下～胴 | - | - | - | - | 良 | 灰褐 | 7.5YR4/2 | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | ○ | ○ | △ | | | | ナデ | 斜めナデ | 絡縄突帯文 |
| 58 | 249 | G区Ⅲ層No.6597 | 古墳後 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | ○ | △ | ○ | | | | ナデ | ヘラ工具斜めナデのち指オサエ | 絡縄突帯文 |
| 58 | 250 | G区Ⅲ層No.6613 | 古墳後 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 黒褐 | 5YR3/1 | にぶい赤褐 | 5YR4/3 | ◎ | ◎ | ○ | | | | ミガキ | 横方向ナデ | 絡縄突帯文 |
| 58 | 251 | G区Ⅱ層No.466 | 古墳？ | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 褐 | 7.5YR4/3 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | ○ | ○ | ○ | | | | ナデ | ナデ | 突帯文 |
| 59 | 252 | J区Ⅱ層No.4223,4263,4348,5106(2) | 古墳 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | 橙 | 7.5YR6/6 | △ | ○ | △ | | | | 縦ハケメのちナデ | ナデ | 外面煤付着 |
| 59 | 253 | I区Ⅲ層No.7309 | 古墳 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 7.5YR6/6 | 褐灰 | 5YR4/1 | ○ | ◎ | | ◎ | ○ | | 縦ハケメ | ナデ | 内面煤付着 |
| 59 | 254 | F区No.856,865,1424 | 弥生末 | 甕 | 底 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 5YR6/4 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | ○ | △ | ○ | | | 板ナデ | 板ナデ | |
| 59 | 255 | I区Ⅱ層No.4419,4420,3191 | 弥生末 | 甕 | 底 | - | - | 10.8 | - | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | 赤褐 | 5YR4/6 | ○ | ◎ | | ○ | | 白色軽石 | 上方向ハケメ | 裾部：横ケズリ<br>上部：縦ケズリ | |
| 59 | 256 | I区Ⅱ層No.3269(2) | 弥生末 | 甕 | 底 | - | - | 9.6 | - | 良 | 橙 | 7.5YR6/6 | 黒褐 | 7.5YR3/1 | ◎ | ◎ | | | ○ | 白色軽石 | 横ナデ | 横ケズリ | |
| 59 | 257 | 11T 一括(2) | 弥生末 | 甕 | 底 | - | - | 9.2 | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | ○ | ○ | ○ | | | 白色パミス | 横板ナデ | 横板ナデ | |
| 59 | 258 | H区Ⅱ層No.1662 | 弥生末 | 甕 | 底 | - | - | 7.2 | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR6/3 | にぶい褐 | 7.5YR6/3 | | ◎ | | | | 灰白色軽石 | 上部：縦ハケメのちナデもしくは摩滅，<br>下部：横ナデ | 横ナデ | |

## 第８表　弥生時代終末～古墳時代　包含層出土土器観察表(4)

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土位置 | 時代 | 器種 | 部位 | 法量（cm） | | | | 焼成 | 色調 | | | | 胎土 | | | | | | 器面調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | | 外面 | | 内面 | | 石英 | 長石 | 角閃石 | 雲母 | 輝石 | その他 | 外面 | 内面 | |
| 59 | 259 | K区Ⅱ層<br>No.5595 | 弥生終末<br>～古墳初 | 甕 | 底 | - | - | 8.2 | - | 良 | 橙 | 5YR7/6 | にぶい橙 | 5YR7/3 | ○ | ○ | ○ | △ | | | 不明（摩滅が激しい） | ナデ | |
| 59 | 260 | 10T Ⅲ層<br>No.181 | 弥生終末<br>～古墳初 | 甕 | 底 | - | - | 10.1 | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | ○ | ○ | | | 赤褐色石 | 横ナデ | 横ナデ | 内側一部表面的 |
| 59 | 261 | K区Ⅱ層<br>No.5296 | 弥生終末<br>～古墳初 | 甕 | 底 | - | - | 7.8 | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 橙 | 5YR6/6 | △ | ○ | ○ | | | | ナデ | ナデ | |
| 59 | 262 | F区Ⅲ層<br>No.857 | 弥生終末<br>～古墳初 | 甕 | 底 | - | - | 10.8 | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | △ | △ | ○ | | | | ナデ | ナデ | |
| 59 | 263 | I区Ⅱ層<br>No.2545,2588 | 古墳前 | 甕 | 胴～底 | - | - | 9.2 | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 褐灰 | 10YR4/1 | ○ | ◎ | △ | | | | 上方向板ナデ，指ナデ | 上方向板ナデ，横ナデ | |
| 59 | 264 | K区Ⅱ層<br>No.5303 | 古墳前 | 甕 | 胴～底 | - | - | 7.0 | - | 良 | 明褐灰 | 7.5YR7/2 | 褐灰 | 7.5YR5/1 | ○ | ○ | △ | | | | 胴：上方向工具ナデ<br>高台：指オサエ | 胴：工具ナデ<br>高台：指オサエ | 中津野式，底部充填し脚台貼り付け |
| 59 | 265 | G区Ⅱ層<br>No.244,245,256,963 | 古墳前 | 甕 | 底 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 褐灰 | 10YR4/1 | ○ | △ | ○ | | | | ナデ | ナデ | 接合痕が明瞭に残る |
| 59 | 266 | G区Ⅲ層<br>No.6599 | 古墳前 | 甕 | 底 | - | - | 10.6 | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR6/3 | にぶい褐 | 7.5YR6/3 | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ナデ | ナデ，工具によるナデ | |
| 59 | 267 | J区Ⅱ層<br>No.3775 | 古墳中 | 甕 | 底 | - | - | 6.1 | - | 良 | 浅黄 | 2.5Y7/3 | 黄灰 | 2.5Y4/1 | ○ | △ | | | | | 縦方向工具ナデ<br>下部横方向ナデ | 指ナデ | |
| 59 | 268 | G区Ⅱ層<br>No.1400<br>H区Ⅱ層<br>No.2014 | 古墳中 | 甕 | 底 | | 7.6 | | | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | ○ | △ | | | 軽石 | 上方向ケズリ，ナデ，指オサエ | ナデ，工具によるナデ，指オサエ | |
| 60 | 269 | G区Ⅲ層<br>No.6538,6539 | 弥生末 | 壺 | 口縁～頸 | - | 15.9 | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ◎ | △ | ○ | | | | 口縁：横ナデ<br>頸：縦ハケメ | 横ナデ | |
| 60 | 270 | G区Ⅱ層<br>No.979 | 弥生末 | 壺 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | 黒褐 | 7.5YR3/1 | △ | △ | | | | | 横ヘラナデ | 横ヘラナデ | |
| 60 | 271 | H区Ⅱ層<br>No.1920,2178 | 古墳初 | 壺 | 口縁 | - | 15.5 | - | - | 良 | 橙 | 5YR7/6 | 浅黄 | 2.5YR7/3 | ○ | ◎ | | | | | 口縁：ナデ<br>下部：縦ハケメのちナデ | 上部：横ナデ<br>下部：縦ハケメのちナデ | |
| 60 | 272 | H区Ⅱ層<br>No.2410 | 古墳初 | 壺 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | ○ | | | | | 縦ハケメ・ナデ | 横ハケメ・ナデ | |
| 60 | 273 | 8T Ⅲ層<br>No.21,24,36<br>No.187 ※住２出土関連あり | 古墳初 | 壺 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | ○ | ○ | | | | 白色軽石 | 口縁：上方向ハケメ<br>肩～胴：縦ハケメ | 口縁：縦ハケメ<br>肩：ナデ・指オサエ | 口縁下，胴部に煤付着 |
| 60 | 274 | F区Ⅲ層<br>No.1415 | 古墳前 | 壺 | 口縁 | - | 16.2 | - | - | 良 | にぶい黄褐 | 10YR7/4 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | ◎ | ◎ | ○ | | △ | | 縦ハケメのちナデ摩滅 | ナデ | |
| 60 | 275 | F区Ⅲ層<br>No.904 | 古墳前 | 壺 | 口縁～肩 | - | 12.2 | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | ◎ | ◎ | ○ | | | | 口縁上：横ナデ<br>口縁下：縦ハケメ | 横ナデ | |
| 60 | 276 | H区Ⅱ層<br>No.2102,2106 | 古墳前 | 壺 | 口縁 | - | 13.0 | - | - | 良 | 明赤褐 | 5YR5/6 | 黒褐 | 10YR3/1 | ○ | ◎ | △ | ○ | | | 口縁上：横ナデ<br>口縁下：縦ハケメ<br>肩：縦ハケメ | 口縁：横工具ナデ<br>肩：ナデ・指オサエ | |
| 60 | 277 | I区Ⅱ層<br>No.3149,<br>I区Ⅲ層<br>No.7197 | 古墳前 | 壺 | 口縁 | - | 8.6 | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | にぶい黄橙 | 10YR7/3 | ◎ | ○ | ○ | | ○ | | 口縁上：横ナデ<br>口縁下：縦ハケメ | 横方向ナデ | |
| 60 | 278 | G区Ⅱ層<br>No.1130 | 古墳前 | 壺 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/3 | にぶい褐 | 7.5YR6/3 | ○ | ◎ | ○ | | | | 口縁上：横ナデ<br>口縁下：縦ハケメのちナデ | 横ナデ | |
| 60 | 279 | G区Ⅱ層<br>No.312,315 | 古墳前 | 壺 | 口縁 | - | 5.0 | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | 橙 | 5YR6/6 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 口縁上：ナデ<br>口縁下：下方向ハケメ | ナデ | |
| 60 | 280 | J区Ⅱ層<br>No.4070,4148,4156 | 古墳前 | 壺 | 口縁～肩 | - | 15.0 | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/3 | 浅橙 | 2.5YR7/3 | ○ | ○ | ◎ | | | | 口縁上：横ナデ<br>口縁下：下方向ハケメ | 横ハケメのちナデ，ナデ | |
| 60 | 281 | J区Ⅱ層<br>No.4145,4977 | 古墳前 | 壺 | 口縁 | - | 16.3 | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | にぶい黄褐 | 10YR5/3 | ○ | ○ | △ | | | | 口縁上：斜めナデ・ナデ<br>口縁下：縦ハケメのちナデ | 口縁上：横ハケメ<br>口縁下：横工具ナデ | |
| 60 | 282 | Ⅰ区Ⅱ層<br>No.4479<br>4601，Ⅲ層<br>No.7343,7344,<br>一括 | 古墳前 | 壺 | 口縁～胴 | - | 7.6 | - | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 橙 | 5YR6/6 | ○ | ○ | ○ | | | | 口縁：ハケメのちナデ<br>上胴：縦ハケメのちナデ<br>中胴：縦ハケメ | 口縁：ハケメのちナデ<br>胴：指オサエ | |
| 60 | 283 | J区Ⅲ層<br>No.7651(14)，<br>7652,7653,(2)，<br>7654,7760(9) | 古墳前 | 壺 | 口縁～胴 | - | 13.1 | - | 最大径23cm | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 橙 | 5YR6/6 | ○ | ○ | △ | | | | 口縁：上方向ハケメ<br>肩～突帯：下方向ハケメ<br>下胴：縦ハケメ | 横ナナメ方向板ナデ・指オサエ | 刻目突帯文 |
| 60 | 284 | Ⅰ区Ⅱ層<br>No.7169 | 古墳前 | 壺 | 口縁 | - | 10.3 | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 黒褐 | 7.5YR3/2 | ○ | | ○ | | | | ナデのち櫛描波状文 | 指ナデ | 二重口縁壺か |
| 60 | 285 | 一括 | 古墳前 | 壺 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | △ | △ | | △ | | | ナデのち櫛歯状工具による刺突のち<br>櫛描波状文 | ナデ | 二重口縁壺か |
| 60 | 286 | H区Ⅱ層<br>No.1788 | 古墳前 | 壺 | 口縁 | - | 12.2 | - | - | 良 | 灰褐 | 7.5YR4/2 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | ◎ | ○ | ○ | | ○ | | 横工具ナデ | 横工具ナデ | 二重口縁壺 |
| 60 | 287 | I区Ⅱ層<br>No.2719 | 古墳前 | 壺 | 口縁？～頸 | - | 11.0 | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 灰黄褐 | 10YR6/2 | ◎ | ◎ | | | △ | | ナデ（摩滅多） | ナデ（摩滅多） | 二重口縁壺 |

## 第８表　弥生時代終末～古墳時代　包含層出土土器観察表(5)

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土位置 | 時代 | 器種 | 部位 | 法量（cm） | | | | 焼成 | 色調 | | | | 胎土 | | | | | | 器面調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | | 外面 | | 内面 | | 石英 | 長石 | 角閃石 | 雲母 | 輝石 | その他 | 外面 | 内面 | |
| 60 | 288 | Ⅰ区Ⅱ層 No.2931 | 古墳前 | 壺 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | △ | | | | △ | | ナデ | ナデ | 二重口縁壺 |
| 60 | 289 | 住１一括 | 古墳前 | 壺 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | △ | | | | △ | | ナデ・ハケメ | ナデ | 二重口縁壺 |
| 60 | 290 | Ｈ区Ⅲ層 No.7052 | 古墳 | 無頸壺 | 口縁 | - | 8.0 | - | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 橙 | 5YR6/8 | ○ | △ | | | | | ナデ | ナデ | |
| 60 | 291 | Ｈ区Ⅱ層 No.1734,2099 | 古墳 | 壺 | 口縁下～肩 | - | - | - | - | 良 | 暗赤褐 | 5YR3/4 | 褐 | 7.5YR4/3 | ○ | ○ | | △ | | | ナデ | ナデ | |
| 60 | 292 | Ⅰ区Ⅱ層 No.2869 | 古墳 | 壺 | 口縁下～肩 | - | - | - | 頸部径 10.8 | 良 | オリーブ褐 | 2.5Y4/4 | 黒 | 2.5Y2/1 | △ | △ | | | ○ | | 横ナデ，ナデ | 横ナデ，ナデ | 外面にハケメ状工具による圧痕が残る |
| 60 | 293 | Ｈ区Ⅱ層 No.2120 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 肩 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 赤褐 | 5YR4/6 | ○ | ○ | ○ | | △ | 赤褐色石 | 肩：横方向工具ナデ<br>胴：斜めハケメ | 横方向工具ナデ<br>縦方向ケズリ | |
| 60 | 294 | Ⅰ区Ⅲ層 No.7469 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 肩 | - | - | - | - | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | ○ | | △ | | | ナデ | ナデ | 外面煤付着 |
| 60 | 295 | 7T Ⅱ層No.21 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 肩 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ◎ | ◎ | ○ | | | | 縦ハケメ，光沢有 | 縦ハケメ | 頸部に刻目突帯文の一部 |
| 61 | 296 | Ⅰ区Ⅱ層 No.4500<br>Ⅰ区Ⅲ層 No.7329,7460 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | 明赤褐 | 5YR5/6 | ○ | | | △ | △ | | ハケメ・ナデ | ハケメ・指オサエ | 断面三角形突帯文２条 |
| 61 | 297 | Ｇ区Ⅱ層 No.1333 | 弥生末～古墳前 | 甕 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 7.5YR4/1 | 褐 | 7.5YR4/3 | ○ | ○ | ○ | | | | 突帯文，ナデ | ナデ | つまみ整形突帯文 |
| 61 | 298 | Ｇ区Ⅱ層 No.1249 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | ○ | ○ | △ | | | | ナデ | ナデ | つまみ整形突帯文 |
| 61 | 299 | Ｇ区Ⅱ層 No.519 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 肩 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | ○ | △ | | | 暗褐石，褐灰石 | 縦ハケメ，突帯：横ナデ | 斜めハケメのちナデ | 刻目突帯文 |
| 61 | 300 | Ｍ区Ⅱ層 No.6340 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 明赤褐 | 5YR5/6 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ◎ | ◎ | △ | | | | 縦方向：ハケメのち横方向ナデ | ナデ | 刻目突帯文 |
| 61 | 301 | Ｊ区Ⅱ層 No.3361,4662 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 灰褐 | 7.5YR5/2 | にぶい赤褐 | 2.5YR4/4 | △ | ○ | | ○ | | | ハケメ | ハケメ | 刻目突帯文 |
| 61 | 302 | Ｊ区Ⅱ層 No.3686 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | ○ | | △ | | | 縦ハケメ，横ナデ | 斜めハケメ，指オサエ | 刻目突帯文 |
| 61 | 303 | Ⅰ区Ⅱ層 No.4501 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 浅黄 | 10YR8/4 | 浅黄橙 | 7.5YR8/4 | ◎ | ◎ | | | | 褐色石 | 突帯上：斜め方向ハケメ<br>突帯ナデ，ヘラ工具刺突 | 上方向ヘラナデ | 刻目突帯文<br>外面煤付着 |
| 61 | 304 | Ｆ区Ⅱ層 No.809 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 明赤褐 | 5YR5/6 | ◎ | ◎ | ○ | | | | 斜めハケメ | ナデ，摩滅 | 刻目突帯文 |
| 61 | 305 | Ｋ区Ⅱ層 No.6120 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 7.5YR6/6 | 灰黄褐 | 10YR6/2 | ○ | ◎ | △ | | | | ナデ | ナデ，指頭圧痕 | 刻目突帯文 |
| 61 | 306 | Ｈ区Ⅱ層 No.1819 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR7/3 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | ○ | ○ | △ | | | | 縦ハケメ | 斜めハケメのちナデ | 刻目突帯文 |
| 61 | 307 | Ｇ区Ⅲ層 No.6755 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 暗赤褐 | 5YR3/6 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | ◎ | | △ | | ○ | 白色軽石 | ナデ | 横：ナナメ，ヘラ状工具ナデ | 刻目突帯文 |
| 61 | 308 | Ⅰ区Ⅱ層 No.2747 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 暗灰 | N31 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | ○ | ◎ | △ | | ○ | 白色軽石 | 斜めハケメのちミガキ | 横方向ハケメ | 断面M字突帯文に豆粒状浮文（擬似刻目突帯文） |
| 61 | 309 | Ｊ区Ⅱ層 No.3454 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 下胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR10/4 | 灰黄褐 | 10YR5/2 | ◎ | ◎ | | ○ | | | 縦ハケメのち一部ミガキ | 横ハケメのちミガキ？<br>(光沢有) | |
| 61 | 310 | Ｋ区Ⅱ層 No.5730 | 弥生後 | 鉢 | 底 | - | - | 3.7 | - | 良 | 橙 | 7.5YR7/6 | 橙 | 7.5YR6/6 | ○ | ○ | | △ | | | ケズリ，ナデのち指オサエ | ナデ | |
| 61 | 311 | Ⅰ区Ⅲ層 No.2485,7176 | 弥生後 | 壺 | 底 | - | - | 4.7 | - | 良 | 黒褐 | 10YR3/1 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ◎ | ○ | △ | | | | ハケメ | 指ナデ | 外面煤付着 |
| 61 | 312 | Ⅰ区Ⅲ層 No.7466 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 底 | - | - | 2.2 | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | ◎ | | | ○ | | ナデ | ナデ | 指オサエ，調整痕あり |
| 61 | 313 | Ｇ区Ⅱ層 No.186 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 底 | - | - | 3.9 | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | 明赤褐 | 5YR5/6 | ◎ | ○ | ○ | | | | 縦ミガキ | ナデ | |
| 61 | 314 | Ｊ区Ⅱ層 No.3695 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 底 | - | - | 3.5 | - | 良 | 褐灰 | 10YR4/1 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | ○ | | | | 白色軽石 | ヘラケズリのちナデ，<br>カキ上げのちナデ | ハケメ | |
| 61 | 315 | Ⅰ区Ⅱ層 No.2434 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 底 | - | - | 4.9 | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | にぶい黄橙 | 10YR7/3 | ○ | ◎ | △ | | ○ | | ナデ | 工具ナデ | |
| 61 | 316 | Ｍ区Ⅱ層 No.6442 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 底 | - | - | 3.0 | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | 橙 | 5YR6/6 | ◎ | ◎ | △ | | | | ナデ | 縦方向工具ナデ | |
| 61 | 317 | Ｈ区Ⅱ層 No.1652 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 底 | - | - | 3.7 | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 橙 | 7.5YR7/6 | ◎ | ◎ | | | | | ナデ | ヘラ工具による整形 | |
| 61 | 318 | Ｈ区Ⅱ層 No.1709,1724,2098 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 底 | - | - | 3.3 | - | 良 | 明赤褐 | 5YR5/6 | 明赤褐 | 5YR5/6 | ○ | ○ | | | | | ナデのちミガキ | ハケメ，中央くぼみ，ヘラ整形 | |
| 61 | 319 | Ｆ区Ⅱ層 No.140 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 底 | - | - | 0.6 | - | 良 | 灰黄褐 | 10YR6/2 | 灰黄褐 | 10YR6/2 | ○ | ○ | | | | | ナデ，指オサエ | 工具ナデ，指オサエ | |
| 61 | 320 | Ｈ区Ⅱ層 No.1477 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 底 | - | - | 0.8 | - | 良 | 灰褐 | 7.5YR4/2 | 黒褐 | 7.5YR3/1 | ○ | ◎ | △ | | | | ナデ | 工具ナデ | 乳房状突起を持つ |

## 第８表　弥生時代終末～古墳時代　包含層出土土器観察表(6)

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土位置 | 時代 | 器種 | 部位 | 法量（cm） | | | | 焼成 | 色調 | | | | 胎土 | | | | | | 器面調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | | 外面 | | 内面 | | 石英 | 長石 | 角閃石 | 雲母 | 輝石 | その他 | 外面 | 内面 | |
| 62 | 321 | H区Ⅱ層 No.1892 | 古墳前 | 坩 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | 赤褐 | 5YR4/6 | ○ | ○ | ○ | | | | 縦方向ハケメ 突帯：横のハケメ痕あり | 斜めハケメ | |
| 62 | 322 | L区Ⅱ層一括 | 古墳前？ | 坩 | 肩 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 明赤褐 | 2.5YR5/6 | ○ | ○ | | ○ | | | ナデ | ナデ | |
| 62 | 323 | J区Ⅱ層 No.5090 | 古墳前？ | 坩 | 胴～底 | - | - | 0.7 | - | 良 | 赤褐 | 5YR4/8 | 灰褐 | 7.5YR5/2 | ○ | ○ | ○ | △ | | | ナデ，ケズリ | ナデ，指オサエ | 外面に赤色顔料が塗布される |
| 63 | 324 | F区Ⅲ層 No.838 | 古墳初 | 蓋 | 口縁～底 | 6.3 | 24.6 | - | - | 良 | 赤褐 | 2.5YR4/6 | 明赤褐 | 2.5YR5/6 | ○ | ○ | ◎ | | ◎ | | 横方向ミガキ | 縦方向ミガキ 口唇部とくびれ部は横方向ミガキ | |
| 63 | 325 | F区Ⅲ層 No.8361468 | 古墳初？ | 蓋 | 口縁 | - | - | - | 径22.0 | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | ○ | ○ | | | | | ハケメ，ヘラミガキ | 板ナデ | |
| 64 | 326 | I区Ⅲ層 No.7392 | 弥生後？ | 高坏 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 明赤褐 | 5YR5/6 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | ○ | | | | | 横ナデ | 横ナデ | |
| 64 | 327 | 9T Ⅲ層No.160 | 弥生後～末 | 高坏 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 黒褐 | 7.5YR3/1 | 黒褐 | 7.5YR3/1 | ○ | ○ | △ | | | | 口縁端：横方向ミガキ 頸：縦方向ヘラミガキ | 横方向ヘラミガキ | おそらく小型壺 or 鉢 |
| 64 | 328 | I区Ⅱ層 No.4402 | 弥生末～古墳前 | 高坏 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 明赤褐 | 5YR5/6 | △ | △ | △ | | | | 横ナデ | ミガキ，指オサエ有 | |
| 64 | 329 | F区Ⅱ層 No.106 G区Ⅱ層 No.209 | 弥生末～古墳前 | 高坏 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR7/3 | 赤褐 | 5YR4/8 | ○ | ○ | △ | | | 砂粒 | ナデ | 不明（摩滅が激しい） | |
| 64 | 330 | F区Ⅱ層 No.787 | 弥生末～古墳前 | 高坏 | 口縁～胴 | - | 16.0 | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | ○ | ○ | | | | 口縁：横方向ナデ（ハケ） 胴：ナデ | 口縁：横方向ナデ（ハケ） 胴：ナデ | |
| 64 | 331 | H区Ⅱ層 No.1830,1831,1862 | 弥生末～古墳前 | 高坏 | 坏 | - | 29.4 | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい黄褐 | 10YR5/3 | ○ | ○ | ○ | | | 白色軽石 | 口唇：横ナデ，ナデ | 上部：横ナデ，下部：ナデ | 断面三角形突帯文 |
| 64 | 332 | G区Ⅲ層 No.6721 | 弥生末～古墳前 | 高坏 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | ◎ | ○ | △ | | | | 横ナデ | 横ナデ | 断面三角形突帯文 |
| 64 | 333 | G区Ⅱ層 No.1225 | 弥生末～古墳前 | 高坏 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/3 | 明赤褐 | 5YR5/5 | ○ | ○ | | △ | | | 縦ハケメ，口唇部横ナデ | 口唇部：横ハケメ | |
| 64 | 334 | G区Ⅱ層 No.1168 | 弥生末～古墳前 | 高坏 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい橙 | 5YR6/4 | ○ | ○ | | △ | | | 縦ハケメ，口唇部：横ナデ | 口唇部：横ナデ，横ハケメ | |
| 64 | 335 | J区Ⅱ層 No.4782,4804 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 口縁 | - | 15.4 | - | - | 良 | 橙 | 7.5YR6/6 | にぶい褐色 | 7.5YR5/4 | ○ | ○ | ◎ | | | | 横ナデ，ハケメ | ハケメ | |
| 64 | 336 | G区Ⅱ層 No.361 | 弥生末～古墳前 | 高坏？ | 口縁 | - | 23.0 | - | - | 良 | 灰褐 | 5YR5/2 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | ○ | △ | | | | 横ナデ，やや光沢あり | 横ナデ，やや光沢あり | |
| 64 | 337 | G区Ⅱ層 No.167 | 弥生末～古墳前 | 高坏 | 口縁付近 | - | - | - | - | 良 | 黒褐 | 10YR3/2 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | ◎ | ◎ | ○ | | | | ナデ，下部ハケメあり | 上部：ミガキ？（光沢あまりなし），下部：ハケメのちナデ | |
| 64 | 338 | G区Ⅱ層 No.1044 | 弥生末～古墳前 | 浅鉢 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ◎ | ◎ | △ | | | | 上：横ナデ，下：斜めハケメ | 横ナデ | |
| 64 | 339 | F区Ⅱ層 No.916 | 弥生末～古墳前 | 壺 | 口縁付近 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 橙 | 5YR6/6 | ◎ | ○ | ◎ | | | | 横方向ナデ | ナデ | |
| 64 | 340 | H区Ⅱ層 No.584,2176 | 弥生末～古墳前 | 高坏 | 口縁付近 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | △ | ○ | | ○ | △ | | 坏上部：ナデ，坏下部：ハケメのちミガキ | ミガキ（接合部分からおそらくハケメのちミガキ） | 接合面が良好に残っている |
| 64 | 341 | J区Ⅱ層 No.3740,3828 | 弥生末～古墳前 | 浅鉢 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄褐 | 10YR6/4 | 黒褐 | 7.5YR3/1 | ◎ | ○ | | | △ | | 条痕のちナデ | 横ミガキ | |
| 64 | 342 | G区Ⅱ層 No.1073 | 弥生末～古墳前 | 高坏 | 坏 | - | - | - | - | 良 | 明赤褐 | 5YR5/6 | 明赤褐 | 5YR5/6 | ○ | △ | △ | | | 灰白石 | 横ナデ | 横ナデ | |
| 64 | 343 | H区Ⅱ層 No.1822 | 弥生末～古墳前 | 高坏 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | 灰褐 | 7.5YR5/2 | ◎ | ◎ | ○ | | | | 突帯上：縦ハケメ 突帯下：ナデ，摩滅 | 上部：横ナデ 下部：縦方向工具ナデ | |
| 64 | 344 | J区Ⅱ層 No.3716 | 弥生末～古墳前 | 高坏 | 脚 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 2.5YR6/6 | 明赤褐 | 5YR5/6 | ○ | ○ | △ | ○ | | | 板状工具によるナデ | ナデ | |
| 64 | 345 | I区Ⅱ層 No.2811,2875,3047,3296,4505，一括 | 弥生末～古墳初 | 高坏 | 脚 | - | - | - | - | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | ◎ | ◎ | △ | △ | | | 縦方向ハケメのちナデ | ナデ | スカシ孔あり |
| 64 | 346 | G区Ⅱ層 No.1018 | 弥生末～古墳初 | 高坏 | 脚 | - | - | - | - | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | にぶい赤褐 | 5YR4/3 | △ | △ | | | | | 板状工具によるナデ | 板状工具によるナデ | スカシ孔あり |
| 64 | 347 | G区Ⅱ層 No.955 | 弥生末～古墳初 | 高坏 | 脚 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | 灰黄褐 | 10YR5/2 | ○ | △ | | | △ | | ハケメ | ナデのち指オサエ | スカシ孔あり |
| 64 | 348 | G区Ⅱ層 No.6722 | 弥生末～古墳初 | 高坏 | 脚 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/3 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | ○ | | | | ○ | | ハケメのち指ナデ | 指ナデ | スカシ孔あり |
| 64 | 349 | G区Ⅲ層 No.6682 | 弥生末～古墳初 | 高坏 | 脚 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | ○ | △ | △ | | ○ | | 板状工具によるナデ | 摩滅により不明 | 外面の工具ナデ調整の前に沈線もしくは工具痕の痕跡が残る。 |
| 64 | 350 | E区Ⅱ層No.6 | 弥生末～古墳初 | 高坏 | 脚 | - | - | - | - | 良 | 明赤褐 | 5YR5/6 | 明赤褐 | 5YR5/6 | ○ | ○ | ○ | | | 白色石 | ナデ，口唇：工具ナデ | ナデ，下部：ハケナデ | |
| 64 | 351 | 10T Ⅲ層 No.154 | 弥生末～古墳初 | 高坏 | 脚 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 5YR7/4 | にぶい橙 | 5YR7/4 | △ | △ | | | | | ハケメ，ナデ | ハケメ | |
| 64 | 352 | G区Ⅲ層 No.6542 | 弥生末～古墳初 | 高坏 | 脚 | - | - | - | - | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | 赤褐 | 5YR4/6 | ○ | △ | | | | | ナデ | ナデ | |

## 第８表　弥生時代終末～古墳時代　包含層出土土器観察表(7)

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土位置 | 時代 | 器種 | 部位 | 法量（cm） | | | | 焼成 | 色調 | | | | 胎土 | | | | | | 器面調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | | 外面 | | 内面 | | 石英 | 長石 | 角閃石 | 雲母 | 輝石 | その他 | 外面 | 内面 | |
| 64 | 353 | G区Ⅱ層<br>№970 | 弥生末～古墳初 | 高坏 | 脚 | - | - | - | - | 良 | 黒褐 | 7.5YR3/1 | 黒褐 | 7.5YR3/1 | ○ | ○ | | | | 白色石 | 上部：縦方向ハケメ，光沢あり<br>下部：ヘラ工具ナデ | 横ハケメのちナデ | |
| 64 | 354 | I区Ⅲ層<br>№7745 | 弥生末～古墳初 | 高坏 | 脚 | - | - | 16.0 | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 褐灰 | 10YR4/1 | ○ | ○ | | | | | 横ナデ | 横ナデ | |
| 64 | 355 | I区Ⅱ層一括 | 弥生末～古墳初 | 高坏 | 脚 | - | - | 11.0 | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | △ | △ | △ | △ | | | 縦方向ハケメかミガキ痕跡薄いがスジがある。光沢がある。 | 横ナデ | |
| 64 | 356 | G区Ⅱ層<br>№197 | 弥生末～古墳初 | 高坏 | 脚 | - | - | - | - | 良 | 明赤褐 | 2.5YR5/6 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | △ | △ | | | | | 横ナデのちハケメ | 横ナデ | 口縁に調整あり |
| 64 | 357 | I区Ⅱ層<br>№3090 | 弥生末～古墳初 | 高坏 | 脚 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | ○ | ○ | | | ○ | | 縦方向：ハケメ，下部：横ナデ | 横方向：ハケメのちナデ | |
| 64 | 358 | H区Ⅱ層<br>№2192<br>H区Ⅱ層<br>№1816 | 弥生末～古墳初 | 高坏 | 脚 | - | - | 9.6 | - | 良 | 浅黄 | 10YR8/4 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | ○ | ○ | ○ | | | | 縦方向ハケメ | ナデ | |
| 65 | 359 | L区Ⅱ層一括 | 弥生後～末 | 鉢 | 口縁～胴 | - | 22.4 | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR4/3 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | ◎ | | | | 黒色，褐色石 | 口縁：ハケメのち横ナデ<br>胴：縦ハケメ | 口縁：横ハケメのち横ナデ<br>胴：縦ハケメのちナデ | 口縁下：突帯上に煤付着<br>胴：使用摩滅甕として使用 |
| 65 | 360 | F区Ⅱ層<br>№106,895 | 弥生後～末 | 鉢 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 橙 | 5YR6/6 | ○ | ○ | ○ | | | | 横ナデ | 横ナデ | |
| 65 | 361 | F区Ⅱ層<br>№891 | 古墳前～中 | 鉢 | 口縁 | - | 22.8 | - | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 橙 | 5YR6/6 | ◎ | ◎ | ◎ | | | | 口縁：横ナデ，胴：ナデ | ハケメのちナデ | プロポーションは高坏だが器面はあらく鉢の可能性あり |
| 65 | 362 | G区Ⅱ層<br>№1080 | 古墳前～中 | 鉢 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | △ | ○ | ○ | ○ | △ | | 口唇：回転ナデ<br>胴：横斜め方向ミガキ | 横方向：ナデのち縦方向ミガキ | |
| 65 | 363 | L区Ⅱ層一括 | 古墳前～中 | 鉢 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | 橙 | 5YR6/6 | △ | △ | △ | | | | 口縁：横ナデ<br>胴：縦方向板ナデ | ナデ | 外、内　黒斑あり |
| 65 | 364 | H区Ⅱ層<br>№741 | 古墳前～中 | 鉢 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | 灰黄褐 | 10YR6/2 | | △ | ◎ | | ○ | | ナデ | ナデ | 二次的に穿孔 or 焼成失敗か？の痕跡 |
| 65 | 365 | J区Ⅱ層№4065,4073,4101,4190,4193,4238,4256 | 古墳中 | 鉢 | 口縁～胴 | - | 17.3 | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR6/4 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | △ | ◎ | | ◎ | | ナデ | 横方向工具ナデ | 口径：胴部から推定 |
| 65 | 366 | G区Ⅱ層<br>№937 | 古墳中 | 鉢 | 口縁～胴 | - | - | 11.8 | | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | 赤褐 | 5YR4/6 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ミガキのちナデ，ミガキ | ナデ | |
| 65 | 367 | J区Ⅱ層<br>№1263,4164,4227,5011 | 古墳中 | 鉢 | 口縁～胴 | - | 11.6 | - | - | 良 | 橙 | 5YR6/6 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | ○ | ○ | △ | | | | ナデ，ヘラ工具痕あり | ナデ | |
| 65 | 368 | 一括 | 古墳中 | ミニチュア鉢 | 口縁 | - | 9.7 | - | - | 良 | 灰白 | 2.5YR7/1 | にぶい黄橙 | 10YR7/2 | △ | △ | | | | | 縦斜め板ナデ | 横板ナデ | |
| 65 | 369 | L区Ⅱ層一括(2) | 古墳中 | 鉢 | 口縁～底 | 5.6 | 10.8 | 3.2 | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | にぶい橙 | 7.5YR7/3 | ○ | ○ | △ | | | | 横ナデ，ハケメのちナデ，<br>ハケメ，ナデ | 横ナデ，ナデ？<br>（摩滅，剥落） | |
| 65 | 370 | H区Ⅱ層<br>№2133 | 古墳中 | 鉢 | 口縁～胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 5YR7/4 | 浅黄橙 | 10YR8/3 | ○ | ◎ | △ | | | | 縦方向ハケメのち板ナデ | 縦方向ナデ | |
| 65 | 371 | J区Ⅱ層<br>№5051,5057,5061 | 古墳中 | 鉢 | 口縁～底 | - | 10.8 | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR6/3 | にぶい褐 | 7.5YR6/3 | △ | | | | | 灰色石 | 指オサエ | 指オサエ | |
| 65 | 372 | I区Ⅲ層<br>№7470 | 古墳か？ | 鉢 | 口縁下 | - | 8.4 | - | - | 良 | 褐灰 | 10YR4/1 | 褐灰 | 10YR4/1 | ○ | ○ | △ | | | | 縦方向ナデ | 横方向ナデ | |
| 65 | 373 | I区Ⅱ層<br>№2575,2577 | 古墳中 | 鉢 | 口縁 | - | 15.3 | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | △ | △ | △ | | | | ナデ（工具痕が残る） | ナデ | |
| 65 | 374 | I区Ⅲ層<br>№7744,4647 | 古墳中 | 鉢 | 口縁 | - | 10.1 | - | - | 良 | 赤褐 | 5YR4/6 | 赤褐 | 5YR4/6 | ◎ | ○ | △ | | | | ナデ | ナデ | |
| 65 | 375 | F区Ⅲ層<br>№818 | 弥生末～古墳 | 鉢 | 口縁 | - | - | - | - | 良 | 赤褐 | 5YR6/4 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | △ | △ | ○ | | | | 板状工具によるナデ | 板状工具によるナデ | |
| 65 | 376 | J区Ⅲ層<br>№7710(2) | 弥生末～古墳 | 小型土器 | 口縁～胴 | - | 6.2 | - | - | 良 | 灰黄褐 | 10YR6/2 | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | △ | ○ | ○ | | | | 板状工具によるナデ，ナデ | ナデ | |
| 65 | 377 | I区Ⅱ層<br>№2732 | 弥生末～古墳 | 小型土器 | 口縁～底 | 4.1 | 5.5 | - | - | 良 | 褐灰 | 10YR4/1 | 褐灰 | 10YR4/1 | ○ | ○ | | △ | | | 指オサエ | 指オサエのちナデ | |
| 65 | 378 | F区Ⅲ層<br>№833 | 弥生末～古墳 | 小型土器 | 口縁～底 | 3.1 | 5.1 | 1.3 | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | ○ | ○ | ○ | | | | ナデ | ナデ | |
| 65 | 379 | H区Ⅱ層<br>№3103 | 弥生末～古墳 | 小型土器 | 底 | - | - | 4.0 | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | ○ | ○ | ○ | | | | ナデ | ナデ | |
| 65 | 380 | J区Ⅲ層<br>№7659 | 弥生末～古墳 | 小型土器 | 底 | - | - | 2.9 | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 赤褐 | 5YR4/6 | ○ | ○ | △ | | | | ナデ，指オサエ | ナデ | |
| 65 | 381 | G区Ⅲ層<br>№6785 | 弥生末～古墳 | 小型土器 | 底 | - | - | 2.5 | - | 良 | にぶい黄褐 | 10YR5/3 | にぶい黄褐 | 10YR5/3 | ○ | ○ | ○ | | | | ナデ | ナデ | |
| 65 | 382 | F区Ⅱ層<br>№146(2) | 弥生末～古墳 | 小型土器 | 胴～底 | - | - | - | - | 良 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | 橙 | 5YR6/6 | ○ | ○ | | | | 黒色石 | ナデ | ナデ | 内側底に指オサエ |
| 65 | 383 | I区Ⅱ層<br>№2941 | 弥生末～古墳 | 小型土器 | 底 | - | - | - | - | 良 | 灰褐 | 7.5YR4/2 | 灰黄褐 | 10YR4/2 | △ | △ | | | | | ナデ，指オサエ | ナデ | |
| 65 | 384 | G区Ⅱ層<br>№481 | 弥生末～古墳 | 小型土器 | 底？ | - | - | 1.9 | - | 良 | 褐灰 | 10YR4/1 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | △ | △ | | | | | ミガキ | ミガキ | 底部に焼成前穿孔あり |

## 第８表　弥生時代終末～古墳時代　包含層出土土器観察表(8)

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土位置 | 時代 | 器種 | 部位 | 法量（cm） | | | | 焼成 | 色調 | | | | 胎土 | | | | | | 器面調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | | 外面 | | 内面 | | 石英 | 長石 | 角閃石 | 雲母 | 輝石 | その他 | 外面 | 内面 | |
| 65 | 385 | F区Ⅲ層 No.1445 | 不明 | メンコ | - | - | - | - | 径3.5 | 良 | 黒 | 7.5YR2/1 | 橙 | 5YR6/6 | ○ | ◎ | ◎ | | | | ナデ | ナデ | |
| 66 | 386 | I区Ⅱ層 No.2584 | 古墳中 | ハソウ | 胴 | - | - | - | 胴最大径8.6 | 良 | 褐灰 | 10YR5/1 | 褐灰 | 10YR5/1 | | ○ | | | | | 沈線，回転ナデ | 回転ナデ | 外面自然釉 |
| 66 | 387 | J区Ⅱ層一括 | 古墳中 | 高杯 | 脚 | - | - | 9.1 | - | 良 | 灰 | N41 | 灰 | N41 | | | | | | | 横ナデ，杯下部は調整<br>下部：切込みによる穿孔＝透かし | 横ナデ | 胎土色調：Hue5YR4/1褐灰（ムラサキ同）＝初期須恵器っぽい |
| 66 | 388 | 8T Ⅱ層No.169 | 不明 | 壺 | 肩 | - | - | - | - | 良 | 暗赤褐 | 2.5YR4/2 | 黒褐 | 2.5Y3/1 | ○ | | △ | | | | ナデ | ナデ・指オサエ | 櫛描文 |
| 66 | 389 | H区Ⅲ層 No.1602 | 不明 | 不明 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 灰黄褐 | 10YR4/2 | 黒褐 | 10YR3/1 | △ | | △ | | | | ナデ | ナデ | 櫛描文 |
| 66 | 390 | H区Ⅱ層 No.2014 | 不明 | 不明 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | 黒褐 | 10YR3/1 | ◎ | ◎ | | | | 火山ガラス<br>白色軽石 | ナデ | ナデ | 櫛描文 |
| 66 | 391 | F区Ⅰ層 No.132 | 不明 | 不明 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 暗褐 | 7.5YR3/2 | 黒褐 | 10YR3/1 | ○ | | △ | | | | ナデ | 工具ナデ | 櫛描文 |
| 66 | 392 | G区Ⅱ層 No.517 | 不明 | 不明 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 黒褐 | 7.5YR3/2 | にぶい赤褐 | 5YR4/3 | ○ | | △ | | | | 工具ナデ | 工具ナデ | 櫛描文 |
| 66 | 393 | H区Ⅱ層 No.2281 | 不明 | 不明 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい黄褐 | 5YR4/3 | にぶい黄褐 | 5YR4/3 | ○ | △ | | | | | ナデ | ナデ | 櫛描文 |
| 66 | 394 | H区Ⅲ層 No.6851 | 不明 | 不明 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR4/3 | 黒 | 10YR2/1 | △ | △ | | | | | ナデ | ナデ | 櫛描文 |
| 66 | 395 | G区Ⅱ層 No.1367 | 不明 | 壺？ | 胴 | - | - | - | - | 良 | 黒褐 | 10YR3/2 | 黒褐 | 10YR3/2 | ○ | ○ | | | | | ナデのち櫛描文 | ナデ | 櫛描文 |
| 66 | 396 | G区Ⅱ層 No.478 | 不明 | 不明 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 灰褐 | 7.5YR5/2 | 暗赤褐 | 5YR4/3 | ○ | | △ | | | | 工具ナデ | 工具ナデのち指オサエ | 櫛描文 |
| 66 | 397 | H区Ⅱ層 No.1593 | 不明 | 不明 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 黒 | 7.5YR1.7/1 | △ | | △ | | | | ナデ | ナデ | 櫛描文 |
| 66 | 398 | H区Ⅱ層一括 | 不明 | 不明 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | 黒 | 7.5YR1.7/1 | ○ | | △ | | | | ナデ | ナデ | 櫛描文 |
| 66 | 399 | K区Ⅱ層 No.5910 | 弥生末～古墳？ | 壺 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 橙 | 7.5YR6/6 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | ○ | △ | ○ | | | | 工具ナデのち沈線文 | ナデ | 櫛描文<br>刻線文 |
| 66 | 400 | G区Ⅱ層 No.1323 | 弥生末～古墳？ | 不明 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | ○ | ○ | | | | 白色軽石 | ナデ | ナデ | 2本の刻線文あり |
| 66 | 401 | G区Ⅱ層 No.6804 | 弥生末～古墳？ | 不明 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 7.5YR4/1 | 褐 | 7.5YR4/4 | △ | | | | △ | | ハケメのち沈線文 | ナデ | 3本の刻線文 |
| 66 | 402 | G区Ⅲ層 No.6566 | 弥生末～古墳？ | 不明 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 褐灰 | 7.5YR4/1 | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | △ | | | | △ | | 工具ナデのち沈線文 | ナデ | 2本の刻線文 |
| 66 | 403 | J区Ⅱ層 No.4798 | 弥生末～古墳？ | 不明 | 胴 | - | - | - | - | 良 | 明赤褐 | 5YR5/6 | 暗赤褐 | 5YR3/2 | △ | | △ | ○ | | | ハケメのち工具ナデ | ハケメ | 刻線文？ |
| 66 | 404 | G区Ⅲ層 No.1376 | 弥生末～古墳？ | 不明 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | 暗赤褐 | 5YR5/6 | △ | △ | ○ | | | | 指ナデのち沈線文 | ナデ | 刻線文 |
| 66 | 405 | H区Ⅱ層 No.608 | 弥生末～古墳？ | 不明 | 胴 | - | - | - | - | 良 | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | 褐 | 7.5YR4/3 | ◎ | ◎ | ○ | | | 白色軽石<br>火山ガラス | ナデ光沢ややあり。<br>ヘラミガキ？ | ナデ，表面摩滅気味 | 2本の刻線文 |

第９表　包含層出土石器・軽石製品計測表

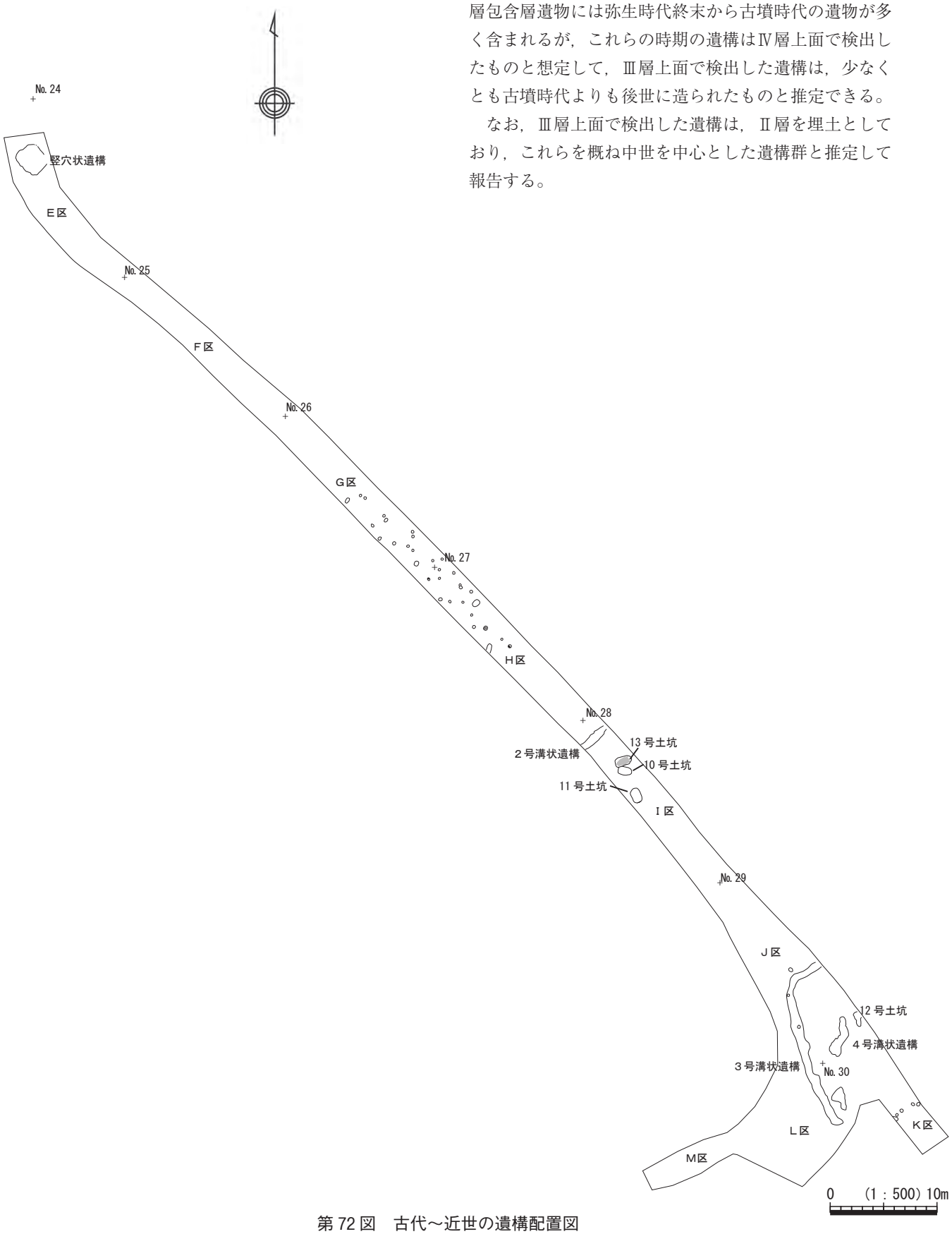
| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 器種 | 石材 | 最大長（cm） | 最大幅（cm） | 最大厚（cm） | 重さ（ｇ） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 67 | 406 | H区Ⅱ層 | 打製石鏃 | 頁岩 | 2.40 | 1.50 | 0.32 | 1.02 | 縄文時代 |
| 67 | 407 | H区Ⅳ層一括 | 打製石鏃 | 頁岩 | 1.45 | 1.55 | 0.26 | 0.49 | 縄文時代 |
| 67 | 408 | I区Ⅱ層No.2470 | 二次加工剥片 | ホルンフェルス | 4.40 | 2.20 | 0.50 | 4.51 | 下部から右側にかけて鋭い刃部 |
| 67 | 409 | I区Ⅱ層No.4461 | 剥片 | 頁岩 | 3.75 | 3.40 | 1.15 | 6.90 | |
| 68 | 410 | K区Ⅱ層No.5492 | 打製石斧 | ホルンフェルス | 5.65 | 9.40 | 2.20 | 123.35 | 刃部。上部欠損。 |
| 68 | 411 | J区Ⅱ層No.5014 | 打製石斧 | ホルンフェルス | 11.25 | 8.40 | 1.45 | 154.87 | 基部。刃部欠損。 |
| 68 | 412 | I区Ⅲ層No.7756 | 砥石 | 頁岩 | 5.40 | 4.10 | 1.80 | 44.86 | 表裏，下面使用痕跡。上部欠損。 |
| 69 | 413 | 一括 | 敲石 | 砂岩 | 3.80 | 3.30 | 1.90 | 36.24 | 下面に敲打痕が残る。上部欠損。 |
| 69 | 414 | H区Ⅱ層No.1733 | 敲石 | 砂岩 | 9.30 | 5.70 | 5.10 | 375.67 | 表裏面，側面，下面に顕著な敲打痕。 |
| 69 | 415 | G区Ⅲ層No.6537 | 敲石 | 砂岩 | 7.10 | 6.40 | 3.90 | 307.14 | 側面に敲打痕。 |
| 69 | 416 | J区Ⅱ層No.3815 | 敲石 | 砂岩 | 10.20 | 5.20 | 3.20 | 262.22 | 表面，側面，上面に敲打痕。裏面は欠損。 |
| 70 | 417 | J区Ⅱ層No.3675 | 軽石製品 | 軽石 | 8.40 | 6.20 | 3.10 | 49.23 | 二面擦った後に敲いて使用している？ |
| 70 | 418 | J区Ⅱ層No.4241 | 軽石製品 | 軽石 | 4.30 | 3.10 | 1.60 | 8.20 | 表裏擦り痕。 |
| 70 | 419 | G区Ⅱ層No.1030 | 軽石製品 | 軽石 | 6.90 | 4.60 | 2.80 | 20.00 | 表裏擦り痕。 |
| 70 | 420 | G区Ⅱ層一括 | 軽石製品 | 軽石 | 8.40 | 7.80 | 3.70 | 46.80 | 不定形。一部断面U字型の帯状の凹み。 |
| 71 | 421 | G区Ⅱ層一括 | 軽石製品 | 軽石 | 15.20 | 7.10 | 3.20 | 63.33 | 下部に擦り痕。 |
| 71 | 422 | G区Ⅱ層一括 | 軽石製品 | 軽石 | 7.80 | 6.20 | 1.70 | 22.56 | 表面中央長軸方向に刻線。 |

## 第６節　古代～中世の調査成果

### １．遺構（第 72 図）

Ⅲ層上面では，土坑５基，柱穴 38 基，溝状遺構３条が検出されている。これらの遺構について時期の詳細を判断する遺物が出土しているのは２号溝状遺構のみで，あとの遺構については正確な時期判断は困難である。Ⅱ層包含層遺物には弥生時代終末から古墳時代の遺物が多く含まれるが，これらの時期の遺構はⅣ層上面で検出したものと想定して，Ⅲ層上面で検出した遺構は，少なくとも古墳時代よりも後世に造られたものと推定できる。

なお，Ⅲ層上面で検出した遺構は，Ⅱ層を埋土としており，これらを概ね中世を中心とした遺構群と推定して報告する。




第 72 図　古代～近世の遺構配置図

①10 号土坑（第 73 図）

Ⅰ区で検出された。長軸約 1.3 m，短軸約 0.8 mで，平面形は楕円形に近いが，長軸の東側壁面は曲線的に整形し，西側壁面はＬ字形にコーナーを伴う。掘り込みは検出面から８～15cm 程度である。遺物の出土はなかった。

②11 号土坑（第 73 図）

Ⅰ区で検出された。長軸約 1.4 m，短軸約 0.9 mの隅丸方形を呈する。掘り込みは検出面から 15cm 程度である。

③12 号土坑（第 73 図）

Ｊ区で検出された。不定形の土坑である。土坑の南端に柱状痕がある。これは時期の異なる柱穴の可能性もあるが，今回の調査範囲の中で周辺に柱穴がないため，９号土坑に伴う可能性もあるものとして報告する。

掘り込みの深さは検出面から 10 ～ 20cm 程度である。柱状痕は，検出面から 20cm 程度である。

④２号溝状遺構（第 74 図）

最大幅 80cm，最小幅 40cm の北東 - 南西を軸とする溝状遺構である。掘り込みの深さは検出面から５～10cm 程度である。

【２号溝状遺構出土遺物　第 75 図 423】

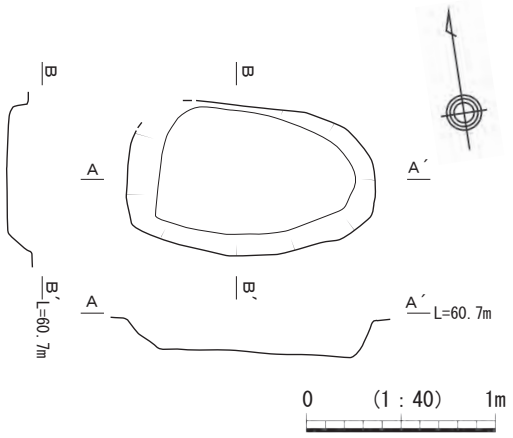
中世須恵器の片口鉢の口縁部である。口縁端部は内湾し，肥厚する。口唇部は丸く整形されている。14 世紀後半頃のものと推定される。

⑤３号溝状遺構（第 76 図）

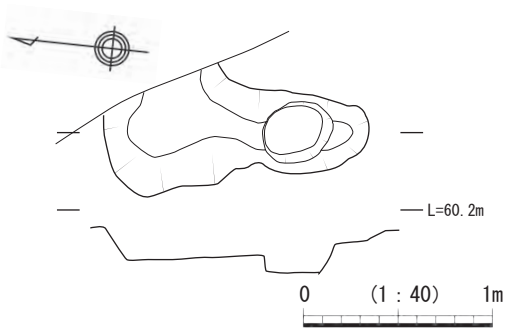
Ｊ～Ｌ区で検出された。調査区北東壁から南西に約３ｍのところで，約 90° 方向を変え，南南東へ約 14 ｍ直線的に延長させている。幅は 0.6 ～ 1 ｍで，深さは検出面から５～ 10cm 程度である。床面のレベルは南南西に向けてわずかに低くなっている。

⑥４号溝状遺構（第 76 図）

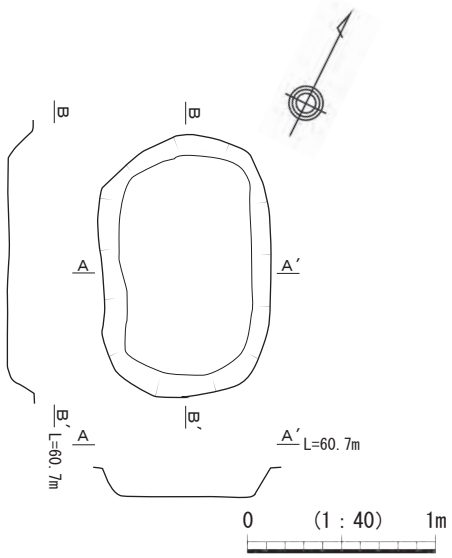
Ｊ区で検出された。延長約 3.5 m，幅 0.5 ～ 1 ｍを測る。深さは検出面から５～ 10cm 程度である。




（10 号土坑実測図）

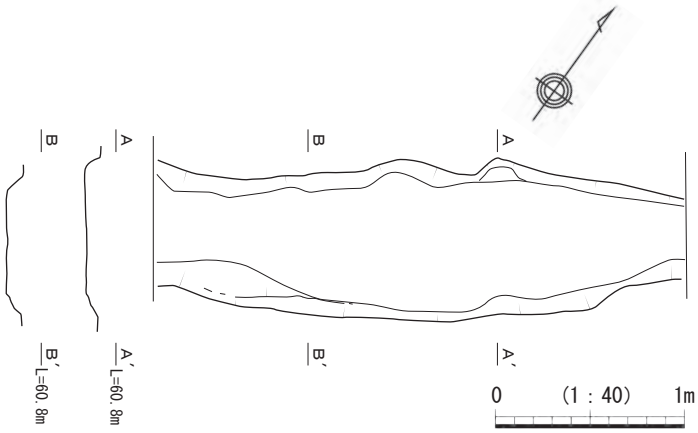



（12 号土坑実測図）

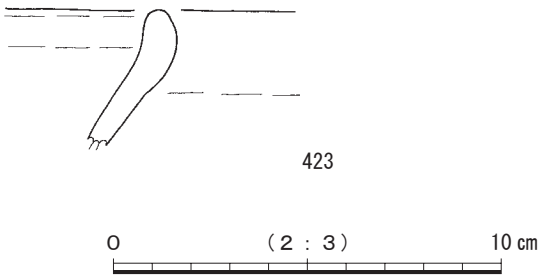



（11 号土坑実測図）

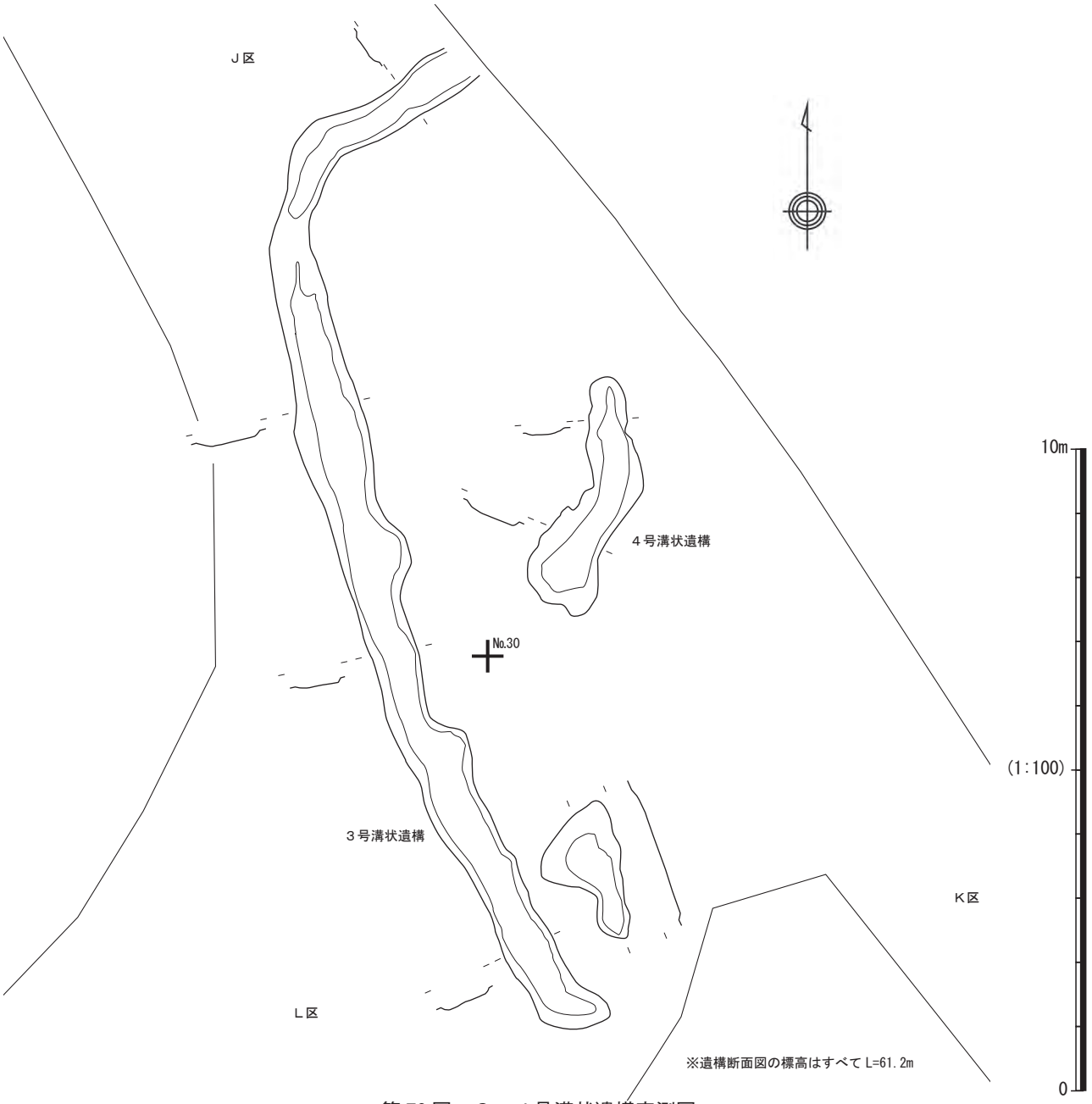
第 73 図　10 ～ 12 号土坑実測図




第 74 図　２号溝状遺構実測図




第 75 図　２号溝状遺構出土土器



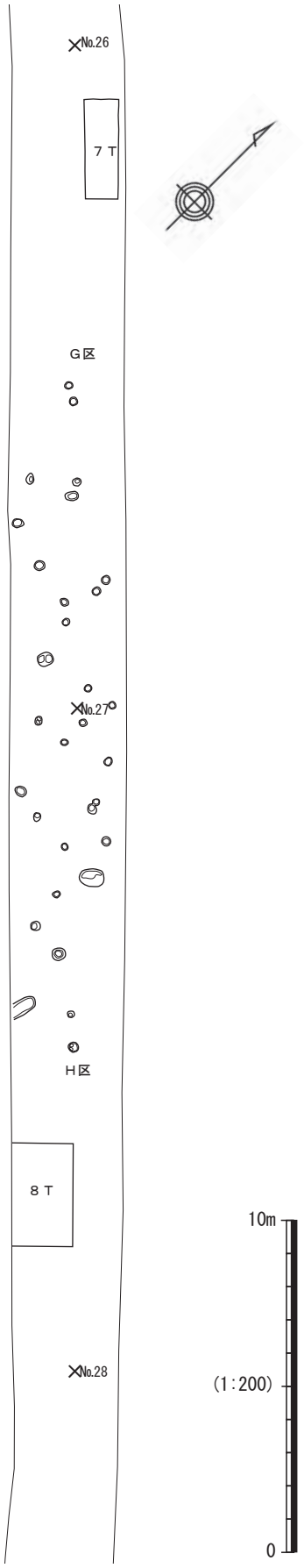

第 76 図　３・４号溝状遺構実測図

⑦柱穴・その他の土坑（第 77 ～ 80 図）

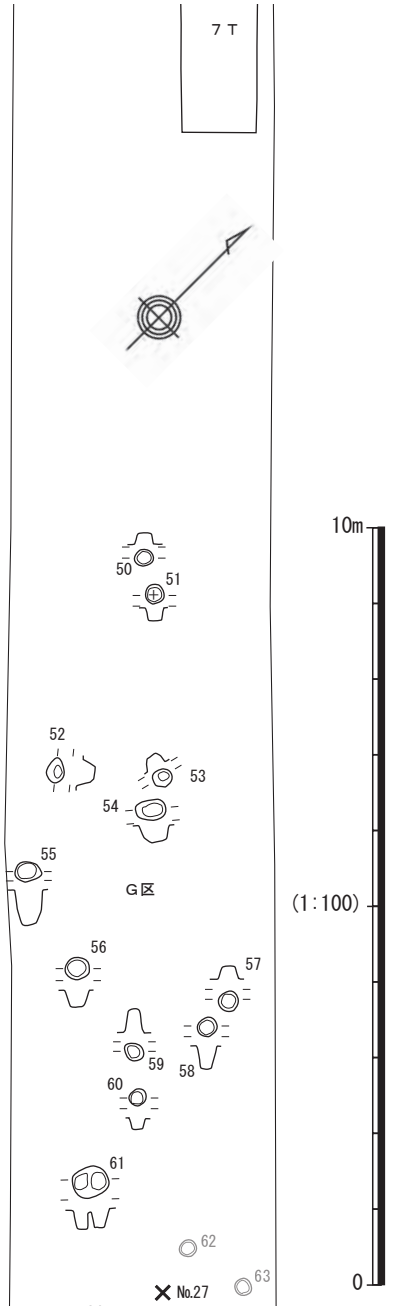
そのほかⅡ層を埋土とする柱穴・土坑がⅢ層上面で検出された。

Ｇ～Ｌ区にわたって，30 基（P51 ～ 80）の柱穴と２基の土坑（12・13 号土坑）が検出された。調査区内では柱穴が建物跡を示す規則的な配列を見出すことはできなかった。12 号土坑は調査区内にやや帯状を呈する。土坑としているが，溝状遺構の端部である可能性もある。

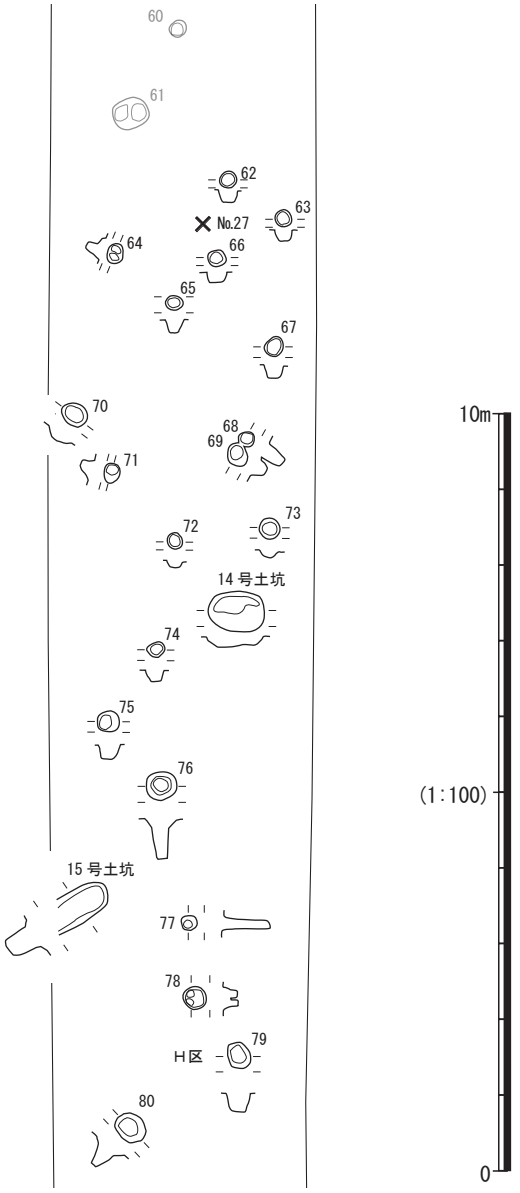
Ｊ区では，２号溝状遺構の床面検出分も含めて３基の柱穴（P81 ～ 83）が検出された。またＫ区でも５基の柱穴（P84 ～ 88）が検出された。これらについても特に建物跡を示す配列は認められないが，Ｋ区の柱穴は北東－南西に一列に並んだ状態で検出された。




第 77 図　Ｇ・Ｈ区Ⅲ層上面検出柱穴・土坑配置図




第 78 図　Ｇ区Ⅲ層上面検出柱穴実測図




第 79 図　H区Ⅲ層上面検出柱穴・土坑実測図

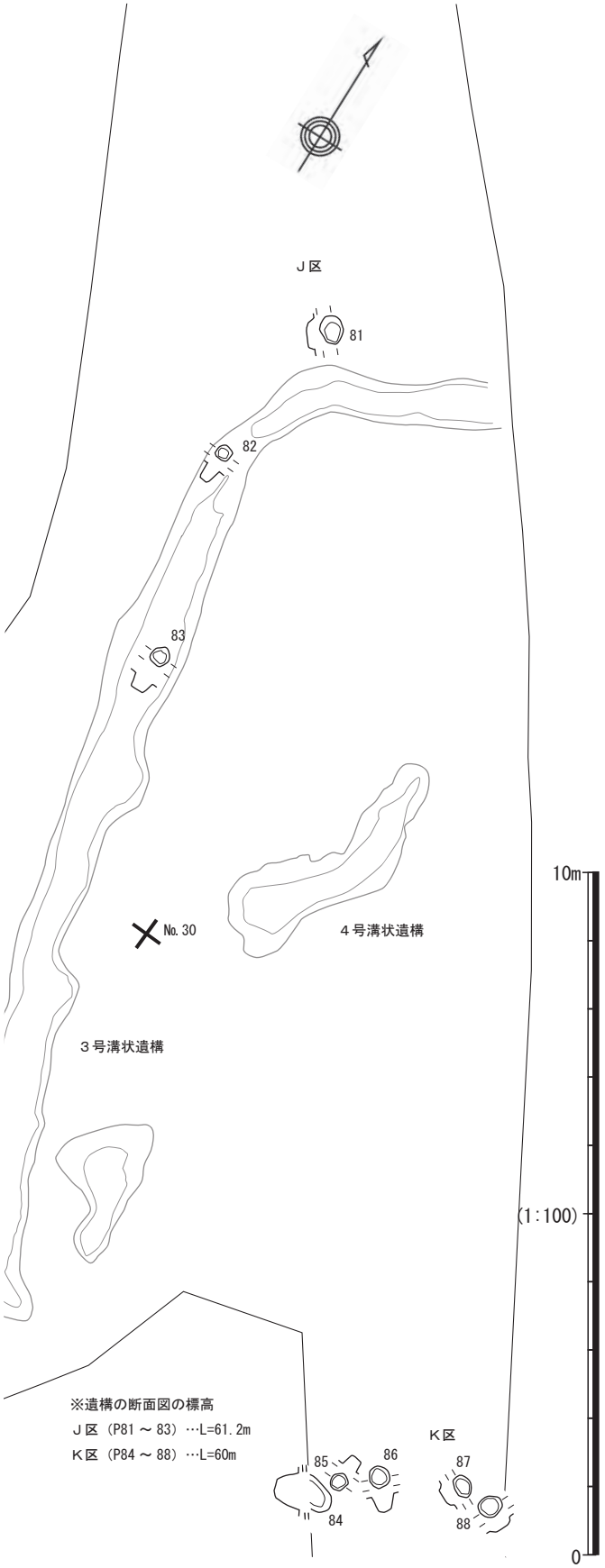
【包含層出土遺物　第 81 図 424 ～ 430】

424 ～ 426 は土師器の杯の底部である。424・425 の底面は平底で，ヘラ切り痕が残る。底部の外器面は底面から直立し，口縁部へ向けてやや内湾しながら外向する。内外ナデ調整が施される。

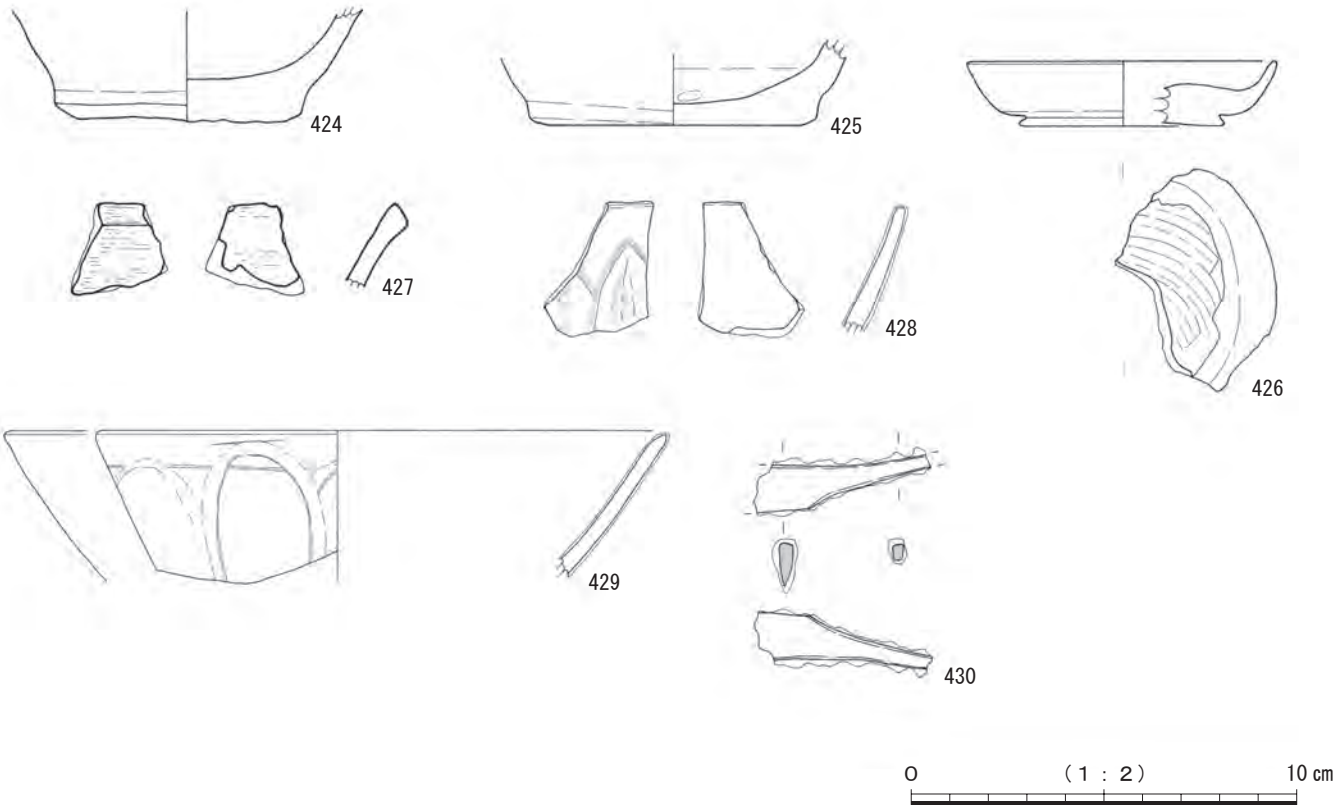
426 は土師器の皿である。底面は糸切り痕が残る。回転ナデによる調整がされている。

428･429 は青磁碗である。428 は鎬連弁が確認できる。429 は片切りの連弁文が施される。

430 は刀子である。刃部先端と茎尻は欠損している。刃部は断面三角形で片関である。茎部は断面長方形である。ナデ関で緩やかな形状を呈する。




第 80 図　J・K区Ⅲ層上面検出柱穴実測図




第 81 図　包含層出土遺物　土師器　陶磁器　刀子

## 第７節　近世・近代の調査成果

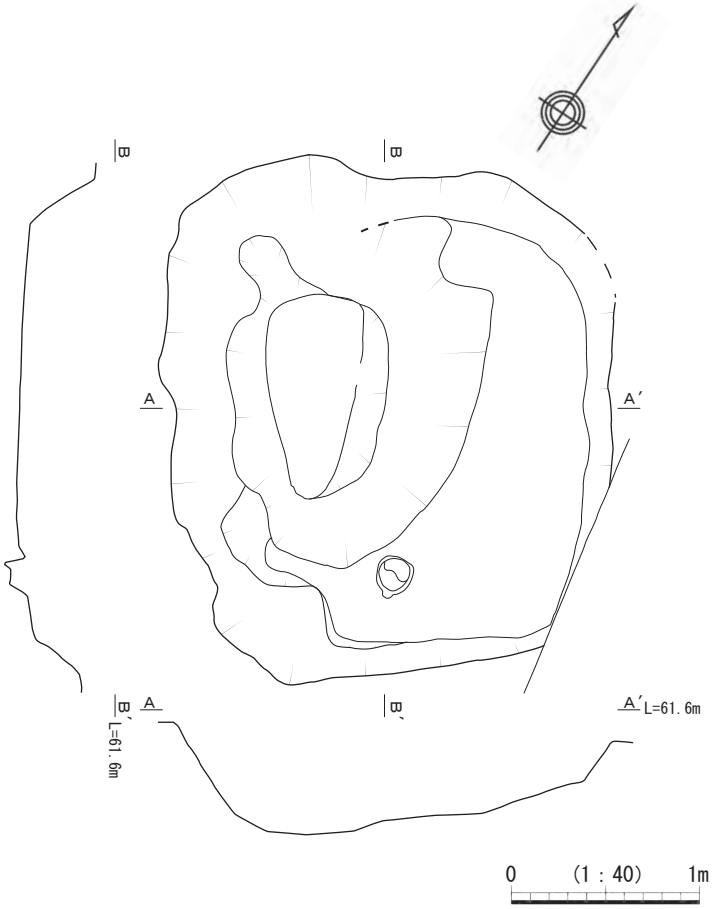
### １．遺構

#### ①竪穴状遺構（第 82 図）

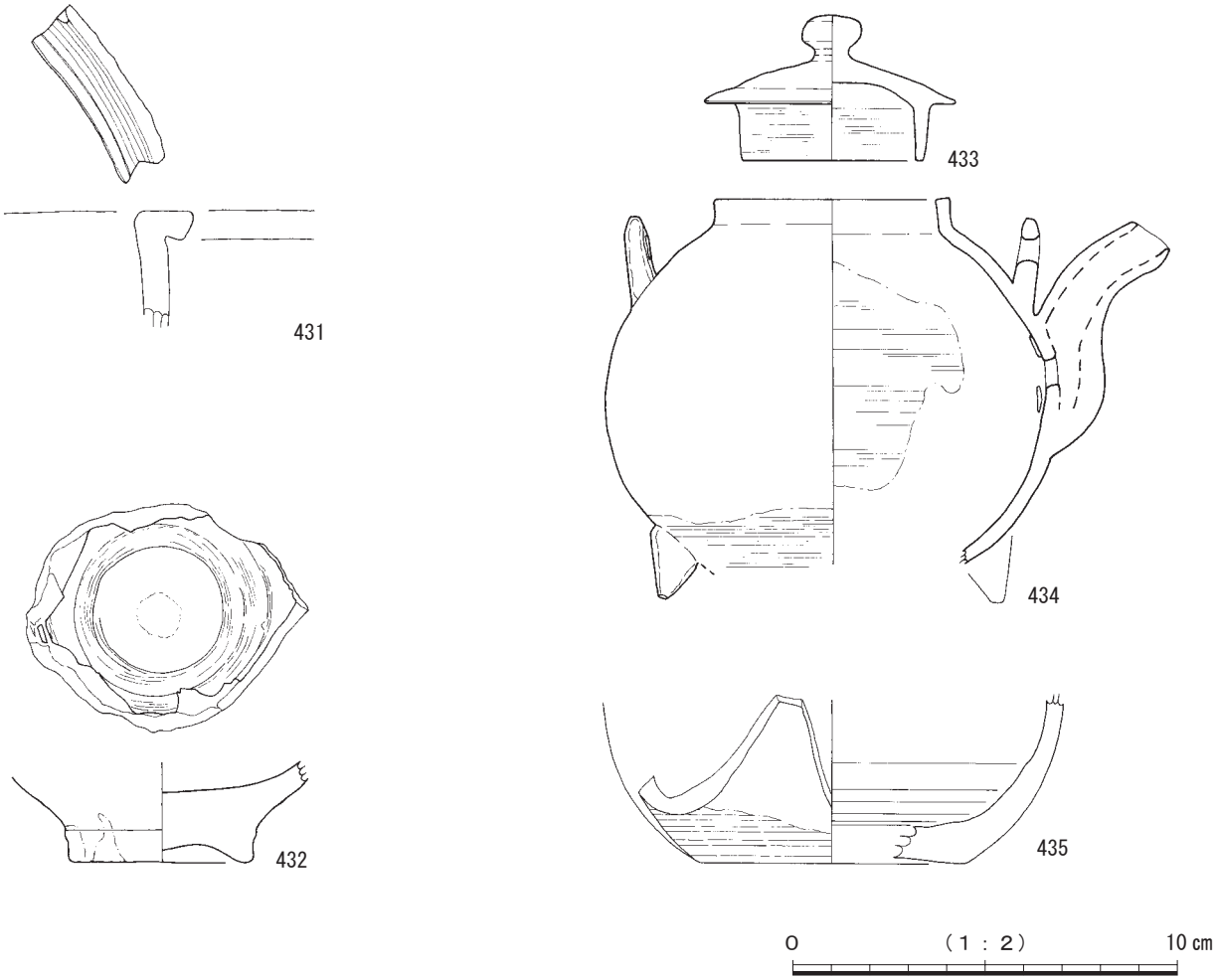
Ｆ区のⅦｂ層で検出した。Ｆ区はＩ層下がⅦ層となっており，この竪穴状遺構が造られる時期にはⅡ～Ⅵ層まで削平されていたと考えられる。

平面は 2.5 × 2.3 ｍの隅丸方形を呈する。埋土はアカホヤ火山灰ブロック・粒子を多く含む暗褐色軟質土であり，埋土中から陶器片や鉄滓が出土している。床面は西側に向けて傾斜しており，遺構の西部分は最も深い掘り込みとなっている。この部分で検出面から約 60cm 掘り込まれている。この部分の床面直上で軽石と土瓶が出土した。東南壁面の近くの床面で直径約 20cm のプランが確認された。床面からの掘り込みの深さは最大で 14cm である。

なお，この遺構の床面には鉄の生産に関連する施設を示す痕跡は見つからなかった。




第 82 図　竪穴状遺構実測図




第 83 図　竪穴状遺構出土遺物

【竪穴状遺構出土遺物　第 83 図 431 ～ 435】

431 は苗代川焼の鉢と思われる。鉄釉が施されるが，口唇部は掻き取られている。

432 は龍門司焼の陶器碗の底部である。削り出し高台である。白色化粧後に施釉をしている。見込みは釉剥ぎがされている。433・434 は苗代川焼の陶器で，433 は土瓶蓋である。つまみは丸く整形している。つまみから庇上面まで鉄釉が施釉されている。434 は土瓶で，遺構の最も深く掘り込まれている箇所の床面で出土したものである。口縁部は短く直立し，胴部は丸く整形される。肩部には弦用の耳が付く。注口は前かがみに外反する。底部に取り付けられた円錐状の脚が１つ確認できる。注口が取り付けられているところの内器面側には注口用に穿孔が施される。外器面は胴下部まで鉄釉が施されている。内器面は胴部中央だけ部分的に釉が施されない。433 の見受け部と 434 の口縁部が合うところから，セットである可能性もある。

435 も龍門司系の土瓶の底部と思われるが不明である。

【竪穴状遺構周辺採集遺物　第 84 図 436 ～ 441】

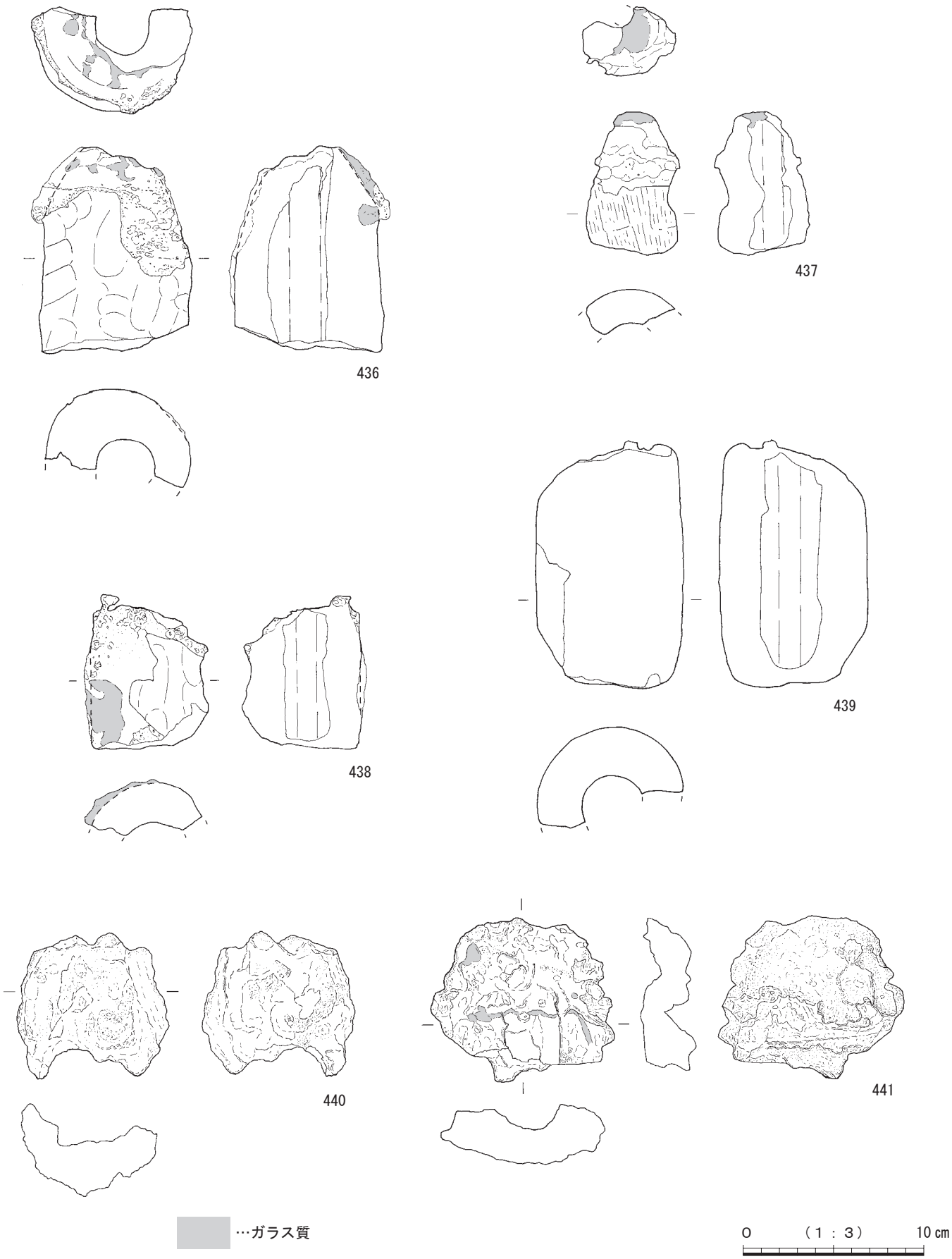
竪穴状遺構周辺では多くの鞴の羽口片や鉄滓が散乱しており，原型がある程度残っているものなどを採集した。竪穴状遺構内でも，形は不定形であるが鉄滓が出土しているため，参考までに報告しておく。

436 ～ 439 は鞴の羽口である。溶着滓が付着しており，ガラス質も確認できる。440・441 は鉄滓である。441 は羽口の痕が明瞭に残る。

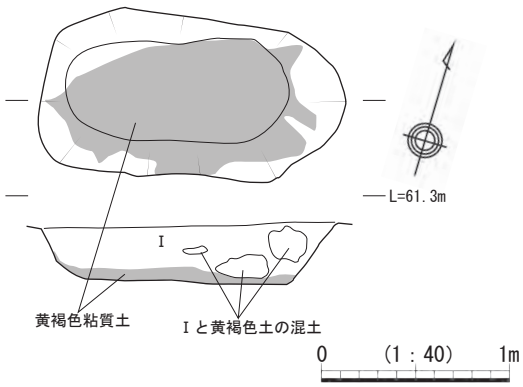
② 16 号土坑（第 85 図）

Ⅰ区Ⅲ層上面で検出された平面形長軸約１m，短軸 0.5 mの楕円形の土坑。掘り込みは検出面から約 20 ～ 30cm である。遺物が出土しなかったため，時期の判断が困難であるが，埋土は黄褐色粘質土のブロック・粒子を含む他，白色の軽石粒を含むⅡ層であり，Ⅱ層の上層に白色の軽石粒が点在する箇所も確認されたため，古代・中世の時期の遺構よりも新しい段階のものと推測し，近世に含めた。

床面と南側壁面には埋土中にあったものと同じ黄褐色粘質土が貼り付けられており，床面では３～５cm 程の厚みがあった。




第 84 図　竪穴状遺構周辺採集遺物

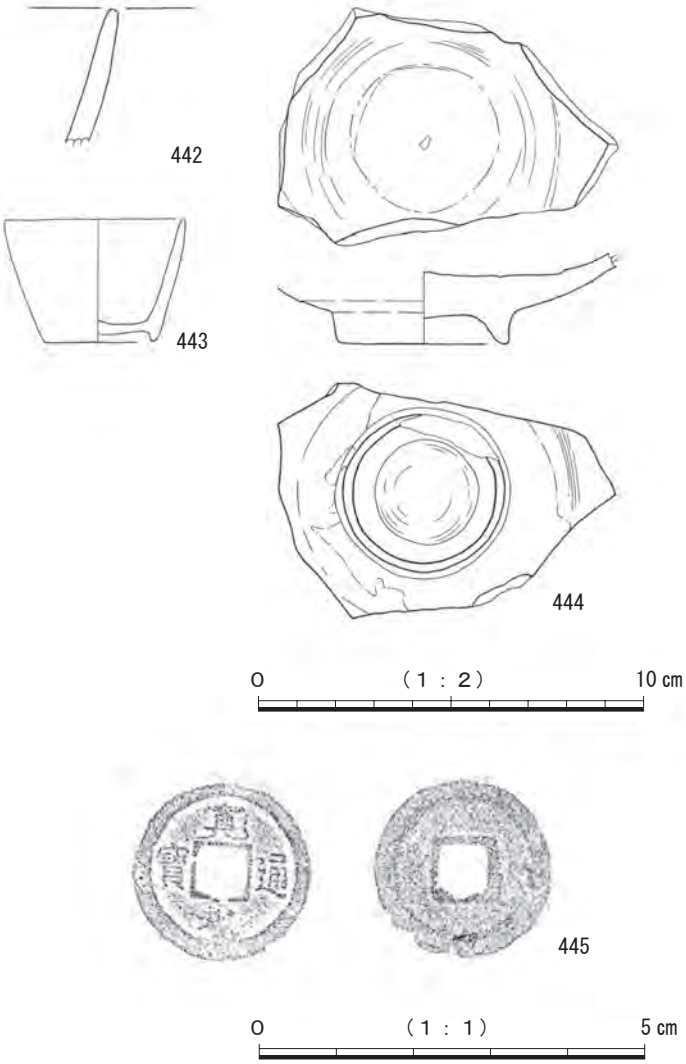



第 85 図　16 号土坑実測図

【包含層出土遺物　第 86 図 442 ～ 445】

442 は陶器埦の口縁部である。産地は不明である。

443 は磁器の猪口である。444 は磁器埦の底部と思われる。白磁と思われるが，中世のものではない。削り出し高台で，見込みは蛇ノ目釉剥ぎがされている。高台も釉が剥ぎ取られている。445 は「寛永通宝」である。




第 86 図　包含層出土遺物

第 10 表　２号溝状遺構出土土器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土位置 | 時代 | 器種 | 部位 | 法量（cm） | | | | 色調 | | | | 胎土 | | | | | | 器面調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | 外面 | | 内面 | | 石英 | 長石 | 角閃石 | 雲母 | 輝石 | その他 | 外面 | 内面 | |
| 75 | 423 | ２号溝状遺構 | 中世 | こね鉢 | 口縁 | - | - | - | - | 灰白 | 2.5Y7/1 | 灰白 | 2.5Y7/1 | | △ | | | | | 横ナデ | 横ナデ | 須恵質。13C 代か？ |

第 11 表　古代・中世　包含層出土土師器・陶器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土位置 | 時代 | 器種 | 部位 | 法量（cm） | | | | 色調 | | | | 胎土 | | | | | | 器面調整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | 外面 | | 内面 | | 石英 | 長石 | 角閃石 | 雲母 | 輝石 | その他 | 外面 | 内面 | |
| 81 | 424 | J 区Ⅱ層 №.3959 | 古代 | 杯か椀 | 底 | - | - | 5.2 | - | 橙 | 7.5YR6/6 | 橙 | 7.5YR6/6 | ○ | ○ | | △ | | | ナデ。底面ヘラ切り。 | 回転ナデ。 | |
| 81 | 425 | H 区Ⅱ層 №.613 | 古代 | 杯 | 底 | - | - | 6.8 | - | 浅黄橙 | 10YR8/4 | 浅黄橙 | 10YR8/4 | ○ | △ | | | | | 回転ナデ。底面ヘラ切り。 | 回転ナデ。 | |
| 81 | 426 | H 区Ⅱ層 №.754 | 中世 | 杯 | 口縁～底 | 1.7 | 7.8 | 5.2 | - | 浅黄橙 | 10YR8/3 | 浅黄橙 | 10YR8/3 | ○ | △ | ○ | | | | 回転ナデ。底面回転糸切り。 | 回転ナデ。 | |
| 81 | 427 | K 区Ⅱ層 №.5659 | 中世 | こね鉢 | 口縁 | - | - | - | - | 黄灰 | 2.5Y6/1 | 黄灰 | 2.5Y6/1 | ○ | ○ | | | | | ナデ。 | ナデ。 | |

## 第 12 表　中世　包含層出土青磁観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土位置 | 時代 | 器種 | 部位 | 法量（cm） | | | | 胎　土 | | 釉　調 | | 器　面　文　様 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | | | | | 外面 | 内面 | |
| 81 | 428 | Ⅰ区Ⅱ層 No.3139 | 中世 | 碗 | 口縁 | - | - | - | - | 灰黄 | 2.5YR7/2 | 灰オリーブ | 7.5Y6/2 | 片切彫鎬蓮弁文。 | - | 13 C 末～ 14 C 初。 |
| 81 | 429 | H区Ⅱ層 No.688 | 中世 | 碗 | 口縁 | - | 17.2 | - | - | 灰 | 5Y6/1 | 灰オリーブ | 5Y5/3 | 片切彫鎬蓮弁文。 | - | 14 C 代。 |

## 第 13 表　包含層出土刀子計測表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 刃　部 | | | | 茎　部 | | | | 重さ（g） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 残存長（cm） | 最大長（cm） | 最大幅（cm） | 最大厚（cm） | 最大長（cm） | 茎元幅（cm） | 茎尻幅（cm） | 最大厚（cm） | | |
| 81 | 430 | H区Ⅱ層No.20 | 4.60 | - | 1.20 | 0.35 | - | 1.10 | - | 0.30 | 3.67 | 片関。ナデ関で緩やか。 |

## 第 14 表　竪穴状遺構出土陶器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土位置 | 時代 | 器種 | 部位 | 法量 (cm) | | | | 胎　土 | | 釉　調 | | 器　面　調　整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | | | | | 外面 | 内面 | |
| 83 | 431 | 竪穴状遺構埋土 | 近世末～近代 | 鉢 | 口縁 | - | - | - | - | 赤褐（石英・長石・火山ガラス） | 2.5YR5/4 | オリーブ黒 | 5Y3/1 | 回転ナデ。口唇部施釉後掻き取り。 | 回転ナデ。 | 苗代川。 |
| 83 | 432 | 竪穴状遺構埋土 | 近世末～近代 | 碗 | 底 | - | - | 4.6 | - | にぶい赤褐 | 5YR5/3 | 灰白 | 2.5YR8/2 | 回転ナデ。高台削り出し。無釉。 | 回転ナデ。見込み蛇ノ目釉剥ぎ。 | 龍門司。 |
| 83 | 433 | 竪穴状遺構埋土 | 近世末～近代 | 土瓶蓋 | つまみ～口縁 | 3.8 身受部高 1.5 | 4.7 庇径 6.7 | 6.7 | - | 灰黄褐 | 10YR5/2 | 黒褐 | 7.5YR3/1 | 回転ナデ。つまみから庇部上面まで施釉。 | 回転ナデ。無釉。 | 苗代川。 |
| 83 | 434 | 竪穴状遺構床面 | 近世末～近代 | 土瓶 | 口縁～底 | 10.5 | 6.2 | - | - | 明褐灰 | 7.5YR7/2 | 黒褐 | 7.5YR3/1 | 回転ナデ。底部は無釉。 | 回転ナデ。胴部は一部無釉。 | 苗代川。 |
| 83 | 435 | 竪穴状遺構埋土 | 近世末～近代 | 土瓶 | 胴～底 | - | - | 6.8 | - | にぶい赤褐 | 7.5YR6/4 | 暗褐 | 7.5YR3/4 | 回転ナデ。底部は無釉。 | 回転ナデ。無釉。 | 龍門司。 |

## 第 15 表　竪穴状遺構周辺採集　羽口観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土位置 | 時代 | 法量 (cm) | | | 色　調 | | | | 胎　土 | | | | | | 器　面　調　整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 外径 | 内径 | 器厚 | 外面 | | 内面 | | 石英 | 長石 | 角閃石 | 雲母 | 輝石 | その他 | 外面 | 内面 | |
| 84 | 436 | 工事杭No.24 周辺 | 近世～近代？ | 8.6 | 2.8 | 2.4 | 灰褐 | 7.5YR6/2 | 橙 | 5YR6/6 | ◎ | ◎ | ◎ | | | 白色石 褐色石 | 指ナデ・指オサエ | ナデ | 羽口先端に溶融した鉄分付着。黒色ガラス質が固着。 |
| 84 | 437 | 工事杭No.24 周辺 | 近世～近代？ | - | - | 2.0 | 灰黄 | 2.5Y7/2 | にぶい橙 | 5YR7/4 | ◎ | ◎ | △ | | | 白色石 褐色石 | 工具ナデ | ナデ | 羽口先端に溶融した鉄分付着。黒色ガラス質が固着。 |
| 84 | 438 | 工事杭No.24 周辺 | 近世～近代？ | - | - | 2.1 | 灰黄 | 2.5Y7/2 | にぶい橙 | 5YR7/4 | ◎ | ◎ | △ | | | 白色石 褐色石 | 工具ナデ・指ナデ | ナデ | 羽口先端に溶融した鉄分付着。黒色ガラス質が固着。 |
| 84 | 439 | 工事杭No.24 周辺 | 近世～近代？ | 8.2 | 3.3 | 2.4 | 浅黄橙 | 10YR8/3 | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | ◎ | ◎ | △ | | | 白色石 褐色石 | ナデ | ナデ | |

第 16 表　竪穴遺構周辺採集　鉄滓計測表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 種類 | 種別 | 最大長（cm） | 最大幅（cm） | 最大厚（cm） | 重さ（g） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 84 | 440 | 工事杭№24 周辺 | 鉄滓 | 椀形鍛冶滓 | 7.2 | 8.2 | 3.0 | 188.83 | 羽口溶融物と推測される。 |
| 84 | 441 | 工事杭№25 周辺 | 鉄滓 | 椀形鍛冶滓 | 8.7 | 9.0 | 2.0 | 281.02 | 羽口溶融物と推測される。 |

第 17 表　近世　包含層出土陶磁器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土位置 | 時代 | 器種 | 部位 | 法量 (cm) | | | | 胎　土 | | 釉　調 | | 器　面　調　整 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | その他 | | | | | 外面 | 内面 | |
| 86 | 442 | K区Ⅱ層№5463 | 近世 | 碗 | 口縁 | - | - | - | - | 灰黄 | 2.5YR7/2 | 浅黄 | 2.5YR7/3 | 施釉 | 施釉 | 陶器 |
| 86 | 443 | Ⅰ区Ⅱ層№2562 | 近世～近代 | 猪口 | 口縁～底 | 3.2 | 4.6 | 2.9 | - | 灰白 | N8/ | 灰白 | N8/ | 施釉 | 施釉 | 磁器 |
| 86 | 444 | J区Ⅱ層№5220 | 近世 | 碗 | 底 | - | - | 4.4 | - | 灰白 | 5Y8/1 | 灰白 | 5Y8/1 | 見込み蛇ノ目釉剥ぎ | 高台削り出し | 磁器 |

第 18 表　包含層出土古銭計測表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土地点 | 最大長（cm） | 最大幅（cm） | 最大厚（cm） | 重さ（g） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 86 | 445 | 竪穴状遺構周辺攪乱層一括 | 2.3 | 2.3 | 0.1 | 2.28 | 「寛永通宝」 |

# 第６章　科学分析

## 第１節　放射性炭素年代測定

### １．採集試料の目的と選定

高久田Ａ遺跡から出土した遺物には，煤が付着している甕形土器が多く見受けられた。報告書に掲載する遺物の選定については，鹿児島大学埋蔵文化財調査センターの中村直子氏の助言を得て，採取試料の選定を行った。

選定にあたっては，①型式学的な変化を知るために，土器形態の特徴が分かる②遺構に伴って出土している（できれば床面直上が望ましい）個体を採集試料の選定を行った。また５号竪穴住居跡のSK １で採集した炭化種実についても１点を選定した。

測定は，株式会社地球科学研究所に委託した。

### ２．試料採集の方法

試料採集にあたっては，鹿児島県立埋蔵文化財センターの指導を得た。煤が厚く付着している個体は表面を薄く削り，できるだけ深層部分を採集するようにした。新品のアルミ製ナイフで削り出した炭化物を，アルミ製のコテに落とし，そのままアルミホイルに集めて炭化物に触れないように包装した。道具は試料を採集するごとに水で洗浄し，十分に乾燥させて使用した。

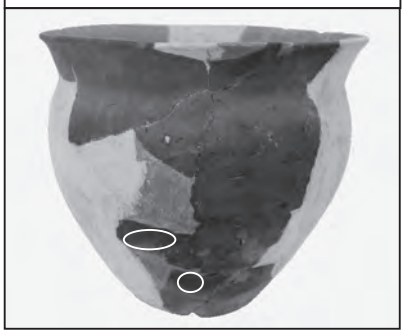
### ３．採集試料

採集試料については以下のとおりである。「４．放射性年代測定　（３）測定結果」では試料名を土器の実測番号で示してあるため，以下をご参照いただきたい。なお，写真中に示してある個所が，炭化物を採集した個所である。なお，種実試料については，５号竪穴住居跡床面の土壌から採集した種実の１つを用いた。

試料名：実測番号No. 43
レイアウト番号 66
出土地点：１号竪穴住居跡埋土・柱穴埋土

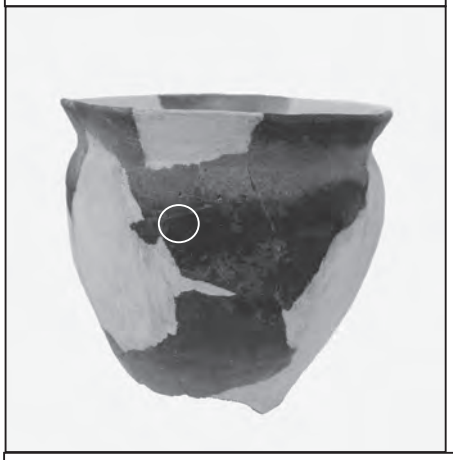
試料名：実測番号No. 44
レイアウト番号 68
出土地点：１号竪穴住居跡埋土

試料名：実測番号No. 6
レイアウト番号 89
出土地点：２号竪穴住居跡埋土下部



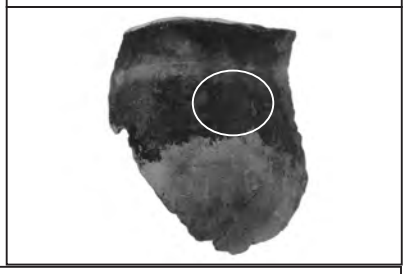
試料名：実測番号No. 10
レイアウト番号 149
出土地点：６号竪穴住居跡床面

試料名：実測番号No. 422
レイアウト番号 90
出土地点：２号竪穴住居跡床面



試料名：実測番号No. 1
レイアウト番号 97
出土地点：３号竪穴住居跡埋土上部

試料名：実測番号No. 7
レイアウト番号 211
出土地点：Ｆ区Ⅲ層



試料名：種実試料No. 16
出土地点：５号竪穴住居跡 SK1 埋土。『グリッド②③⑨⑩ 中央焼成土坑内』　※採取箇所については第２節を参照。

## 4．放射性炭素年代測定の成果

株式会社　地球科学研究所

### (1) はじめに

高久田A遺跡出土試料について加速器質量分析法（AMS）による放射性炭素年代測定を行った。

### (2) 測定試料と分析方法

試料は，土器から採取された炭化物および炭化種実であり，それぞれ前処理が行われた後，燃焼（CO2生成），グラファイト化を経てNEC社製加速器質量分析装置によって測定を行った。

### (3) 測定結果

表1に測定結果を表2に試料の燃焼量およびCO2生成量を示した。 C14年代（conventional radiocarbon age）は，リビーの半減期（5568年）を用い計算し，AD1950を基準年として示した。 暦年代較正はIntcal 13をデータセットとして用い，Beta Analytic社製プログラム（BETACAL）によって行った。また、図87～94にそれぞれの試料の暦年代較正結果を示す。

### (4) 結果の考察

較正暦年代（2σ 95%確率）に着目すると，土器付着炭化物試料のうち実測番号No.43, No.44, No.6, No.1, No.7は紀元前40年から紀元後85年の範囲にある。 それらの試料と比較して実測番号No.422は紀元前105年から紀元後50年とやや古く，また種実試料No.16は紀元後5年から125年とやや新しい年代を得たが，いずれも実測番号No.10以外の試料の年代とオーバーラップする。実測番号No.10は紀元後180年から340年と，他の試料と比較して新しい年代を得た。

今回測定した試料のうち，実測番号No.43は濃度の低いアルカリに強く反応したためアルカリ処理を行うことができず，酸処理のみで測定を行った。アルカリに強く反応し処理が行えなかった理由として考えられるのは，試料の腐食状態よりもむしろ細粒のため薬品に触れる面積が大きいためであると推察される。アルカリ処理が行えない場合，アルカリに可溶なフミン酸などの成分が試料中に残存する可能性があるが，その炭素の起源が同時代のものであり，二次的に混入したものでなければ正しい年代を得ることができる。実測番号No.43の年代値は実測番号No.10以外の試料との整合性が高く，異なる時代の炭素の混入の蓋然性は低いと考えられる。

第19表　放射性炭素年代測定結果表

| 試料名 | 測定番号 | 試料の種類 | C14年代（BP） | 較正暦年代（2σ 95%確率） | δ 13C（‰） | 試料の前処理 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 実測番号No.43 | Beta-396211 | 土器付着炭化物 | 1970 ± 30 | BC 40 to AD 80 | -26.7 | 酸洗浄 |
| 実測番号No.44 | Beta-393945 | 土器付着炭化物 | 1960 ± 30 | BC 40 to AD 85 | -24.9 | 酸／アルカリ／酸洗浄 |
| 実測番号No.6 | Beta-393946 | 土器付着炭化物 | 1970 ± 30 | BC 40 to AD 80 | -26.7 | 酸／アルカリ／酸洗浄 |
| 実測番号No.422 | Beta-393947 | 土器付着炭化物 | 2030 ± 30 | BC 105 to AD 30 and AD 40 to 50 | -26.8 | 酸／アルカリ／酸洗浄 |
| 実測番号No.1 | Beta-393948 | 土器付着炭化物 | 1960 ± 30 | BC 40 to AD 85 | -26.0 | 酸／アルカリ／酸洗浄 |
| 実測番号No.10 | Beta-393949 | 土器付着炭化物 | 1770 ± 30 | AD 180 to 190 and AD 215 to 340 | -25.8 | 酸／アルカリ／酸洗浄 |
| 種実試料No.16 | Beta-393950 | 種実 | 1940 ± 30 | AD 5 to 125 | -27.7 | 酸／アルカリ／酸洗浄 |
| 実測番号No.7 | Beta-393951 | 土器付着炭化物 | 1960 ± 30 | BC 40 to AD 85 | -26.1 | 酸／アルカリ／酸洗浄 |

第20表　試料の燃焼量と$CO_2$生成量

| 試料名 | 実測番号 No.43 | 実測番号 No.44 | 実測番号 No.6 | 実測番号 No.422 | 実測番号 No.1 | 実測番号 No.10 | 種実試料 No.16 | 実測番号 No.7 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 燃焼量（mg） | 2.1 | 2.8 | 2.5 | 2.0 | 3.6 | 2.0 | 2.0 | 2.8 |
| CO2量（cc） | 1.9 | 2.5 | 2.5 | 1.9 | 3.6 | 1.9 | 1.9 | 2.5 |


（参考文献）

・Reimer PJ,Bard E, Bayliss A, Beck JW,Blackwell PG,Bronk Ramsey C,Buck CE,Cheng H,Edwards RL,Friedrich M,Grootes PM,Guilderson TP, HaflidasonH, Hajdas I,Hatté C,Heaton TJ,Hoffman DL,HoggAG, Hughen KA,Kaiser KF,Kromer B, Manning SW,Niu M,Reimer RW,Richards DA,Scott EM,Southon JR,Staff RA,Turney CSM, van der Plicht J.2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP.Radiocarbon 55（4）

・A.S.TALMA and J.C.VOGEL.1993 A Simplified Approach to Calibrating 14C Dates. Radiocarbon 35（2）: 317-322

・中井信之（1999）放射性炭素法「考古学と年代測定学・地球科学」:26-43, 同成社

・中村俊夫（2003）加速器質量分析（AMS）による環境中およびトレーサ放射性同位体の高感度測定 .Radioisotopes 52（3）:145-171

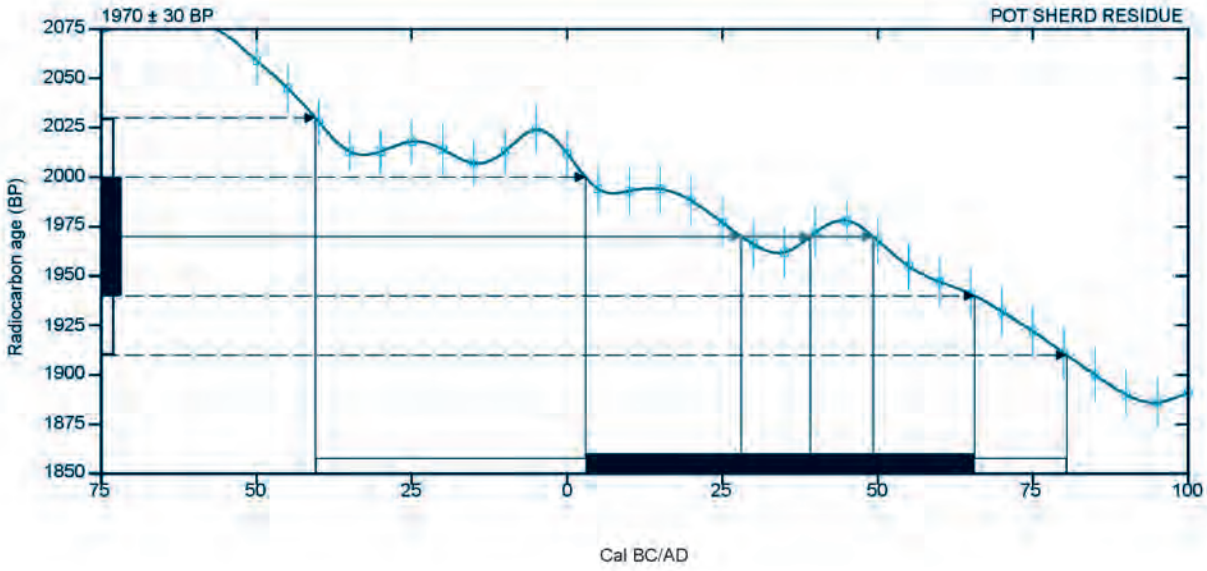
・工藤雄一郎（2012）旧石器・縄文時代の環境文化史 : 高精度放射性炭素年代測定と考古学 , 新泉社

・BetaAnalyticInc.Website　http://www.radiocarbon.com/ams- dating-pottery.htm

# CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12 = -26.7 o/oo : lab. mult = 1)

| | |
|---|---|
| **Laboratory number** | **Beta-396211** |
| **Conventional radiocarbon age** | **1970 ± 30 BP** |
| **2 Sigma calibrated result 95% probability** | **Cal BC 40 to AD 80 (Cal BP 1990 to 1870)** |
| Intercept of radiocarbon age with calibration curve | Cal AD 30 (Cal BP 1920)<br>Cal AD 40 (Cal BP 1910)<br>Cal AD 50 (Cal BP 1900) |
| 1 Sigma calibrated results 68% probability | Cal AD 5 to 65 (Cal BP 1945 to 1885) |




**Database used**

INTCAL13

**References**

**Mathematics used for calibration scenario**

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates, Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2):317-322

**References to INTCAL13 database**

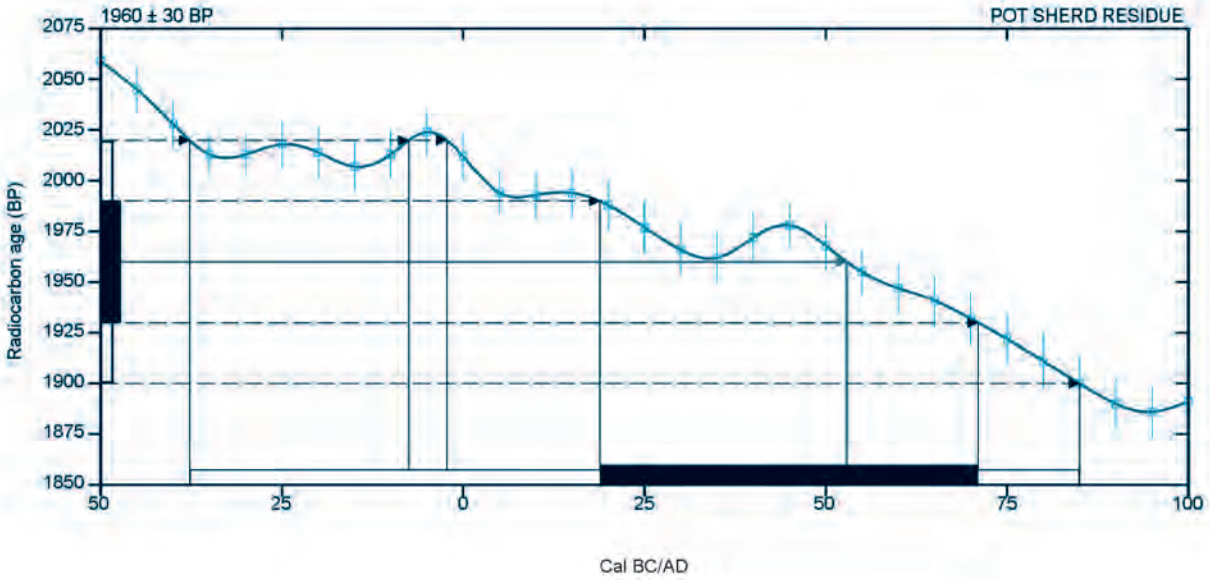
Reimer PJ et al. IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon 55(4):1869–1887

第 87 図　実測番号№43（レイアウト番号 66）の較正年代結果

# CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12 = -24.9 o/oo : lab. mult = 1)

| | |
|---|---|
| **Laboratory number** | **Beta-393945** |
| **Conventional radiocarbon age** | **1960 ± 30 BP** |
| **2 Sigma calibrated result 95% probability** | **Cal BC 40 to AD 85 (Cal BP 1990 to 1865)** |
| Intercept of radiocarbon age with calibration curve | Cal AD 55 (Cal BP 1895) |
| 1 Sigma calibrated results 68% probability | Cal AD 20 to 70 (Cal BP 1930 to 1880) |




**Database used**

INTCAL13

**References**

**Mathematics used for calibration scenario**

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates, Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2):317-322

**References to INTCAL13 database**

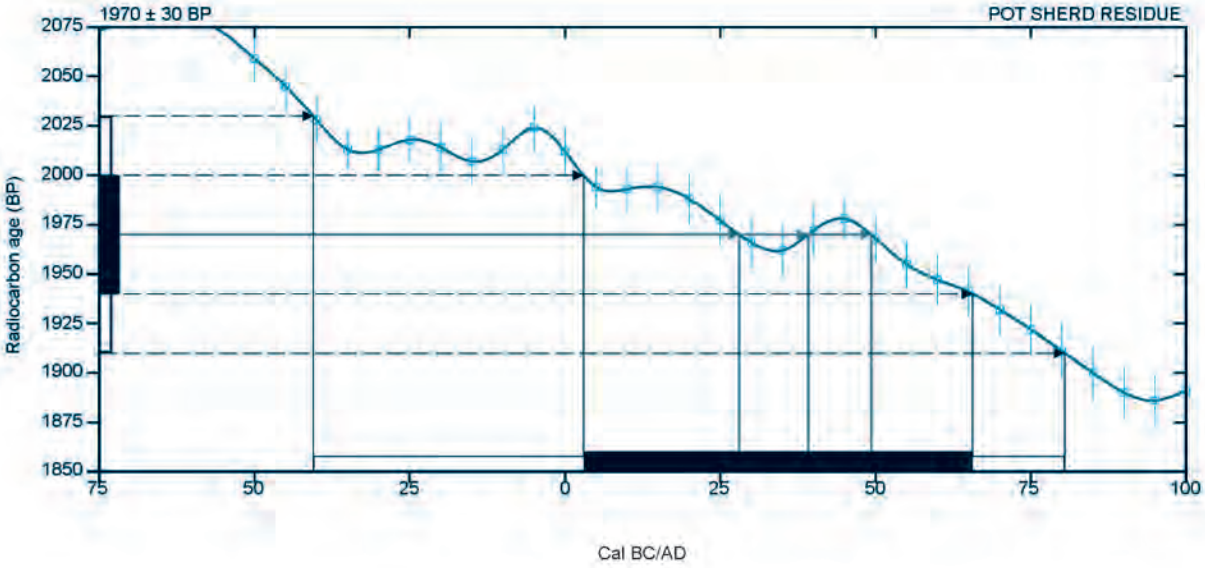
Reimer PJ et al. IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon 55(4):1869–1887.

第 88 図　実測番号No. 44（レイアウト番号 68）の較正年代結果

# CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12 = -26.7 o/oo : lab. mult = 1)

| | |
|---|---|
| **Laboratory number** | **Beta-393946** |
| **Conventional radiocarbon age** | **1970 ± 30 BP** |
| **2 Sigma calibrated result 95% probability** | **Cal BC 40 to AD 80 (Cal BP 1990 to 1870)** |
| Intercept of radiocarbon age with calibration curve | Cal AD 30 (Cal BP 1920)<br>Cal AD 40 (Cal BP 1910)<br>Cal AD 50 (Cal BP 1900) |
| 1 Sigma calibrated results 68% probability | Cal AD 5 to 65 (Cal BP 1945 to 1885) |




**Database used**

INTCAL13

**References**

**Mathematics used for calibration scenario**

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates, Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2):317-322

**References to INTCAL13 database**

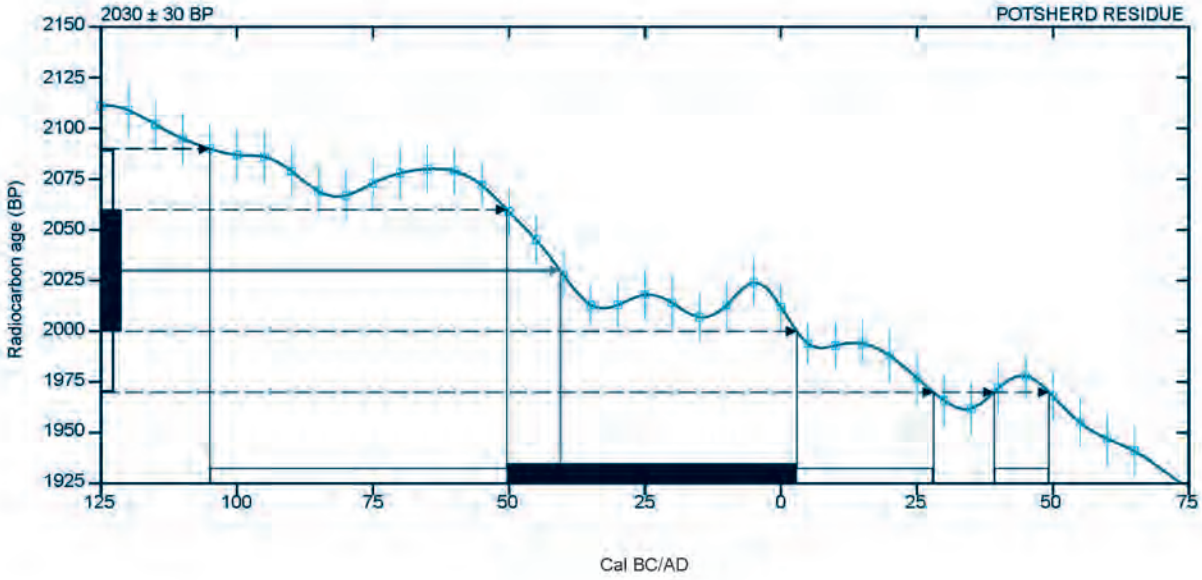
Reimer PJ et al. IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon 55(4):1869–1887

第 89 図　実測番号№6（レイアウト番号 89）の較正年代結果

# CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12 = -26.8 o/oo : lab. mult = 1)

| | |
|---|---|
| **Laboratory number** | **Beta-393947** |
| **Conventional radiocarbon age** | **2030 ± 30 BP** |
| **2 Sigma calibrated result 95% probability** | **Cal BC 105 to AD 30 (Cal BP 2055 to 1920)**<br>**Cal AD 40 to 50 (Cal BP 1910 to 1900)** |
| Intercept of radiocarbon age with calibration curve | Cal BC 40 (Cal BP 1990) |
| 1 Sigma calibrated results 68% probability | Cal BC 50 to AD 5 (Cal BP 2000 to 1945) |




**Database used**

INTCAL13

**References**

**Mathematics used for calibration scenario**

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates, Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2):317-322

**References to INTCAL13 database**

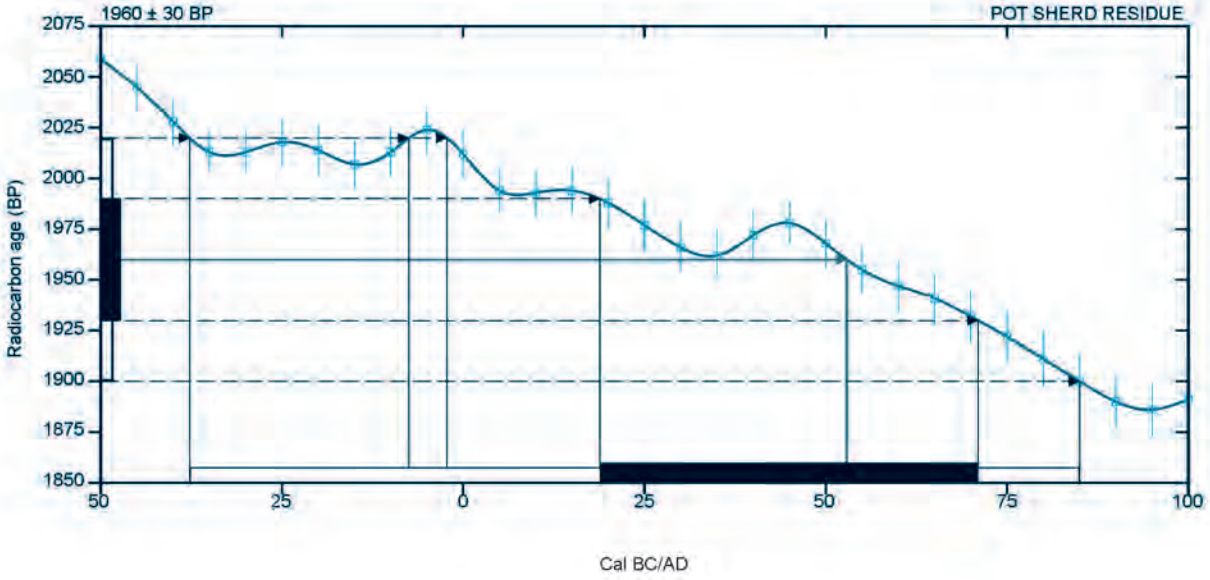
Reimer PJ et al. IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon 55(4):1869–1887

第 90 図　実測番号№ 422（レイアウト番号 90）の較正年代結果

# CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12 = -26 o/oo : lab. mult = 1)

| | |
|---|---|
| **Laboratory number** | **Beta-393948** |
| **Conventional radiocarbon age** | **1960 ± 30 BP** |
| **2 Sigma calibrated result 95% probability** | **Cal BC 40 to AD 85 (Cal BP 1990 to 1865)** |
| Intercept of radiocarbon age with calibration curve | Cal AD 55 (Cal BP 1895) |
| 1 Sigma calibrated results 68% probability | Cal AD 20 to 70 (Cal BP 1930 to 1880) |




**Database used**

INTCAL13

**References**

**Mathematics used for calibration scenario**

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates, Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2):317-322

**References to INTCAL13 database**

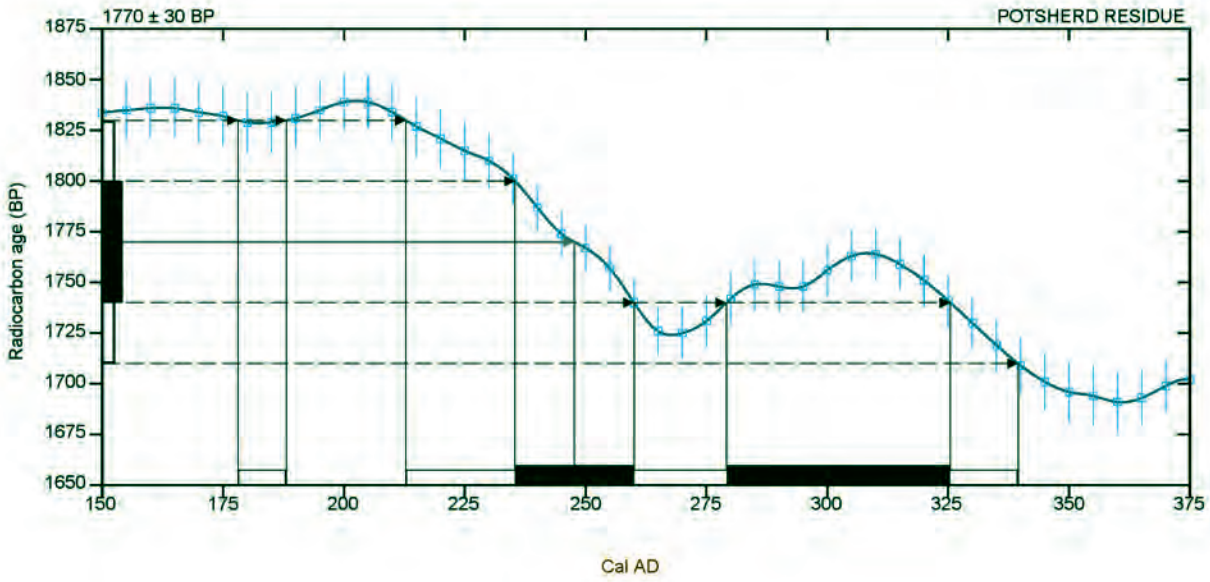
Reimer PJ et al. IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon 55(4):1869–1887.

第 91 図　実測番号№1（レイアウト番号 97）の較正年代結果

# CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12 = -25.8 o/oo : lab. mult = 1)

| | |
|---|---|
| **Laboratory number** | **Beta-393949** |
| **Conventional radiocarbon age** | **1770 ± 30 BP** |
| **2 Sigma calibrated result**<br>**95% probability** | **Cal AD 180 to 190 (Cal BP 1770 to 1760)**<br>**Cal AD 215 to 340 (Cal BP 1735 to 1610)** |
| Intercept of radiocarbon age with calibration curve | Cal AD 250 (Cal BP 1700) |
| 1 Sigma calibrated results<br>68% probability | Cal AD 235 to 260 (Cal BP 1715 to 1690)<br>Cal AD 280 to 325 (Cal BP 1670 to 1625) |




**Database used**

INTCAL13

**References**

**Mathematics used for calibration scenario**

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates, Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2):317-322

**References to INTCAL13 database**

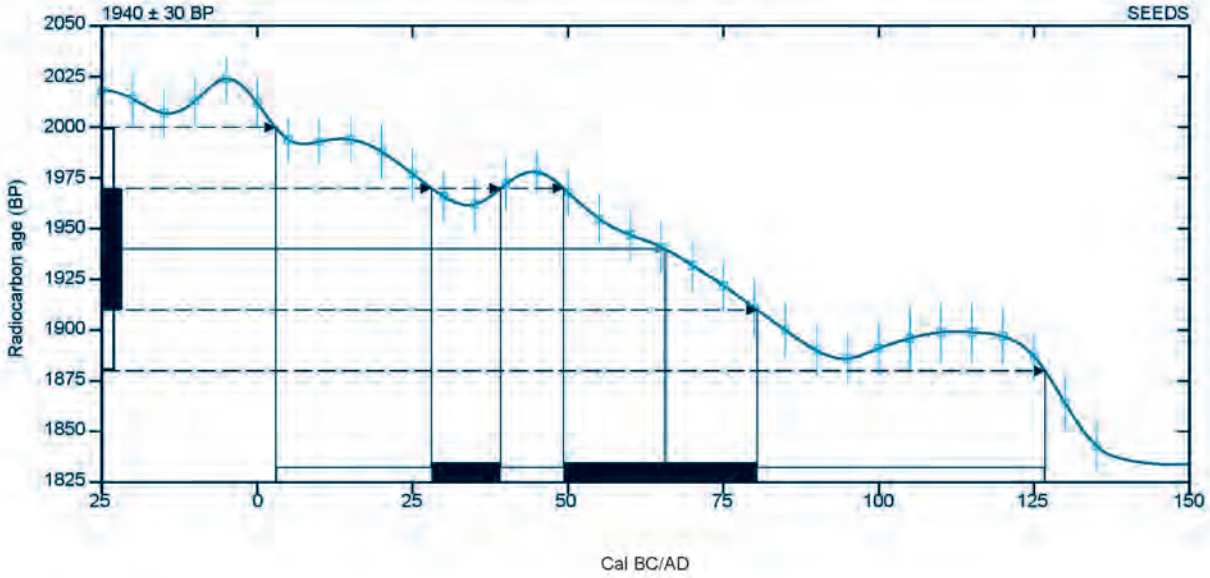
Reimer PJ et al. IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon 55(4):1869–1887.

第 92 図　実測番号№10（レイアウト番号 149）の較正年代結果

# CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12 = -27.7 o/oo : lab. mult = 1)

| | |
|---|---|
| **Laboratory number** | **Beta-393950** |
| **Conventional radiocarbon age** | **1940 ± 30 BP** |
| **2 Sigma calibrated result 95% probability** | **Cal AD 5 to 125 (Cal BP 1945 to 1825)** |
| Intercept of radiocarbon age with calibration curve | Cal AD 65 (Cal BP 1885) |
| 1 Sigma calibrated results 68% probability | Cal AD 30 to 40 (Cal BP 1920 to 1910)<br>Cal AD 50 to 80 (Cal BP 1900 to 1870) |




**Database used**

INTCAL13

**References**

**Mathematics used for calibration scenario**

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates, Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2):317-322

**References to INTCAL13 database**

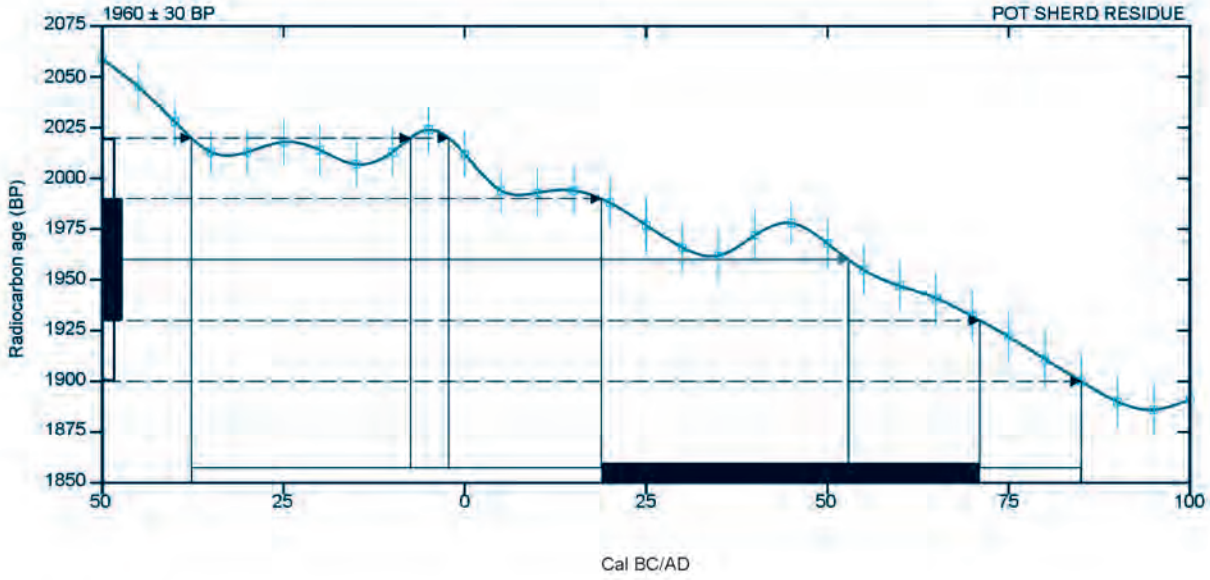
Reimer PJ et al. IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon 55(4):1869–1887

第 93 図　種実試料№16 の較正年代結果

# CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12 = -26.1 o/oo : lab. mult = 1)

| | |
|---|---|
| **Laboratory number** | **Beta-393951** |
| **Conventional radiocarbon age** | **1960 ± 30 BP** |
| **2 Sigma calibrated result 95% probability** | **Cal BC 40 to AD 85 (Cal BP 1990 to 1865)** |
| Intercept of radiocarbon age with calibration curve | Cal AD 55 (Cal BP 1895) |
| 1 Sigma calibrated results 68% probability | Cal AD 20 to 70 (Cal BP 1930 to 1880) |




**Database used**

INTCAL13

**References**

**Mathematics used for calibration scenario**

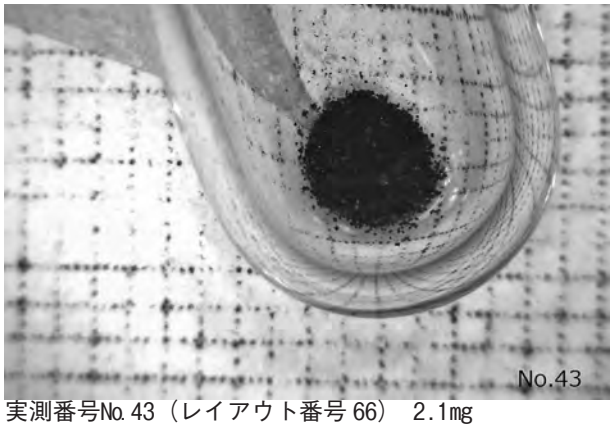
A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates, Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2):317-322

**References to INTCAL13 database**

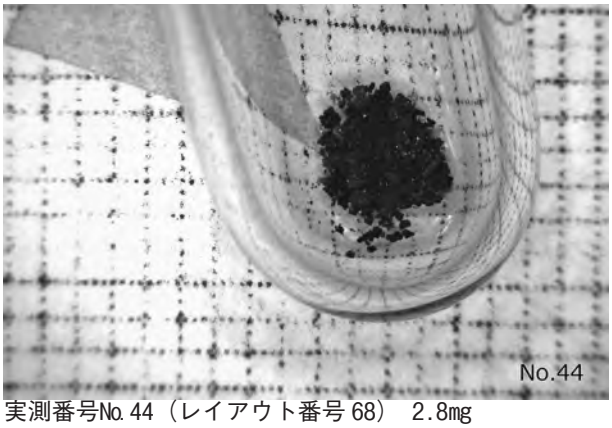
Reimer PJ et al. IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon 55(4):1869–1887.

第 94 図　実測番号№7（レイアウト番号 211）の較正年代結果

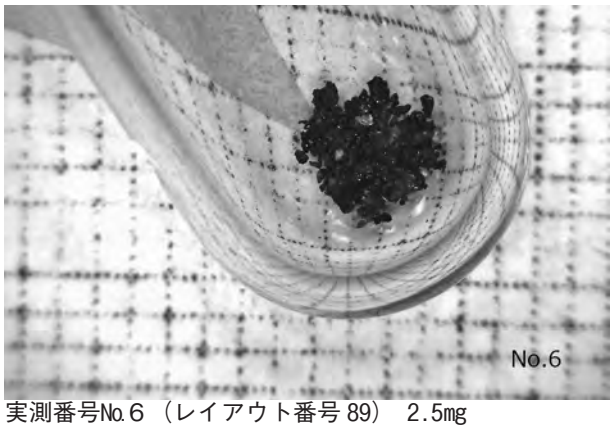
前処理後の試料写真（背景メッシュは１mm）



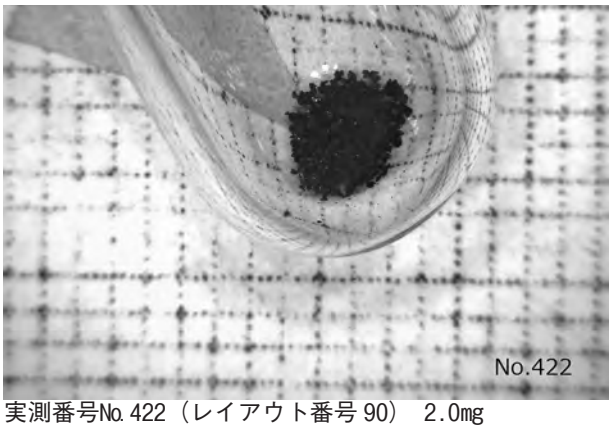
実測番号No.43（レイアウト番号66） 2.1mg



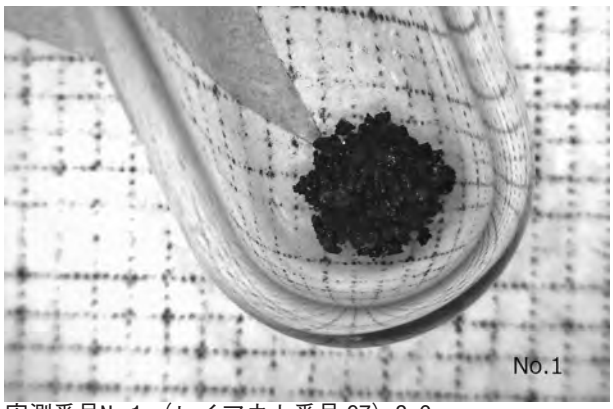
実測番号No.44（レイアウト番号68） 2.8mg



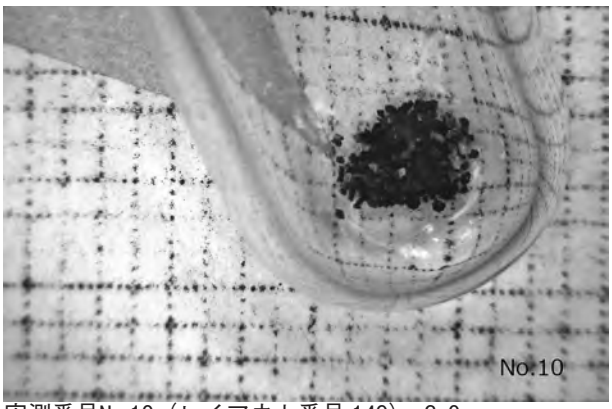
実測番号No.６（レイアウト番号89） 2.5mg



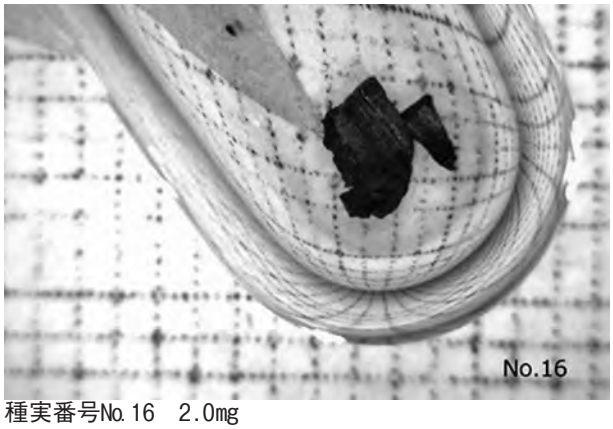
実測番号No.422（レイアウト番号90） 2.0mg



実測番号No.１（レイアウト番号97）3.6mg



実測番号No.10（レイアウト番号149） 2.0mg



種実番号No.16 2.0mg

実測番号No.７（レイアウト番号211） 2.8mg

## 第２節　５号竪穴住居跡床面採集の炭化種実同定

### １．５号竪穴住居跡土壌採集の方法

５号竪穴住居跡は，ほぼ床面に近いところの検出であった。埋土に炭化物が多く確認されたため，炭化種実が多く含まれる可能性があると判断した。住居跡に50×50cmのメッシュを設け，グリッド内を32区画（①～㉛）に分け，グリッドごとに埋土の土壌をすべて採集した。グリッドの設定は第95図に示すとおりである。なお，㉛だけはSK3をすべて含めているため，50×100cmのグリッドとなっている。

また②・③・⑨・⑩については当初グリッドの区画でそれぞれ採集していたが，SK1が検出されると，SK1の単位で採集をしている。なお調査段階ではSK1は，土坑と認識されるまでは「中央焼土」「中央焼灰土」と記録し，土坑であることが判明した場合は「中央土坑」と記録している。なお，特に②・③・⑨・⑩及び，SK1は埋土量が比較的多かったため，土嚢袋が複数にわたる。

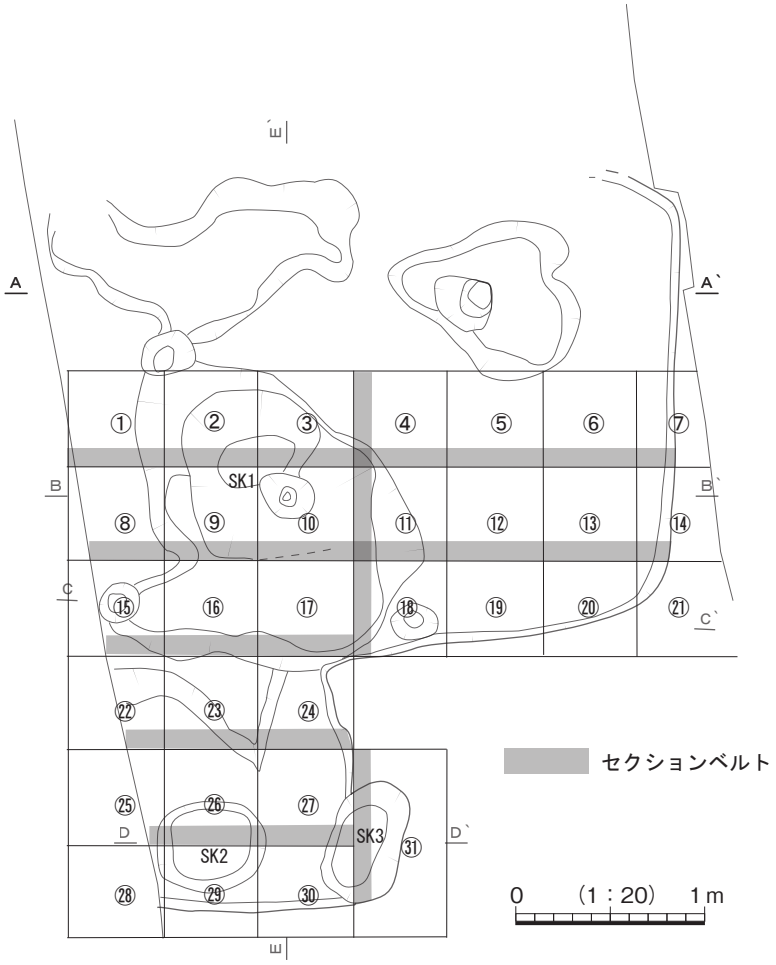
### ２．炭化種実採集の方法

水を張った水槽に採集した土壌を入れて，浮遊する炭化物等を採集し，さらに上から７㎜，５㎜，２㎜，１㎜，0.5㎜メッシュのフルイを重ねて作成した装置に土を流し込み，洗浄しながら，各フルイに残った遺物を選別する方法を行った。

さらにフルイに残った遺物を肉眼で判別できる範囲で炭化物，炭化種実，鉱物，土塊粒，ガラス玉等遺物に分類した。炭化種実の可能性の高いものは，鹿児島大学埋蔵文化財調査センターの中村直子氏に電子顕微鏡を用いてより種実の可能性があるものを抽出してもらった。

なお上記の遺物の抽出まで，念のため各土嚢袋の単位で行っており，分析結果で同じ試料名であっても，複数試料番号に分かれているのは，分析の段階でも一貫して土嚢袋の単位で抽出した遺物ごとで試料番号が付されているためである。

炭化種実の同定は，株式会社古環境研究所に委託して実施した。




第95図　５号竪穴住居跡埋土採集グリッド図

## ３．種実同定の成果

株式会社　古環境研究所

### (1) はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く，堆積物や遺構内などに残存している場合がある。堆積物や遺構埋土などから種実を検出し，その種類や構成を調べることで，過去の植生や植物利用の実態を明らかにすることができる。

### (2) 試料

試料は，弥生時代終末～古墳初頭頃とされる５号竪穴住居跡（住居５）から採取された水洗選別済みの種実類である。試料の詳細を分析結果表に示す。

### (3) 方法

種実類について肉眼および双眼実体顕微鏡で観察し，形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科，属，種の階級で示した。

### (4) 結果

**①分類群**

分析の結果，樹木４，草本４の計８分類群が同定された。分析結果を表１に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載し，主要な分類群について写真を示す。

〔樹木〕

コナラ属　Quercus　子葉（破片）　ブナ科　長さ×幅：8.13 × 6.59㎜

黒褐色で楕円形を呈し，一端につき部が残る。表面は平滑である。この分類群は殻斗が欠落しているため，属レベルの同定である。

ブナ科　Fagaceae　子葉（破片）

黒褐色で楕円形を呈し，表面は平滑である。この分類群はつき部，殻斗が欠落し破片のため，科レベルの同定である。

キハダ？　Phellodendron amurense Rupr.？　種子　ミカン科

黒色で半円形を呈し、一側面に細長いへそがある。表面には微細な網目模様がある。破片でへそが確認できないため、キハダ？とした。

サンショウ属　Zanthozylum　種子（破片）　ミカン科

黒色で楕円形を呈し、側面にへそがある。表面には網目模様がある。この分類群はへそが欠落し破片のため、属レベルの同定である。

〔草本〕

イネ　Oryza sativa L.　果実（完形・破片）　イネ科

長さ×幅:4.13 × 2.60㎜、3.58 × 1.97㎜，4.78 × 2.92㎜，4.45 × 2.69㎜，4.90 × 2.69㎜，4.06 × 2.24㎜

炭化しているため黒色である。長楕円形を呈し，胚の部分がくぼむ。表面には数本の筋が走る。

タデ属　Polygonum　果実　タデ科　長さ×幅：1.66 × 1.25㎜

黒褐色で卵形を呈す。表面にはやや光沢があり，断面は三角形である。

ササゲ属　Vigna　子葉（半形・破片）　マメ科　長さ×幅：4.55 × 3.07㎜

黒色で楕円形を呈す。へそは縦に細長い。ササゲ属にはリョクトウ，アズキ，ササゲなどの栽培植物が含まれる。

イヌホウズキ　Solanum nigrum L.　種子　ナス科　長さ×幅：0.87 × 0.65㎜

黄褐色で扁平楕円形を呈し，一端にくぼんだへソがある。表面には網目模様がある。未炭化である。

不明種実：種実ではあるが炭化しているため表面が欠落しているため同定までいたらなかった。

未同定：種実かどうか不明。

**②種実群集の特徴**

ア．グリッド②中央焼成土坑（試料番号１、２）

草本種実のササゲ属５である。

イ．グリッド③中央焼成土坑（試料番号３）

不明１である。

ウ．グリッド②③⑨⑩中央焼土（試料番号５から 10，13）草本種実のイネ５，不明種実６，未同定８である。

エ．グリッド②③⑨⑩中央土坑（試料番号 14，18 から 20）。種実は同定されなかった。

オ．グリッド②③⑨⑩中央焼灰土（試料番号 11，15 から 17）樹木種実のコナラ属１，ブナ科１，キハダ？１ｍ　草本種実のイネ１，未同定１である。

カ．グリッド②③⑨⑩（試料番号 12）　草本種実のイ２である。

キ．グリッド④セクションベルト（試料番号４）種実は同定されなかった。

ク．グリッド⑤セクションベルト（試料番号 21）
未同定１である。

ケ．グリッド⑥セクションベルト（試料番号 22）
未同定１である。

コ．グリッド⑨セクションベルト（試料番号 23）
草本種実のタデ属１，イヌホウズキ１，未同定３である。

サ．グリッド⑨中央土坑セクションベルト（試料番号 24）樹木種実のコナラ属１である。

シ．グリット⑩床着（試料番号 25，26）
草本種実のイネ１，未同定１である。

ス．グリット⑬床着（試料番号 27，28）
樹木種実のサンショウ属１である。

### (5) 考察

種実同定の結果、栽培植物ではグリッド②中央焼成土坑でササゲ属（アズキなど）５，グリッド②③⑨⑩中央焼土でイネ（炭化米）５，グリッド②③⑨⑩中央焼灰土でイネ（炭化米）１，グリッド②③⑨⑩でイネ（炭化米）２が同定された。

樹木種実ではコナラ属，ブナ科，キハダ？，サンショウ属が認められた。いずれも二次林ないし人里周辺に生育する樹木である。また，草本種実ではタデ属，イヌホウズキが認められた。いずれも人里（集落）ないし畑地に生育する草本である。

（参考文献）


・笠原安夫（1985）日本雑草図説，養賢堂，494p.
・笠原安夫（1988）作物および田畑雑草種類．弥生文化の研究第　２巻生業，雄山閣出版，p.131-139.
・南木睦彦（1993）葉・果実・種子．日本第四紀学会編 第四紀　　試料分析法，東京大学出版会，p.276-283.
・吉崎昌一（1992）古代雑穀の検出．月刊考古学ジャーナル　№.355，ニューサイエンス社，p.2-14.


第 21 表　炭化種実同定結果

| 試料番号 | 試料名 | 分類群 学名 | 分類群 和名 | 部位 | 個数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | グリッド②中央焼成土坑 | *Vigna* | ササゲ属 | 子葉（半形）<br>（破片） | 2<br>3 | 住居５内土坑 |
| 2 | グリッド②中央焼成土坑 | | | | | 住居５内土坑 |
| 3 | グリッド③中央焼成土坑 | Unknown | 未同定 | | 1 | 住居５内土坑 |
| 4 | グリッド④セクションベルト | | | | | 種実ではない２ |
| 5 | グリッド②③⑨⑩中央焼土 | Unknown | 未同定 | | 1 | 住居５内土坑 |
| 6 | グリッド②③⑨⑩中央焼土 | Unknown | 未同定 | | 4 | 住居５内土坑 |
| 7 | グリッド②③⑨⑩中央焼土 | Unknown seeds<br>Unknown | 未同定種実<br>未同定 | （破片） | 3<br>3 | 種実ではない１　住居５内土坑 |
| 8 | グリッド②③⑨⑩中央焼土 | *Oryza sativa* L. | イネ | 炭化果実 | 1 | 土塊１　住居５内土坑 |
| 9 | グリッド②③⑨⑩中央焼土 | *Oryza sativa* L. | イネ | 炭化果実 | 1 | 住居５内土坑 |
| 10 | グリッド②③⑨⑩中央焼土 | *Oryza sativa* L. | イネ | 炭化果実 | 2 | 住居５内土坑 |
| | | Unknown seeds | 不明種実 | （破片）<br>（破片） | 1<br>3 | |
| 11 | グリッド②③⑨⑩中央焼灰土 | Fagaceae<br>*Oryza sativa* L. | ブナ科<br>イネ | 子葉（破片）<br>炭化果実 | 1<br>1 | 住居５内土坑 |
| 12 | グリッド②③⑨⑩ | *Oryza sativa* L. | イネ | 炭化果実 | 2 | 種実ではない２ |
| 13 | グリッド②③⑨⑩中央焼土 | | | | | 炭化材片５、土塊１　住居５内土坑 |
| 14 | グリッド②③⑨⑩中央土坑 | | | | | 虫瘤１　住居５内土坑 |
| 15 | グリッド②③⑨⑩中央焼灰土 | *Phellodendron amurense* Rupr.？ | キハダ？ | 種子（破片） | 1 | 炭化材片２、土塊１　住居５内土坑 |
| 16 | グリッド②③⑨⑩中央焼灰土 | Unknown | 未同定 | （破片） | 1 | 住居５内土坑 |
| 17 | グリッド②③⑨⑩中央焼灰土 | *Quercus* | コナラ属 | 子葉（半形） | 1 | 住居５内土坑 |
| 18 | グリッド②③⑨⑩中央土坑 | | | | | 炭化材片４　住居５内土坑 |
| 19 | グリッド②③⑨⑩中央土坑 | | | | | 炭化材片１　住居５内土坑 |
| 20 | グリッド②③⑨⑩中央土坑 | | | | | 虫瘤２　住居５内土坑 |
| 21 | グリッド⑤セクションベルト | Unknown | 未同定 | | 1 | 住居５埋土 |

| 試料番号 | 試料名 | 分類群 | | 部位 | 個数 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 学名 | 和名 | | | | |
| 22 | グリッド⑥セクションベルト | Unknown | 未同定 | | 1 | 炭化材片1、虫瘤1 | 住居5埋土 |
| 23 | グリッド⑨セクションベルト | *Polygonum* | タデ属 | 果実 | 1 | 土塊1 | 住居5埋土 |
| | | *Solanum nigrum* L. | イヌホウズキ | 種子 | 1 | ←未炭化 | |
| | | Unknown | 未同定 | | 3 | | |
| 24 | グリッド⑨中央土坑セクションベルト | *Quercus* | コナラ属 | 子葉（破片） | 1 | | 住居5内土坑 |
| 25 | グリット⑩床着 | Unknown | 未同定 | | 1 | | 住居5床直上埋土 |
| 26 | グリット⑩床着 | *Oryza sativa* L. | イネ | 炭化果実（破片） | 1 | | 住居5床直上埋土 |
| 27 | グリット⑬床着 | *Zanthoxylum* | サンショウ属 | 種子（破片） | 1 | | 住居5床直上埋土 |
| 28 | グリット⑬床着 | | | | | 炭化材片2 | 住居5床直上埋土 |

高久田Ａ遺跡の種実

1　コナラ属子葉（半形）（No.17）　1.0mm

2　キハダ？種子（破片）（No.15）　1.0mm

3　イネ果実（No.８）　1.0mm

4　イネ果実（No.９）　1.0mm

5　イネ果実（No.10）　1.0mm

6　イネ果実（No.11）　1.0mm

7　イネ果実（No.12）　1.0mm

8　イネ果実（No.12）　1.0mm

9　タデ属果実（No.23）　0.5mm

10　ササゲ属子葉（半形）（No.１）

11　同左　1.0mm

12　イヌホウズキ（No.23）　0.1mm

# 第７章　総括

## 第１節　縄文時代晩期～弥生時代前期

### ⑴縄文時代晩期土器

縄文時代晩期土器として掲載した遺物は多くはなく，型式を特定できるのは４の入佐式土器である。２・３などは黒川式土器の一部であろうと思われる。掲載していない土器の中には，晩期の土器も多く含まれるかもしれないが，胴部片が多く，器形などの判別が困難であるため，弥生時代前期までの土器との分類も含め，正確な時期の特定ができなかった。６は３の類にも見えるが,弥生時代終末以降の高坏の可能性もある。

### ⑵弥生時代前期土器

突帯文土器について，藤尾慎一郎氏は薩摩半島西部，錦江湾岸部，大淀川上流域の３地域に分けて，突帯文土器の甕形土器を５期に区分した（藤尾1993）。また，桒畑光博氏は東南部九州を宮崎平野部，大淀川上流域，大隅半島の３地域に分けて，各地の縄文時代から弥生時代への土器変遷について考察を加えている（桒畑2006）。

以下、本遺跡で出土した突帯文土器を考察するにあたって，藤尾氏の突帯文編年に桒畑氏による東南部九州の土器の編年を加え，整理をしてみる。

#### ①突帯文編年Ⅰ期

北部九州の山ノ寺・夜臼Ⅰ式の時期に併行する。南九州では，縄文晩期後半に位置づけられている井手下式の時期である。

突帯文土器出現時期と捉え，薩摩半島では口縁部と胴部に突帯文を巡らす二条甕，胴部に突帯文を付する甕が確認されている。大淀川上流域では組織条痕文を持つ古い型式の突帯文土器が見られる。錦江湾岸ではこの頃の資料はまだ発見されていない。

①胴部の屈曲がかなり強く，②口縁部の突帯文は口縁端部から少し下部に貼り付けられることが多い。③指や竹管による刺突刻目で，④器面調整は薩摩西部では貝殻条痕，それ以外の地域はヘラナデ，板ケズリでいずれも一次調整で仕上げる。

桒畑氏は東南部九州におけるこの段階を「刻目突帯文土器の単純期」としてⅠa期とする。宮崎平野部では，甕形土器は屈曲形で，屈曲部のみに直接刻目文を施すタイプ，口縁部のみに突帯を付するタイプ，口縁部と胴部に刻目突帯を巡らせるタイプがある。

大淀川上流域では，胴部の屈曲が強く，口縁部と胴部に刻目突帯文を巡らすものが主流である。突帯の刻目は指頭の押圧によるものが多いが，ヘラ状工具によるものもある。器面の調整はナデ調整が多いが，一部条痕文もある。

大隅半島では東原遺跡（曽於市大隅町）の例で，組織痕を持つ鉢が多く出土している。壺は見られない。器面調整は横方向の条痕状のものがある。

#### ②突帯文編年Ⅱ期

北部九州の夜臼Ⅱ段階に併行する。南九州では，縄文晩期後半に位置づけられている井手下式の時期である。藤尾氏は「早期水稲栽培の伝播」時期にあたるとし，南九州でも壺形土器が出現する。

薩摩西部では胴部の屈曲が弱まり，底部に向けて窄まる器形で，口縁部に１条の刻目突帯文を巡らすもの，胴部に突帯文を巡らすものが，錦江湾岸では口縁と胴部に刻目突帯文を巡らすものが現れる。大淀川上流域では口縁部を外反させる瀬戸内型特徴を持つものが見られる。

①胴部の屈曲がやや弱まり，②口縁部の突帯文は口縁端部に接する。③押し引き刻目で，④器面調整はナデ消しで一次調整を仕上げる。

宮崎平野南部の例では，口縁部と胴部に刻目突帯文を持ち，指頭による押圧刻みが見られる。器面調整は板状工具ナデである。胴部突帯下にミガキが観察される。

大淀川上流域では，屈曲のあるものと，直線的なものがある。屈曲のあるものが多い。刻目突帯は指頭の押圧によるものと，ヘラ状工具によるものがある。口縁部突帯は端部に接しているものが主流となる。器面調整は工具ナデが大半を占める。

大隅半島での甕形土器の刻目は指頭による押圧刻みで、鉢には組織痕を持つものもある。大・中型の壺の肩部にはカマボコ状の突帯が巡る。内外ナデ調整後にミガキ調整が施されるようになる。

#### ③突帯文編年Ⅲ期

遠賀川式土器が出現する時期で，薩摩西部には伝播している。北部九州では板付Ⅱa式と併行する。南九州では遠賀川式土器の影響を受けた高橋Ⅰ式土器が出現する。錦江湾岸に及んでいたかは不明。大淀川上流域には伝播していない。遠賀川式土器と突帯文土器の折衷甕が成立する。突帯文甕は屈曲を持たずに底部に向けて窄まる器形で口縁部だけに突帯文を持つもの，口縁部と胴部に突帯文を持つものが主流となる。

宮崎平野部は，大淀川下流域と一ツ瀬川下流域で土器の様相が異なる。宮崎平野南部では，口縁部と胴部に突帯文を施す甕形土器には，口縁部の突帯が端部よりやや下がった場所に巡らす。壺は頸部と胴部の間に段を持ち，その部分に沈線を施す。口縁部が肥厚し，頸部と胴部の境に弱い段を持つ。

宮崎平野北部では，甕型土器口縁部の外端部に刻目を持つ豊後・西瀬戸内地方の土器の影響を受けたものが現

れる。

大淀川上流域の甕形土器は，口縁部と胴部に突帯を持ち，突帯上の刻目はヘラ状工具による細めのもので，胴部の屈曲が弱い。器面には二次調整としてミガキ調整がされる。壺は肩部に突帯を持つものと頸部と胴部の境に沈線文を巡らすものがある。

大隅半島では，工具による一次調整の後，胴部外面にはごく一部に縦方向のミガキ調整，口縁部と胴部の突帯文間に複線山形沈線文を施すものがある。

肝付町の軍原遺跡では，胴部で屈曲するものとしないものが半々に存在する。器面調整は内外器面ともにミガキ調整が顕著となる。刻目はV字刻みや無刻みが多数を占める。壺は口縁部が直立するものと外傾するものがある。肩部に突帯を巡らすものと，沈線によって段をなすものもある。錦江町の貫見原遺跡では，少量の如意形口縁の甕形土器がある。突帯に刻目を持つものが主体で，刻目は大半がV字状刻目を含む比較的細めである。口縁部突帯が下方に，胴部突帯が上方にカーブするものがある。

④突帯文編年Ⅳ期

板付Ⅱb式と併行する。南部九州では高橋Ⅱ式土器の併行期になる。亀ノ甲タイプが出現する時期である。水稲栽培が普及する時期と推定されている。

甕形土器は如意状口縁部を持つ甕のほか，口縁から底部へと窄まる器形と，口縁部のみ，もしくは口縁部と胴部に突帯文を施すものに統一される。Ⅲ期に見られた折衷甕は見られない。

特徴として，①口唇部を平坦に整え，②口縁部突帯が胴部突帯より大きくなる。③刻目は押し引き刻みを基本とし，形骸化も始まる。④器面調整はハケメがわずかに見られるものの，ナデ仕上げがほとんどである。
⑤突帯の断面は長方形か二等辺三角形である。早期突帯文土器から前期突帯文へと定型化する。

宮崎平野南部では突帯文が口縁端部に接する亀ノ甲タイプが見られる。また口縁部に接近して２条の刻目突帯を巡らせるものもある。亀ノ甲タイプの甕形土器には口縁部内面端部にも刻目を施すものがある。一部の土器にハケメ調整が見られる。

鉢形土器は口縁部と胴部に突帯が１条ずつめぐり，刻目のあるものとないものがある。いずれもミガキ調整を施す。壺形土器は球形の胴部で，肩が張り，胴部上半に沈線が巡る。

宮崎平野北部は口縁外端部に刻みを持ち，口縁部のみまたは，口縁部と胴部に刻目突帯文を巡らす。胴部２条の刻目突帯文は後出する要素とも考えられる。

壺形土器は口縁部の内外器面に連続刺突文を持つものがある。頸部と胴部の境目に沈線文を巡らすものもある。

大淀川上流域では，口縁部と胴部に刻目突帯が巡り，口縁部突帯を垂下させて胴部の突帯と繋いで「コ」字条をなすものもある。内器面はナデ調整,外器面は横方向ミガキ調整である。壺形土器は口縁部に粘土帯を貼付け,頸部と胴部の境に沈線文が２条，その下に低い突帯を巡らせ，その下に「ハ」字状の羽状短沈線文が２段施されるものもある。内外器面調整はミガキで仕上げる。

大隅半島では貫見原遺跡の例から，無刻目突帯文を主体とする。無刻目突帯文土器には，口縁部突帯と胴部突帯を繋ぐ縦・斜めの突帯を有するものもある。

⑤突帯文編年Ⅴ期

藤尾氏は前期末から中期初頭に設定している。北部九州では板付Ⅱc段階，南部九州では引き続き高橋Ⅱ式段階となる。

薩摩半島では如意状口縁の甕形土器が見られなくなり，口縁から底部に向けて窄まる器形，突帯は口縁部のみ，または口縁部と胴部に施す。口縁部突帯は肥大化し，平坦口縁が完成。胴部突帯はさらに縮小し，刻目を施さなかったり，沈線などを施したりするものも現れる。また底部は脚台状となる。西部九州の動向と同じくし,城ノ越土器の地域圏とする。入来式土器と言われる。

大淀川上流域はより大分・宮崎の要素を深める。大隅半島錦江湾岸まで影響する。突帯間を繋ぐ縦列突帯の出現や,口縁部突帯が２条になるなど下城式の影響が強まる。

宮崎平野部での甕形土器は亀ノ甲タイプの土器と口縁部のみ，または口縁部と胴部に２条ずつの突帯文を巡らす土器がある。後者の２条の突帯文を伴う場合，口縁部の２条突帯は下側の突帯がやや小さい。

壺形土器は外反する口縁部の外と内に突帯を施すもの,肩部の２条突帯の下にヘラ描きの有軸羽状文を施すものもある。

大淀川流域では，甕形土器の突帯が多条化する。突帯に刻目を施すものと施さないものがある。比較的乱雑なミガキ調整が顕著である。口縁部上部に２～５個単位の豆状突起を有するものもある。壺形土器では頸部と胴部の境目に細かい刻目を持つ突帯を巡らすものがある。

大隅半島も大淀川上流域と類似しており，口縁部と胴部に２条ずつの突帯文を巡らせ，刻目を施すものと施さないものがある。口縁部上部に２個単位の豆状突起を有するものもある。ミガキ調整が顕著である。胴部にヘラ描き多条沈線文を施すものも出土しており，瀬戸内地方との関連も指摘される。

壺形土器では口縁部内面に突帯を１条巡らせ，肩部には幅広の削り出し突帯が巡り，半裁竹管文などが施されるものがある。

本報告書における第７～９図の土器を分類してみると，甕形土器の器形については口縁部付近のパーツでしか無いため，傾きで判断されるが，概ね口縁部から底部にかけて窄まる形態であり，Ⅲ期以降の印象である。20・21・33・35のように口縁部が内傾ものもあるが，屈曲が緩いことが想定され，Ⅲ期までは認められる。

口縁突帯の位置であるが，７～19は口縁端部よりやや下方に貼り付けられ，突帯文編年では古い段階を想定するが，宮崎平野部では，Ⅲ期段階で下方に取り付けられるものがあることや，大隅半島でもⅢ～Ⅳ期段階で見られることから，Ⅲ期頃の範疇で考えても良い。

刻目は指頭押圧によるものはなく，ヘラ状工具による押し引き刻みが主体である。このことからⅢ～Ⅳ期に相当すると考えて良い。

器面調整について，外器面は横方向の指または工具によるナデ調整が目立つが，横方向のミガキで仕上げているものも少なくない。内外器面とも横方向のミガキ調整も確認される。また28・36のように縦方向のミガキ調整を施すものもある。ミガキ調整はⅡ期以降に見られる。

33～37・42・43は無刻目突帯文土器である。36･43などの縦の突帯は貫見原遺跡で確認されるⅣ期に相当すると考えて良いが，36・37のように口唇部の一部に突起を伴うのは，Ⅴ期の要素である。42はⅤ期段階と見たが，下の突帯の先端部が平坦に整形している点等，古墳時代の可能性もある。

刻目突帯文でも44のように縦に貼り付けられるものもある。これなどもⅤ期段階と考えられる。

31の口縁部突帯と胴部突帯間に３条の沈線文が確認できるのは，軍原遺跡で確認されており，Ⅲ期頃と推定される。

壺形土器については胴部に施された沈線文は高橋Ⅰ・Ⅱ式に見られるものである。Ⅲ～Ⅳ期段階とみて良いだろう。

総じて，本遺跡で出土している突帯文甕形土器及び壺形土器は，突帯文編年で示すところのⅢ期～Ⅴ期の範疇に含まれると思われる。本報告書では，藤尾氏の時間軸の設定に基づき，この段階が板付Ⅱa・Ⅱb・Ⅱc土器に併行するものとし，弥生時代前期中から末期に位置づけた。

## 第２節　弥生時代終末～古墳時代

### ①遺構

１号竪穴住居跡における掲載遺物のうち柱穴及び柱穴周辺の掘り込みに伴って出土した土器群は一括性が高いと思われる。従って，甕形土器（67・68・71・72），壺形土器（75・77・82），鉢形土器（84・85・86）などは，住居跡の時期を特定する資料と言える。甕形土器66，70なども，土器群から離れているが，１号竪穴住居跡掘り込み面上のアカホヤ火山灰混ざりの黒色土内で出土しており，この埋土は柱穴及び周辺の掘り込みの埋土と同じであるので，ほぼ同時期と見て良いだろう。

２号竪穴住居跡のうち床面に接合パーツがあるのは甕形土器89で，そのほかは埋土上層部の出土である。そのため，89で竪穴住居跡の時期を特定することが可能かも知れない。しかし，89も他の遺物と同じく大部分の接合資料は検出面からの埋土上層部にあるため，この竪穴住居は短期間で埋まった可能性がある。そのように考えれば89とそれ以外の遺物に大きな時期差がない可能性もある。

３号竪穴住居跡で出土した甕形土器97は埋土一括で取り上げているが，実際は北西壁面の掘り込みの壁面近くで出土しているので，住居跡の時期を特定する資料とする。甕形土器99なども北西壁面の掘り込み埋土から出土しているため，掲載遺物としているが，小片であるため，決め手に欠ける。他の遺物は一括かもしくは検出面からの埋土上層にあるため，必ずしも３号住居跡の時期を示すものとは言えない。

４号竪穴住居跡は，掘り込み面が複雑な形態を示しており，住居の東側半分は一段掘り下がっている。東側半分の掘り下がった部分にアカホヤ火山灰を含む黒色土が堆積しており，可能性として東側は掘り上げた土を貼ることで，西側の掘り込み面と高さを揃えて床面を構築しているものと解釈した。東南側壁面付近は４号土坑と５号竪穴住居跡が切り合っているので，実際４号竪穴住居構築時に掘り下げた部分がどこまでなのかは，調査中に捉えることができなかった。

ただし，以降検出状況では，Ⅲ層が明瞭に東南の以降プランの輪郭をおさえているので，少なくとも５号竪穴住居跡よりは新しいと考えられる。打製石錘124は，確かに床面からの出土であるが，縄文時代の遺物とみる。竪穴掘り下げとともに混入したと考えられる。

高坏118・壺形土器底部の116などは接合資料が南側掘り込み埋土から出土しているので，４号竪穴住居跡の時期を特定する資料とも見られる。

５号竪穴住居跡は，４～６号土坑と切り合っているので，これらも含めて調査の状況を詳細に報告する。４～６号土坑については４号竪穴住居跡とともにⅢ層の黄色

火山灰の含有が顕著に多く，より明るい箇所を検出したものである。従って，これらは５号住居跡より新しい段階と考えるのであるが，これらの土坑は他のⅣ層上面検出遺構と異なり，検出ラインが明瞭でなかった。５号土坑は，東南側のラインは明瞭であったが，北西側つまり５号竪穴住居跡の南東壁面と接して切り合うところは，検出ラインが明瞭ではなく，黄色火山灰粒子の含有の多さで，５号土坑の北西側の検出を半ば決め込んだ状態で検出し，掘り下げを進めた経緯がある。掘り下げの段階では純粋に黄色火山灰粒子を含む黒色土を除去する形で進めたが，当然ながら，後に発覚する５号住居跡と切り合っているため，北西面の立ち上がりはアカホヤ火山灰粒子をわずかながら含む層が壁面に現れる結果となり，調査中も５号土坑の北西面の壁面が本来の立ち上がりなのか，検討した経緯がある。

４号土坑についても同じで，黄色火山灰を多く含むⅢ層が確認できるものの，５号竪穴住居跡と６号土坑と切り合いの新旧は検出段階から判別できず，また切り合っていない東西のラインも不明瞭であった。６号についても黄色火山灰を多く含む範囲はあるが，掘り込みのラインは不明瞭であり，検出ラインを決め込んで調査となった。

５号竪穴住居跡よりも４～５号土坑は新しい段階の遺構という可能性も否定はできず，今回４～５号は住居跡とは分けて土坑として報告しているが，一方で５号竪穴住居跡の埋没過程で，よりⅢ層の黄色火山灰粒子が多い層が部分的に堆積する箇所があって，それが結果的に検出段階で遺構プランのように検出したのではないかという疑いもある。

例えば，４号土坑は５号竪穴住居跡のSK1の直上にある。５号竪穴住居跡埋没過程で最後まで凹んでいた箇所に黄色火山灰粒子を含む黒色土あるいは黄色火山灰そのものが集中的に堆積したのではないかとも考えられる。６号土坑もSK2・SK3によって同じような作用が働いていており，実際６号土坑は存在していなかったかもしれない。検出ラインが不明瞭であった理由でもあり，掘り込みがされていなかったため，検出ラインも明瞭に現れてこない可能性が高くなる。

ただし，５号土坑だけは４・６号土坑のように，黄色火山灰層を顕著に含む層が堆積するには遺構直下に深い掘り込みがなく，かつ検出した５号竪穴住居の外側に位置している。しかも南東部の検出ラインは明瞭であった点からも，何かしらの掘り込みがあったと解釈する。しかし単に４・６号土坑のように埋没過程で黄色火山灰層を顕著に含む黒色土が部分的に堆積したという説明が困難である。

ただし，これはあくまでも可能性の問題であるが，５号竪穴住居跡のSK2・SK3のある南東部の壁面のラインが５号土坑の南東壁面のラインが直線上に並ぶ点，同じくやや歪になるが，５号土坑東壁面と５号竪穴住居跡の東側壁面のラインもほぼ直線的に繋がる点で，５号土坑が５号竪穴住居跡の一角を形成していたのではないかという見方がある。しかし，これは調査後に図面を貼り合わせて気づいた内容であり，５号竪穴住居跡の埋土と５号土坑の埋土の堆積状況の関係性を知る手掛かりは記録として残っていないため，今後検討を要する。

ただ，第32図にあるように５号竪穴住居跡検出のため，５号土坑の床面を掘り下げている段階でも，元来無遺物層であるはずのⅤ層から遺物が出土している。実際は床面と思っていたⅤ層は，わずかに５号土坑の埋土を掘り残していた可能性もあるが，一方で５号竪穴住居跡に伴う埋土が存在していたのかもしれないとも考える。

以上のことから，５号竪穴住居跡出土掲載遺物の中には，５号土坑出土遺物を含めて報告している。

実際には５号竪穴住居跡から伴って出土した遺物は少なく，SK1から出土した甕型土器128，ガラス玉141～144，床面埋土から出土した壺形土器132・134である。136・137・138は５号土坑壁面の外側で出土しているが，無遺物層であるはずのⅣ層掘り下げ段階で出土しているので，実際の５号土坑の壁面が記録した範囲よりわずかに広がる可能性があるとして加えたものである。

６号竪穴住居跡は，１～５号竪穴住居跡より新しい段階の住居跡である。大まかに２つの土器群に分かれており，北西の遺物は床面からやや高いレベルで出土している。中央から南側に出土した遺物は床面直上にある。２つの土器群に時期差があるかと思われたが，壺形土器163のように，２つの土器群で接合資料が確認されることから，これらは一括性が高いと判断した。南部の円形土坑の性格は変わらないが，住居に伴うものである。

１号土坑の性格は不明である。埋土から出土した遺物は数点であるが，時期の特定できる甕形土器168を掲載した。２～３号は遺物の出土がなく，詳細の時期は不明である。

掘立柱建物跡は，柱間2.5～３ｍと比較的広い。周辺にも柱穴が点在するが，概して数が多くない中で一定の列を構成する点で掘立柱建物跡が想定された。P9は位置と深さから棟持柱の可能性があるため掘立柱建物跡を構成する柱穴に加えた。

P9の埋土から出土した甕形土器の胴部と思われる169が出土しているが，これが掘立柱建物跡の時期を特定する手がかりとは言い難い。ただし，Ⅳ層上面検出遺構は，１～５号竪穴住居跡の段階と６号竪穴住居跡段階とに大きく分けられるので，いずれかの時期に含まれるものと推測する。

②甕形土器の分類

甕形土器については，口縁部から底部まで完全復元ができる資料が少ないが，各住居跡で複数個体出土している器種であるため，甕形土器の口縁部から胴部の概形と，器面調整を元に６つに分類を中心に，各住居跡の時期を考察したいと思う。

Ⅰ類…口縁部が大きく開き，口縁部と胴部は「く」字形に屈曲し，内外器面に明瞭な稜が生じる。横方向のナデ調整が多いが，内器面に横方向のハケメ調整を行うもの，外器面の縦方向のハケメ調整を行った後ナデ調整を加えるものもある。

口縁部の厚さは均等か，端部に向けて細く整形する。口唇部を平たくするものもあれば，丸く整形するものもある。

Ⅱ類…口縁部から胴部への移行がⅠ類と比較して緩やかで，断面概形が緩やかな「S」字形を呈する。ただし，口縁部と胴部の境界は判別できる。ナデ調整仕上げが多いが，中には工具や指オサエなどの痕跡がわずかに残る。内器面に横方向のハケメ調整を行うもの，外器面の縦方向のハケメ調整を行った後ナデ調整を加えるものもある。

口縁部の厚さは端部に向けて細く整形するか，均等に整形する。端部に向けて細く整形するものは，口唇部が尖っており，厚さを均等にするものは口唇部を丸く整えるか，平坦面を施す。

Ⅲ類…器形はⅠ類と同じであるが，口縁外器面に縦方向のハケメ調整痕跡を残す。つまり「カキアゲ」技法が見られる。

Ⅳ類…器形はⅡ類と同じであるが，口縁外器面に縦方向のハケメ調整痕跡を残す。つまり「カキアゲ」技法が見られる。

Ⅴ類…口縁部から胴部にかけて緩やかな「S」字を呈する。口縁部と胴部の境界が明瞭ではない。胴部に刻目突帯文が施される。

Ⅵ類…口縁部から胴部にかけて直線的に窄まる。外見上，口縁部と胴部の境界はない。胴部に刻目突帯文が施される。

③各竪穴住居跡の時期の考察

これらをもとに遺構出土の甕形土器を分類し，さらにAMS炭素年代測定を行った甕形土器の年代を付して示す。

・１号竪穴住居跡
Ⅰ類…67・68（BC40 to AD85）
Ⅱ類…70・71
Ⅲ類…66（BC40 to AD80）
Ⅳ類…69

・２号竪穴住居跡
Ⅰ類…89（BC40 to AD80）
・90（BC105 to AD30 and AD40 to 50）・92
Ⅳ類…91

・３号竪穴住居跡
Ⅱ類…97（BC40 to AD85）
Ⅳ類…98
Ⅵ類…100

・４号竪穴住居跡
Ⅰ類…114

・５号竪穴住居跡
Ⅰ類…129
Ⅳ類…128

・６号竪穴住居跡
Ⅴ類…145・146
Ⅵ類…147・149（AD180 to 190 and AD215 to 340）

炭素年代測定では，時期が早い段階で計測値が表されている可能性もある。例えば149を陶邑編年TK208併行の段階である辻堂原式とした場合，炭素年代による較正年代215年から340年を採用したとしても，半世紀～１世紀早い時期が示されたことになる。

同じように，他の甕形土器についても紀元前40年から80年頃を示しているが，通常弥生時代終末～古墳時代初頭からを時期設定されている中津野式とした場合，弥生時代後期までに遡る数値となる。ちなみに，麦田下遺跡で出土した，弥生時代後期初頭の甕形土器はBC90～BC70年，BC60～AD30年，AD40～50年であり，いずれの時期を採用したとしても，麦田下遺跡甕形土器よりは新段階にあるため，型式学的に中津野式が後出する点では矛盾はない。

本報告書では，本遺跡の型式学的な時期差を知る資料として炭素年代測定の結果を用いるとする。

１号竪穴住居跡の分類した甕形土器は一括性が高いと見た場合，Ⅰ類からⅣ類までには大きな時期差がないと考えられる。従って，柱穴及び柱穴周辺の掘り込みに伴って出土した土器群の中に含まれる壺形土器の74・75・76・77・79・82，鉢形土器84・85・86などは，同時期と考えられる。

ただ，注意しておきたいのは壺形土器に後期の要素を含むものが含まれていることである。例えば，74は口縁部の縦幅が肩部から下の高さに対して短く，また，肩部

から口縁端部にかけて大きく外反する点は後期の要素を残している。また82は平底で，まさに後期要素である。

一方で，甕形土器や壺形土器77のように典型的な中津野式も見受けられ，また鉢形土器86のように底部が平底で円盤状の形態をする点は中津野式の後続する東原式段階によく見られる要素でもあるが，中津野式段階にあっても矛盾はない。

２号竪穴住居跡出土の甕形土器89は２号竪穴住居跡の時期により近いと思われるが，これも形態や炭素年代の結果から１号竪穴住居跡の甕形土器と同時期と見て良い。

ただ，甕形土器90に関しては，炭素年代で中津野式段階の甕形土器の年代より古い年代が割り出されている。鹿児島大学中村直子氏の指導でも，口縁部の縦幅が甕全体の割合からすると短いことを指摘しており，中津野式段階よりも古い時期の可能性があるとしていたが，それを裏付ける結果を得た。しかし，これは麦田下遺跡の甕形土器と同時期であることを示している。前述したとおり，今回の炭素年代測定で得られた年代に検証の余地はあるが，麦田下遺跡の甕形土器に後続するものなのか，同時期に別系統の後期土器の存在を示すものか検証の余地がある。甕形土器は住居跡の検出面に近いところの埋土から出土しているので，住居跡の年代を示す資料としては89より劣る。

３号竪穴住居跡における甕形土器97は内器面の口縁部と胴部の境目の稜がゆるく，一見新しい段階に感じるが，炭素年代の結果と，１号竪穴住居跡における甕形土器69・71の類例からもやはり中津野式段階で見て良いと思われる。

なお，埋土一括の壺形土器109は底面に粘土を貼り付けたことによってわずかに盛り上がっており，これは東原式～笹貫式段階に見られる特徴である。

４号竪穴住居跡で掲載している甕形土器114は小型であるがⅠ類に含めた。しかしこれは埋土一括採集のため４号竪穴住居跡の決め手にはならない。ただ，４号竪穴住居跡の床面出土の高坏118は中津野式段階でも古い段階か，もしくは後期の後半段階ではないかと中村直子氏は指摘する。「成川式土器再考」『鹿児島考古第６号』の中で，高杯の杯部形態を４つの形式に分類している。この中で示す図では１型式は屈曲が強く，屈曲部から口縁端部にかけてはあまり外反せず，口縁端部から屈曲部が短く，屈曲部で擬口縁接合を行っている。中津野式段階より古い松木園式段階である。２型式は中津野式段階のもので，屈曲部から口縁端部への大きく外反する概形である。

118は，大きく外反するところは２型式の形態であるが，口縁端部から屈曲部までの長さが短く，屈曲部は擬口縁接合である点は１型式の要素を含めている。

５号竪穴住居跡はSK１から採取した炭化種実の年代が参考となるが，紀元前5～125年となっている。68%の確率まで下げると，30～40年または50～80年に絞り込まれる。検出状況から５号竪穴住居跡が４号竪穴住居跡より古い段階にあるという前提に立てば，高坏118が出土している段階と少なくとも同時期かそれよりも古い段階であると考える必要性がある。なお，５号土坑の検出面に近いところの埋土で出土している壺形土器135は118同じく中津野式段階でも古い段階か，もしくは後期の後半段階の可能性がある。

以上の点をまとめると，１～５号竪穴住居跡は中津野式段階に含めて考えて良いと思われる。後期段階の要素が見られる点で中津野式段階でも後期に近い段階の時期が想定される。

６号竪穴住居跡は先述したように一括性の高い出土状態である。

甕形土器145・146などは東原式の新しい段階に見られるものである。一方で甕形土器149は中村耕治氏の成川様式土器編年試案（中村2009）では，笹貫式段階の形態であり，比較的新しい型式となり，また2012年刊行の『辻堂原遺跡』でも笹貫式段階に想定している。ただ，笹貫式段階に設定すると，炭素年代の結果とさらに時期幅が広がってくることになる。

中村直子氏は全体を通して図面で見ると，古墳時代中期以降の形態と捉えられるとしている。甕形土器底部159・161について，脚部天井部が平坦になるものは辻堂原式段階から多くなり，底部形態だけでは笹貫式段階と限定できないとしている。壺形土器162は口縁部から肩部への屈曲が強く，胴部最大径が胴部中位にあり，底部に向けて直線的に窄まり，底面にわずかであるが平坦面を形成している点で笹貫式段階を想定するが，胴部突帯文の位置が胴部中位にあること，全体的なプロポーションが球形に近いことなどは，違和感がある。壺形土器163になると，１号竪穴住居跡出土の壺形土器74のように弥生時代後期の要素を含むものもある。

なお，壺形土器の底部と思われる167は，３号竪穴住居跡の壺形土器底部109と同じく，底面に粘土を貼り付けたことによってわずかに盛り上がっており，これは東原式～笹貫式段階に見られる特徴である。

上記のように６号竪穴住居跡の時期設定としては，概ね古墳時代中期以降に当てはめられる。ただし土器形式の差異，炭素年代測定結果との関連も含めて今後も検討の余地がある。

#### ④包含層出土遺物

甕形土器口縁部は178～186までをⅠ類，187～198をⅡ類，199～209をⅢ類，210～217をⅣ類，218～222をⅤ・Ⅵ類とする。なお，口縁部から胴部への移行部位が残っていないものは，口縁部の傾きで判断しているところも

あるので，必ずしも正確ではないことは申し添えておく。

ここで特質すべきは，甕形土器211についてである。これはⅡ類に含めているが，当初は突帯文を伴わないⅤ類と見ていた。従ってⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳに後続する型式であり，東原式段階を想定していた。しかし，炭素年代測定では，BC40～AD85年とⅠ・Ⅱ段階の測定結果と同じ年代を計測した。確かに口縁部から胴部への移行は緩やかで，口縁部と胴部の境が不明瞭であるが，中村直子氏は指導の中で口縁部の縦の幅が，器高に対して短いところに東原式段階との違いを指摘し，中津野式段階の可能性を指摘している。以上のことから，甕形土器190・210・212・213などは型式学的に検証の余地がある。

壺形土器は，口縁部形態から分類をすると，

A．口縁部が大きく外反して立ち上がる。

B．口縁部が直線的に大きく外向する。

C．Bと比較して口縁部が立ち上がり，肩部との境目の屈曲が緩やかである。口縁端部がわずかに外反する。

D．Bと比較して口縁部が立ち上がり，肩部との境目の屈曲が緩やかである。口縁部は直線的に外向する。

269・270がAに含まれる。中津野式～東原式段階の可能性がある。271・272がBに含まれる。口縁部しかないが，可能性として１号竪穴住居跡出土の壺形土器のような器形が想定されるとすれば，中津野式の古い段階と考えられる。273～277がCに含まれる。中津野式段階の可能性がある。Dには278～283があてはまり，辻堂原式～笹貫式段階と考えられる。

鉢形土器359について触れておく。麦田下遺跡で，胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がり，口縁部下に断面台形の突帯文を施す土器が確認されており，これは高付式土器初段階の遺物と共伴して出土している。高久田Ａ遺跡の持留川を挟んだ対岸の下堀遺跡の竪穴状遺構７号からも類似した形態の土器が出土しており，これは山ノ口式土器と共に出土している。類例が少ないが，鉢形土器または甕形土器にこのようなバリエーションがあるとするなら，359もこの流れを汲んでいる可能性もある。

包含層から出土した２点の須恵器について，鹿児島大学総合研究博物館の橋本達也氏に所見を賜った。

386は破片のため判断は難しいが，TK10～TK43型式で，６世紀中葉から後葉までの範疇と考えられる。387は断面胎土がえんじ色になる焼成の状態から，初期須恵器で５世紀前葉から中葉までと考えられる。しかし，初期須恵器の高杯で類例がみあたらないため，天地が逆で小型器台の可能性を考える必要がある。

## 第３節　古代～中世

Ⅲ層上面で検出した遺構は，遺物を伴っていないため正確な時期は不明である。また全体の遺物量に対して古代以降の遺物が少ない。青磁碗428は13世紀末～14世紀初頭，429は14世紀代である。

## 第４節　近世

近世の遺物はいずれも18世紀後半～19世紀代である。竪穴状遺構の性格は分からない。埋土に１～３cm格の鉄滓や小さな炭化物が含まれていることや，周辺に鉄滓や鞴の羽口が採集されていることから，鉄生産に関連する施設の可能性も考えたが，遺構内に焼成痕などは確認されなかった。


・藤尾慎一郎（1993）「南九州の突帯文土器」『鹿児島考古』第27号　鹿児島考古学会

・桒畑光博（2006）「東南部九州における縄文から弥生への土器変遷」『大河』第８号　大河同人

・中村直子（1987）「成川式土器再考」『鹿大考古』第６号鹿児島大学法文学部考古学研究室

・中村耕治（2009）「成川様式土器の様相」『農業開発総合センター遺跡群Ⅵ　中尾遺跡　荒田遺跡　桜谷遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（138）

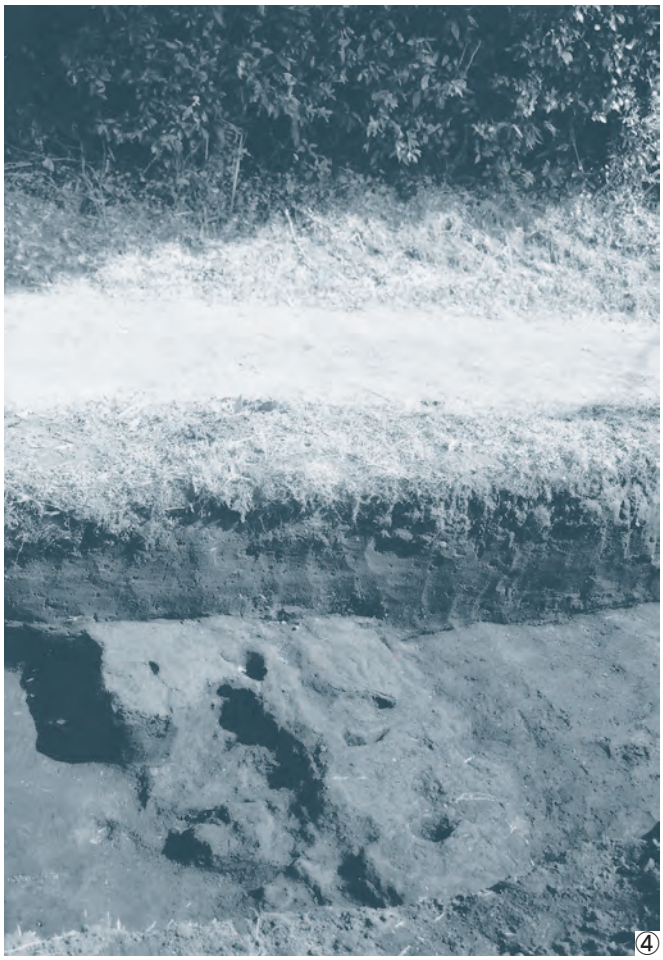
・日置市教育委員会（2012）『辻堂原遺跡』日置市埋蔵文化財発掘調査報告書⑶

・鹿児島県立埋蔵文化財センター（2009）『南摺ヶ浜遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（144）

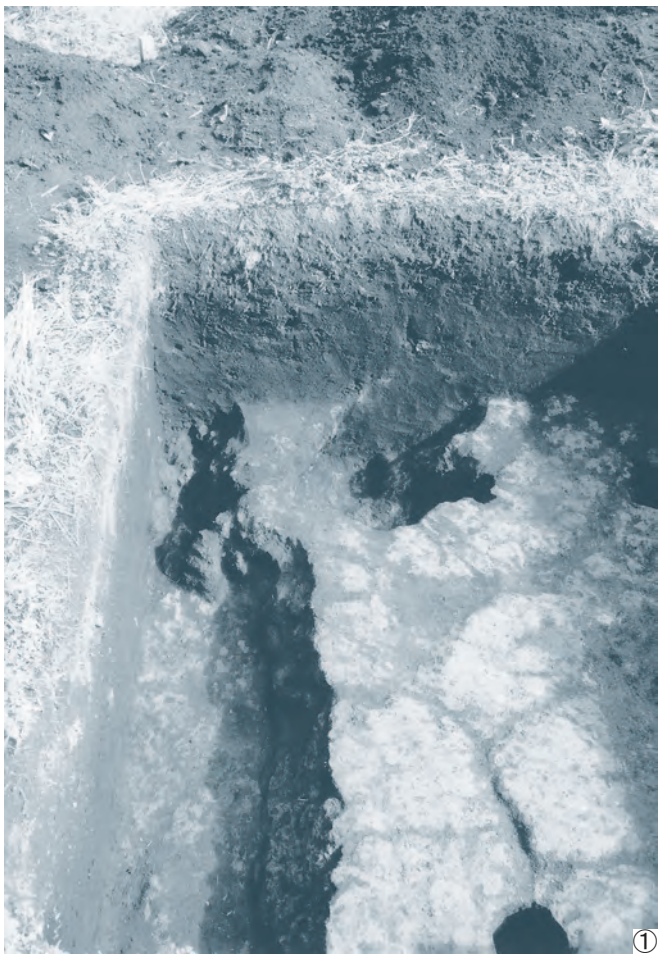
・大崎町教育委員会（2014）『麦田下遺跡』大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書⑺

・大崎町教育委員会（2005）『下堀遺跡・大崎細山田段遺跡』大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書⑸

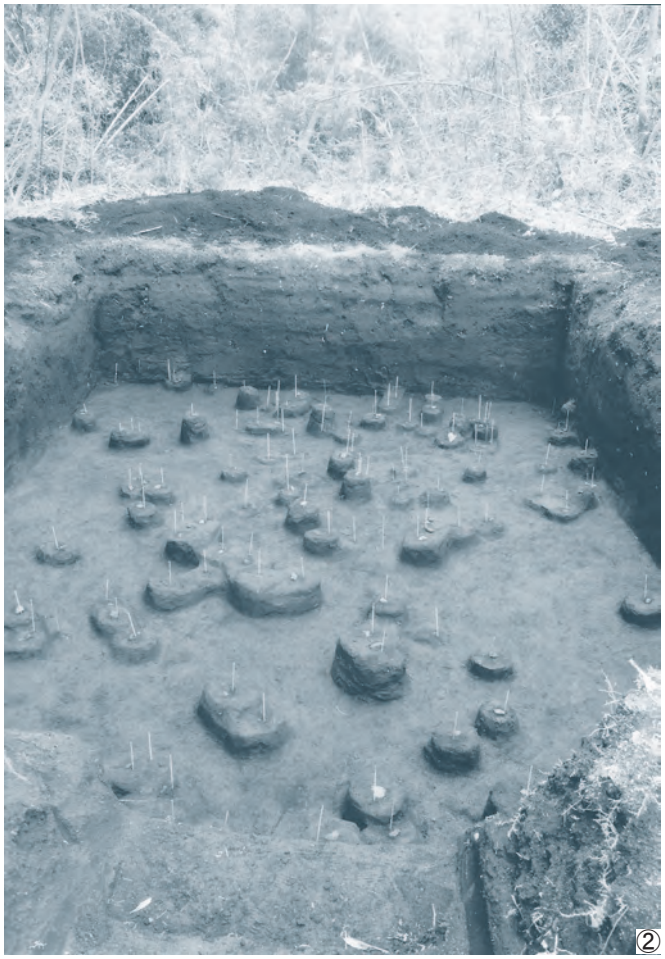
# 図　　版




①１トレンチ　②３トレンチ　③５トレンチ　④５トレンチ出土硬化面



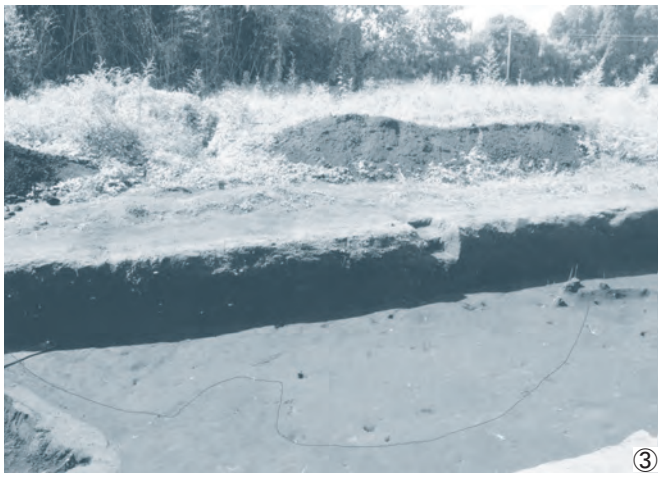
①６トレンチ遺構出土状況　②７トレンチ　③８トレンチ遺物出土状況　④８トレンチ遺構出土状況



①９トレンチ遺物出土状況　②10 トレンチ遺物出土状況　③11 トレンチ遺構出土状況　④調査前遠景

①Ⅲ層遺物出土状況　②Ⅳ層遺物出土状況

①～④Ⅲ層遺物出土状況　⑤１号竪穴住居跡検出状況　⑥・⑦１号竪穴住居跡遺物出土状況

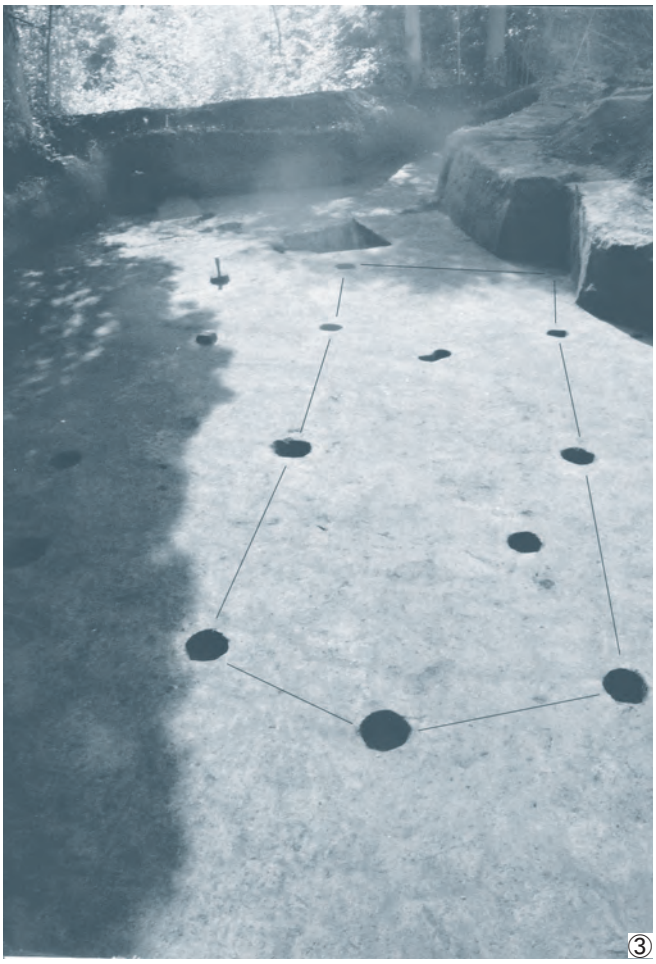


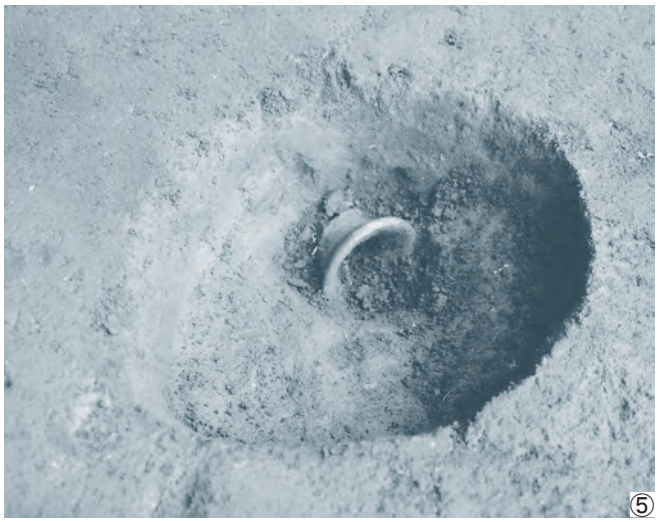
①１号竪穴住居跡完掘状況　②２号竪穴住居跡完掘状況　③３号竪穴住居跡検出状況　④３号竪穴住居跡埋土状況
⑤３号竪穴住居跡完掘状況

４号竪穴住居跡検出状況

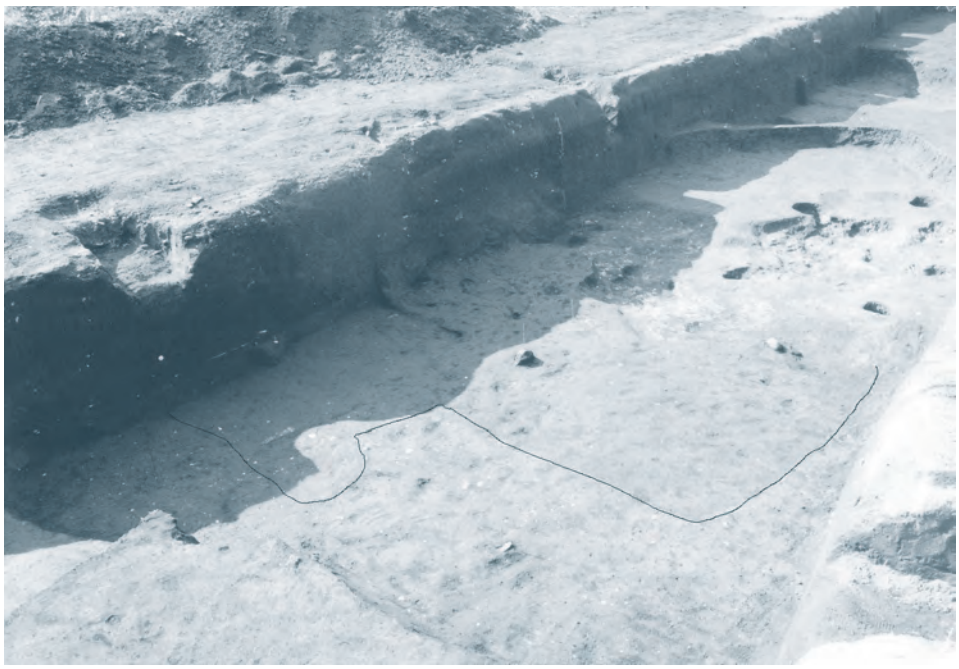
４号竪穴住居跡床面検出状況

４号竪穴住居跡完掘状況

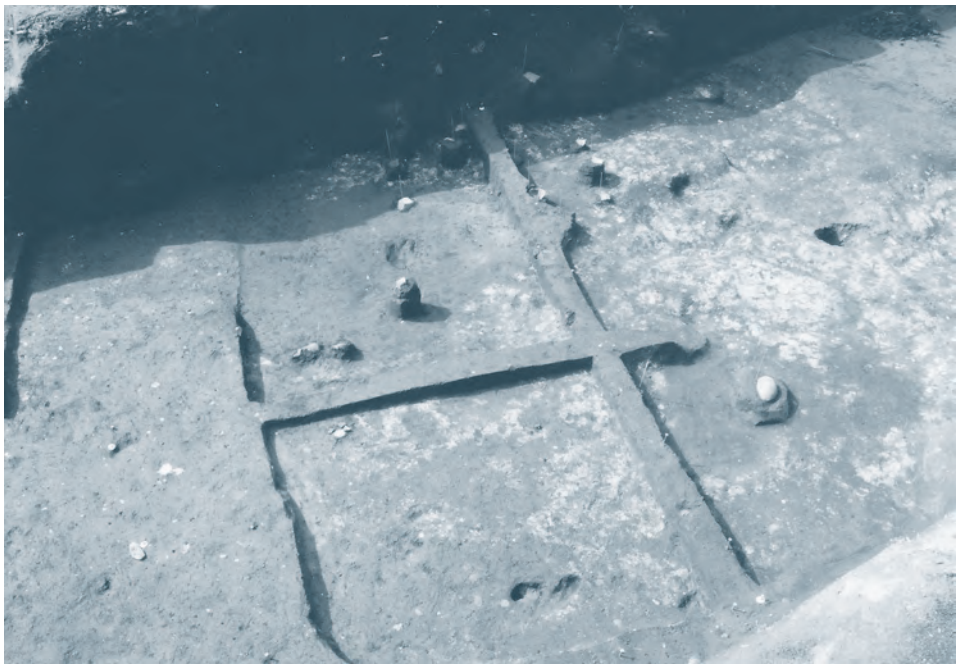




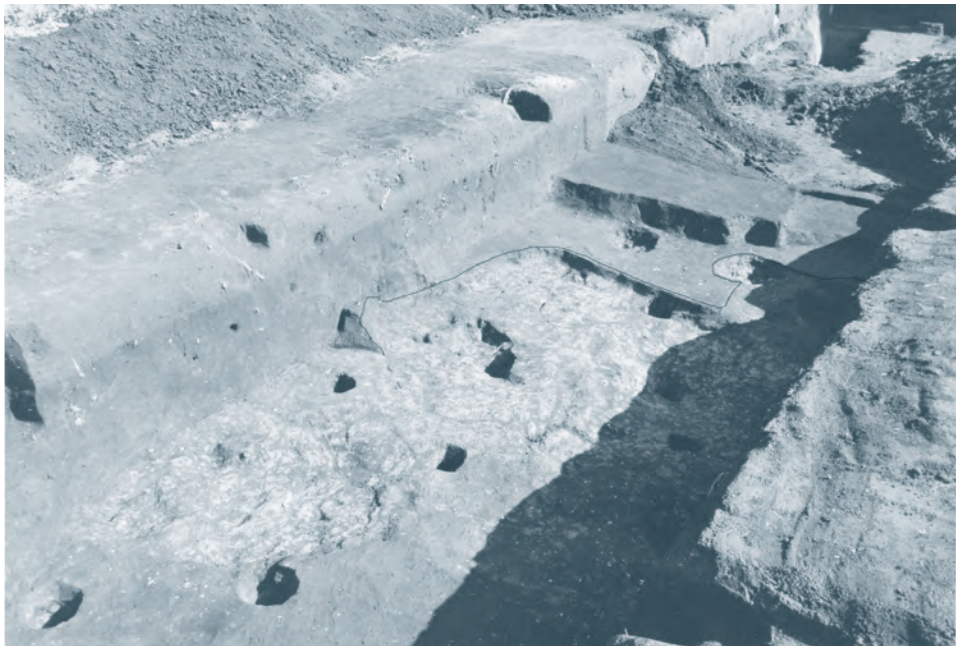
①４号竪穴住居跡・４～６号土坑検出状況
②４～６号土坑完掘状況
③掘立柱建物跡完掘状況
④Ｊ区柱穴完掘状況
⑤P25 遺物出土状況



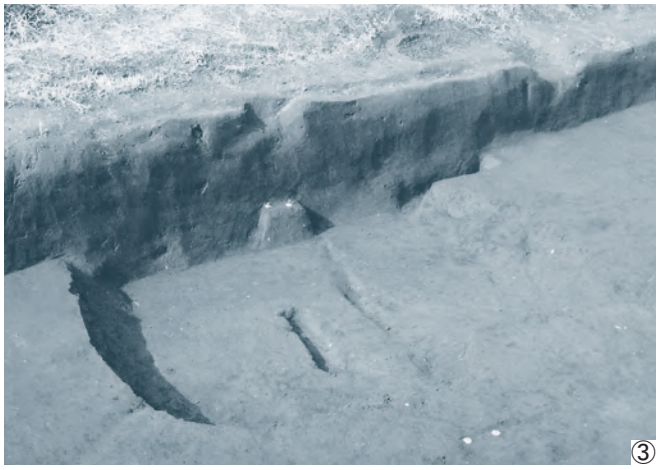
５号竪穴住居跡検出状況

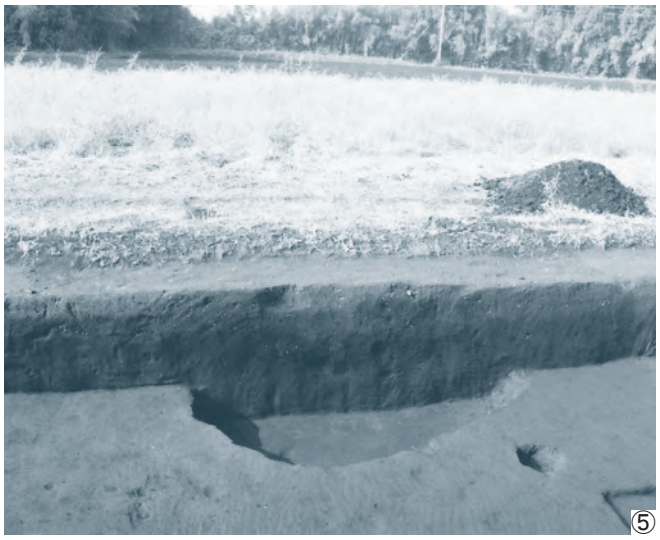


５号竪穴住居跡床面検出状況

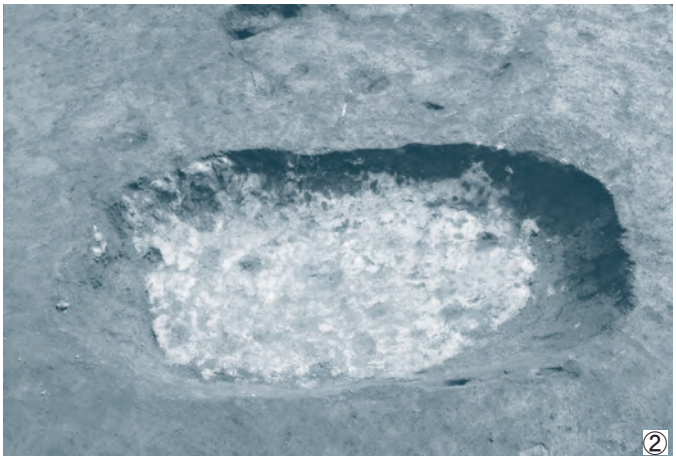


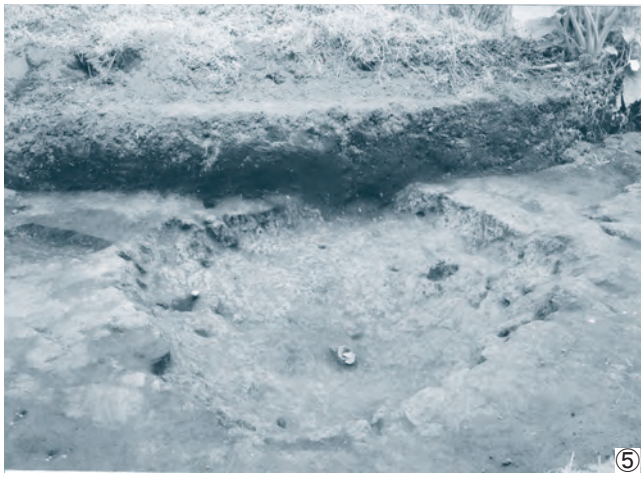
５号竪穴住居跡完掘状況



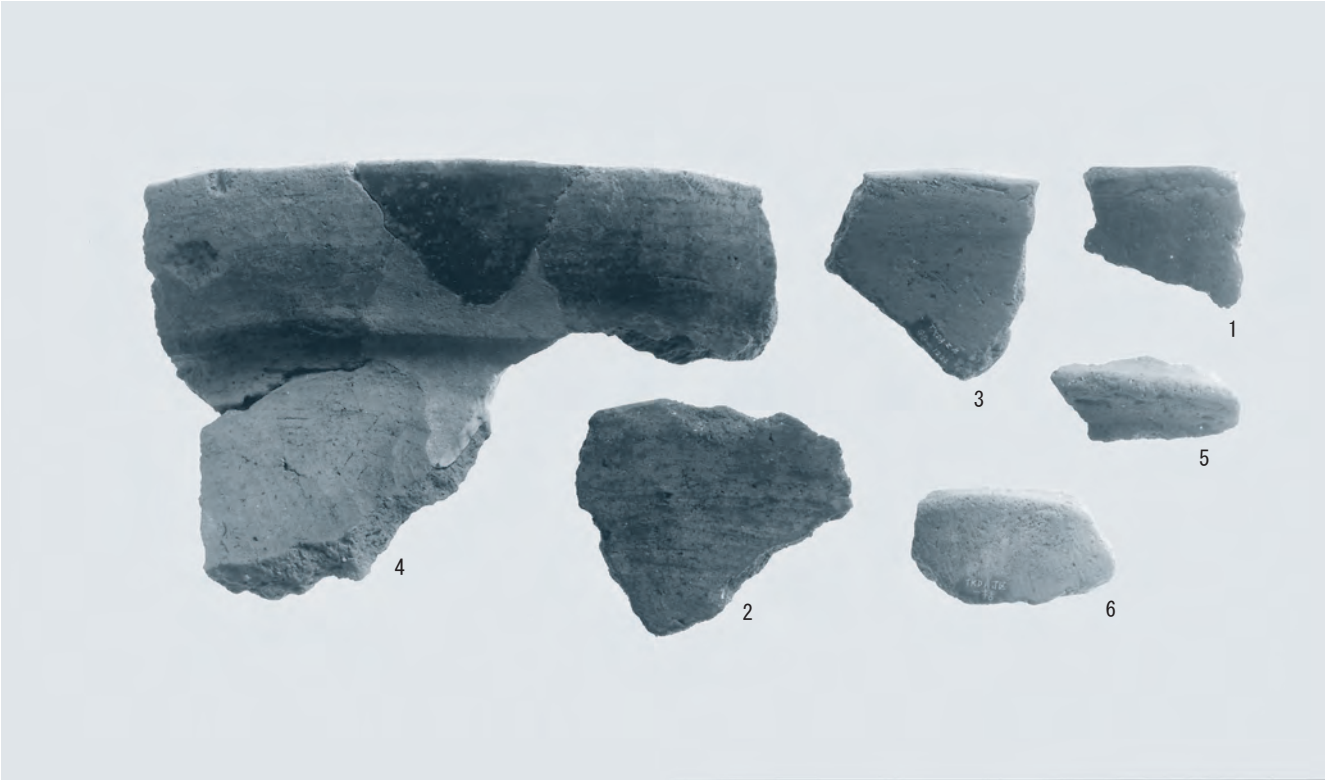


①６号竪穴住居跡遺物出土状況
②６号竪穴住居跡完掘状況
③１号土坑完掘状況
④２号土坑検出状況
⑤２号土坑完掘状況
⑥３号土坑完掘状況

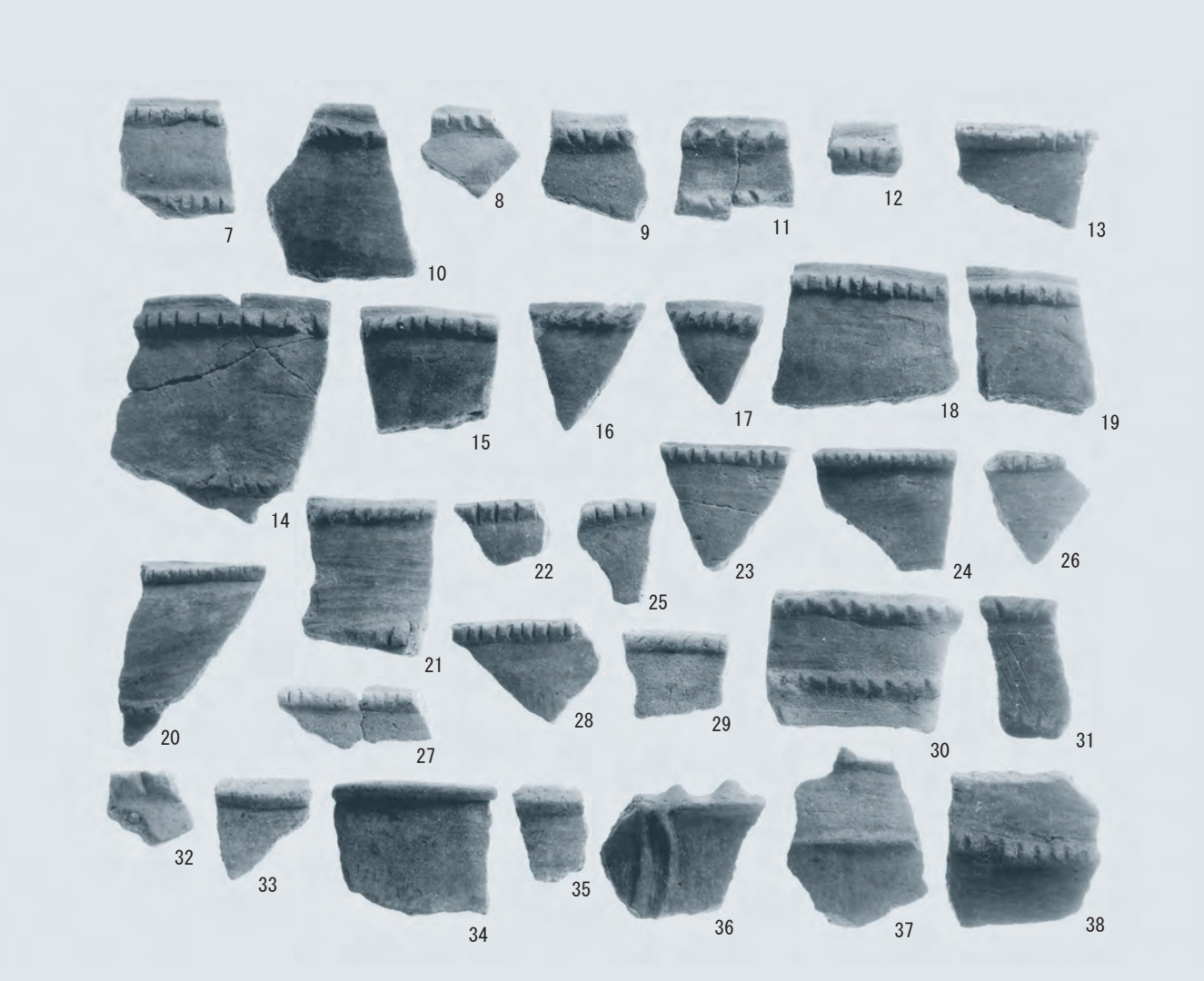




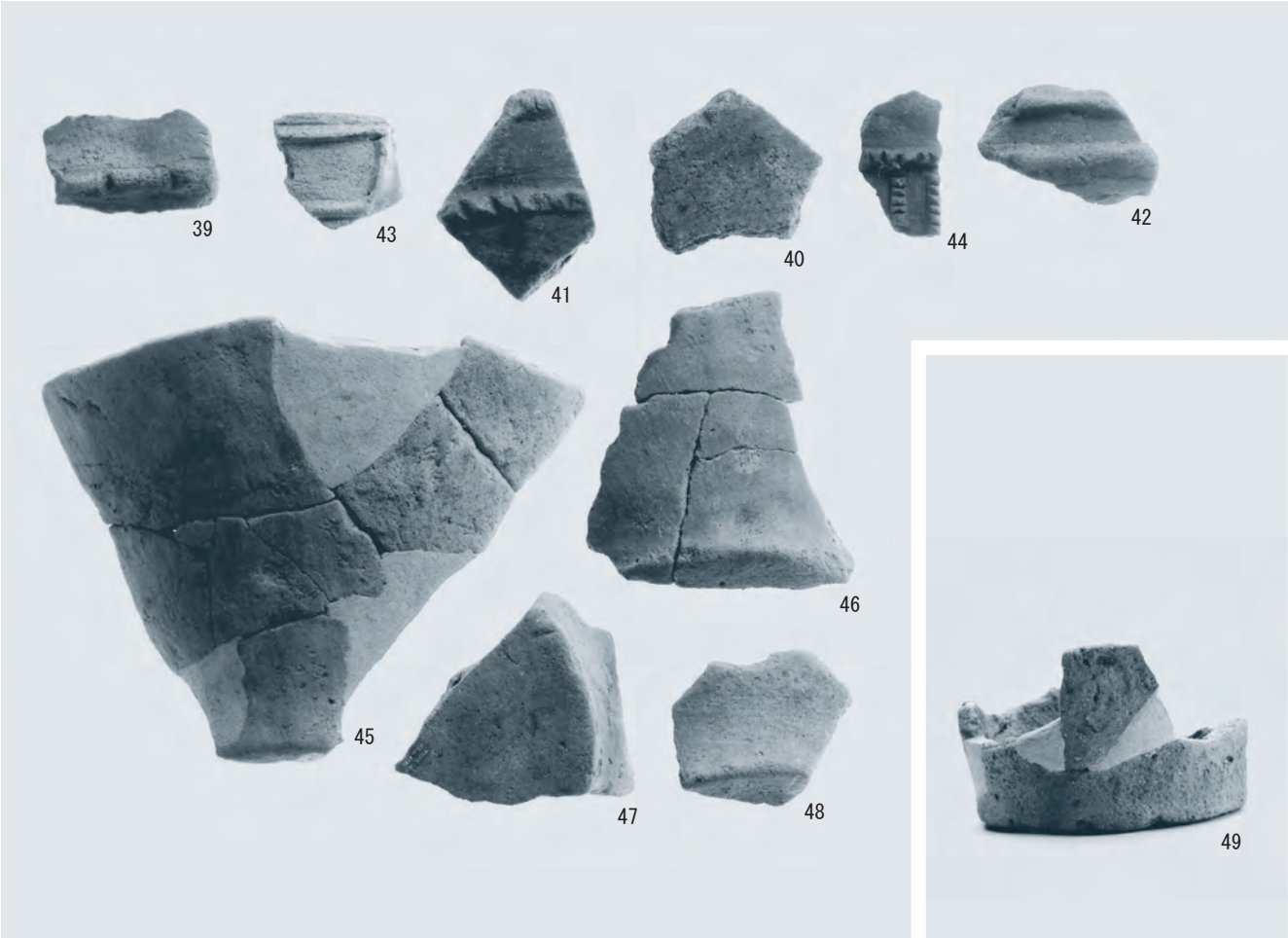
①Ⅳ層上面遺構出土状況上空写真　②16号土坑床面検出状況　③3号溝状遺構完掘状況　④G・H区Ⅲ層上面柱穴・土坑完掘状況　⑤竪穴状遺構完掘状況



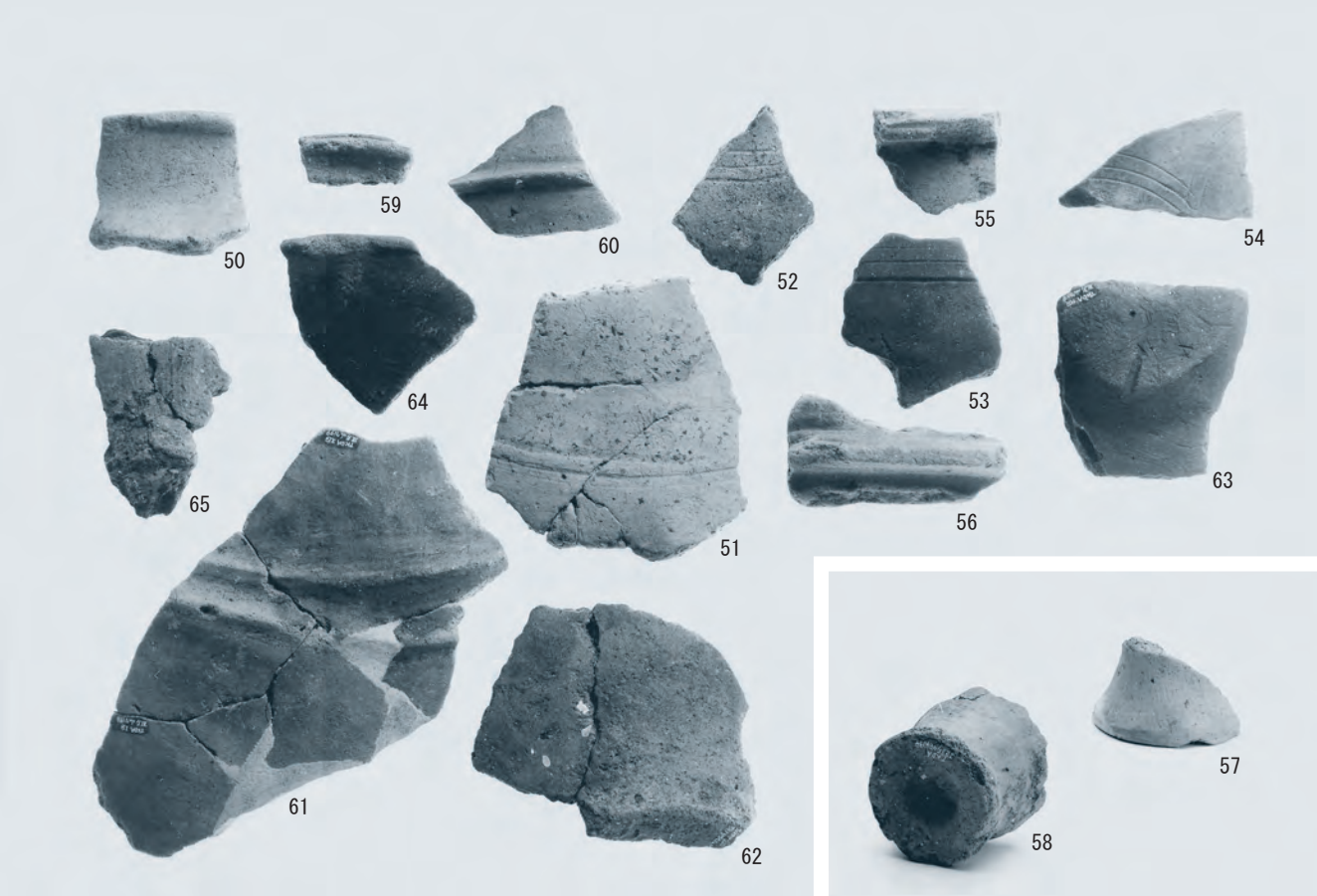

縄文時代晩期出土土器




弥生時代前期出土土器



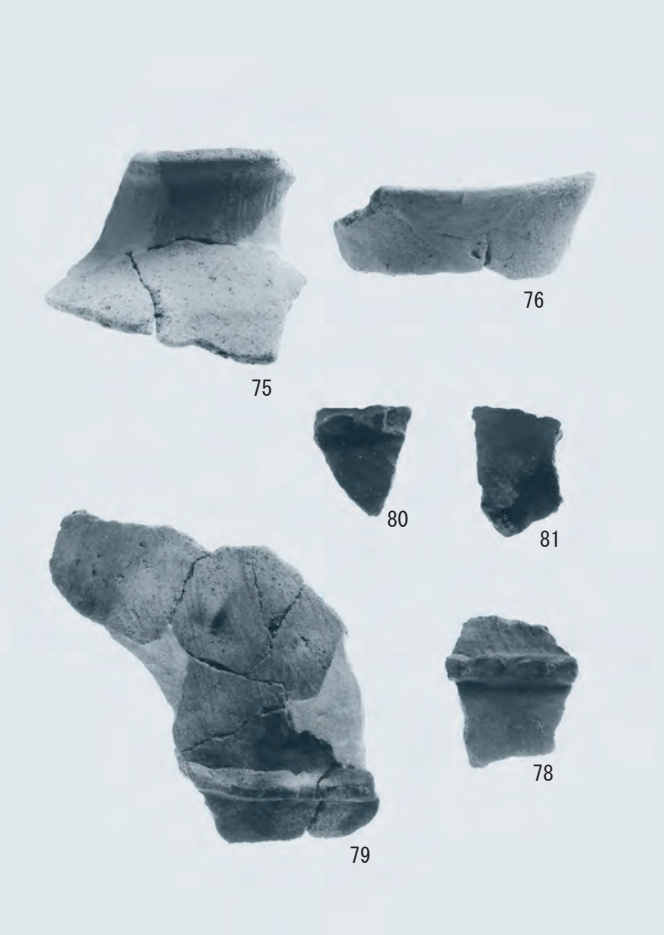

弥生時代前期出土土器



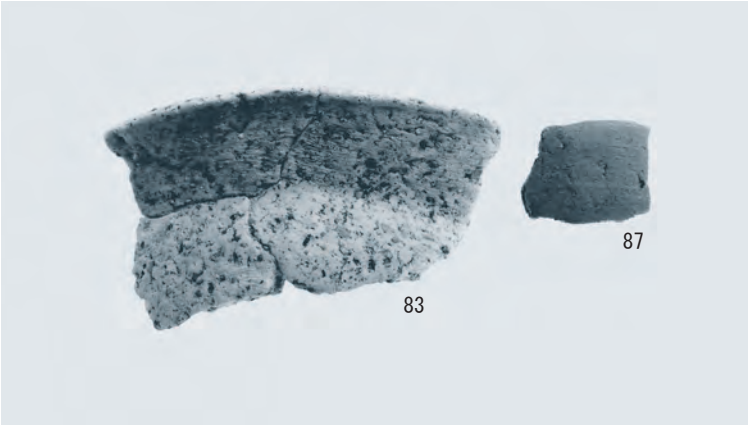

弥生時代前期～後期出土土器

1号竪穴住居跡出土土器①　甕形土器

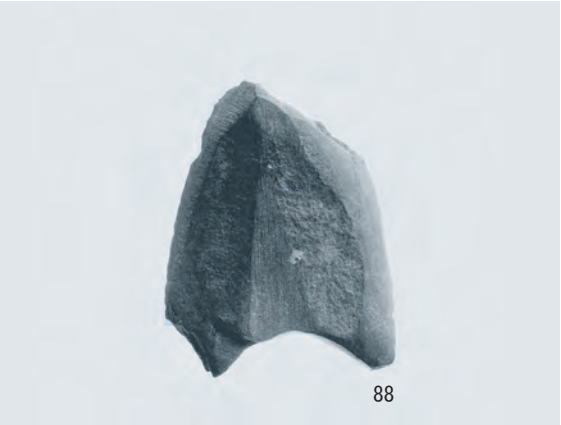
１号竪穴住居跡出土土器②　甕形土器・壺形土器



1号竪穴住居跡出土土器③　壺形土器・鉢形土器




１号竪穴住居跡出土土器④　鉢形土器

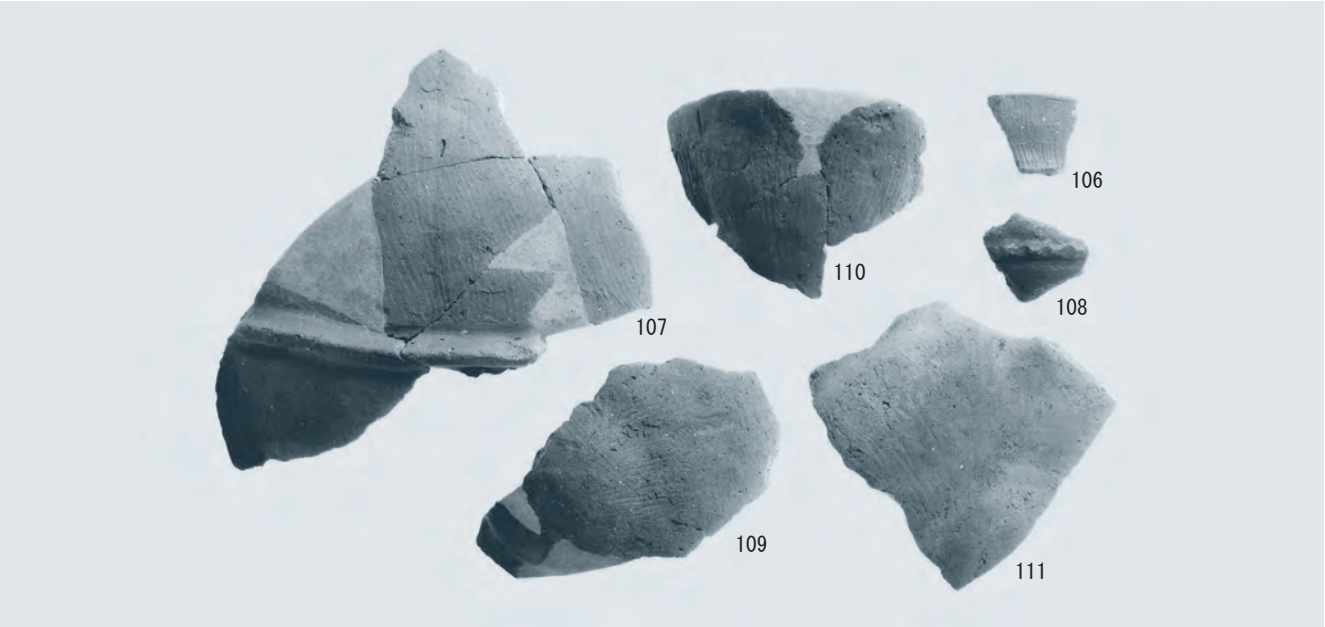



１号竪穴住居跡出土石器　磨製石鏃

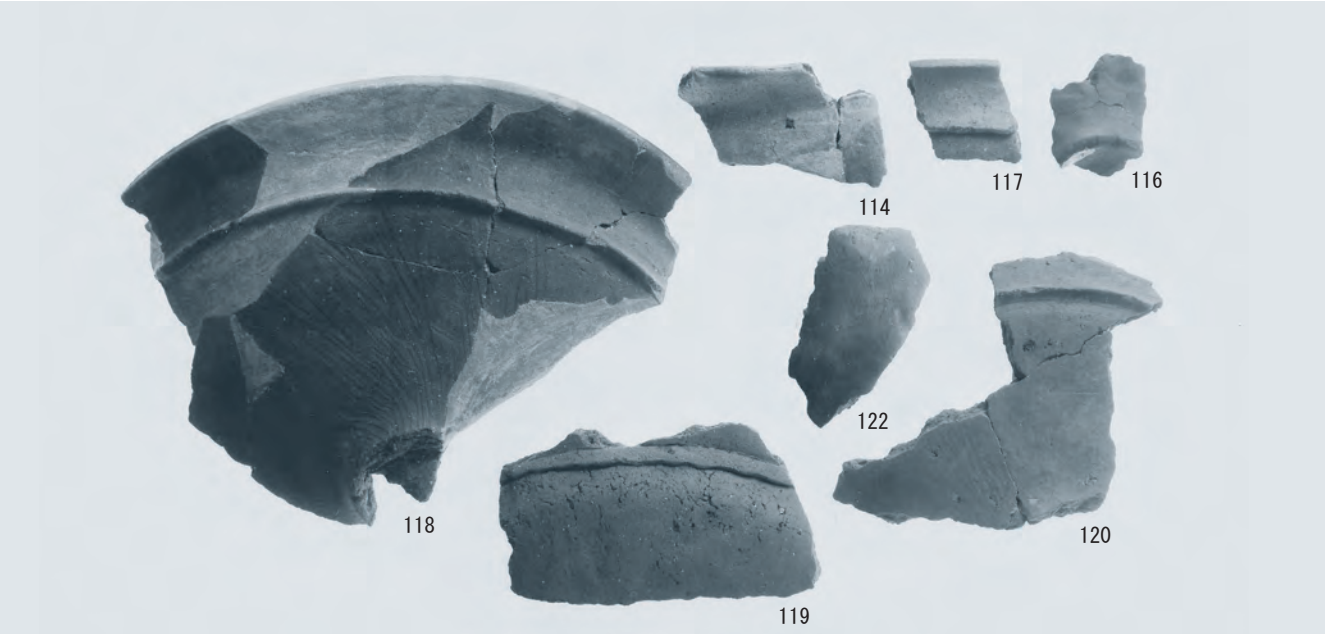
２号竪穴住居跡出土土器①　甕形土器

２号竪穴住居跡出土土器②　甕形土器・壺形土器・鉢形土器・蓋

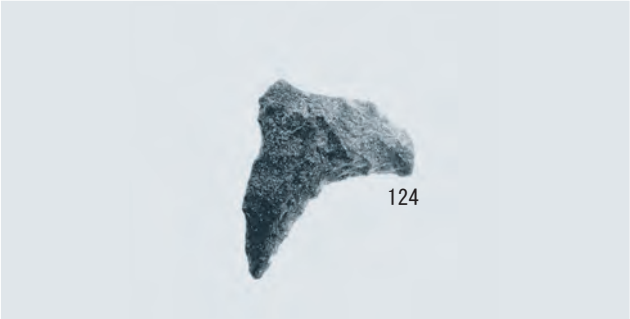
３号竪穴住居跡出土土器①　甕形土器



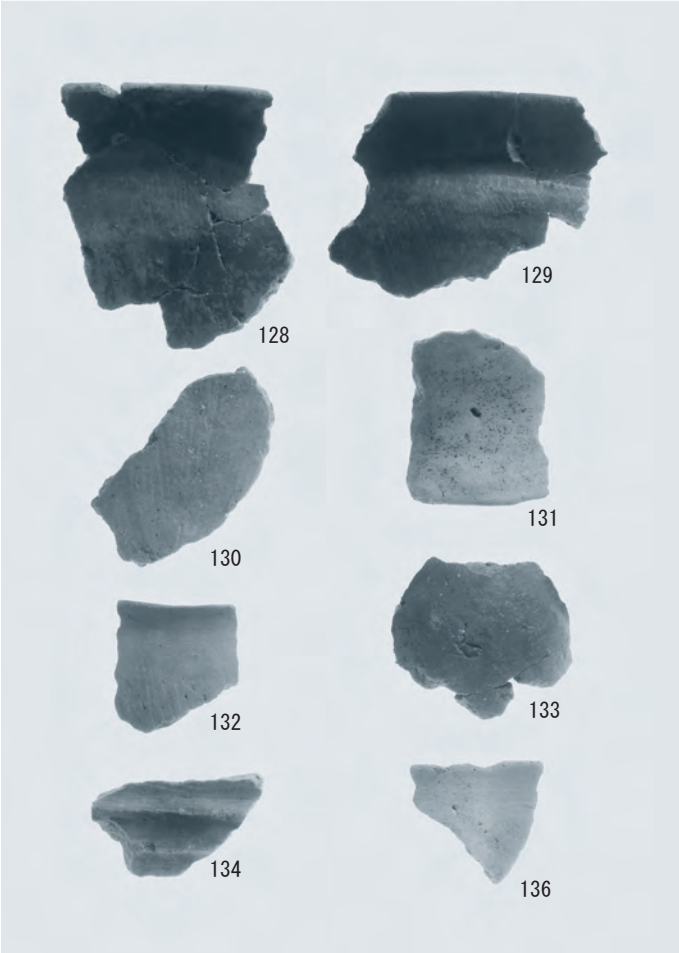
３号竪穴住居跡出土土器②　壺形土器・鉢形土器・ミニチュア土器・土製品

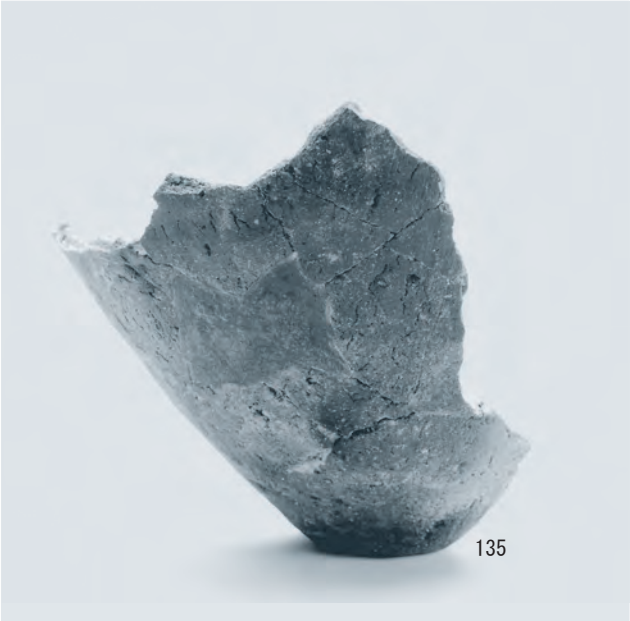


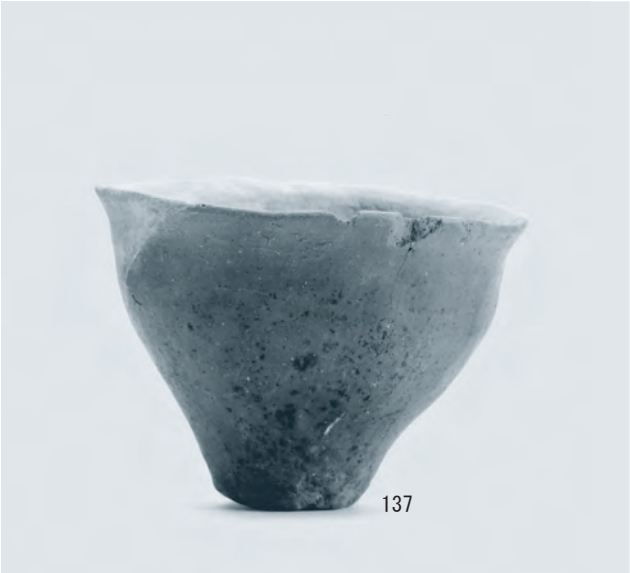

４号竪穴住居跡出土土器　甕形土器・壺形土器・鉢形土器・高坏

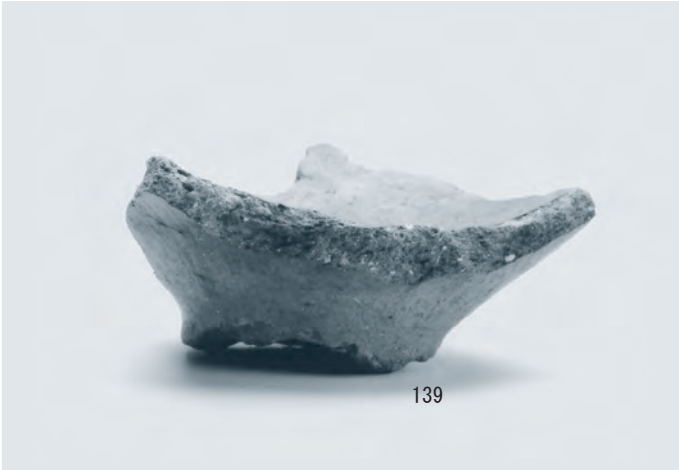


４号竪穴住居跡出土石器　石錐・敲石・磨敲石・磨製石斧



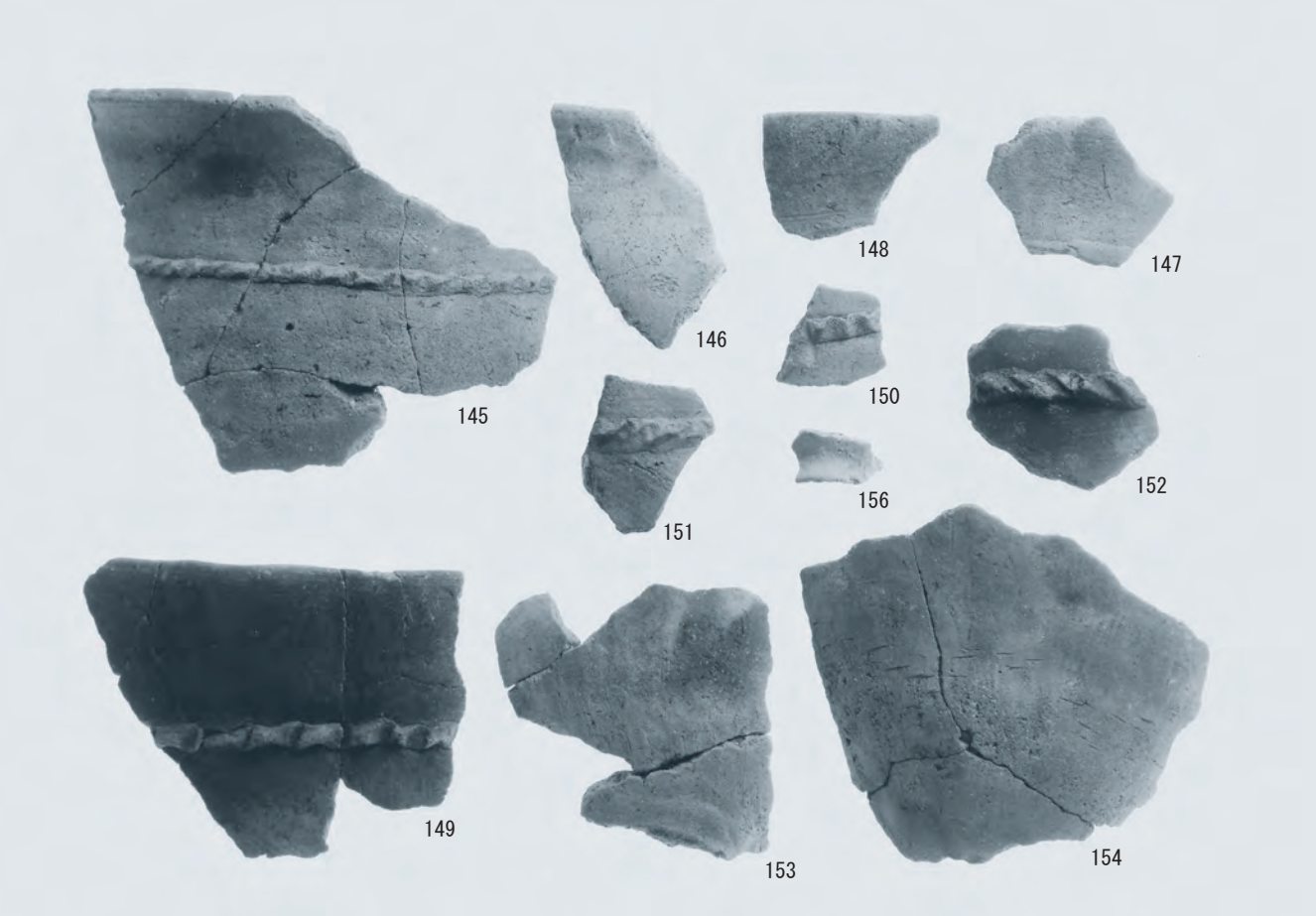


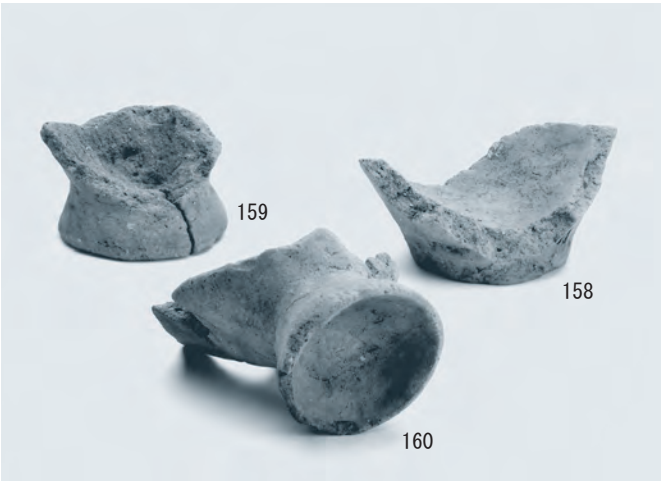




５号竪穴住居跡出土土器　甕形土器・壺形土器・鉢形土器

５号竪穴住居跡出土石器　凹石

５号竪穴住居跡出土ガラス玉






６号竪穴住居跡出土土器①　甕形土器

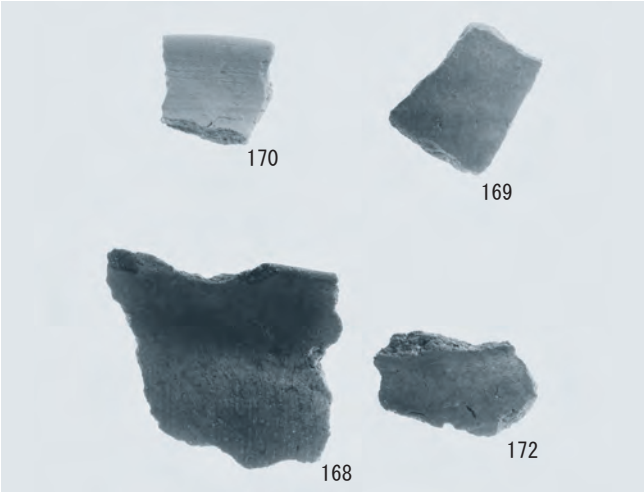
（162 の底部穿孔の様子）

６号竪穴住居跡出土土器②　甕形土器・壺形土器

６号竪穴住居跡出土土器③　壺形土器

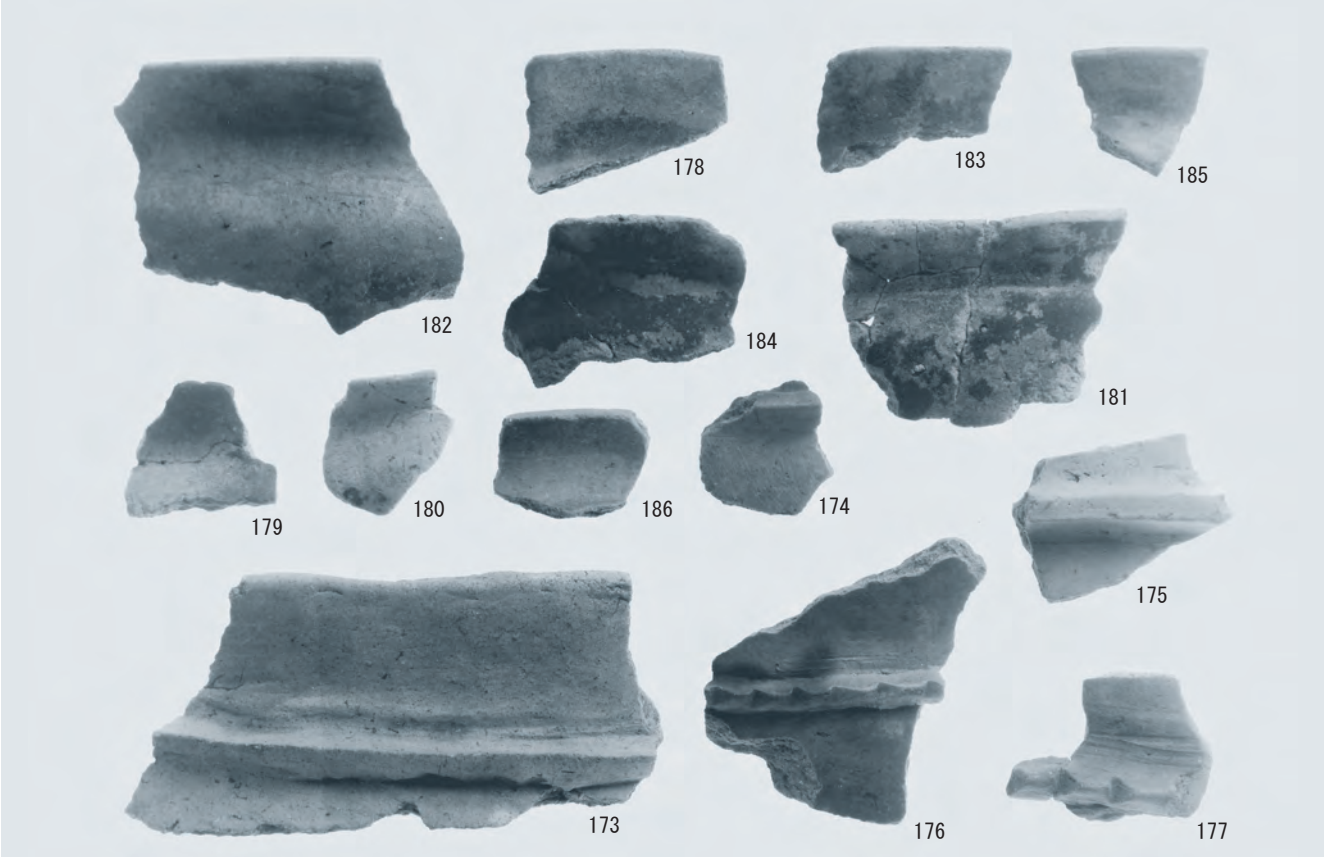
６号竪穴住居跡出土土器④　壺形土器

６号竪穴住居跡出土土器⑤　鉢形土器

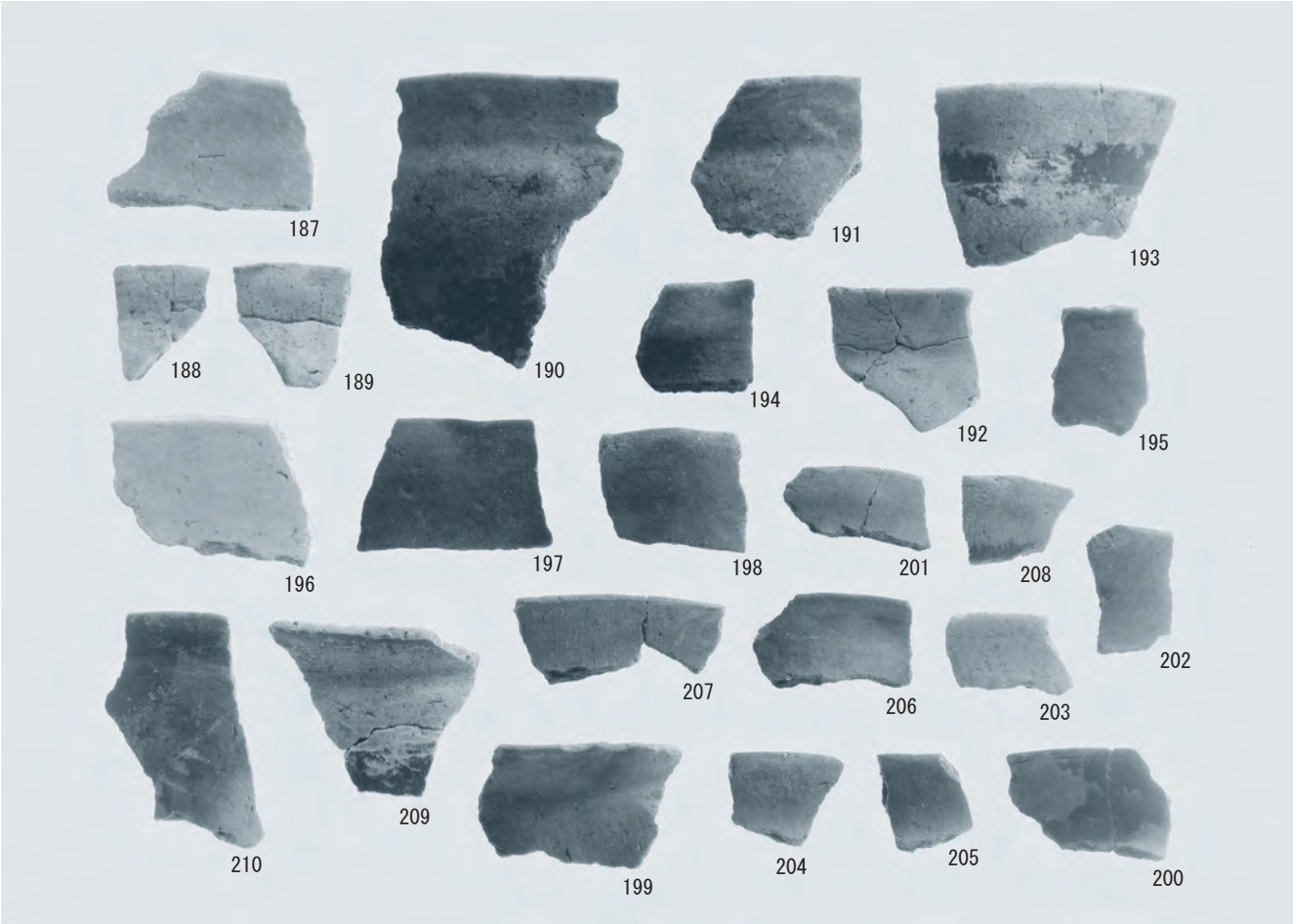



Ⅳ層検出土坑・柱穴出土土器①

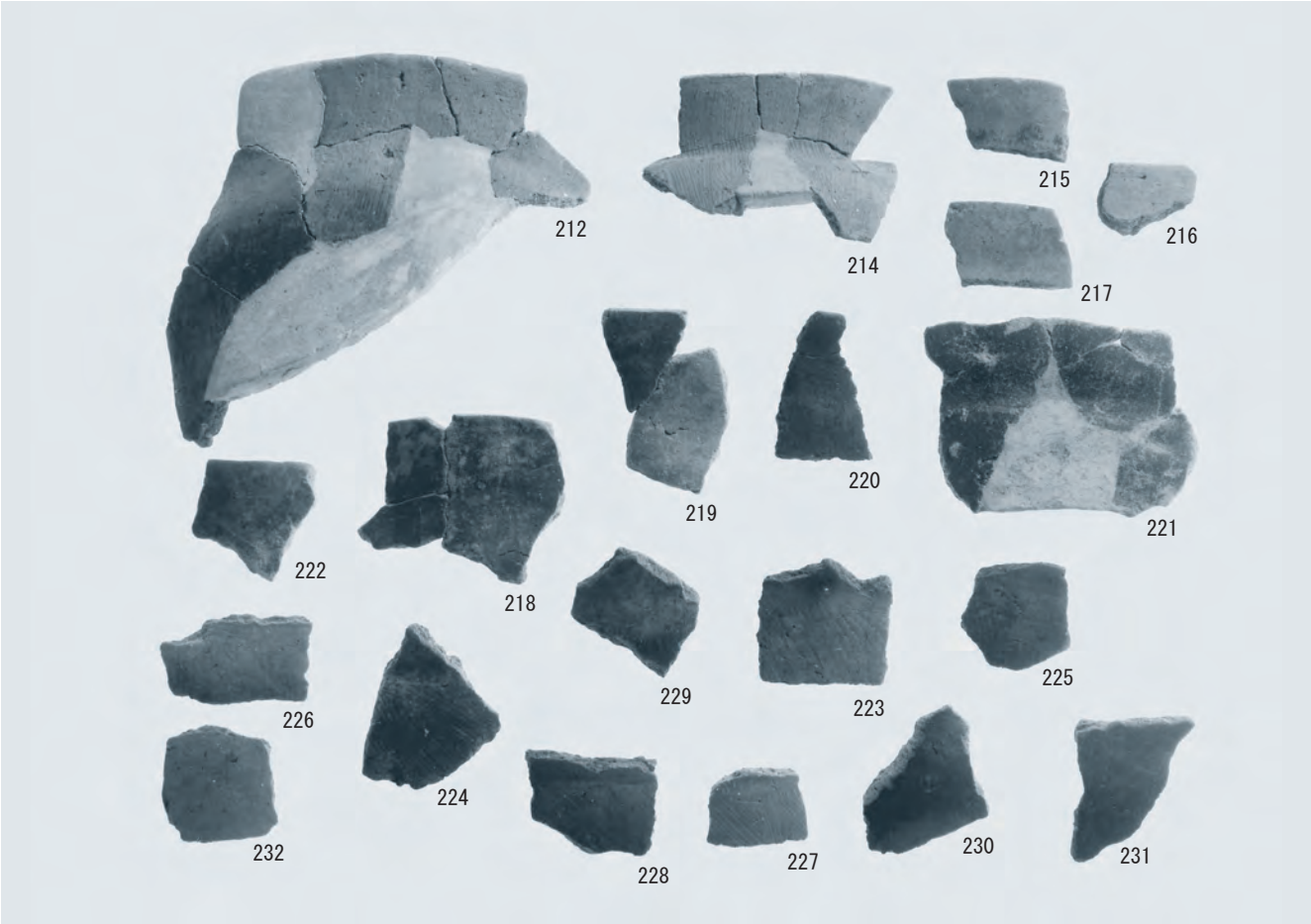
Ⅳ層検出土坑・柱穴出土土器②



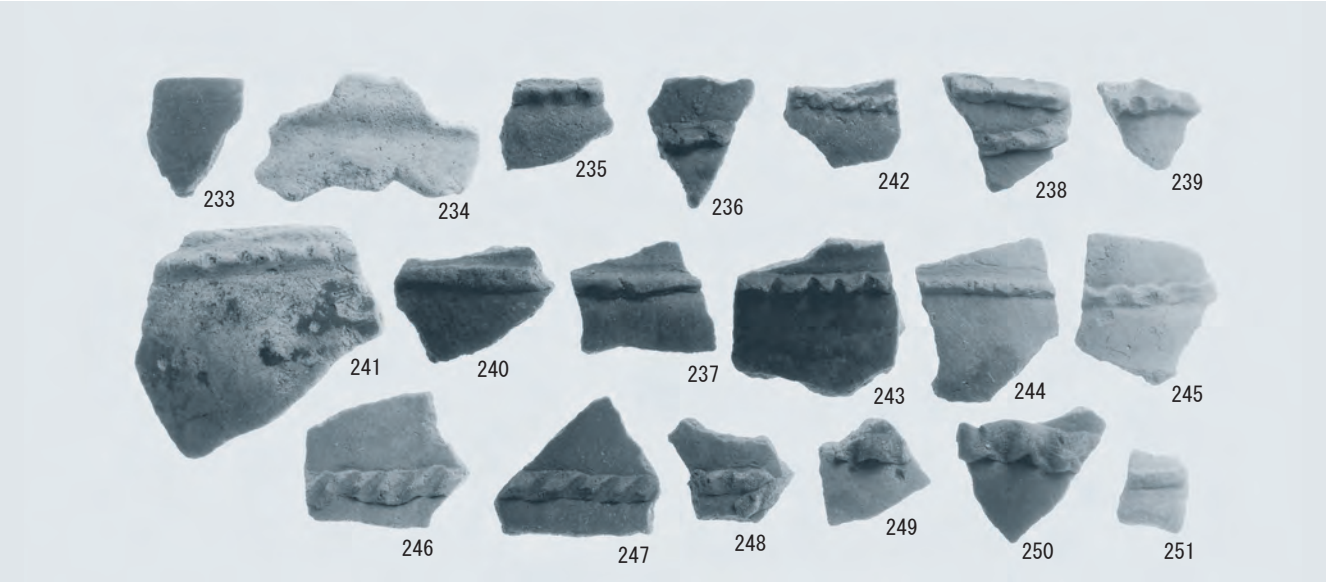

弥生時代終末～古墳時代包含層出土土器①　甕形土器・大甕

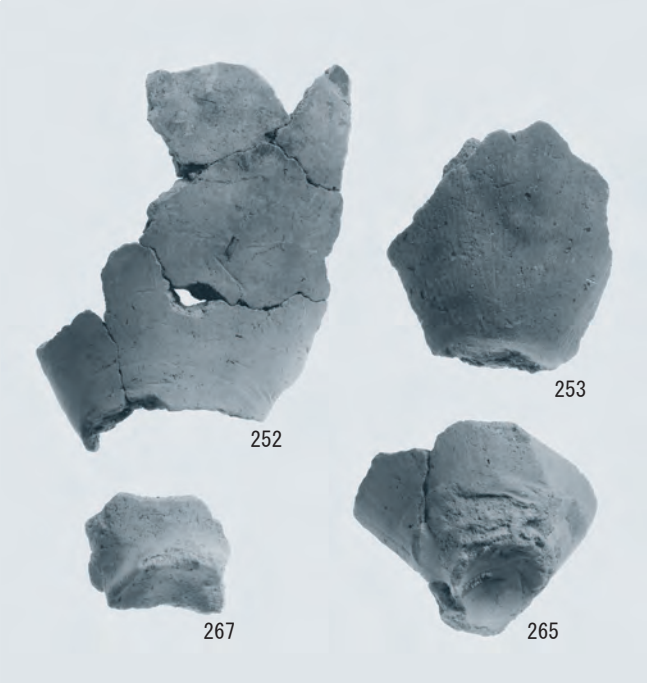


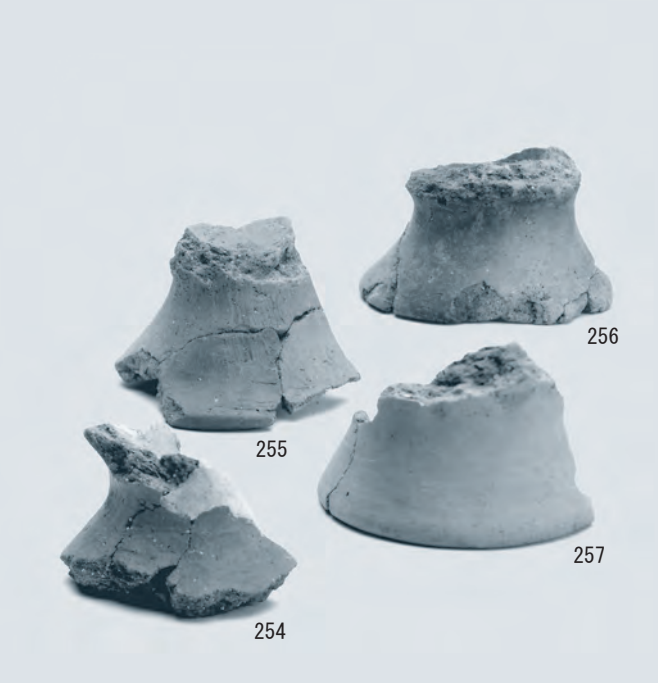

弥生時代終末～古墳時代包含層出土土器②　甕形土器

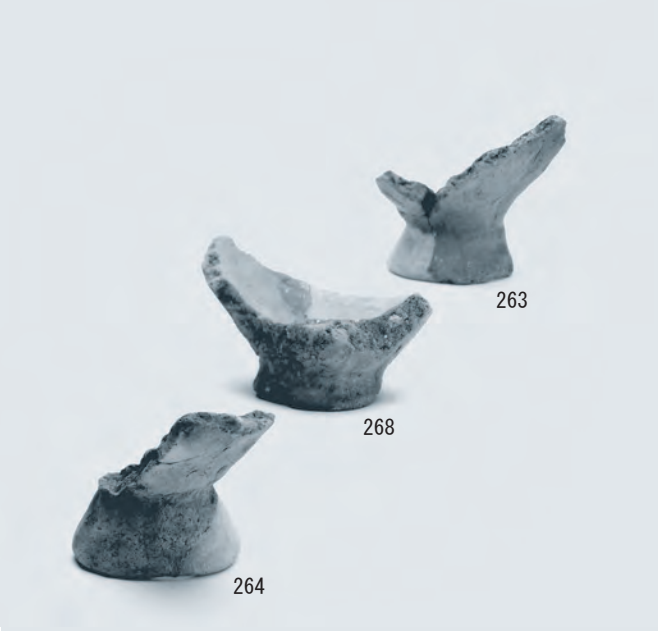



弥生時代終末～古墳時代包含層出土土器③　甕形土器

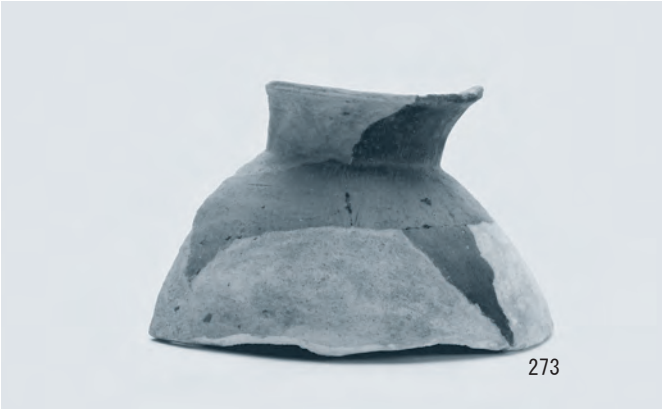


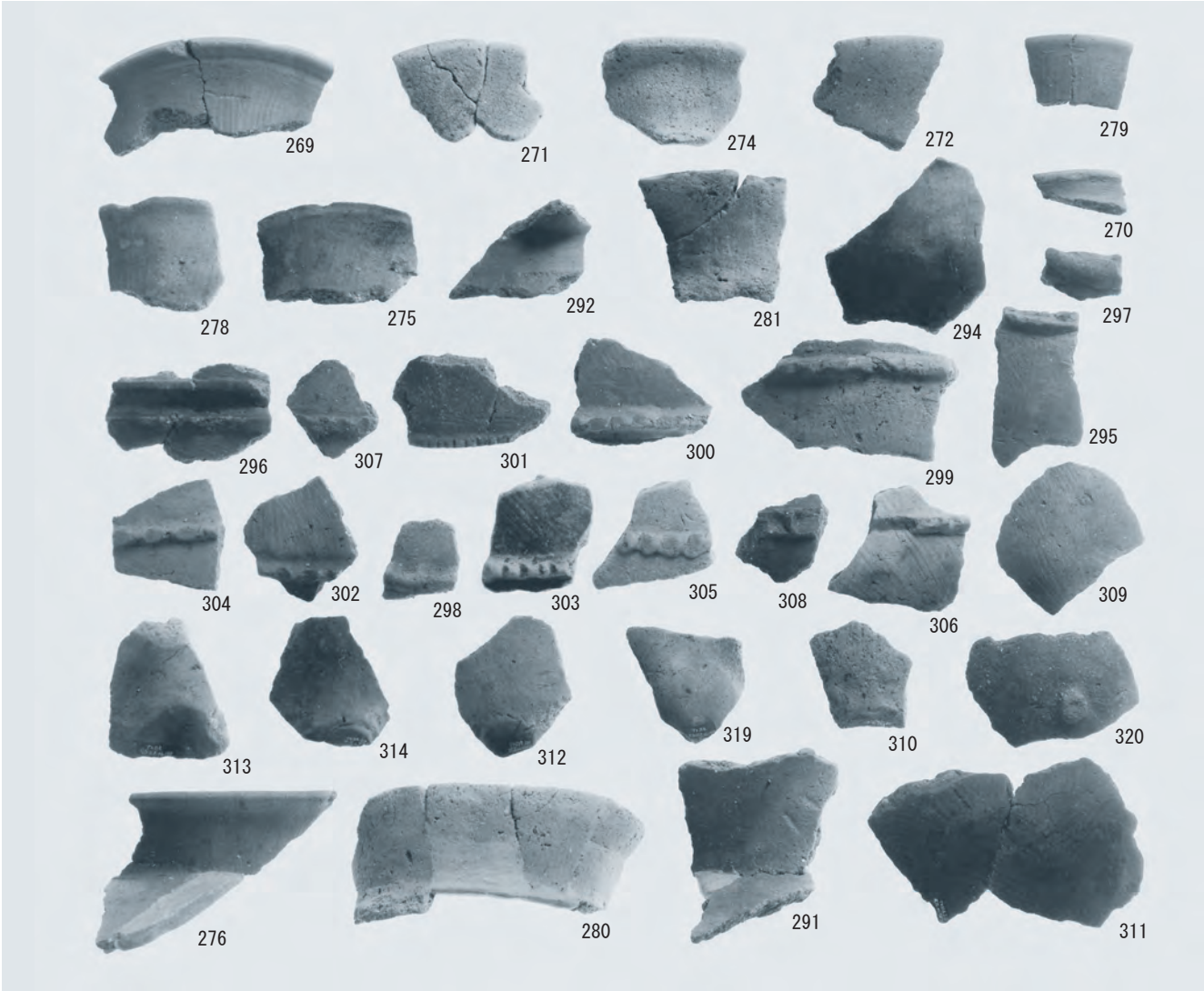



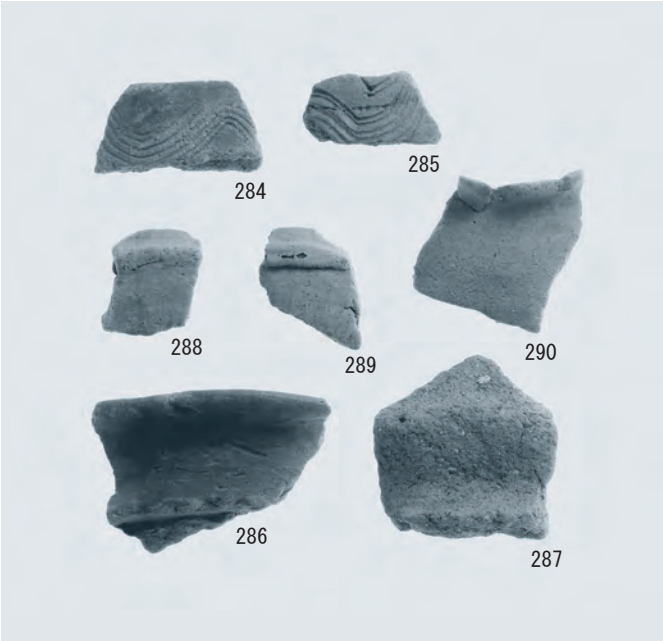


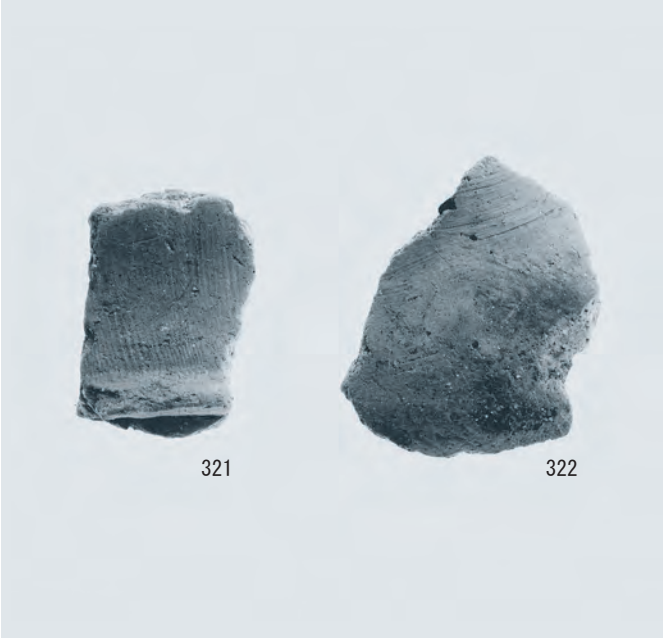

弥生時代終末～古墳時代包含層出土土器④　甕形土器



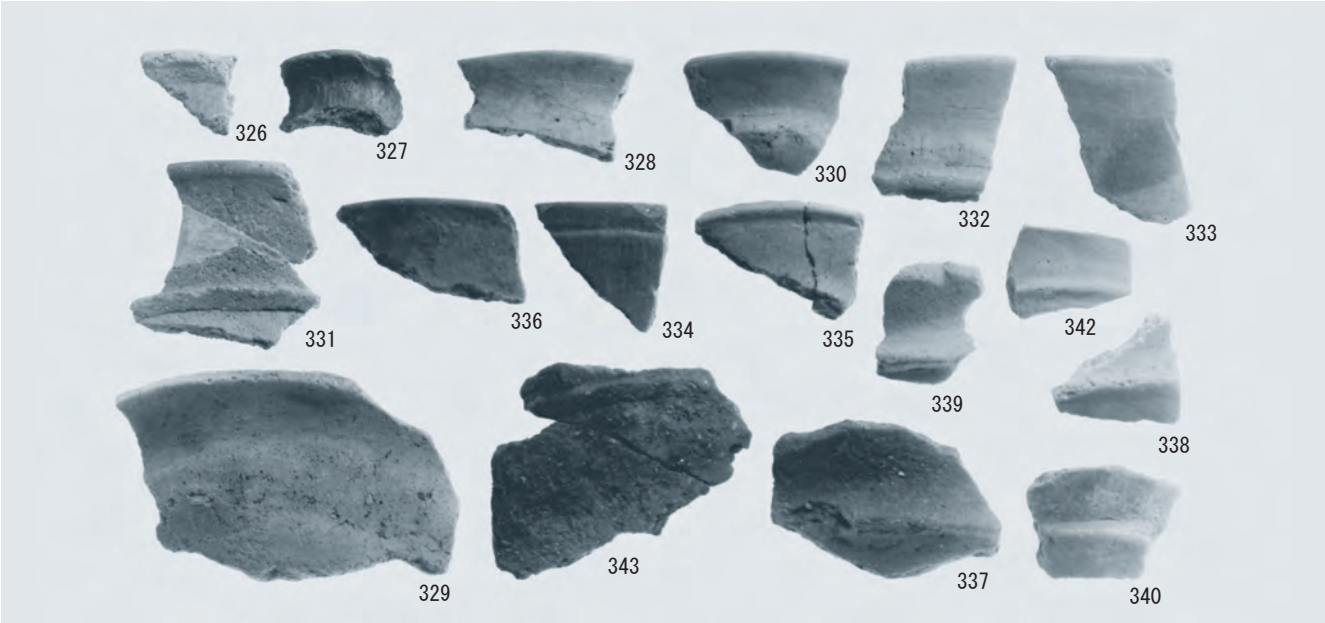


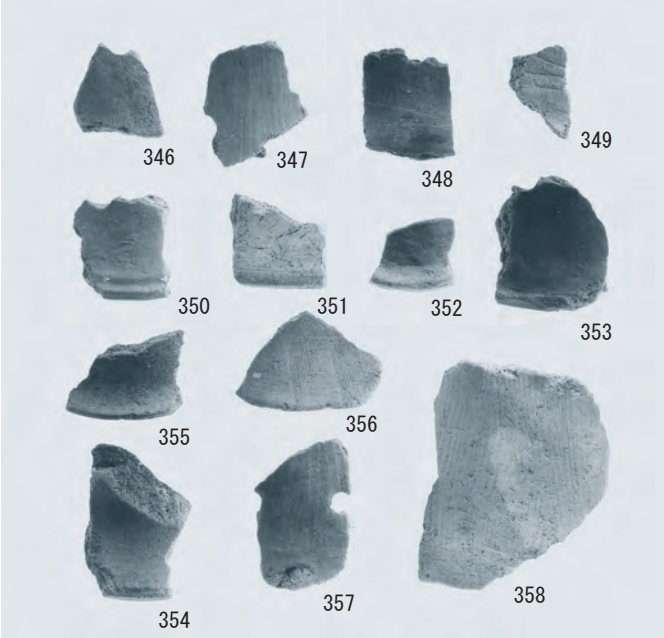

弥生時代終末～古墳時代包含層出土土器⑤　壺形土器



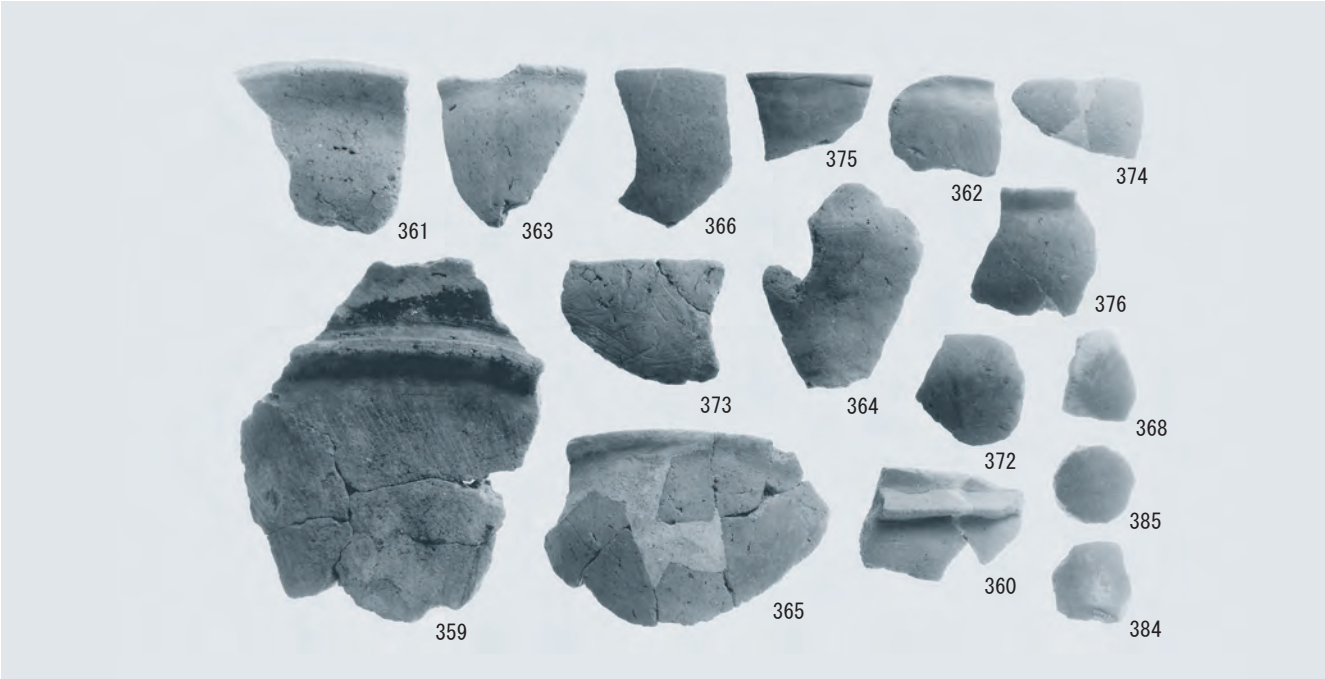


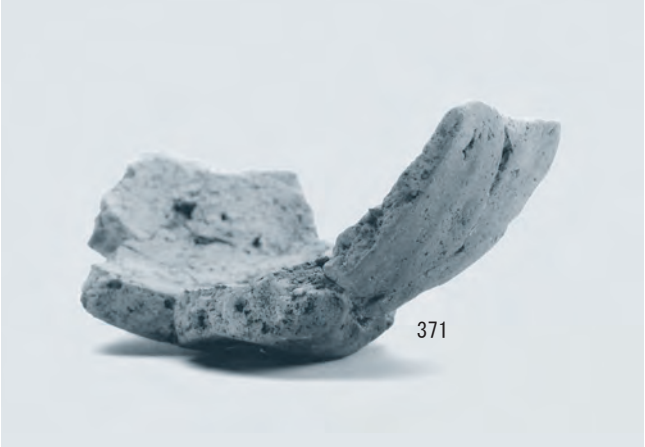
弥生時代終末～古墳時代包含層出土土器⑥　壺形土器・坩・蓋



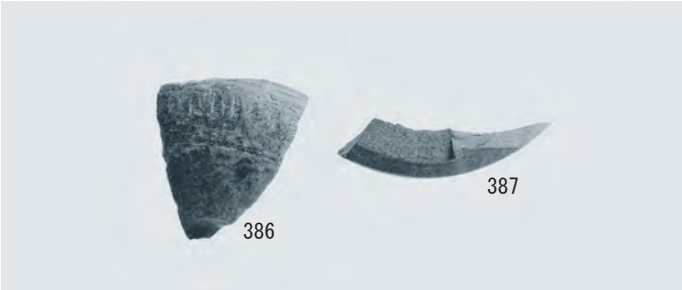


弥生時代終末～古墳時代包含層出土土器⑦　高坏

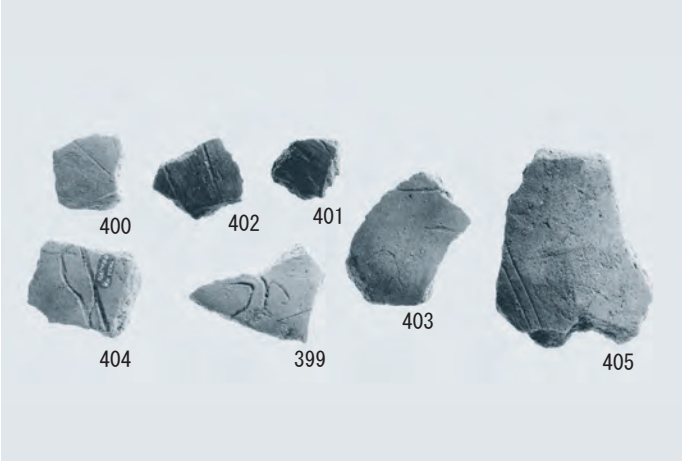




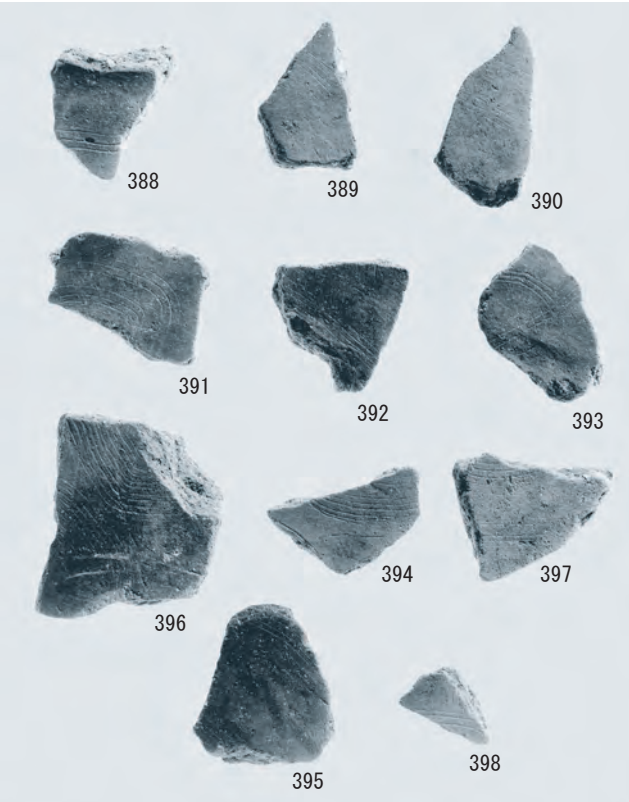
弥生時代終末～古墳時代包含層出土土器⑧　鉢形土器



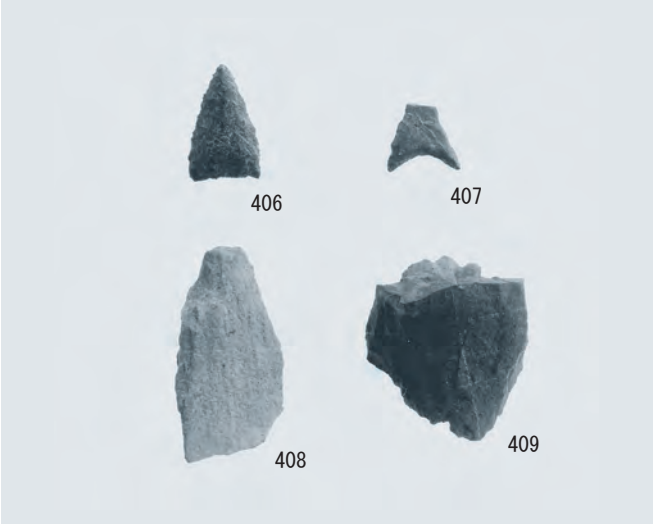

古墳時代包含層出土土器　須恵器

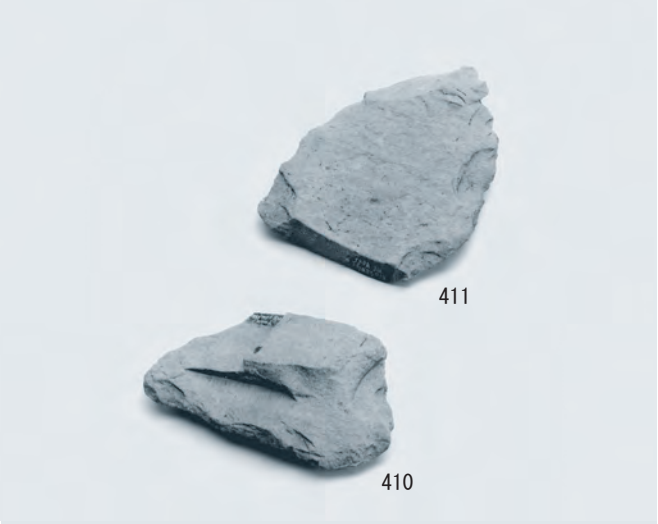



包含層出土土器　刻線文土器

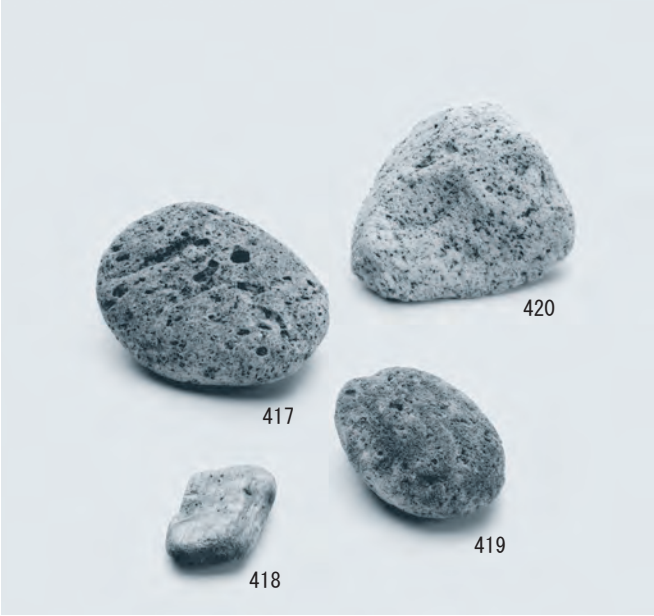


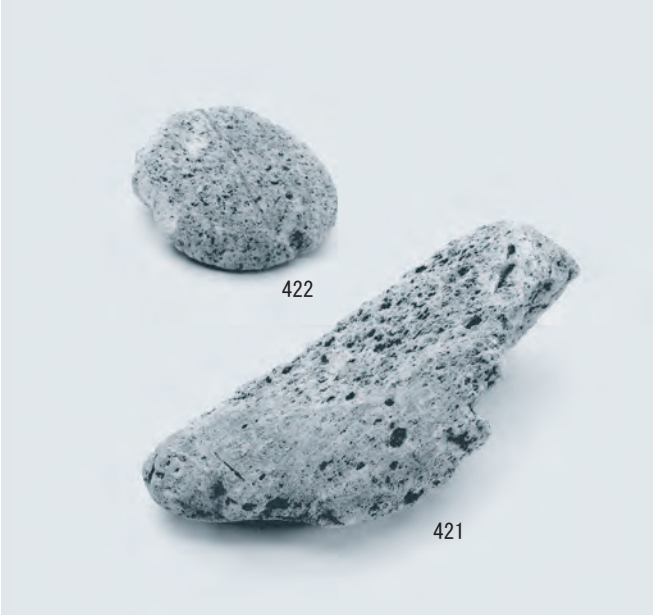

包含層出土土器　櫛描文土器



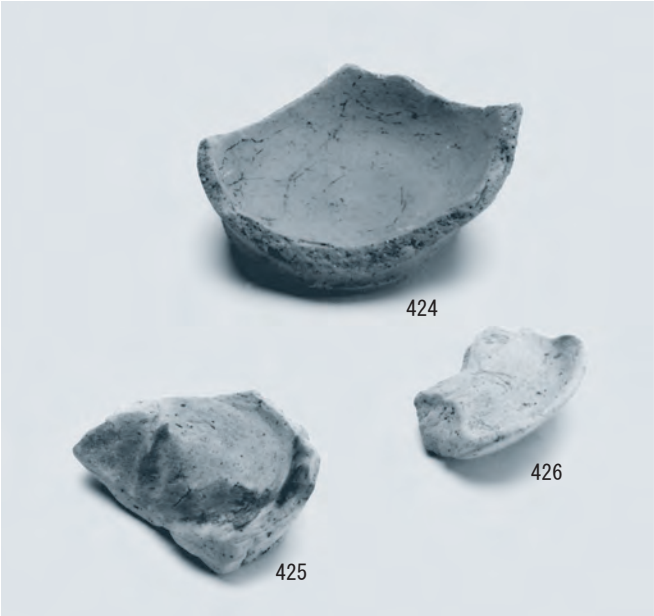



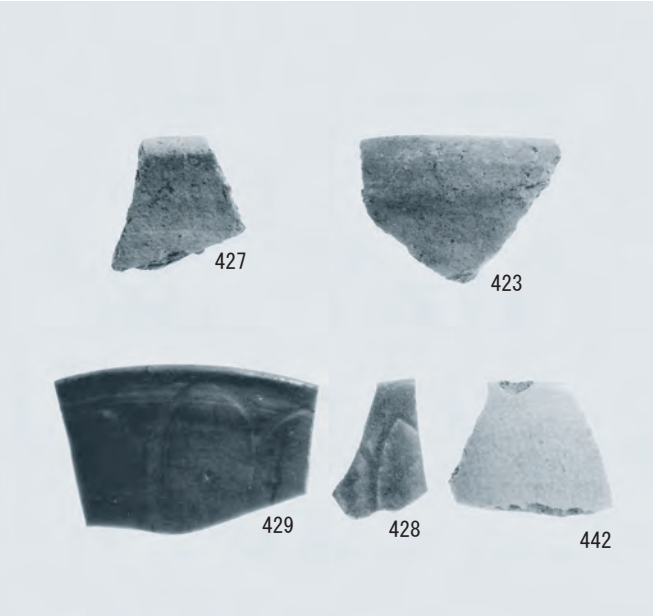
包含層出土石器　打製石鏃・剥片・打製石斧・砥石・敲石




包含層出土軽石製品




古代・中世・近世包含層出土遺物　土師器・瓦質土器・青磁・陶器

近世包含層出土遺物　磁器　　刀子

竪穴状遺構出土遺物

竪穴状遺構周辺出土遺物①　羽口

竪穴状遺構周辺出土遺物②　鉄滓

包含層出土遺物　古銭

発掘作業風景

遺構実測作業風景

遺物実測作業風景

水洗フルイ選別作業風景

大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書(8)

県営農村振興総合整備事業（大崎地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

# 高久田A遺跡

２０１５年３月

発　行　大崎町教育委員会
〒 899-7305　鹿児島県曽於郡大崎町假宿 1029 番地
印　刷　株式会社　新生社印刷
〒 893-0013　鹿児島県鹿屋市札元 1-22-34